

深谷市民まちづくりアンケート

調査報告書

令和3年8月

深谷市

目次

1. I. アンケート調査結果の概要.....	2
1. アンケート調査の実施方法.....	2
2. アンケート調査結果の信頼度.....	3
3. アンケート調査結果の概要.....	4
4. 市全体、地区別の調査結果の分析.....	8
2. II. アンケート調査結果の詳細.....	17
1. 回答者属性.....	17
2. 深谷市のまちづくりについて.....	19
3. 深谷市の施策について.....	148
4. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	171
3. III. アンケート調査結果の単純集計.....	177
1. 深谷市のまちづくりについて.....	177
2. 深谷市の施策について.....	181
3. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	185
4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。.....	185

1. I. アンケート調査結果の概要

1. アンケート調査の実施方法

(1) 目的

「深谷市総合振興計画・後期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

(2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する20歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和3年5月17日から同年6月2日に実施しました。

注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
 - ・ 重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
 - ・ 満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

・計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

・各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	令和3年4月1日時点の住民基本台帳人口（18歳以上）の総数（121,566人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度95%設定により、1.96とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{121,566}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{121,566-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 383$$

深谷市においては、383票回収すれば信頼度95%±5%の調査結果を得ることができると分かります。

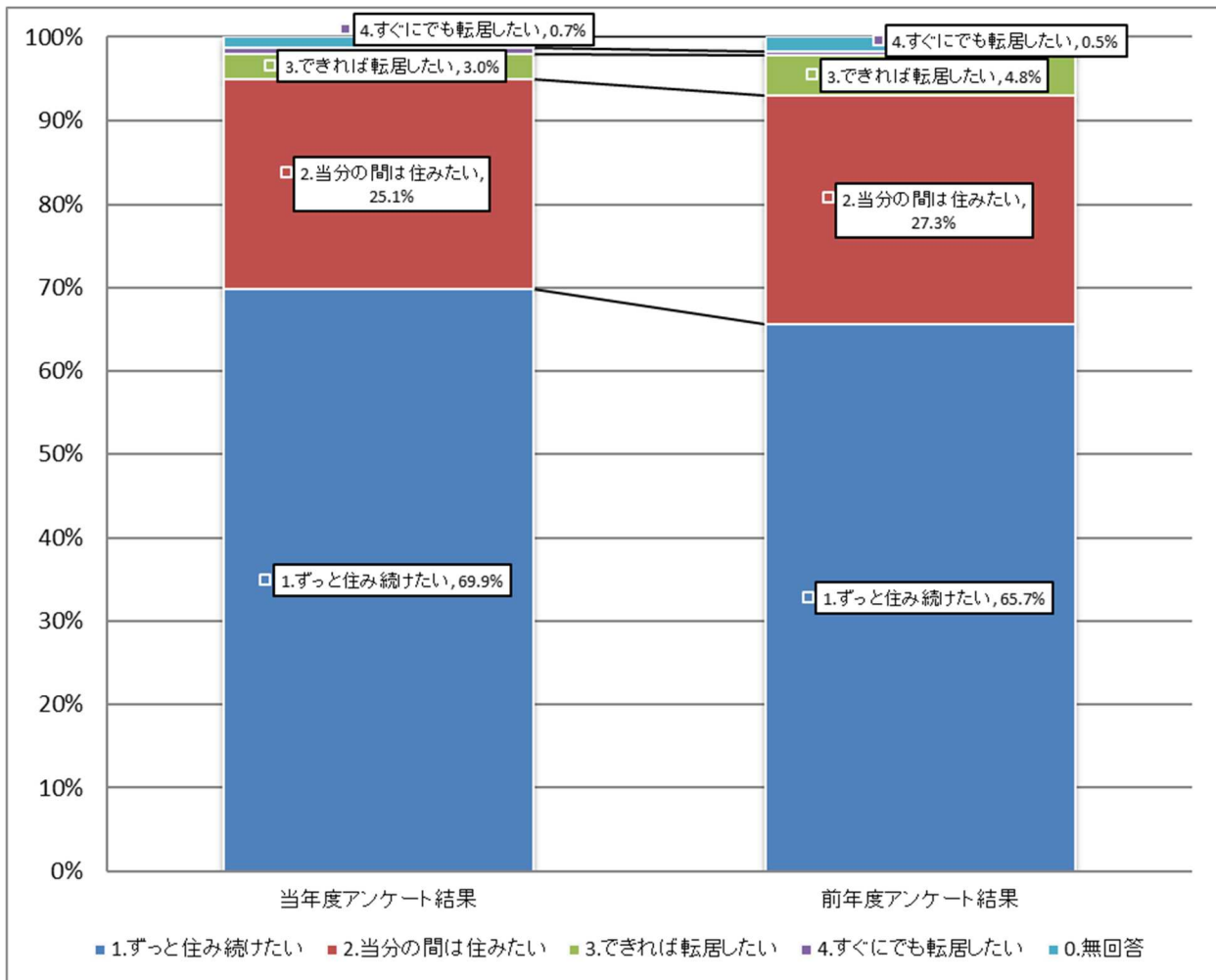
今回の調査では757票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

3. アンケート調査結果の概要

(1) 「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和3年5月17日から同年6月2日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満20歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、757人（37.85%）でした。

(2) 深谷市への定住意識について

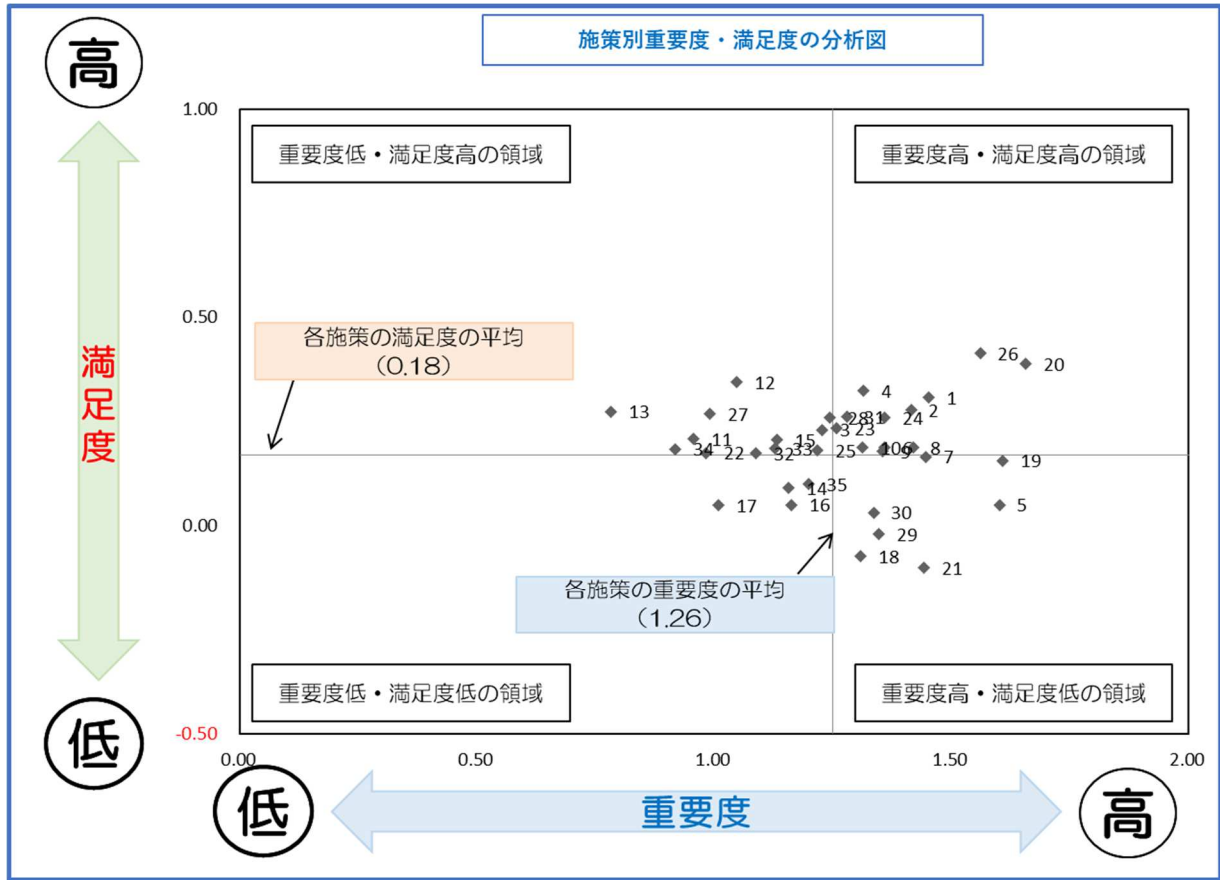


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が69.9%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が25.1%となっています。合計は95.0%と9割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

(3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	8	障害者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
27	自然・文化を生かした景観形成	20	消防・救急体制の充実
28	治水対策の推進	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
34	市民との協働・交流の推進	31	人権・個性が尊重される社会の実現
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	18	就労環境の整備
22	地域コミュニティの推進	19	災害に強い防災体制の推進
32	男女共同参画の実現	21	防犯・空き家対策の推進
35	行財政運営の推進	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「健康づくりの推進」、「地域福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「「生きる力」を育む学校教育の推進」、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「消防・救急体制の充実」、「環境衛生の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」、「人権・個性が尊重される社会の実現」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「高齢者福祉の推進」、「就労環境の整備」、「災害に強い防災体制の推進」、「防犯・空き家対策の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

重要度が低く、満足度が高い領域には、「青少年の健全育成の推進」、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「自然・生活環境の保全」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「自然・文化を生かした景観形成」、「治水対策の推進」、「情報発信・共有の推進」、「市民との協働・交流の推進」などの施策が該当します。

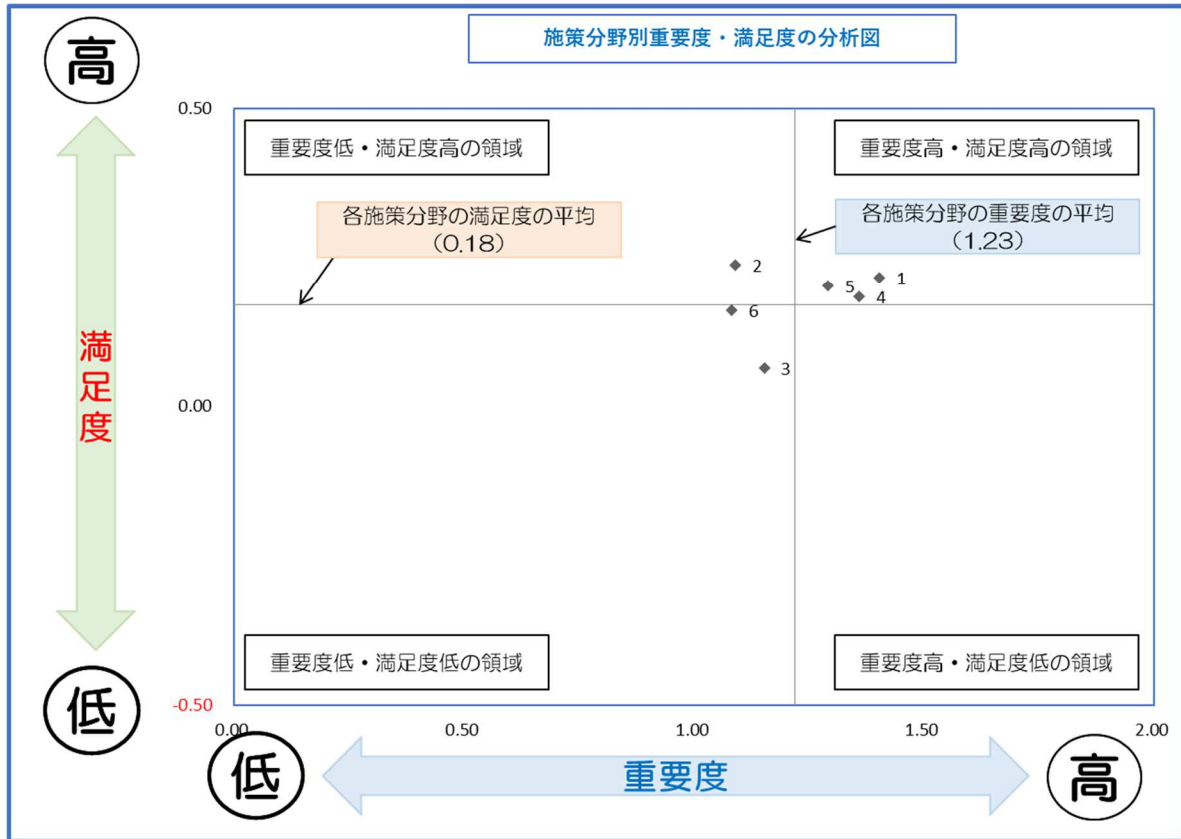
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「地域コミュニティの推進」、「男女共同参画の実現」、「行財政運営の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	産業振興		
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、「1. 子育て・保健・福祉」、「4. 暮らし・環境」、「5. 都市・生活基礎」の3分野であり、＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野はありませんでした。

また、＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、「2. 教育・文化」の1分野であり、＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、「3. 産業振興」、「6. 協働・行政経営」の2分野となっています。

今年度のアンケートでは、＜重要度高・満足度低＞に分類された施策分野はなかったことから、おおむね市民ニーズに即した取り組みが行われているといえます。

4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

(1) 調査からわかったこと（市全体）

➤ 市への定住意識

- ・「令和 2 年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 3 割未満となっています。
- ・小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 8 割近くとなっており、「前年度アンケート」の結果からは微増していることがわかります。
- ・中学生以下（中学 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、子育てのしやすいまちと回答した人の割合は 7 割を超えており、その割合は「前年度アンケート」の結果から微増していることがわかります。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は約 6 割となり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した人の割合は 7 割を超えており、その割合は「前年度アンケート」の結果から微増していることがわかります。
- ・7 割を超える市民に、かかりつけ医がいることがうかがえます。その割合は「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。
- ・健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は 8 割を超えているものの、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる自治会や民生委員などがあると回答した人の割合は、半数を超える結果となっているものの、「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。

➤ 教育・文化について

- ・ 生涯学習を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は約3割となり、「前年度アンケート」からは微増していることがわかります。
- ・ 芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は、2割未満となっています。コロナ禍の影響のためか「前年アンケート」の結果から激減していることがわかります。
- ・ スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、4割以下という結果となり、「前年度アンケート」から微減していることがわかります。

➤ 産業振興について

- ・ 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は半数を超えており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・ 深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は約6割であり、地域や年代によって意識に差があることがうかがえます。
- ・ 自身または家族の仕事と生活のバランスが「とても取れている」または「やや取れている」と回答した人の割合の合計は7割程度となり、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。

➤ 暮らし・環境について

- ・ 自宅に災害に対する備えが「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約5割近くとなり、「前年度アンケート」と比較すると大きく増加しています。
- ・ 地震発生時の避難所・避難場所を、市民の約2割以上が「知らない」と回答しており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・ 1年間で消費者トラブルに巻きこまれた人の割合は、「前年度アンケート」と同様、ごくわずかであることがうかがえます。

- ・ 6 割以上の市民が、日ごろ防犯対策を「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答しており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・ 地域活動（自治会や町内会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、半数を超えており、「前年度アンケート」と比較すると微増していることがわかります。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ、自然や川の保全活動など）を、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、「前年度アンケート」と比較して微減しています。また、環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約 6 割ほどで、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・ 環境問題を以前より意識するようになったと回答した人の割合は半数を超えており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・ 8 割以上の市民が、普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

➤ 都市・生活基盤について

- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した人の割合は半数以上になっています。
- ・ 住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約 7 割となり、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・ 約 7 割の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。
- ・ 市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は半数以上となっており、「前年度アンケート」と比較すると微増していることがわかります。
- ・ 7 割以上の市民が、水害に対して安心した生活を送ることができていると感じており、「前年度アンケート」の結果から微増していることがわかります。
- ・ 約半数の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じると回答していることがわかります。不便を感じないと回答している方が「前年度アンケート」と比較すると変化は見られず、公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービ

ス)についても、約半数が不便を感じると回答しており、道路と公共交通機関のどちらにおいても、多くの人が不便を感じていることがうかがえます。

➤ 協働・行政経営について

- ・ 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じている人は、約 6 割で「前年度アンケート」と比較すると変化は見られませんでした。
- ・ この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人の割合は、1 割未満と少なく、「前年度アンケート」と比較すると、微減しています。
- ・ お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 6 割を超えているものの、「前年度アンケート」と比較すると、微減しています。
- ・ 市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は約 1 割と少なく、「前年度アンケート」と比較すると、微減しています。
- ・ 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うと回答した人の割合の合計は、約 6 割となり、「前年度アンケート」と比較すると、微減しています。
- ・ 男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、約 2 割となっており、「前年度アンケート」の結果から微増しています。
- ・ 6 割を超える市民が、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答しています。
- ・ 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合の合計は約 7 割でした。「前年度アンケート」と比較して、微増しています。
- ・ 約半数の市民が、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答しています。
- ・ 市民活動に興味「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合の合計は、約 3 割となり、「前年度アンケート」と比較して、微増しています。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は 5 割未満となっており、性別や年代によって差があることがうかがえます。
- ・ 約 7 割の市民が、花と緑をいかしたまちづくり活動について「興味がある」と

回答しています。「参加したい」と回答した人の割合については「前年度アンケート」と比較して変化はみられません。

(2) 調査からわかったこと（地区別）

➤ 深谷地区

- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

- ・ 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関

心を持っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が高いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 明戸地区

- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・日ごろ、防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・これからもずっと深谷市に住み続けたいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れている（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分）と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日ごろ、防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に

低いことがうかがえます。

- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 八基地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加している（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・かかりつけのお医者さんがいると回答した市民の割合が高いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活をしていると回答した市民の割合が相対

的に高いことがうかがえます。

➤ 豊里地区

- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の中で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・男女共同参画の意識は以前と比べて変化していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・かかりつけのお医者さんがいると回答した市民の割合が低いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が高いことがうかがえます。
- ・この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 岡部地区

- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

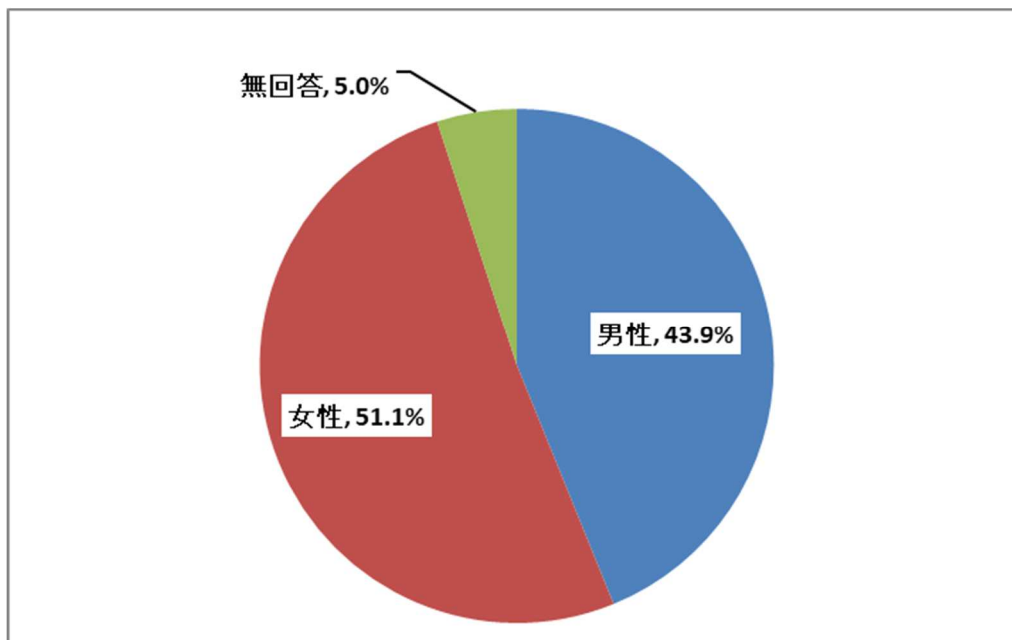
➤ 花園地区

- ・ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れている（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分）と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

2. II. アンケート調査結果の詳細

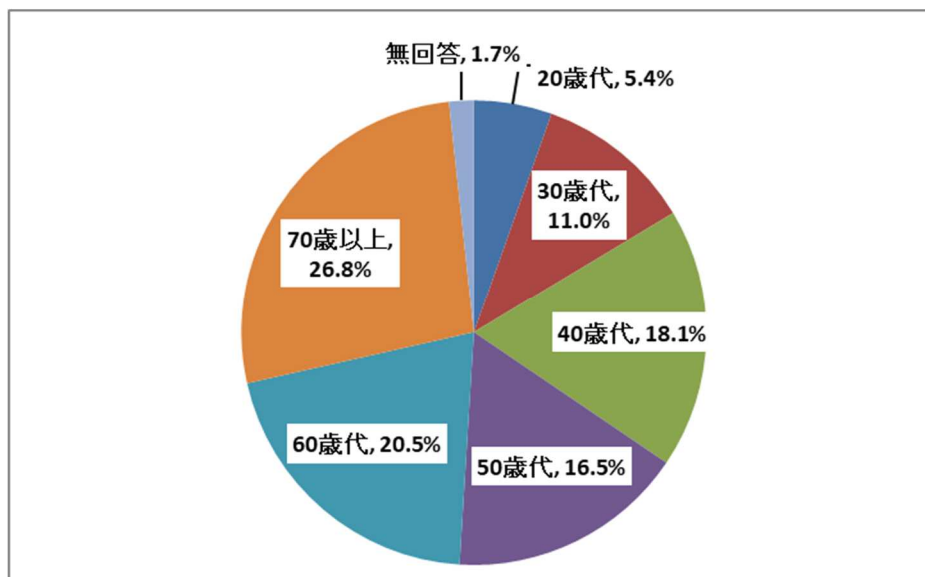
1. 回答者属性

(1) 性別



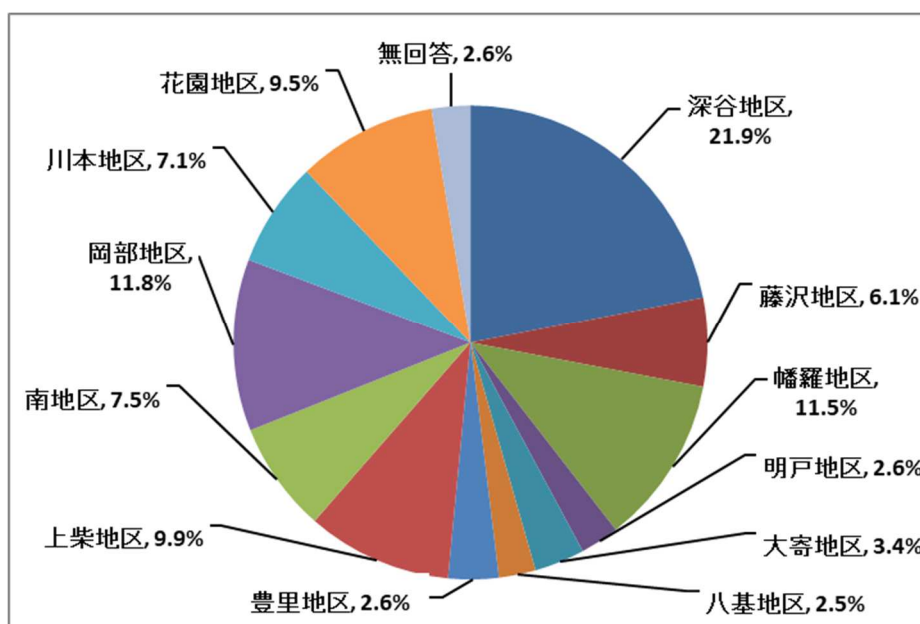
男性が 43.9%、女性が 51.1%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

(2) 年齢



年齢では、70歳代が最も多く、26.8%となっています。次いで、60歳以上 20.5%、40歳代 18.1%、50歳代 16.5%となっており、最も少ないのは20歳代で5.4%となっています。

(3) 居住地区

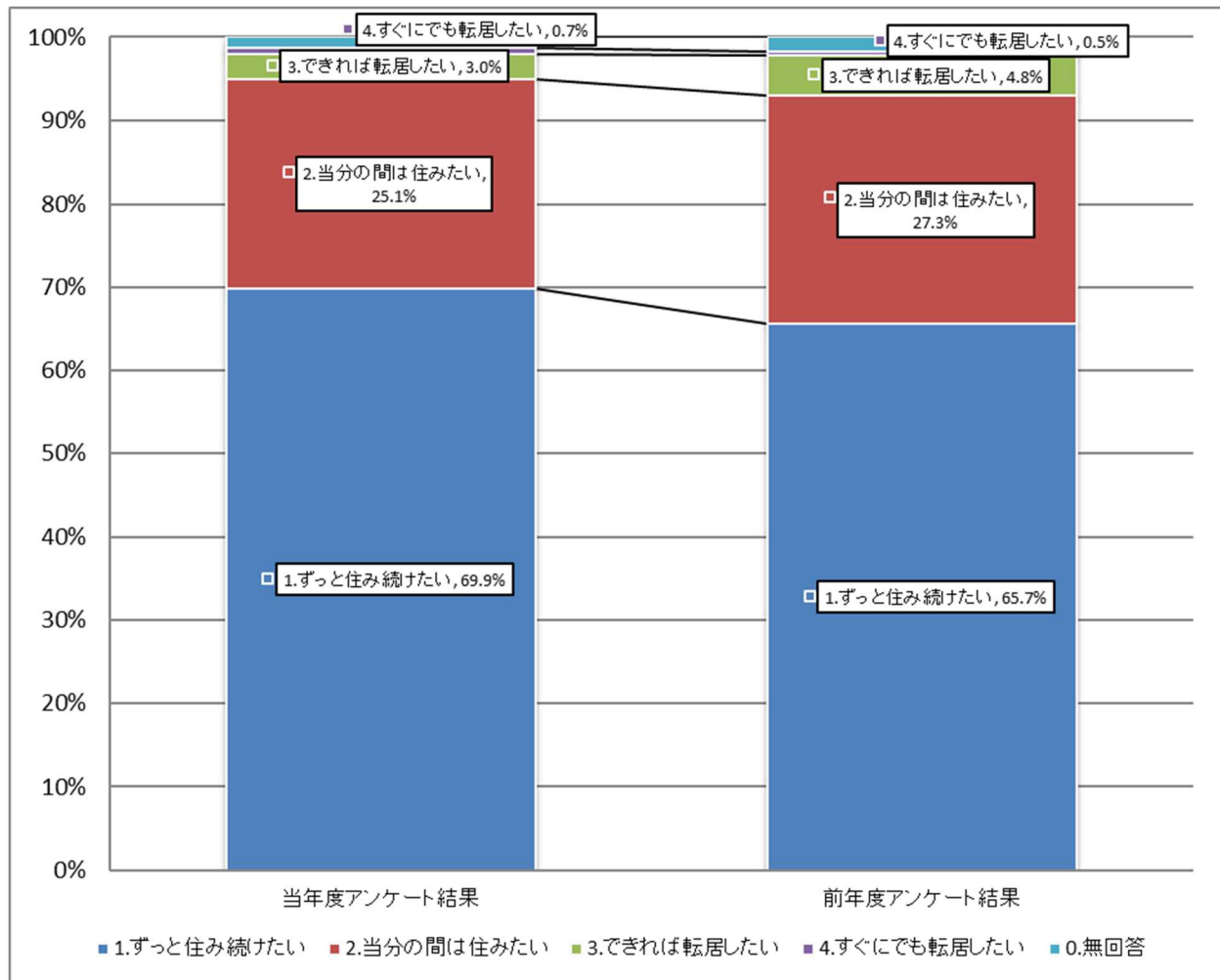


深谷地区が最も多く 21.9%となっています。次いで、岡部地区で 11.8%、幡羅地区で 11.5%となっています。最も少ないのは八基地区であり、2.5%となっています。

2. 深谷市のまちづくりについて

(1) 深谷市のまち全体の印象について（1. 問1）

これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

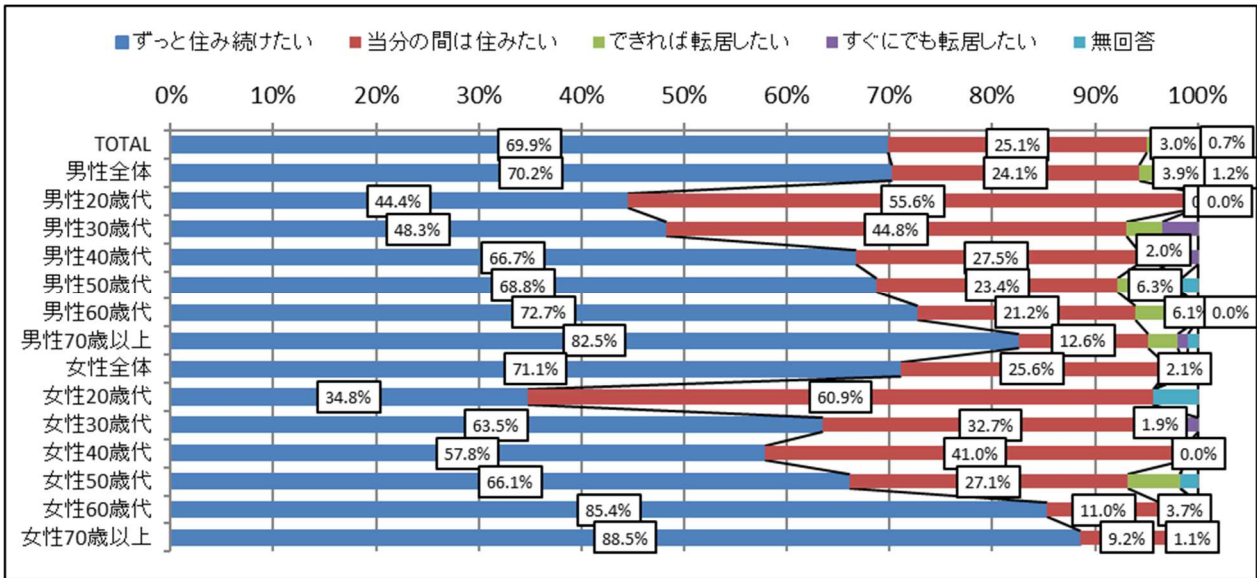


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 69.9%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 25.1%となっており、2つの合計は 95.0%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合は 93.0%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	757	69.9%	25.1%	3.0%	0.7%	1.3%	100.0%
男性全体	332	70.2%	24.1%	3.9%	1.2%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	18	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	48.3%	44.8%	3.4%	3.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	66.7%	27.5%	2.0%	3.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	68.8%	23.4%	6.3%	0.0%	1.6%	100.0%
男性 60 歳代	66	72.7%	21.2%	6.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	82.5%	12.6%	2.9%	1.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	71.1%	25.6%	2.1%	0.3%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	23	34.8%	60.9%	0.0%	0.0%	4.3%	100.0%
女性 30 歳代	52	63.5%	32.7%	1.9%	1.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	57.8%	41.0%	0.0%	0.0%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	66.1%	27.1%	5.1%	0.0%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	85.4%	11.0%	3.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	88.5%	9.2%	1.1%	0.0%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	65.7%	28.3%	3.0%	1.2%	1.8%	100.0%
藤沢地区	46	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	65.5%	31.0%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	88.5%	7.7%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	84.2%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	73.1%	19.2%	0.0%	3.8%	3.8%	100.0%
上柴地区	75	68.0%	28.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	57	82.5%	15.8%	1.8%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	74.2%	22.5%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	54	68.5%	25.9%	3.7%	1.9%	0.0%	100.0%
花園地区	72	68.1%	26.4%	2.8%	1.4%	1.4%	100.0%
無回答	20	35.0%	35.0%	5.0%	0.0%	25.0%	100.0%

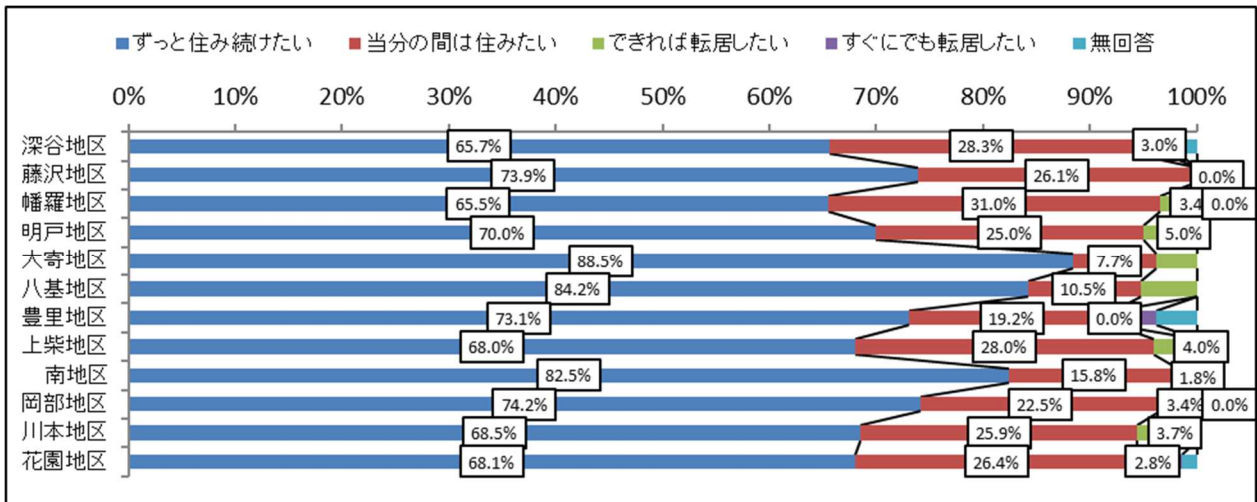
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、男性が 70.2% であるのに対し、女性は 71.1% となっています。男女ともに多くの市民が、住みたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住みたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性、女性ともに 20 歳代（男性 44.4%、女性 34.8%）であり、一方で最も多い世代は、男性、女性ともに 70 歳代（男性 82.5%、女性 88.5%）となっています。

➤ 地区別



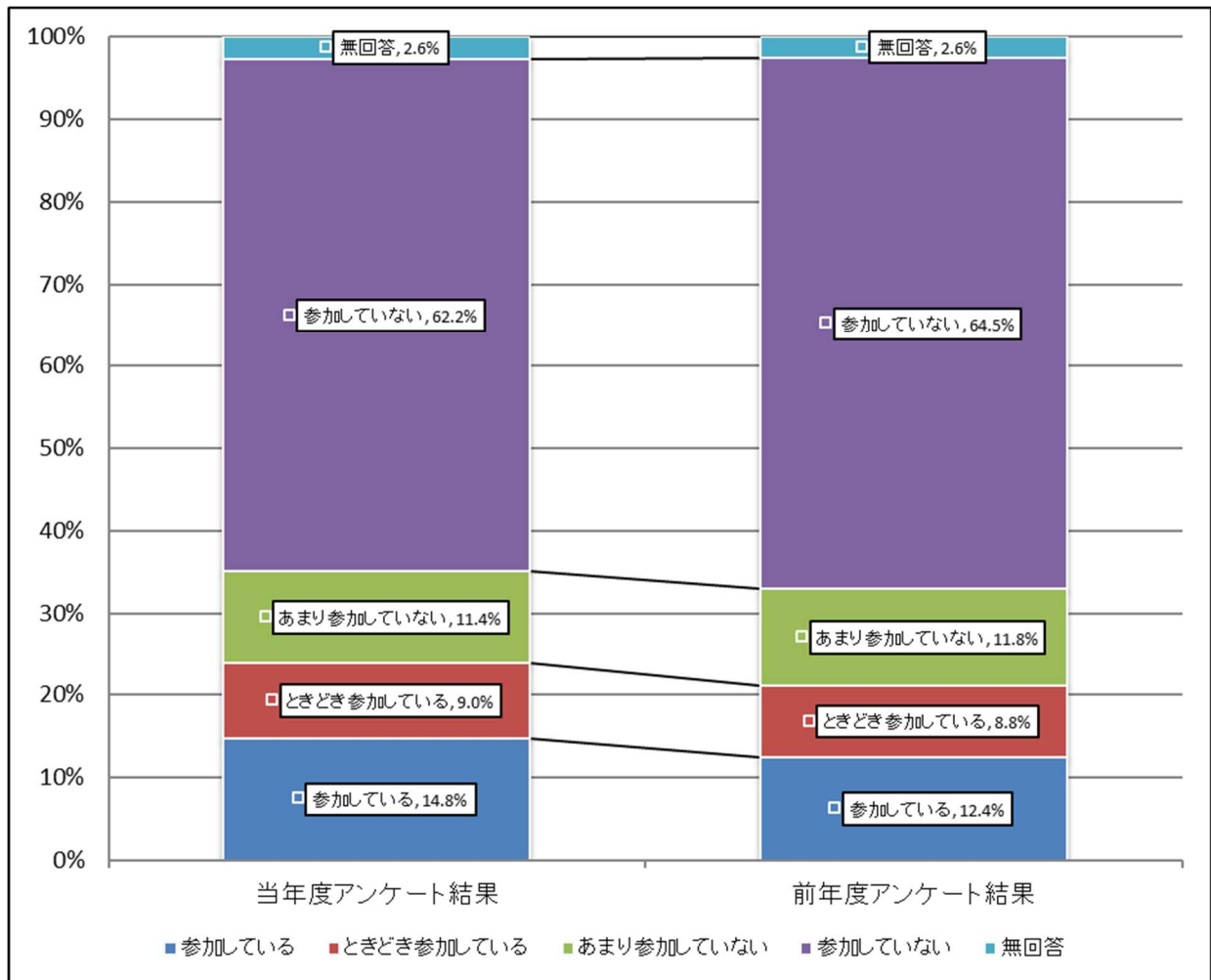
地区別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、幡羅地区においては 65.5% と低い数値になっている一方で、大寄地区においては 88.5% と高い数値になっています。地域によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住みたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計はすべての地区で 9 割以上と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少ないことがうかがえます。

(2) 子育て・保健・福祉について

① 子育てについて (2. 問1~3)

地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例: ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)



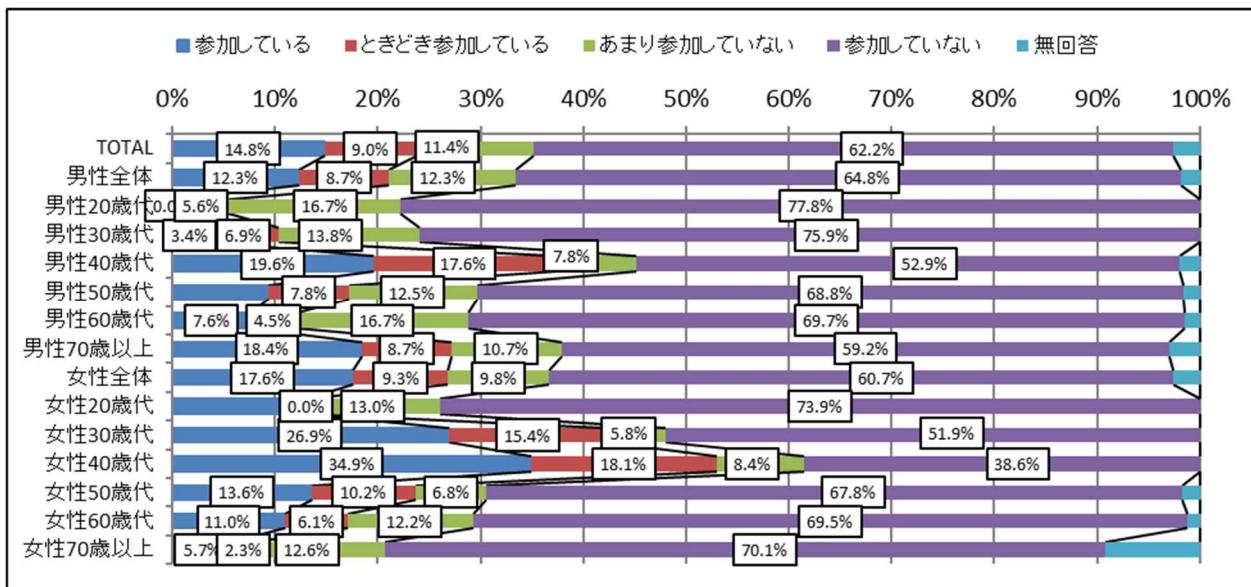
「参加していない」と回答した人の割合が 62.2%と最も多く、次いで、「参加している」と回答した人の割合が 14.8%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 11.4%、「ときどき参加している」と回答した人の割合は 9.0%となっています。

「参加している」「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 23.8%であり、活動に参加している市民は 3 割にも満たない状況です。

また、前年度アンケートの結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 21.1%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。「参加していない」または「あまり参加していない」と回答した人の割合が前年度に比べ、2.7%減少という結果となっています。

母集団		参加している	参加している ときどき	参加していない あまり	参加していない	無回答	合計
TOTAL	757	14.8%	9.0%	11.4%	62.2%	2.6%	100.0%
男性全体	332	12.3%	8.7%	12.3%	64.8%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	18	0.0%	5.6%	16.7%	77.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	6.9%	13.8%	75.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	19.6%	17.6%	7.8%	52.9%	2.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	9.4%	7.8%	12.5%	68.8%	1.6%	100.0%
男性 60 歳代	66	7.6%	4.5%	16.7%	69.7%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	18.4%	8.7%	10.7%	59.2%	2.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	17.6%	9.3%	9.8%	60.7%	2.6%	100.0%
女性 20 歳代	23	13.0%	0.0%	13.0%	73.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	26.9%	15.4%	5.8%	51.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	34.9%	18.1%	8.4%	38.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	13.6%	10.2%	6.8%	67.8%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	11.0%	6.1%	12.2%	69.5%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	5.7%	2.3%	12.6%	70.1%	9.2%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	13.3%	7.2%	9.6%	68.1%	1.8%	100.0%
藤沢地区	46	10.9%	8.7%	15.2%	63.0%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	17.2%	9.2%	6.9%	63.2%	3.4%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	23.1%	0.0%	7.7%	69.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	15.8%	0.0%	36.8%	47.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	19.2%	11.5%	15.4%	50.0%	3.8%	100.0%
上柴地区	75	8.0%	12.0%	13.3%	65.3%	1.3%	100.0%
南地区	57	19.3%	10.5%	10.5%	56.1%	3.5%	100.0%
岡部地区	89	20.2%	6.7%	12.4%	59.6%	1.1%	100.0%
川本地区	54	16.7%	16.7%	1.9%	61.1%	3.7%	100.0%
花園地区	72	11.1%	9.7%	8.3%	68.1%	2.8%	100.0%
無回答	20	10.0%	0.0%	30.0%	40.0%	20.0%	100.0%

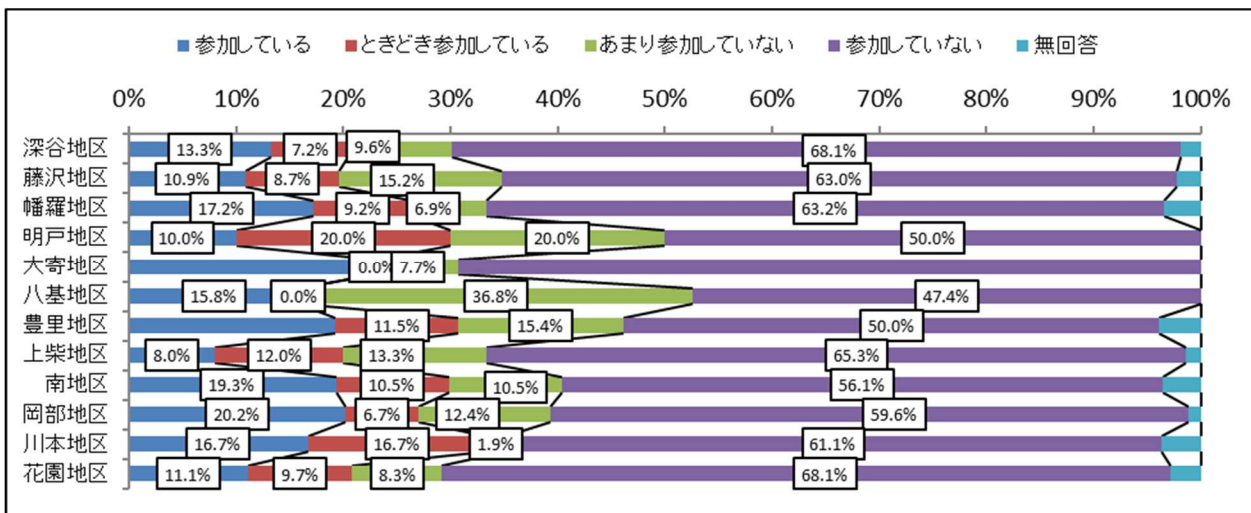
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は、男性が 21.1%、女性は 26.9% となっています。このことから、性別によつての活動への参加率は女性が高いことがわかります。

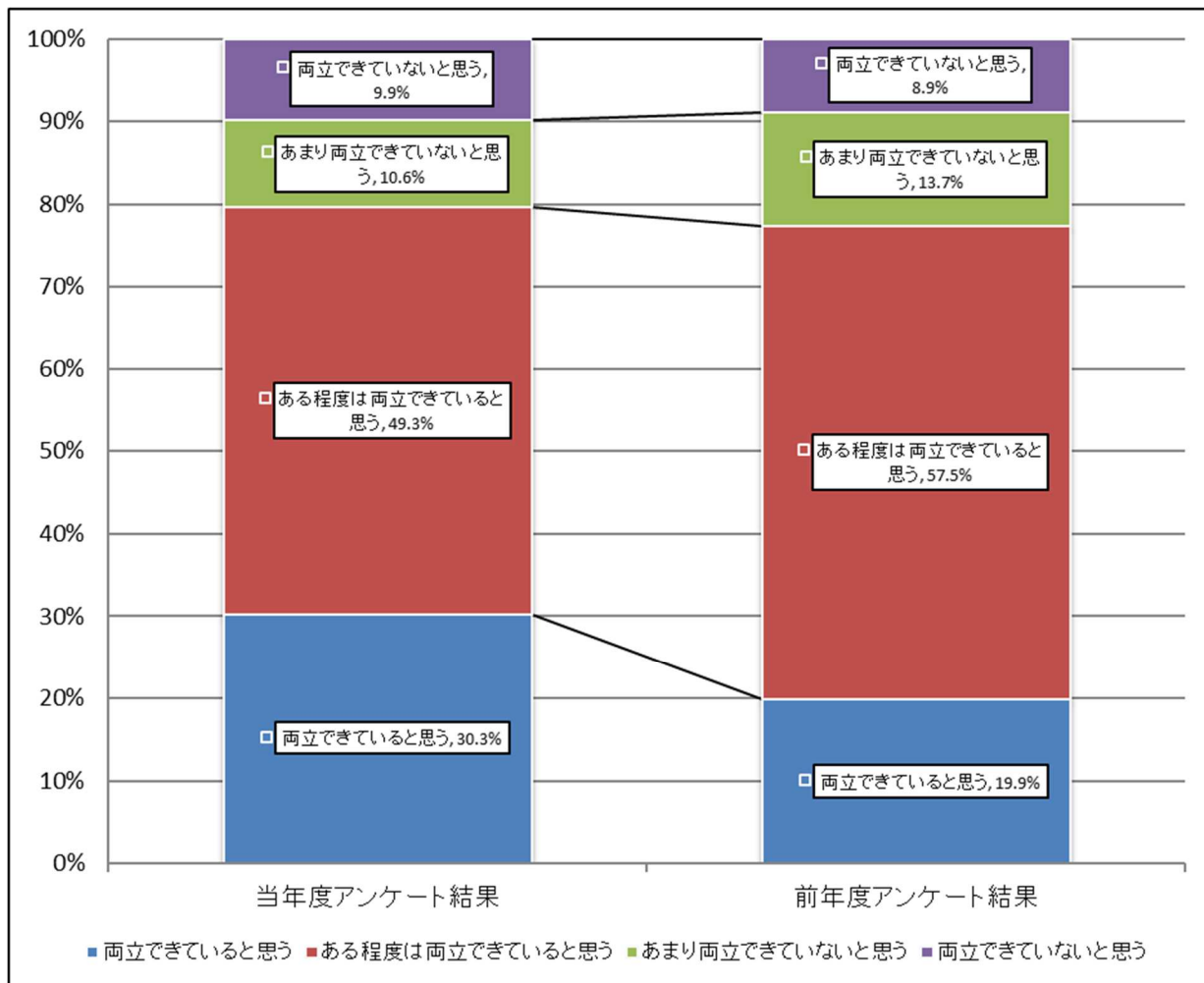
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 20 歳代（男性 5.6%）女性は 70 歳以上（女性 8.0%）でした。一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに 40 歳代（男性 37.3%、女性 53.0%）となっています。世代によつて、大きな差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区（15.8%）であり、次いで藤沢地区（19.6%）となっています。最も多い地区は、川本地区（33.3%）であり、次いで豊里地区（30.8%）となっています。地域によつても、比較的差があることがうかがえます。

**小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
仕事と子育てを両立できていると思いますか。**



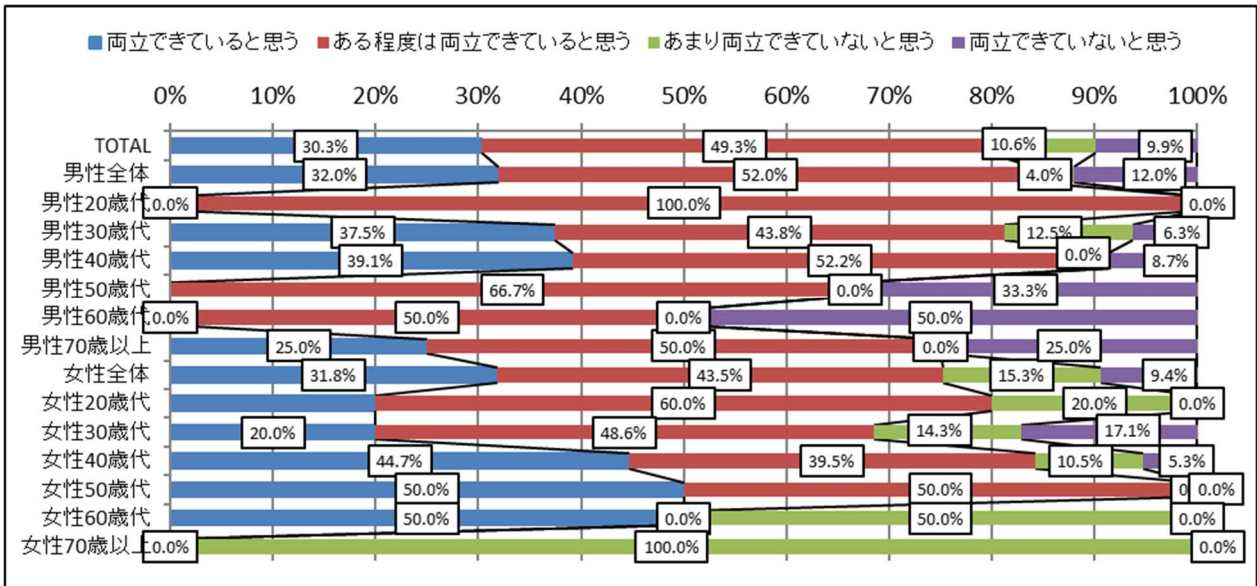
「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が 49.3%と最も多く、次いで、「両立できていると思う」と回答した人の割合が 30.3%、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合は 10.6%、「両立できていないと思う」と回答した人の割合が最も少なく 9.9%となっています。

「両立できていると思う」「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 79.6%であり、小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち、8割近くは、仕事と子育ての両立ができていると回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は 77.4%であり、前年度アンケートと比較して増加となっています。

母集団		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	142	30.3%	49.3%	10.6%	9.9%	0.0%	100.0%
男性全体	50	32.0%	52.0%	4.0%	12.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	16	37.5%	43.8%	12.5%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	23	39.1%	52.2%	0.0%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	4	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	-	-	-	-	-	-
女性全体	85	31.8%	43.5%	15.3%	9.4%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	5	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	35	20.0%	48.6%	14.3%	17.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	38	44.7%	39.5%	10.5%	5.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	28	21.4%	53.6%	10.7%	14.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	6	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	19	36.8%	31.6%	26.3%	5.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	7	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	7	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	12	16.7%	75.0%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	9	11.1%	55.6%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	19	36.8%	42.1%	5.3%	15.8%	0.0%	100.0%
川本地区	11	36.4%	45.5%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%
花園地区	11	36.4%	45.5%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%
無回答	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

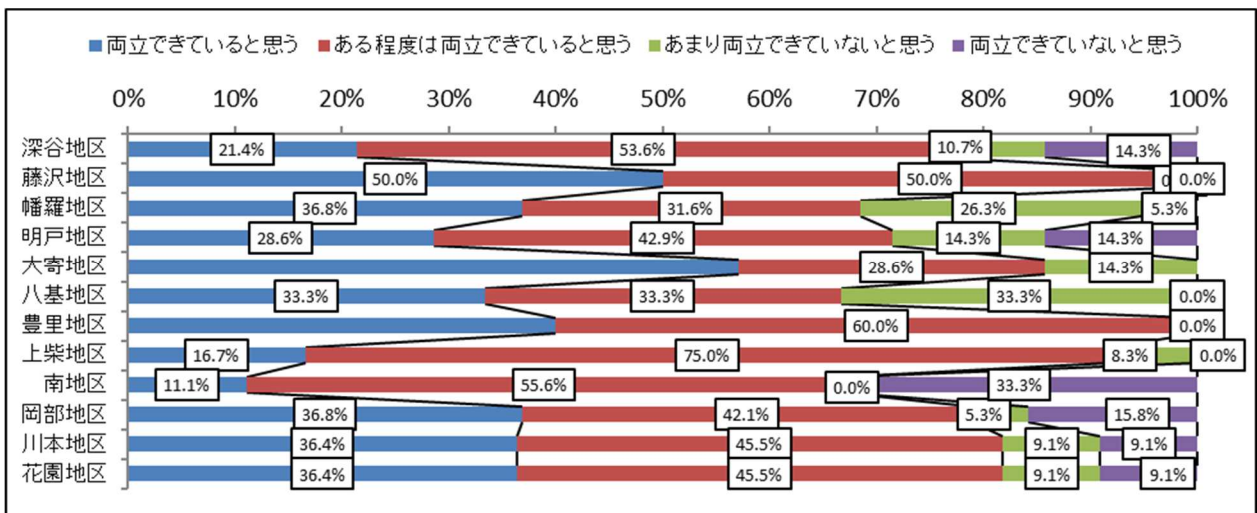


「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性は84.0%、女性は75.3%となっています。

30歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が81.3%であるのに対し、女性は68.6%となっています。

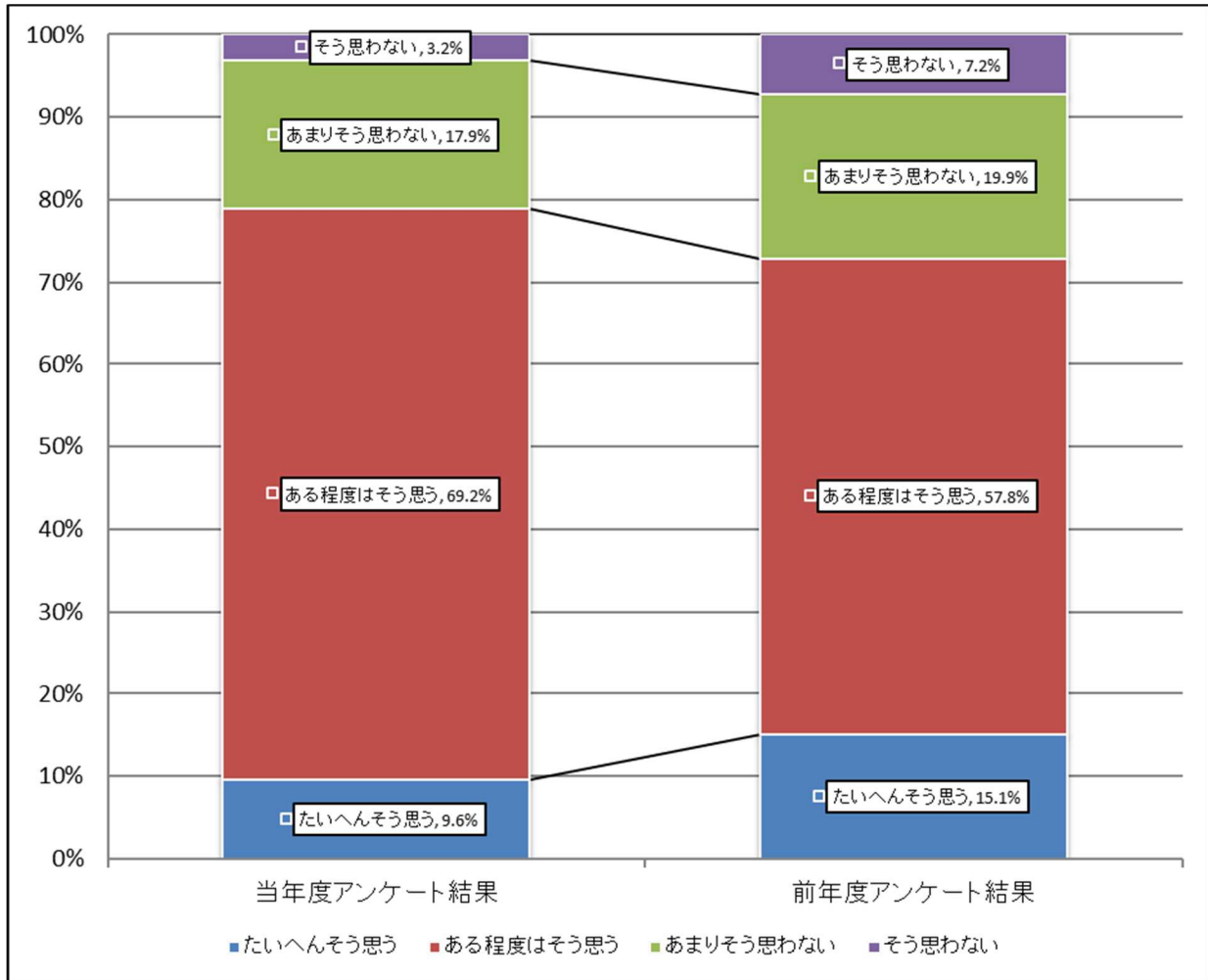
40歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が91.3%であるのに対し、女性は84.2%と、女性よりも男性の方が両立できていると回答している人の割合が高くなっています。

➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、幡羅地区（68.4%）であり、最も多い地区は、上柴地区（91.7%）となっています。

中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
 深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。



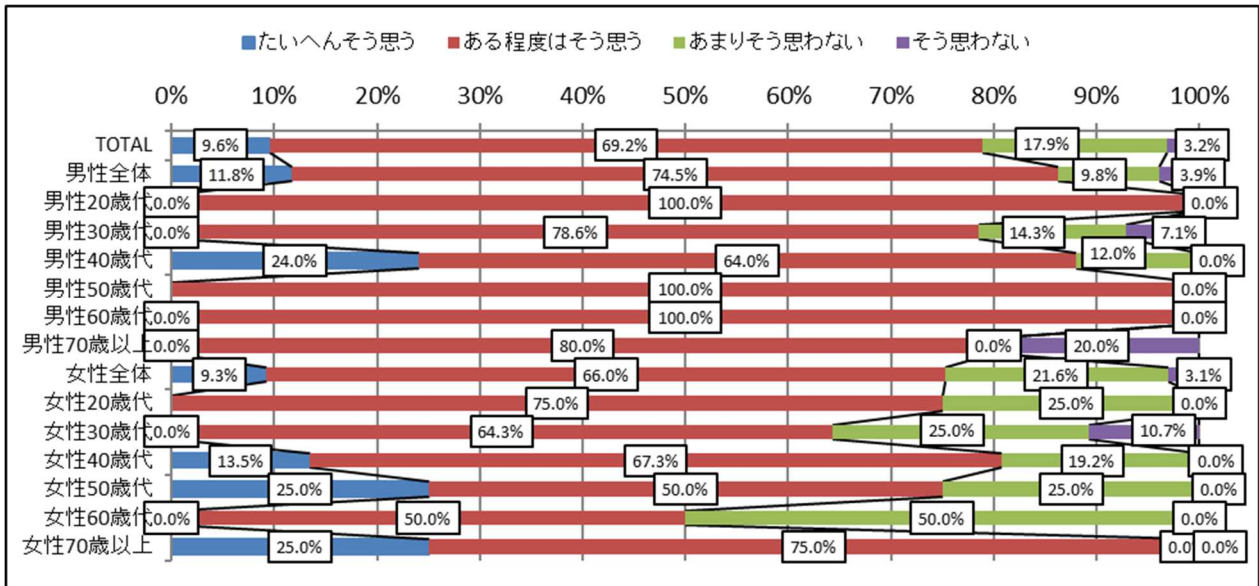
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 69.2%と最も多く、次いで、「あまりそう思わない」が 17.9%、「たいへんそう思う」が 9.6%、「そう思わない」と回答した人の割合は 3.2%となっています。

「たいへんそう思う」「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 78.8%であり、中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち 8 割近くが子育てのしやすいまちだと回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 72.9%であり、前年度アンケートと比較して、若干の増加となっています。

母集団		たいへんそう思う	ある程度は そう思う	そう思わない あまり	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	156	9.6%	69.2%	17.9%	3.2%	0.0%	100.0%
男性全体	51	11.8%	74.5%	9.8%	3.9%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	14	0.0%	78.6%	14.3%	7.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	25	24.0%	64.0%	12.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	5	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	-	-	-	-	-	-
女性全体	97	9.3%	66.0%	21.6%	3.1%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	28	0.0%	64.3%	25.0%	10.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	52	13.5%	67.3%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	4	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	4	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	31	6.5%	61.3%	32.3%	0.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	20	5.0%	90.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	7	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	8	12.5%	75.0%	0.0%	12.5%	0.0%	100.0%
八基地区	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	12	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	11	9.1%	72.7%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	23	13.0%	56.5%	17.4%	13.0%	0.0%	100.0%
川本地区	12	25.0%	66.7%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	13	0.0%	76.9%	15.4%	7.7%	0.0%	100.0%
無回答	5	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%

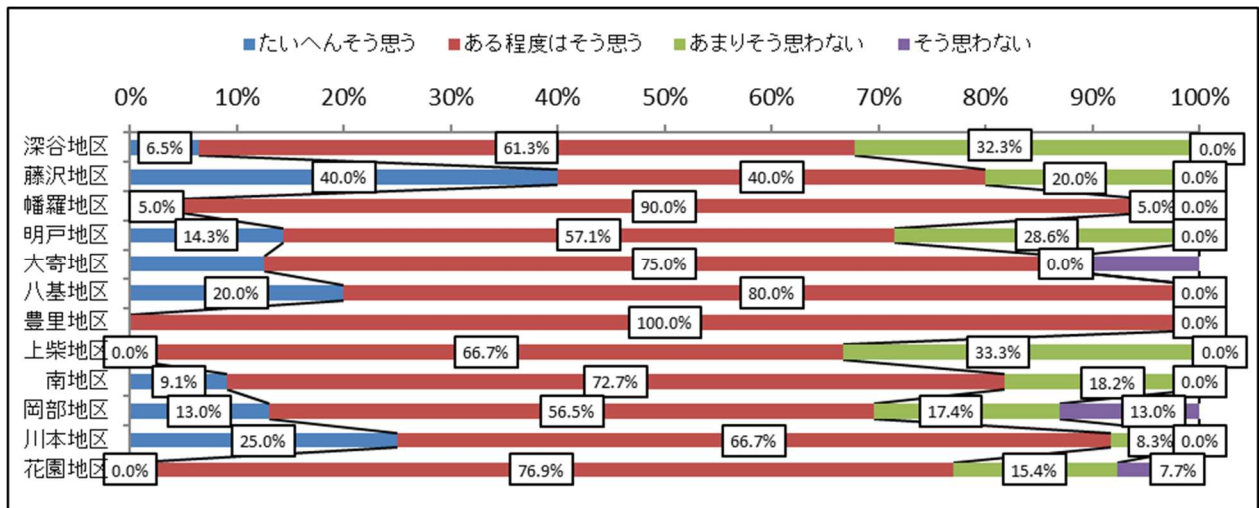
➤ 性別・世代別



「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性は86.3%、女性は75.3%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が78.6%であるのに対し、女性は64.3%と男女によって意識に差がみられます。40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が88.0%であるのに対し、女性は80.8%となっています。

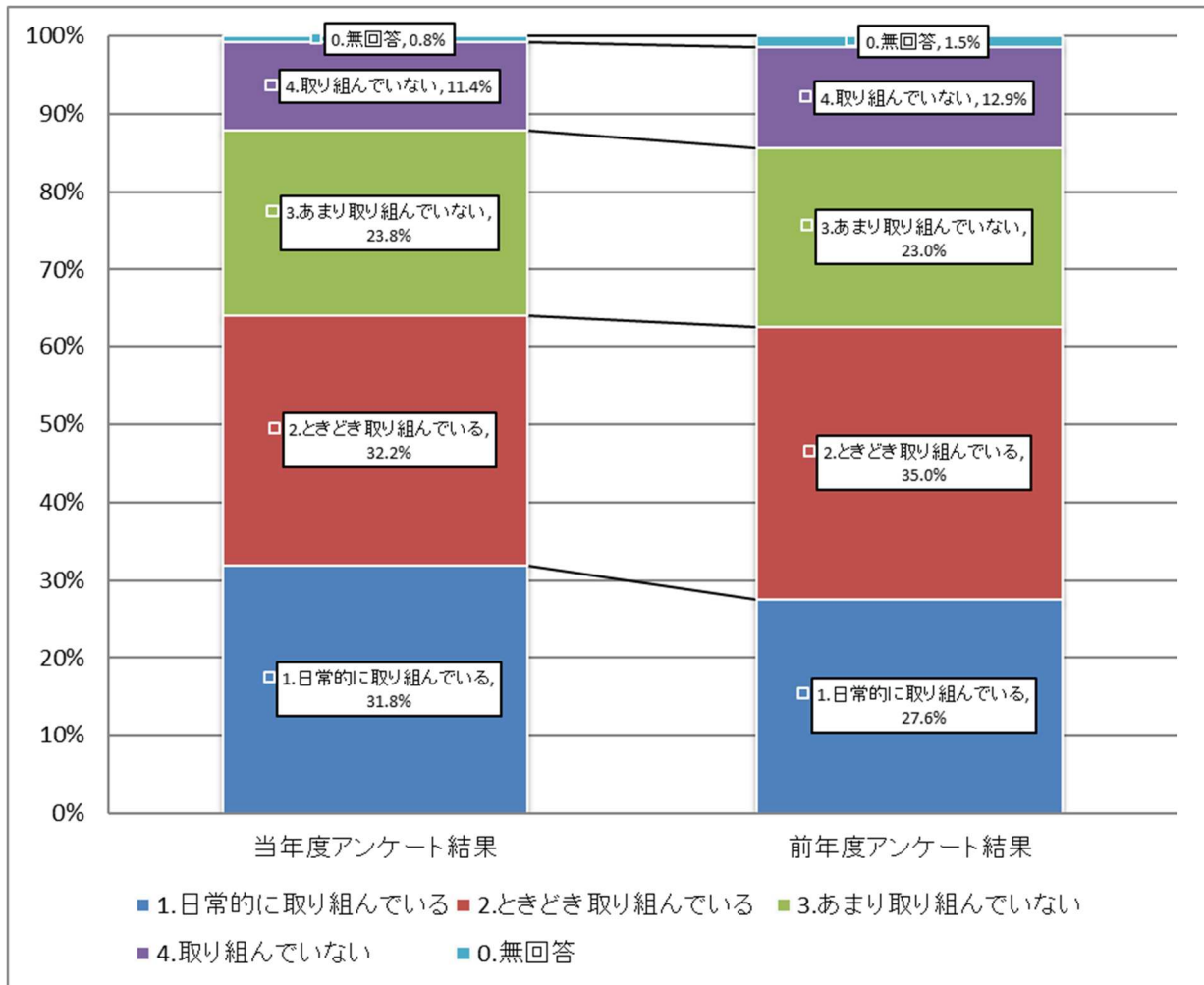
➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、上柴地区（66.7%）であり、最も多い地区は、幡羅地区（95.0%）となっています。

② 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



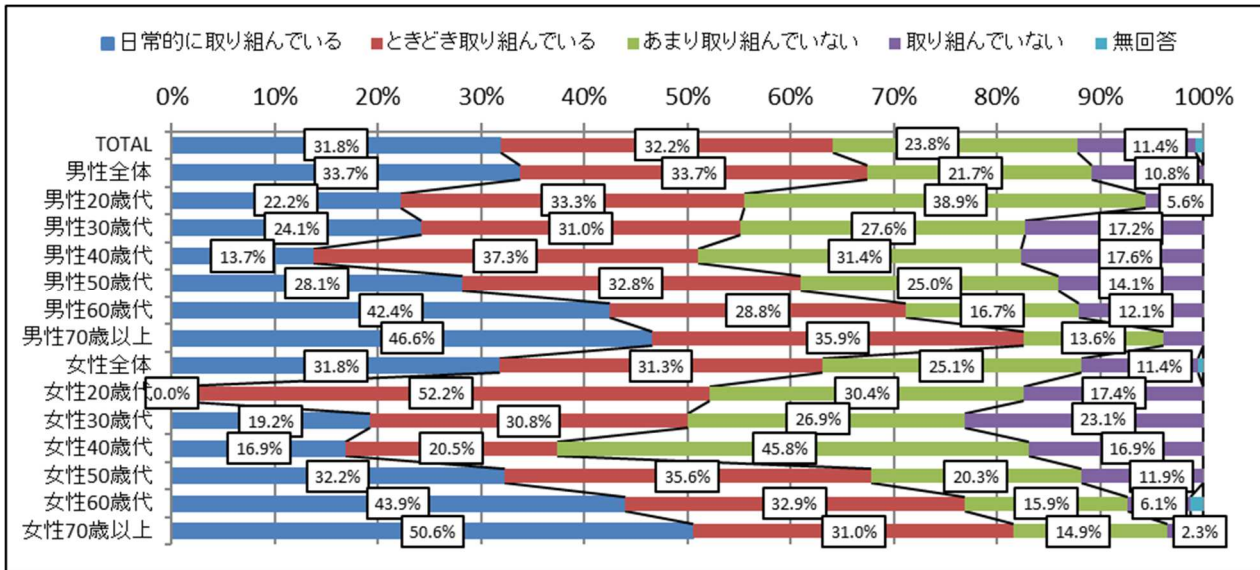
「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 32.2%と最も多く、次いで、「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合は 31.8%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合は 23.8%、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 11.4%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は、64.1%であり、6 割以上の市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果をみると「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は 62.6%であり、普段の生活で健康づくりに取り組んでいる人の割合は、「前年度アンケート」と比較して微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	757	31.8%	32.2%	23.8%	11.4%	0.8%	100.0%
男性全体	332	33.7%	33.7%	21.7%	10.8%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	22.2%	33.3%	38.9%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	24.1%	31.0%	27.6%	17.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	13.7%	37.3%	31.4%	17.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	28.1%	32.8%	25.0%	14.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	42.4%	28.8%	16.7%	12.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	46.6%	35.9%	13.6%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	31.8%	31.3%	25.1%	11.4%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	0.0%	52.2%	30.4%	17.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	19.2%	30.8%	26.9%	23.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	16.9%	20.5%	45.8%	16.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	32.2%	35.6%	20.3%	11.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	43.9%	32.9%	15.9%	6.1%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	50.6%	31.0%	14.9%	2.3%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	23.5%	38.6%	26.5%	11.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	43.5%	26.1%	21.7%	8.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	32.2%	24.1%	26.4%	17.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	60.0%	15.0%	15.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	42.3%	23.1%	19.2%	15.4%	0.0%	100.0%
八基地区	19	57.9%	21.1%	21.1%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	26.9%	19.2%	42.3%	11.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	41.3%	30.7%	17.3%	10.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	47.4%	19.3%	19.3%	14.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	27.0%	32.6%	30.3%	9.0%	1.1%	100.0%
川本地区	54	27.8%	46.3%	18.5%	7.4%	0.0%	100.0%
花園地区	72	26.4%	37.5%	22.2%	12.5%	1.4%	100.0%
無回答	20	35.0%	25.0%	15.0%	5.0%	20.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

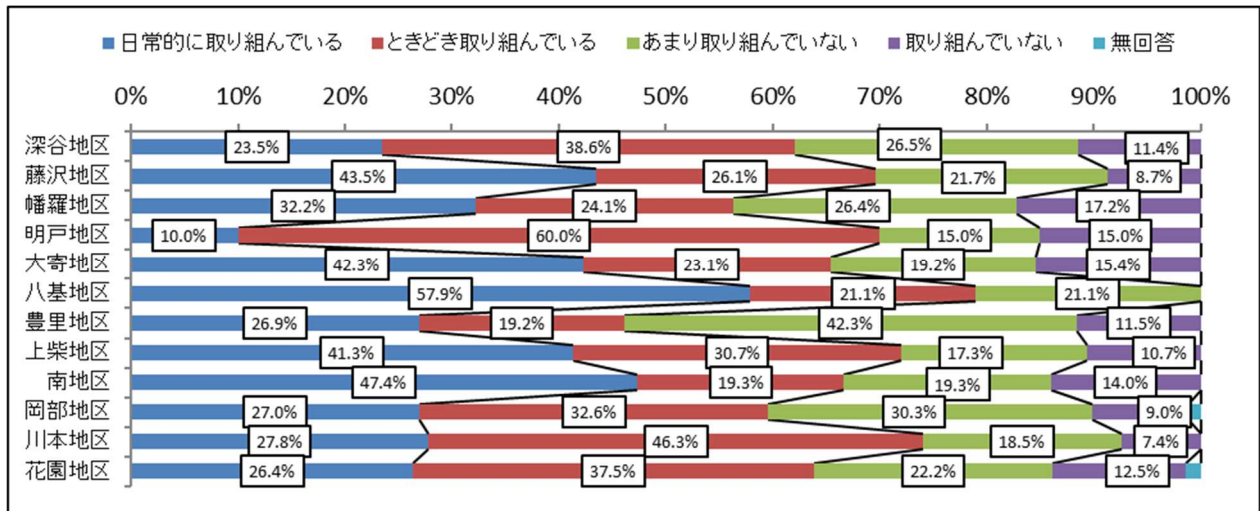


性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は男性が67.5%であるのに対して、女性は63.0%となっています。

また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が少ない世代は、男女ともに40歳代（男性51.0%、女性37.3%）であることがわかります。一方で、最も多い世代は男女ともに70歳以上（男性82.5%、女性81.6%）となっています。

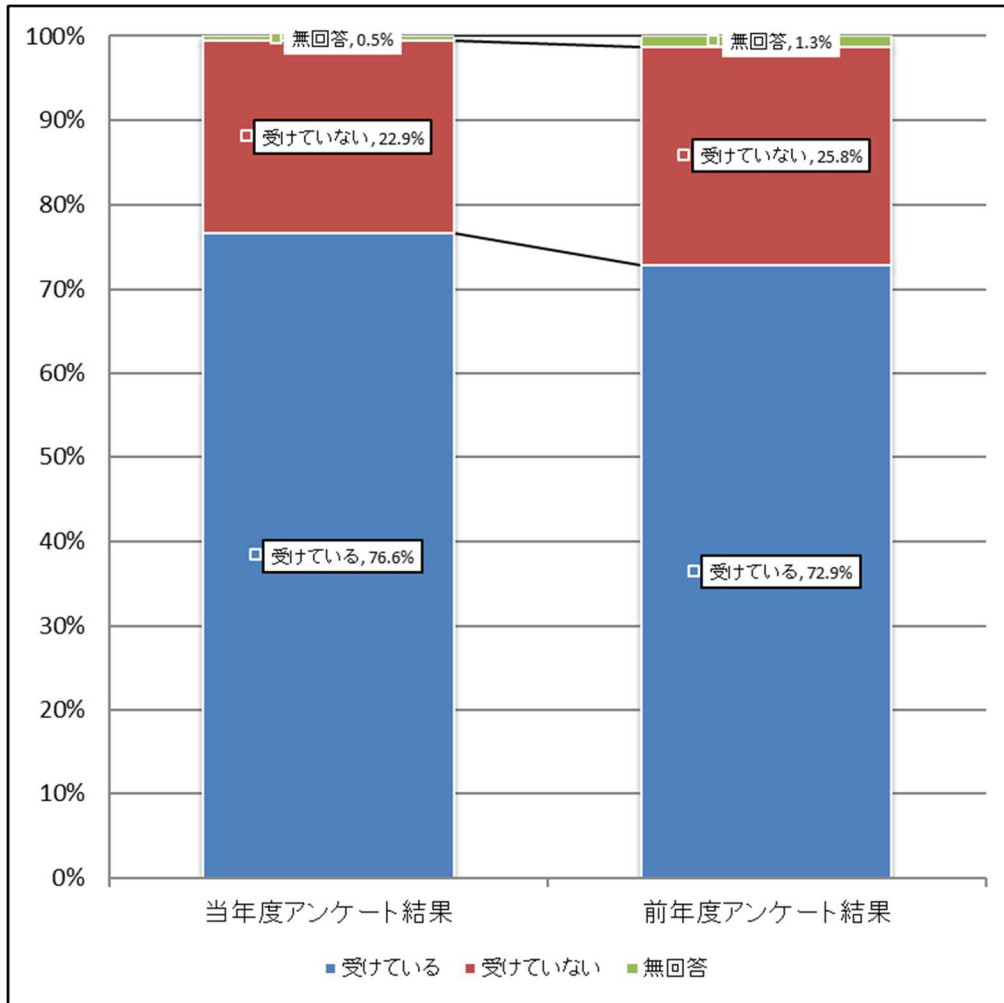
最も少ない世代の回答と最も多い世代の回答では、男女共に世代間での差が大きいことがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区（46.2%）であり、次いで幡羅地区（56.3%）となっています。最も多い地区は、八基地区（78.9%）であり、次いで川本地区（74.1%）となっています。

定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。



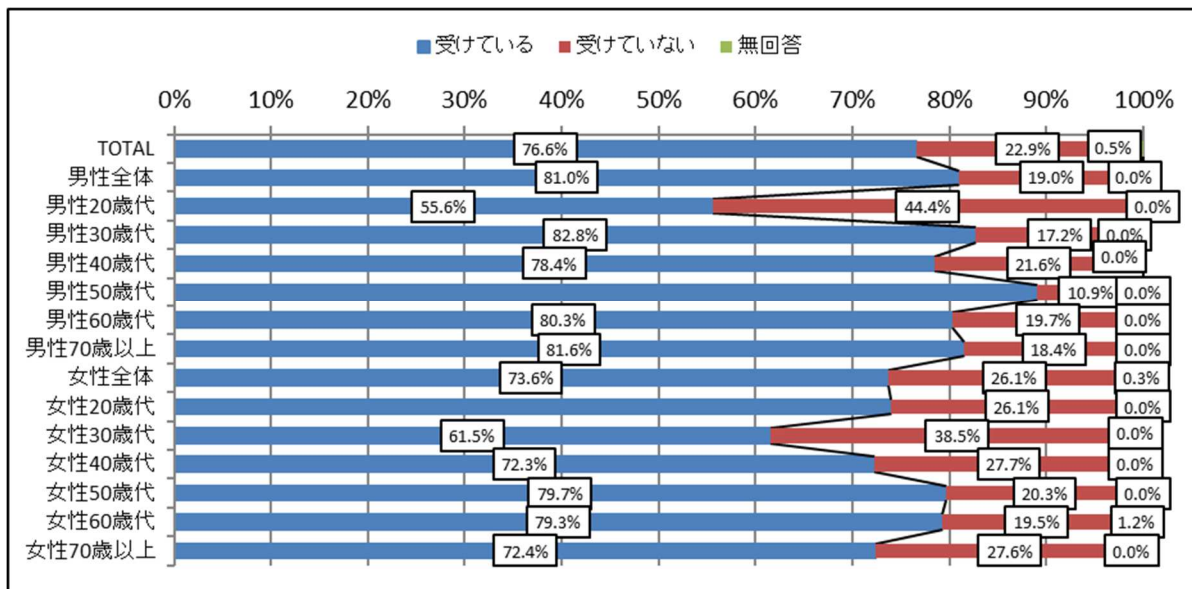
「受けている」と回答した人の割合は 76.6%、「受けていない」と回答した人の割合は 22.9%となっています。

市民の7割以上が、定期的に健康診断や人間ドック、がん検診を受けていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「受けている」と回答した人の割合は 72.9%であり、前年度アンケートと比較して、増加しております。

母集団		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	757	76.6%	22.9%	0.5%	100.0%
男性全体	332	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	55.6%	44.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	82.8%	17.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	78.4%	21.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	89.1%	10.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	80.3%	19.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	81.6%	18.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	73.6%	26.1%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	73.9%	26.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	61.5%	38.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	72.3%	27.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	79.7%	20.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	79.3%	19.5%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	72.4%	27.6%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	73.5%	26.5%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	89.1%	10.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	82.8%	17.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	70.0%	30.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	84.2%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	65.4%	34.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	82.7%	17.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	71.9%	28.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	68.5%	30.3%	1.1%	100.0%
川本地区	54	87.0%	13.0%	0.0%	100.0%
花園地区	72	79.2%	20.8%	0.0%	100.0%
無回答	20	60.0%	25.0%	15.0%	100.0%

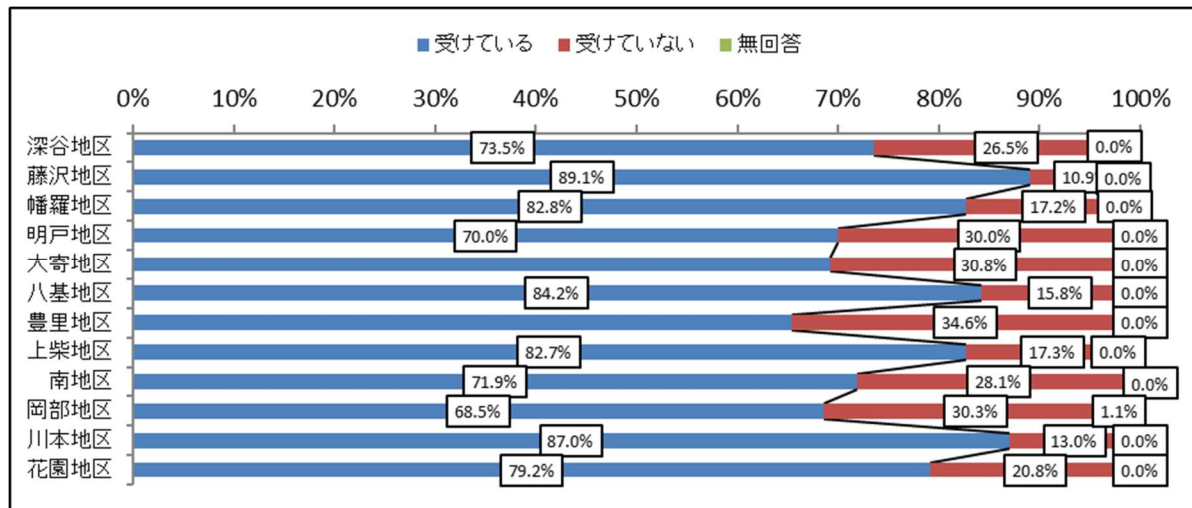
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「受けている」と回答した人の割合は男性が81.0%、女性は73.6%と7割から8割以上の方が定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていることがうかがえます。

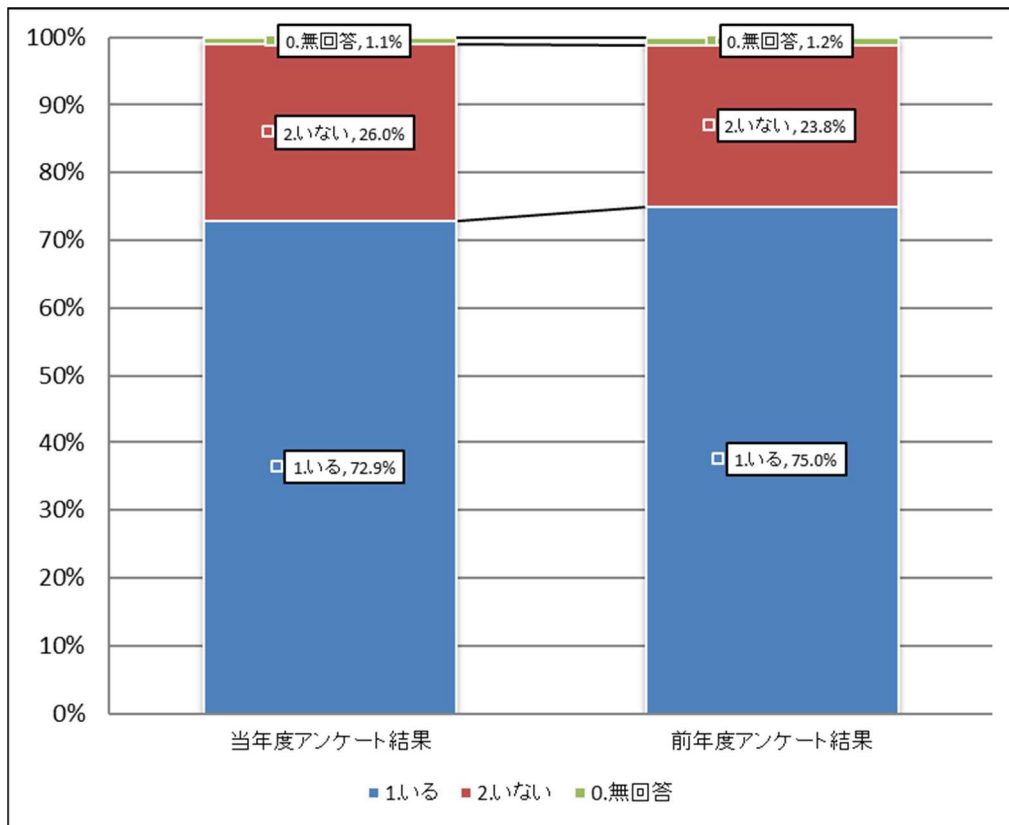
「受けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代（55.6%）、女性は30歳代（61.5%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性女性ともに50歳代（男性89.1%、女性79.7%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区（65.4%）であり、次いで岡部地区（68.5%）となっています。最も多い地区は、藤沢地区（89.1%）であり、次いで川本地区（87.0%）となっています。

かかりつけのお医者さんはいますか。

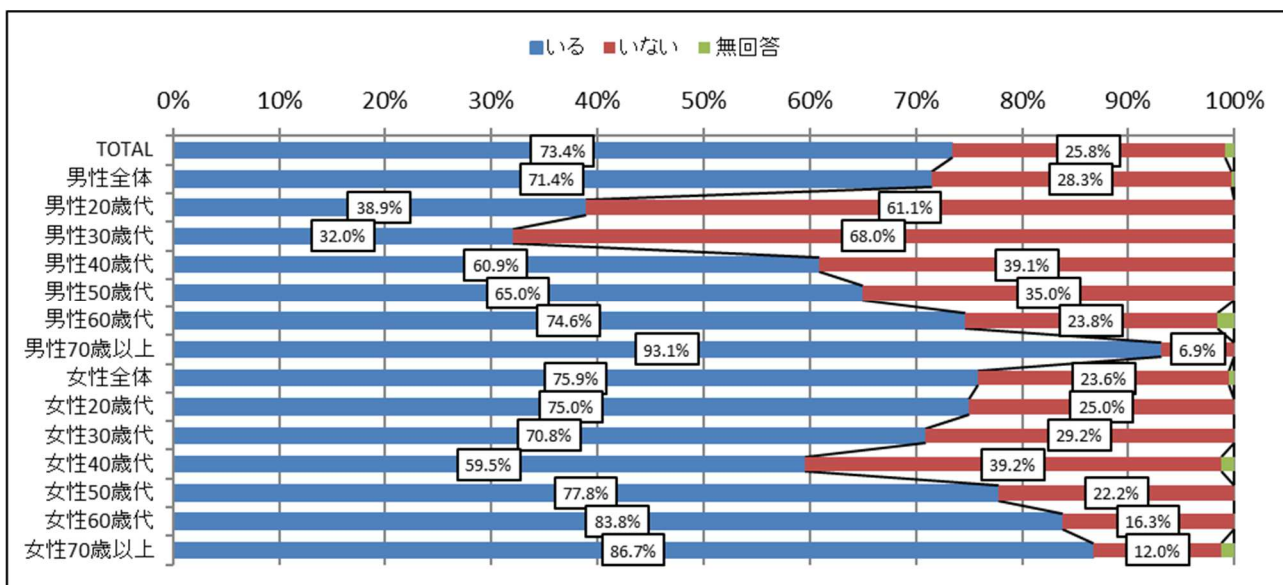


「いる」と回答した人の割合は72.9%、「いない」と回答した人の割合は26.0%であり、大多数の市民にかかりつけ医がいる一方、約5人に1人以上はかかりつけ医がないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合が75.0%、「いない」と回答した人の割合が23.8%であり、「前年度アンケート」と比較して、かかりつけ医がいると回答した人の割合が微増していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	757	73.4%	25.8%	0.8%	100.0%
男性全体	332	71.4%	28.3%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	38.9%	61.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	32.0%	68.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	60.9%	39.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	65.0%	35.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	74.6%	23.8%	1.6%	100.0%
男性 70 歳以上	103	93.1%	6.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	75.9%	23.6%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	70.8%	29.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	59.5%	39.2%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	59	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	83.8%	16.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	86.7%	12.0%	1.2%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	72.9%	26.5%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	80.4%	19.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	71.3%	27.6%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	73.1%	26.9%	0.0%	100.0%
八基地区	19	89.5%	5.3%	5.3%	100.0%
豊里地区	26	73.1%	26.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	72.0%	28.0%	0.0%	100.0%
南地区	57	66.7%	31.6%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	74.2%	24.7%	1.1%	100.0%
川本地区	54	75.9%	24.1%	0.0%	100.0%
花園地区	72	73.6%	26.4%	0.0%	100.0%
無回答	20	50.0%	35.0%	15.0%	100.0%

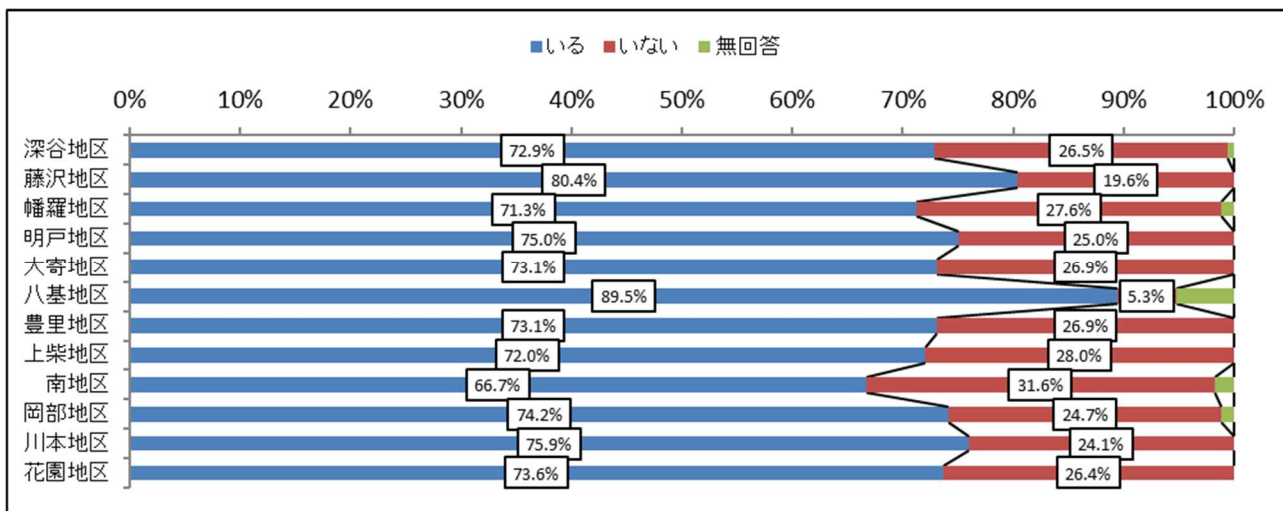
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が 71.4%であるのに対して、女性は 75.9%でした。

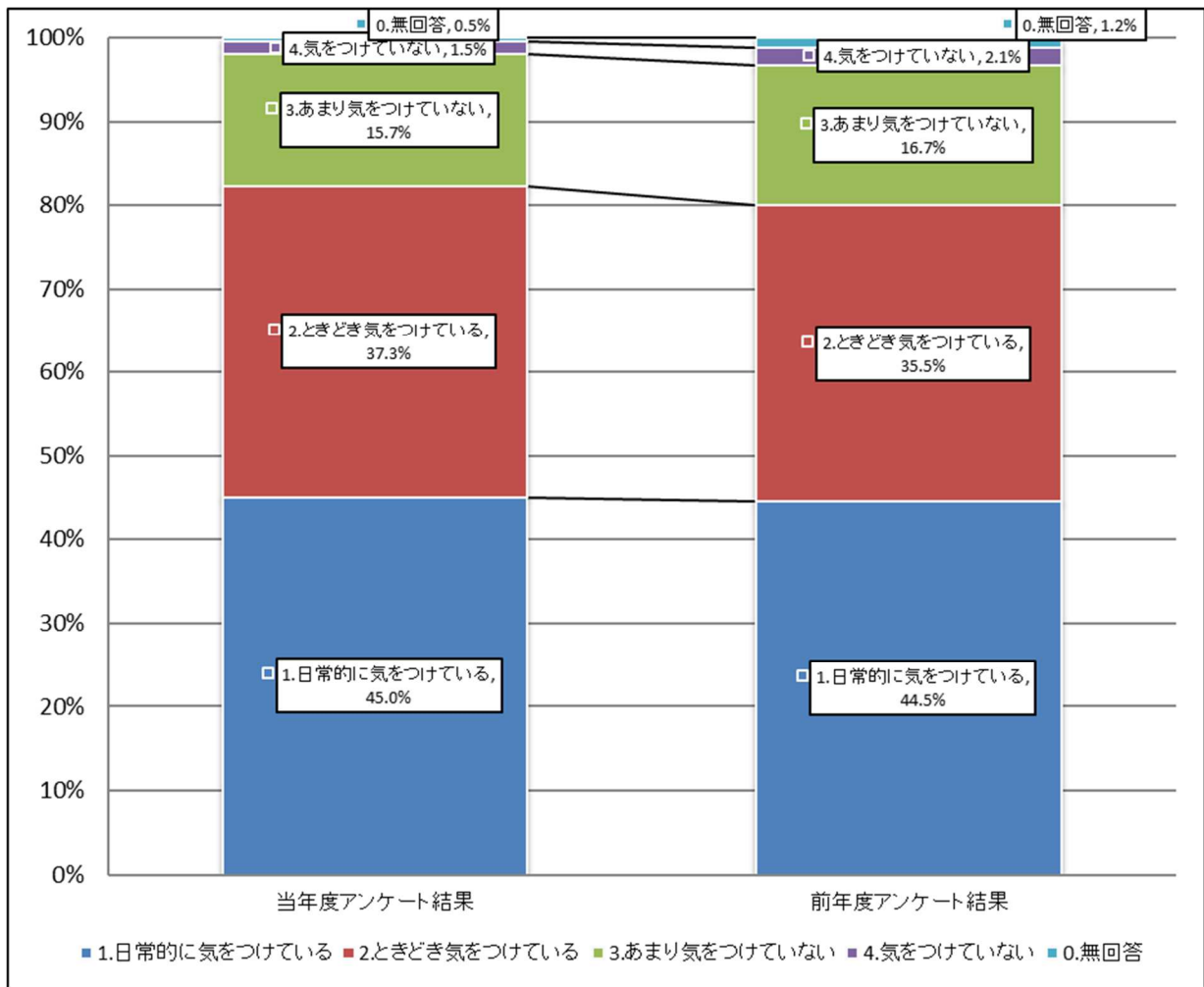
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (32.0%)、次いで男性 20 歳代 (38.9%)、女性 40 歳代 (59.5%) となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上 (男性 93.1%、女性 86.7%)、次いで男女ともに 60 歳以上 (男性 74.6%、女性 83.8%) であり、60 歳以上の 7 割以上の人にかかりつけ医がいることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、南地区 (66.7%) であり、次いで幡羅地区 (71.3%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (89.5%) であり、次いで藤沢地区 (80.4%) となっています。

健康的な食生活に気をつけていますか。



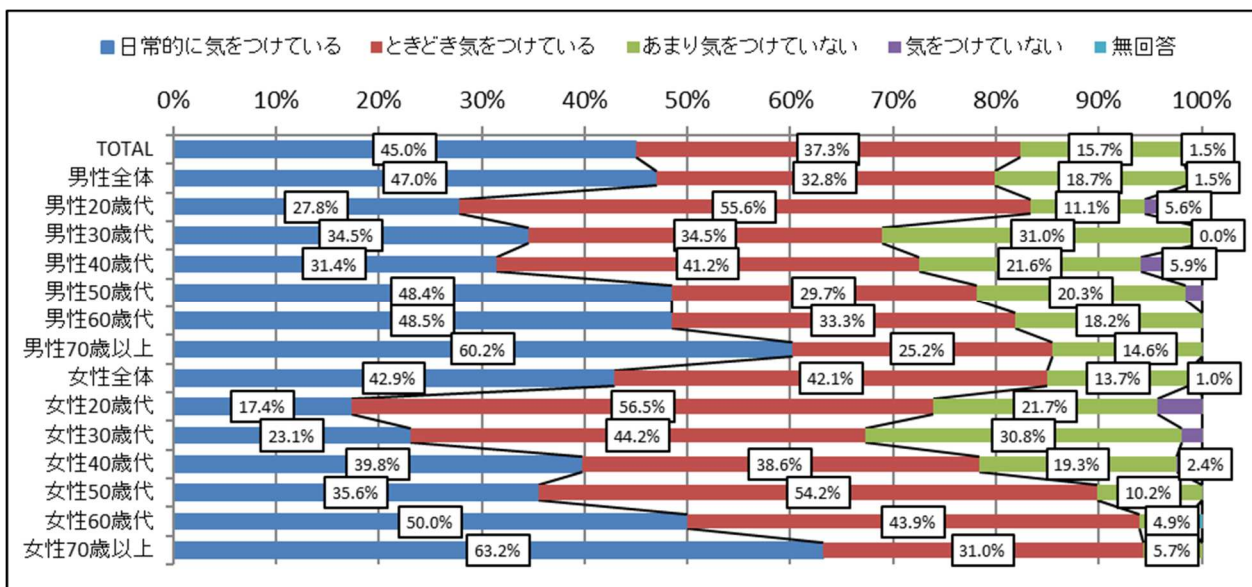
「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 45.0%と最も多く、次いで、「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 37.3%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合は 15.7%、「気をつけていない」と回答した人の割合は 1.5%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は、82.3%であり、8割の市民が、健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 80.0%であることから、健康的な食生活に気をつけている人の割合は、前年度アンケート時から微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に気をつけている	ときどき気をつけている	あまり気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	757	45.0%	37.3%	15.7%	1.5%	0.5%	100.0%
男性全体	332	47.0%	32.8%	18.7%	1.5%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	34.5%	34.5%	31.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	31.4%	41.2%	21.6%	5.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	48.4%	29.7%	20.3%	1.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	48.5%	33.3%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	60.2%	25.2%	14.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	42.9%	42.1%	13.7%	1.0%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	17.4%	56.5%	21.7%	4.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	23.1%	44.2%	30.8%	1.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	39.8%	38.6%	19.3%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	35.6%	54.2%	10.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	50.0%	43.9%	4.9%	0.0%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	63.2%	31.0%	5.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	40.4%	44.0%	15.1%	0.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	60.9%	28.3%	10.9%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	48.3%	33.3%	13.8%	4.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	55.0%	15.0%	30.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	57.7%	26.9%	15.4%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	36.8%	52.6%	10.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	42.3%	23.1%	30.8%	3.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	49.3%	38.7%	10.7%	1.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	49.1%	24.6%	26.3%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	34.8%	46.1%	15.7%	2.2%	1.1%	100.0%
川本地区	54	48.1%	35.2%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	72	41.7%	47.2%	9.7%	1.4%	0.0%	100.0%
無回答	20	40.0%	20.0%	20.0%	5.0%	15.0%	100.0%

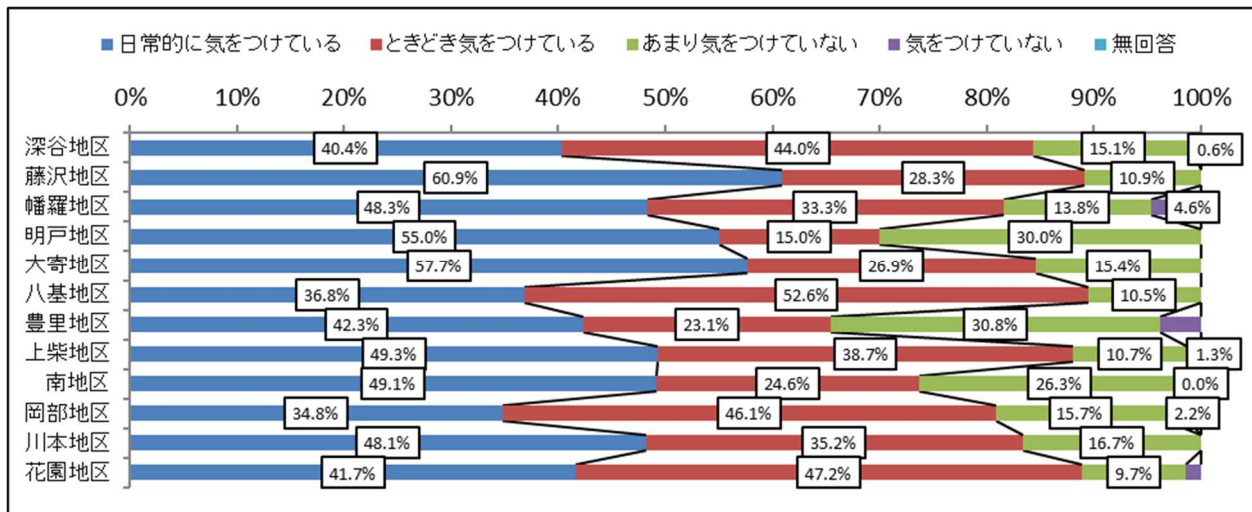
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は男性が 79.8%であるのに対して、女性は 85.0%と 5.2 ポイントの差がみられます。

また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は男女ともに 30 歳代（男性 69.0%、女性 67.3%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上（男性 85.4%、女性 94.3%）となっています。

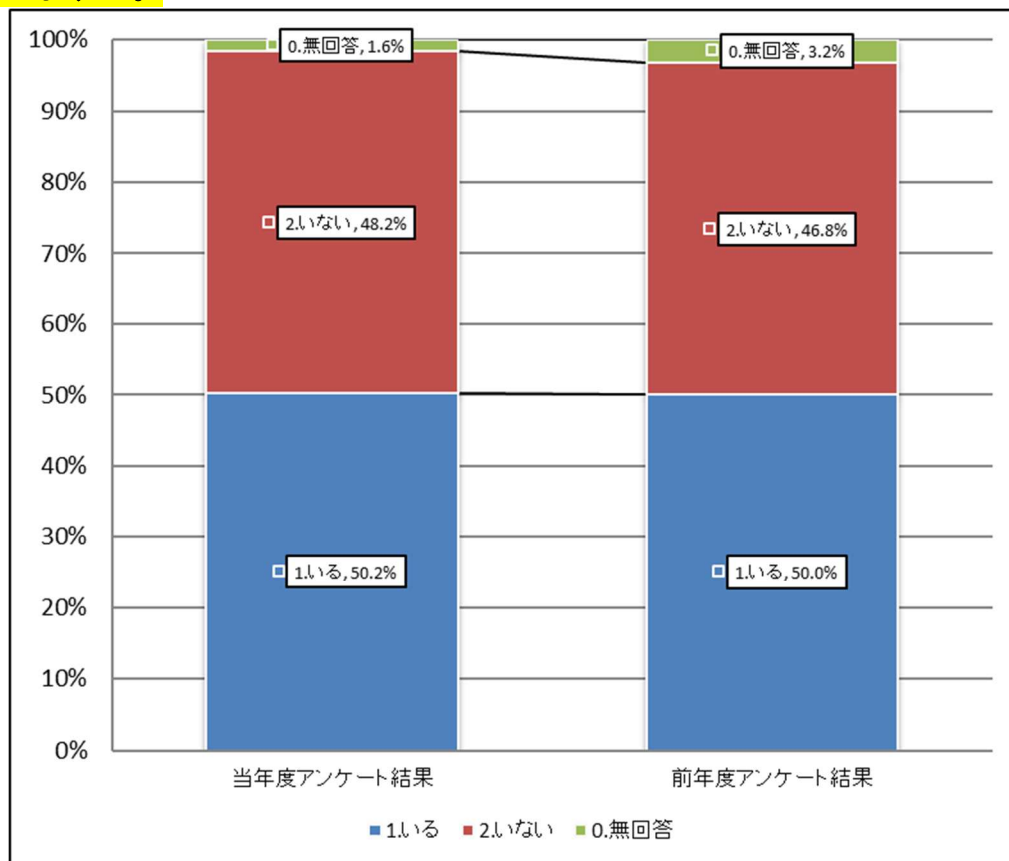
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区（65.4%）であり、次いで明戸地区（70.0%）となっています。最も多い地区は、八基地区（89.5%）であり、次いで藤沢地区（89.1%）となっています。

③ 福祉について（2. 問8）

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

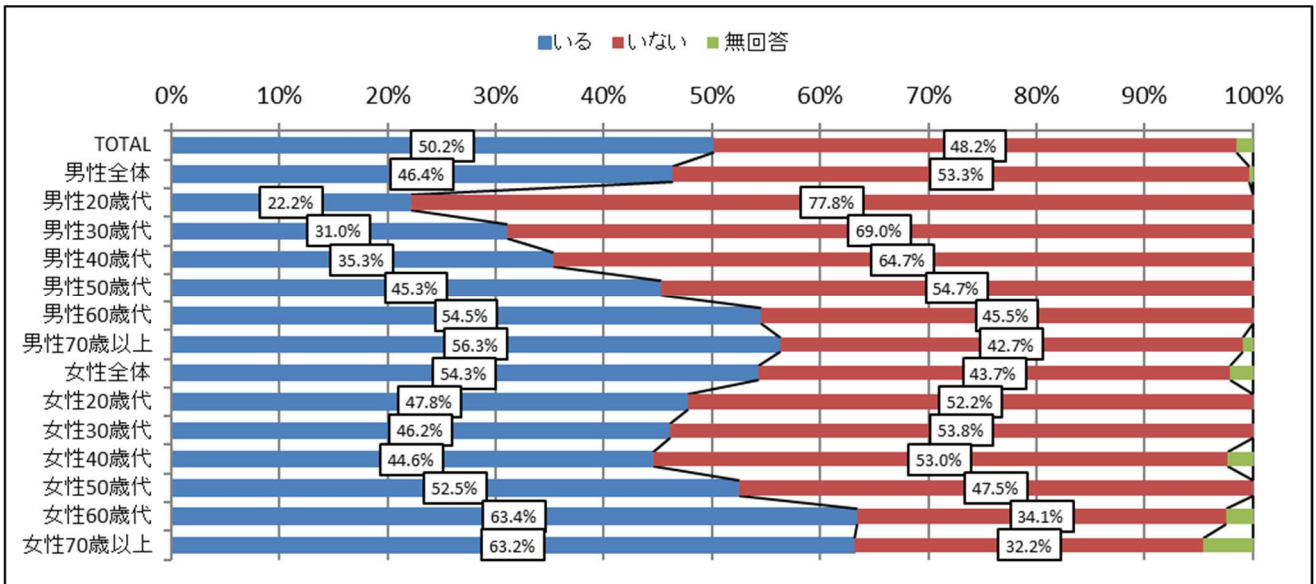


「いる」と回答した人の割合は50.2%、「いない」と回答した人の割合は48.2%となっており、日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいないと回答した人が5割近くいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「いる」と回答した人の割合は50.0%、「いない」と回答した人の割合が46.8%でした。手助けしてくれる人がいると回答した人は「前年度アンケート」と比較して、ほぼ変化がないことがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	757	50.2%	48.2%	1.6%	100.0%
男性全体	332	46.4%	53.3%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	22.2%	77.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	31.0%	69.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	35.3%	64.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	45.3%	54.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	54.5%	45.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	56.3%	42.7%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	54.3%	43.7%	2.1%	100.0%
女性 20 歳代	23	47.8%	52.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	46.2%	53.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	44.6%	53.0%	2.4%	100.0%
女性 50 歳代	59	52.5%	47.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	63.4%	34.1%	2.4%	100.0%
女性 70 歳以上	87	63.2%	32.2%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	47.6%	52.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	60.9%	39.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	40.2%	57.5%	2.3%	100.0%
明戸地区	20	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
八基地区	19	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	65.4%	26.9%	7.7%	100.0%
上柴地区	75	38.7%	61.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	45.6%	52.6%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	47.2%	51.7%	1.1%	100.0%
川本地区	54	59.3%	37.0%	3.7%	100.0%
花園地区	72	61.1%	38.9%	0.0%	100.0%
無回答	20	30.0%	50.0%	20.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

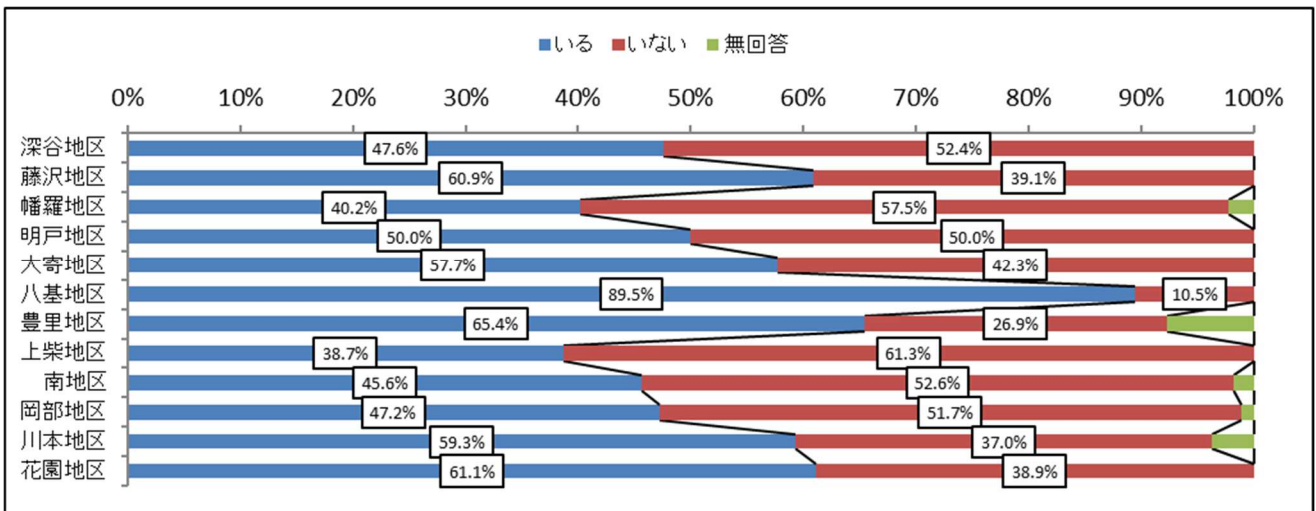


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が 46.4%であるのに対して、女性は 54.3%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (22.2%)、女性 40 歳代 (44.6%) となりました。一方で、最も割合の多い世代は、男性 70 歳以上 (56.3%)、女性 60 歳 (63.4%) となっています。

男女ともに 60 歳代以上から、手助けしてくれる人がいると回答する割合が増加傾向にあることがわかります。

➤ 地区別

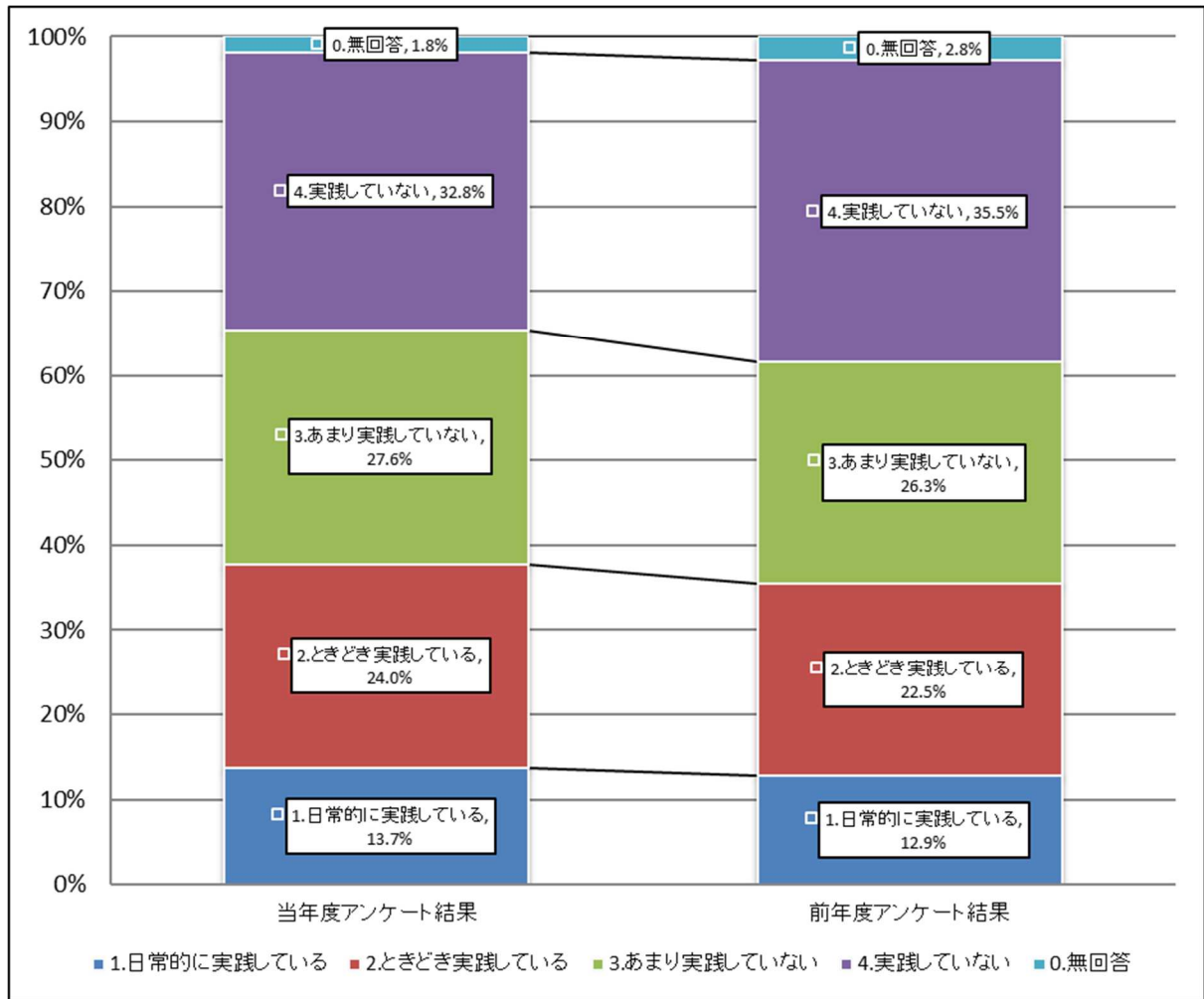


地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、上柴地区 (38.7%) であり、次いで幡羅地区 (40.2%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (89.5%) であり、次いで豊里地区 (65.4%) となっています。

(3) 教育・文化について

① 生涯学習の振興 (3. 問1)

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



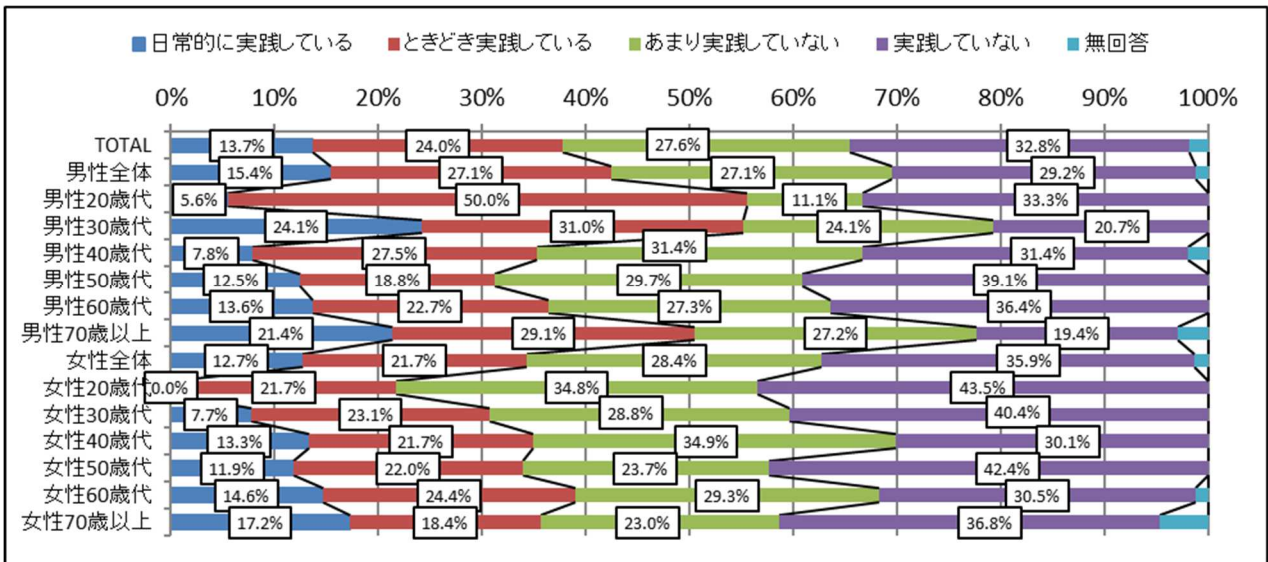
「実践していない」と回答した人の割合が 32.8%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が 27.6%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 24.0%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく 13.7%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は、35.6%にとどまり、大多数の市民は生涯学習を実践していないということがうかがえます。

また、「前年度アンケート」では、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は 37.8%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	757	13.7%	24.0%	27.6%	32.8%	1.8%	100.0%
男性全体	332	15.4%	27.1%	27.1%	29.2%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	50.0%	11.1%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	24.1%	31.0%	24.1%	20.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	7.8%	27.5%	31.4%	31.4%	2.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	12.5%	18.8%	29.7%	39.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	13.6%	22.7%	27.3%	36.4%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	21.4%	29.1%	27.2%	19.4%	2.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	12.7%	21.7%	28.4%	35.9%	1.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	0.0%	21.7%	34.8%	43.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	7.7%	23.1%	28.8%	40.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	13.3%	21.7%	34.9%	30.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	11.9%	22.0%	23.7%	42.4%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	14.6%	24.4%	29.3%	30.5%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	17.2%	18.4%	23.0%	36.8%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	10.8%	22.9%	30.1%	36.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	23.9%	26.1%	15.2%	32.6%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	18.4%	28.7%	23.0%	28.7%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	20.0%	35.0%	45.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	15.4%	15.4%	34.6%	34.6%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	21.1%	42.1%	26.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	23.1%	19.2%	46.2%	3.8%	100.0%
上柴地区	75	22.7%	20.0%	32.0%	25.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	12.3%	33.3%	28.1%	24.6%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	14.6%	22.5%	30.3%	29.2%	3.4%	100.0%
川本地区	54	3.7%	37.0%	22.2%	35.2%	1.9%	100.0%
花園地区	72	13.9%	15.3%	27.8%	40.3%	2.8%	100.0%
無回答	20	10.0%	20.0%	20.0%	30.0%	20.0%	100.0%

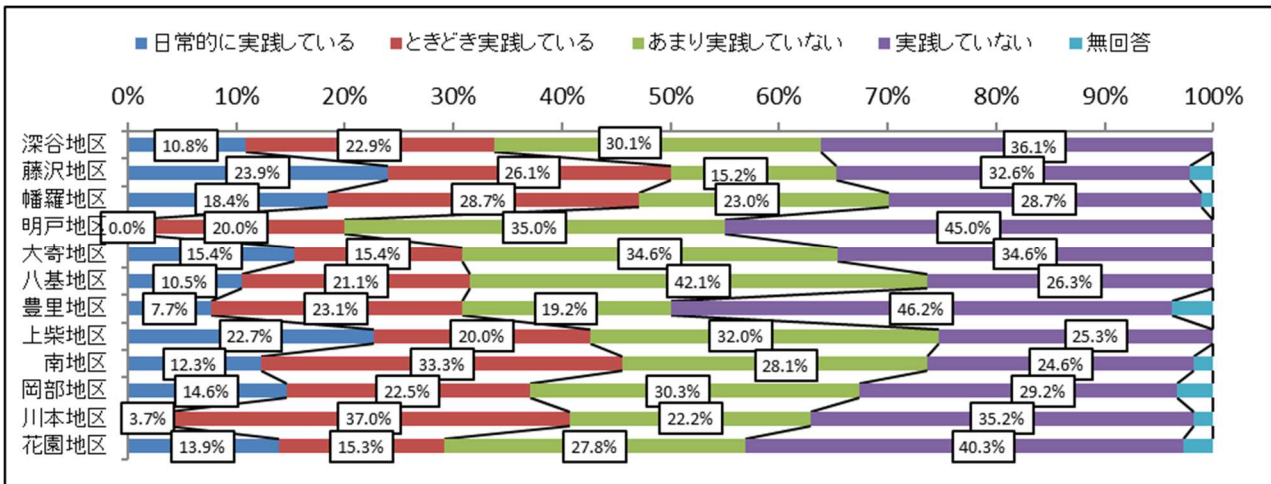
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は男性が42.5%であるのに対して、女性は34.4%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性50歳代（31.3%）、女性20歳代（21.7%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が20歳代（55.6%）であるのに対して、女性は60歳以上（39.0%）となっています。

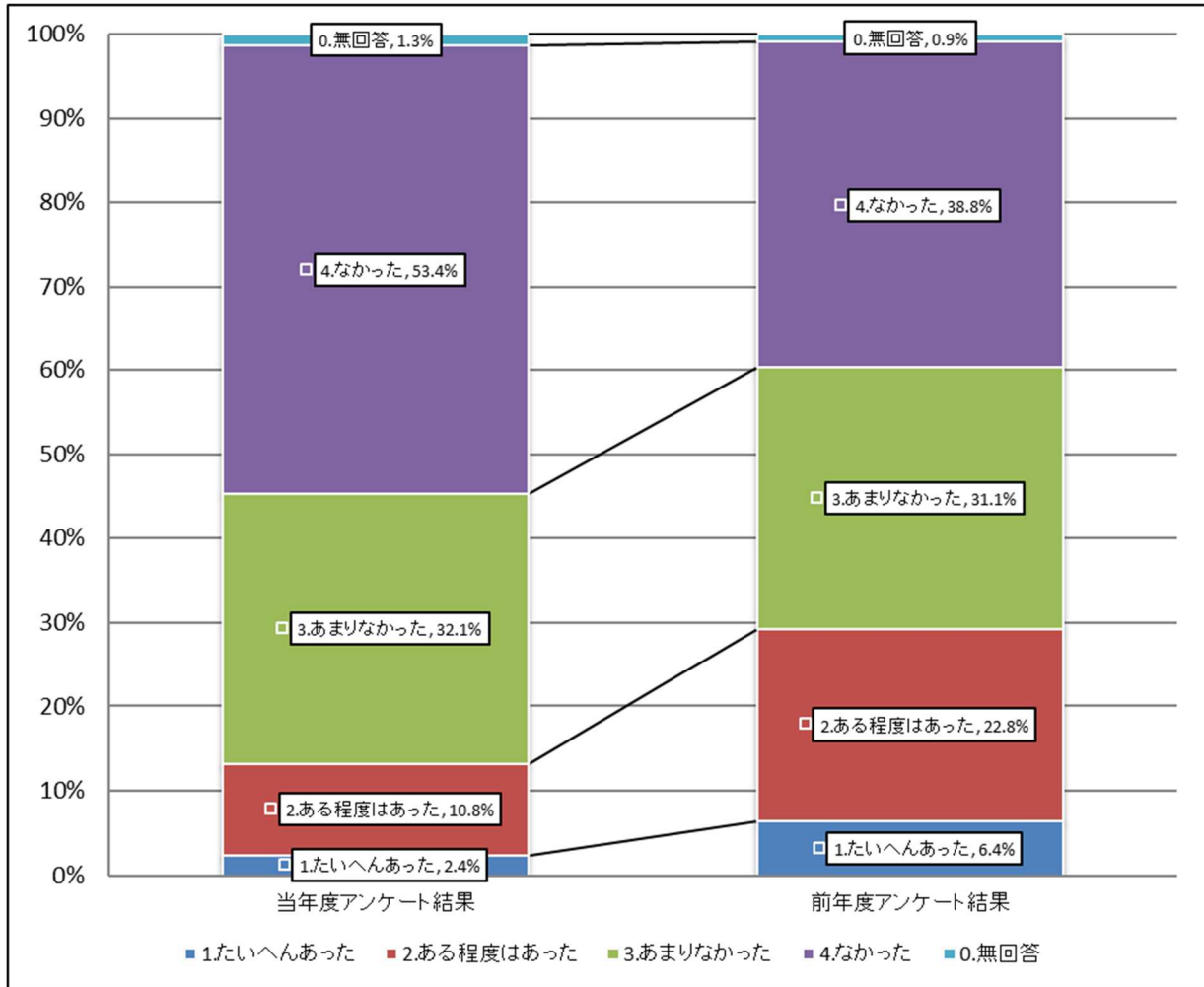
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（20.0%）であり、次いで花園地区（29.2%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（50.0%）であり、次いで幡羅地区（47.1%）となっています。

② 文化の振興（3. 問2）

この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



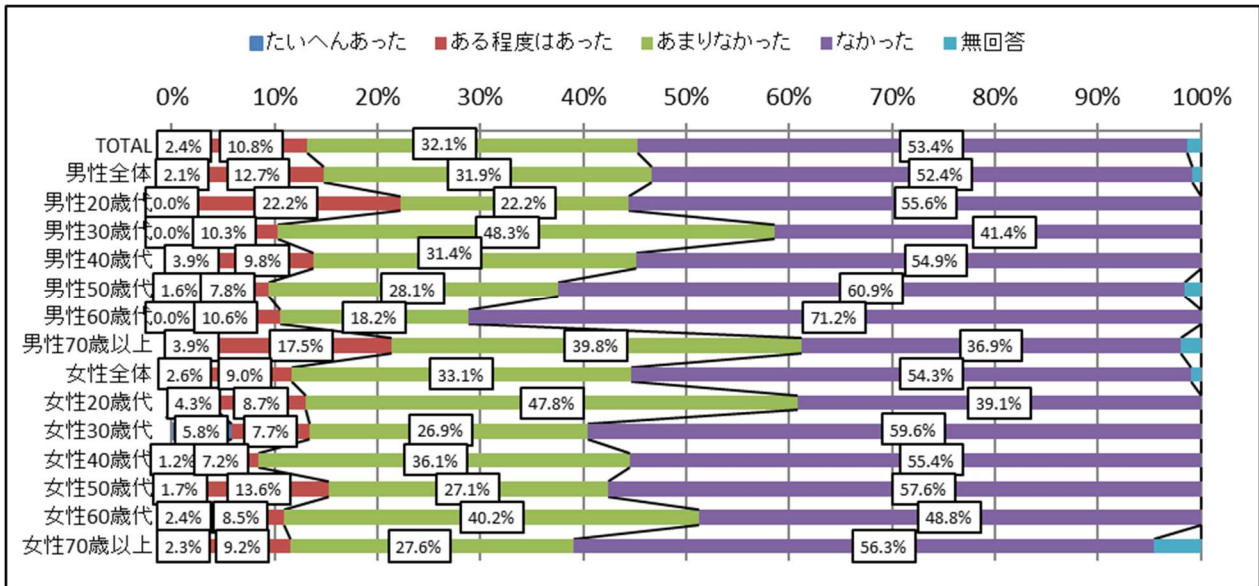
「なかった」と回答した人の割合が 53.4%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 32.1%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 10.8%、「たいへんあった」と回答した人の割合が 2.4%となっています。

「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は、13.2%であり、8割以上の市民が芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がなかったことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は 29.2%であり、前年度アンケートと比較して、「なかった」と回答した人の割合が増加した結果となっています。

母集団		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	757	2.4%	10.8%	32.1%	53.4%	1.3%	100.0%
男性全体	332	2.1%	12.7%	31.9%	52.4%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	18	0.0%	22.2%	22.2%	55.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	10.3%	48.3%	41.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	3.9%	9.8%	31.4%	54.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	1.6%	7.8%	28.1%	60.9%	1.6%	100.0%
男性 60 歳代	66	0.0%	10.6%	18.2%	71.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	3.9%	17.5%	39.8%	36.9%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	2.6%	9.0%	33.1%	54.3%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	8.7%	47.8%	39.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	5.8%	7.7%	26.9%	59.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	1.2%	7.2%	36.1%	55.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	1.7%	13.6%	27.1%	57.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	2.4%	8.5%	40.2%	48.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	2.3%	9.2%	27.6%	56.3%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	3.0%	7.2%	30.7%	57.8%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	0.0%	28.3%	15.2%	56.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	4.6%	14.9%	29.9%	50.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	10.0%	20.0%	70.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	15.4%	38.5%	38.5%	3.8%	100.0%
八基地区	19	0.0%	5.3%	47.4%	47.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	0.0%	7.7%	38.5%	53.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	1.3%	10.7%	33.3%	54.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	5.3%	14.0%	42.1%	38.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	2.2%	11.2%	32.6%	52.8%	1.1%	100.0%
川本地区	54	1.9%	5.6%	35.2%	55.6%	1.9%	100.0%
花園地区	72	0.0%	6.9%	31.9%	58.3%	2.8%	100.0%
無回答	20	5.0%	5.0%	30.0%	45.0%	15.0%	100.0%

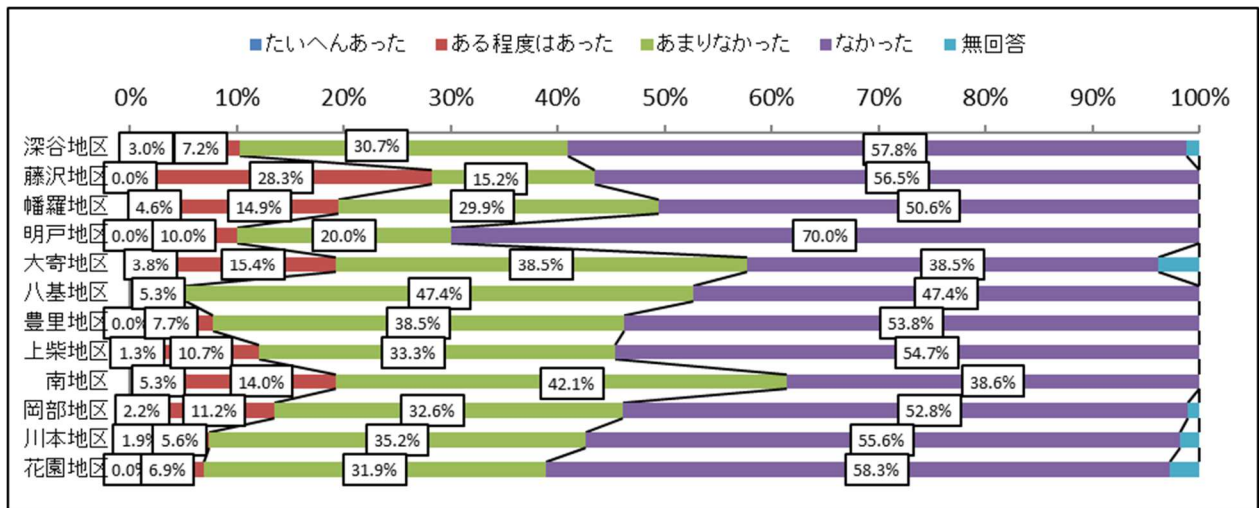
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は男性が14.8%であるのに対して、女性は11.6%となっています。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性50歳代(9.4%)、女性40歳代(8.4%)であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が20歳以上(22.2%)であるのに対して、女性は50歳代(15.3%)となっています。

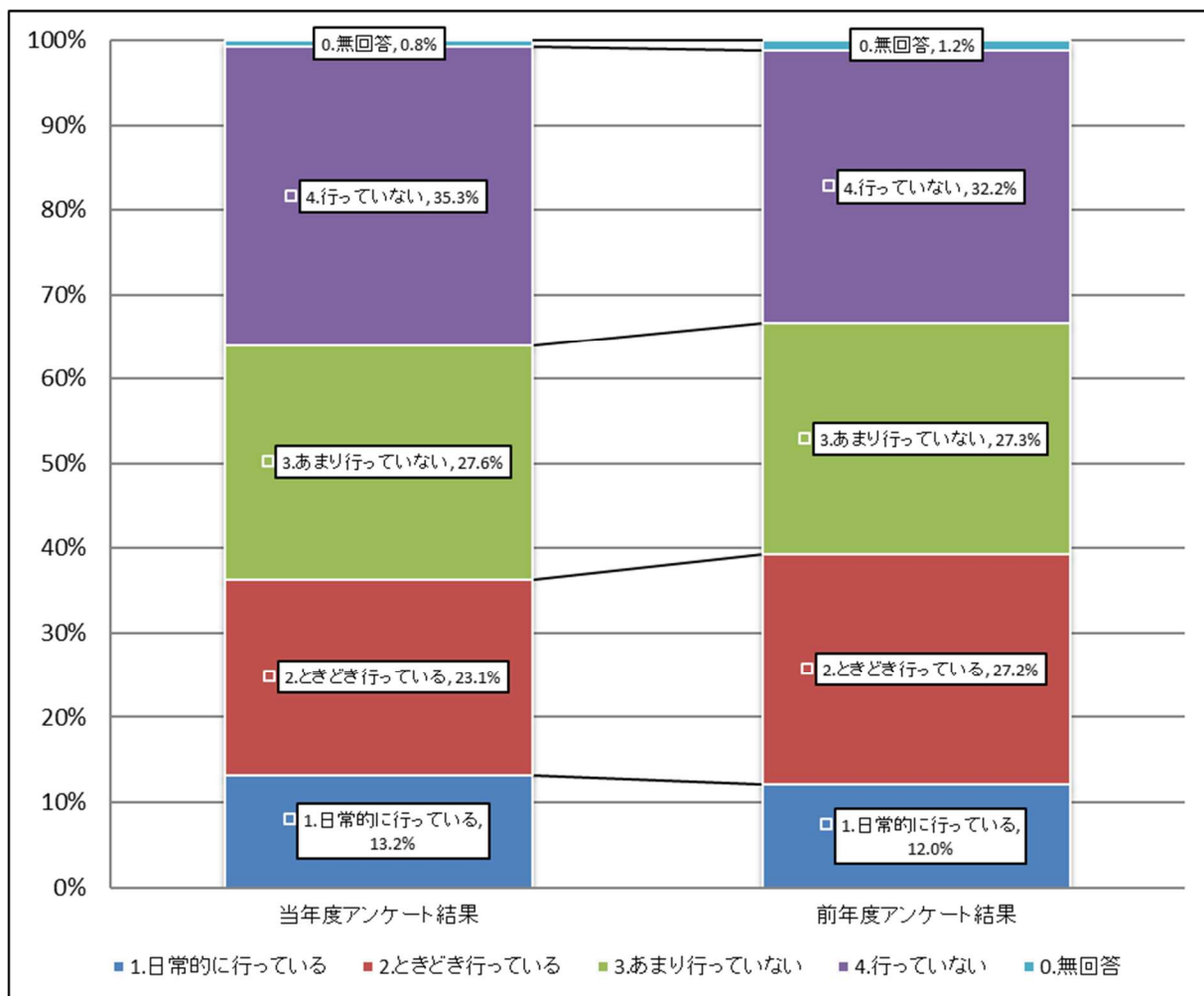
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(5.3%)であり、次いで花園地区(6.9%)となっています。最も多いのは、藤沢地区(28.3%)であり、次いで幡羅地区(19.5%)となっています。

③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。



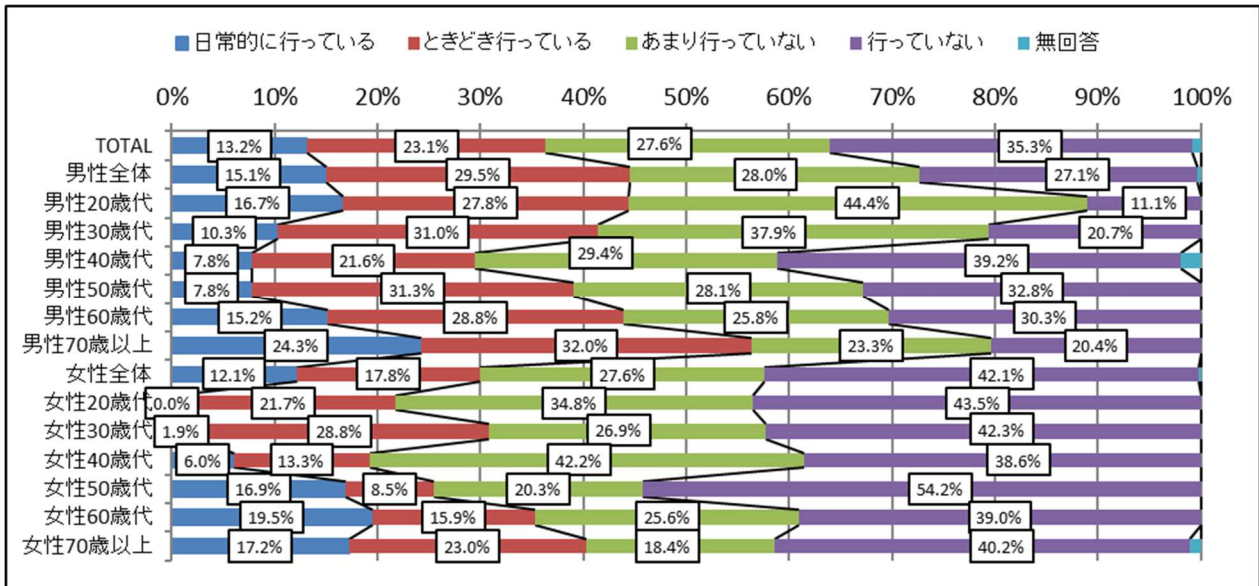
「行っていない」と回答した人の割合が 35.3%と最も多く、次いで、「あまり行っていない」と回答した人の割合は 27.6%、「ときどき行っている」と回答した人の割合は 23.1%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 13.2%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合は、36.3%であり、日頃からスポーツやレクリエーション活動を行っている人は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は 39.3%であり、前年度アンケートと比較して、減少していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	757	13.2%	23.1%	27.6%	35.3%	0.8%	100.0%
男性全体	332	15.1%	29.5%	28.0%	27.1%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	16.7%	27.8%	44.4%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	10.3%	31.0%	37.9%	20.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	7.8%	21.6%	29.4%	39.2%	2.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	7.8%	31.3%	28.1%	32.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	15.2%	28.8%	25.8%	30.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	24.3%	32.0%	23.3%	20.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	12.1%	17.8%	27.6%	42.1%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	0.0%	21.7%	34.8%	43.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	1.9%	28.8%	26.9%	42.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	6.0%	13.3%	42.2%	38.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	16.9%	8.5%	20.3%	54.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	19.5%	15.9%	25.6%	39.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	17.2%	23.0%	18.4%	40.2%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	10.2%	22.9%	27.7%	38.6%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	17.4%	32.6%	13.0%	37.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	13.8%	17.2%	28.7%	40.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	25.0%	45.0%	30.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	23.1%	26.9%	19.2%	30.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	15.8%	21.1%	21.1%	42.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	19.2%	38.5%	34.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	18.7%	33.3%	22.7%	25.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	14.0%	24.6%	31.6%	29.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	15.7%	21.3%	30.3%	31.5%	1.1%	100.0%
川本地区	54	13.0%	24.1%	31.5%	31.5%	0.0%	100.0%
花園地区	72	8.3%	16.7%	27.8%	45.8%	1.4%	100.0%
無回答	20	15.0%	15.0%	25.0%	30.0%	15.0%	100.0%

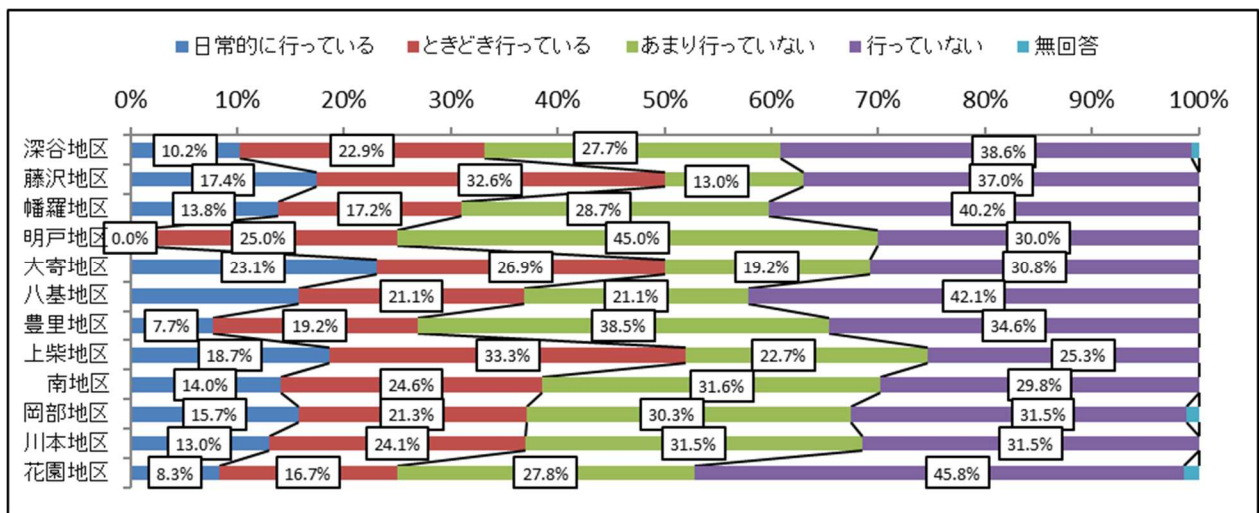
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が 44.6%であるのに対して、女性は 30.0%となっています。男女間で 14.6 ポイントの差があることから、男性の方がスポーツやレクリエーションに対する意識が高いことがうかがえます。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 40 歳代（男性 29.4%、女性 19.3%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男女ともに 70 歳以上（男性 56.3%、女性 40.2%）となっています。

➤ 地区別

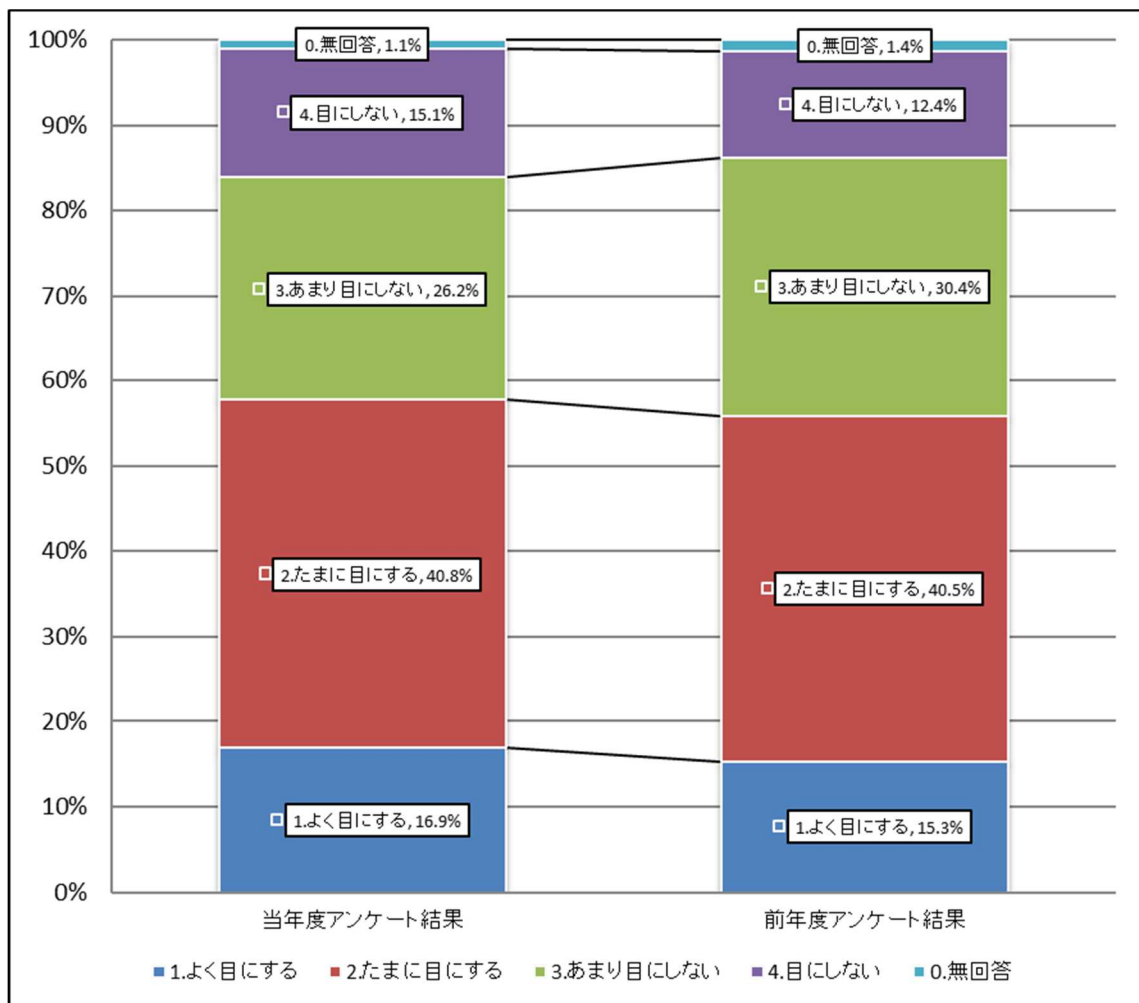


地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、明戸地区、花園地区（25.0%）であり、次いで豊里地区（26.9%）となっています。最も多い地区は、上柴地区（52.0%）であり、次いで藤沢地区、大寄地区（50.0%）となっています。

(4) 産業振興について

全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



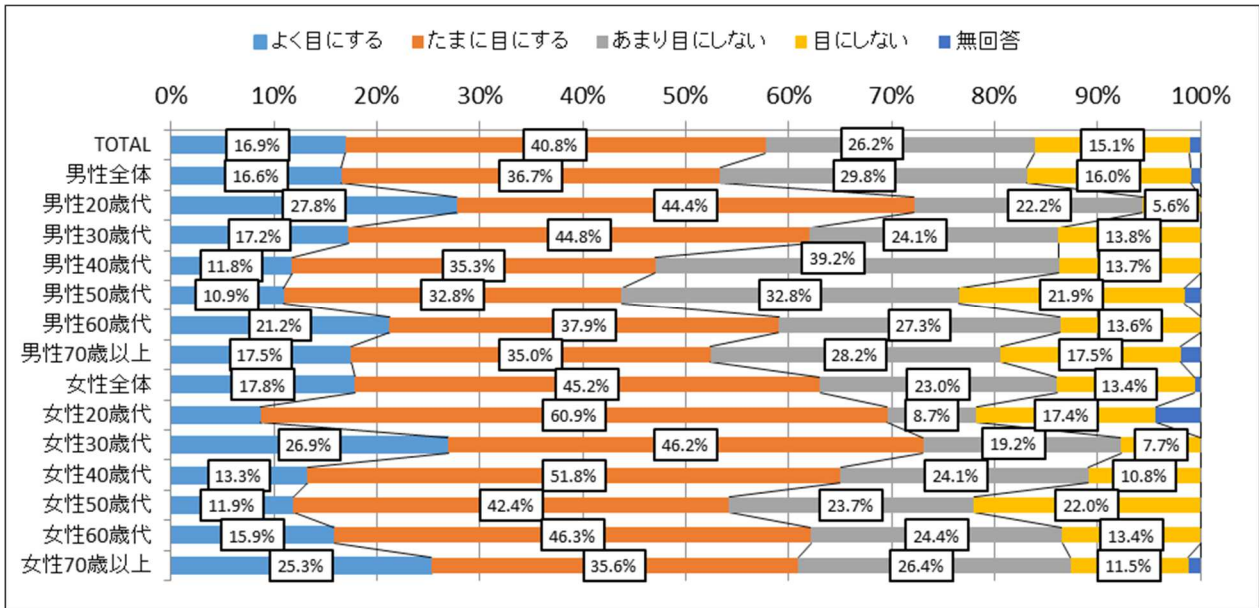
「たまに目にする」と回答した人の割合が 40.8%と最も多く、次いで「あまり目に見えない」と回答した人の割合が 26.2%、「よく目にする」と回答した人の割合が 16.9%、「目に見えない」と回答した人の割合は 15.1%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 57.7%であり、市民の半数以上の市民が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 55.8%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目に見えない	無回答	合計
TOTAL	757	16.9%	40.8%	26.2%	15.1%	1.1%	100.0%
男性全体	332	16.6%	36.7%	29.8%	16.0%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	18	27.8%	44.4%	22.2%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	44.8%	24.1%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	11.8%	35.3%	39.2%	13.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	10.9%	32.8%	32.8%	21.9%	1.6%	100.0%
男性 60 歳代	66	21.2%	37.9%	27.3%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	17.5%	35.0%	28.2%	17.5%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	17.8%	45.2%	23.0%	13.4%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	8.7%	60.9%	8.7%	17.4%	4.3%	100.0%
女性 30 歳代	52	26.9%	46.2%	19.2%	7.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	13.3%	51.8%	24.1%	10.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	11.9%	42.4%	23.7%	22.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	15.9%	46.3%	24.4%	13.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	25.3%	35.6%	26.4%	11.5%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	22.3%	44.0%	17.5%	15.7%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	19.6%	34.8%	30.4%	15.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	16.1%	42.5%	26.4%	14.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	35.0%	40.0%	15.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	42.3%	34.6%	15.4%	3.8%	100.0%
八基地区	19	15.8%	63.2%	15.8%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	50.0%	23.1%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	16.0%	36.0%	29.3%	18.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	15.8%	45.6%	28.1%	10.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	16.9%	41.6%	30.3%	11.2%	0.0%	100.0%
川本地区	54	11.1%	38.9%	29.6%	14.8%	5.6%	100.0%
花園地区	72	18.1%	37.5%	27.8%	16.7%	0.0%	100.0%
無回答	20	25.0%	10.0%	25.0%	25.0%	15.0%	100.0%

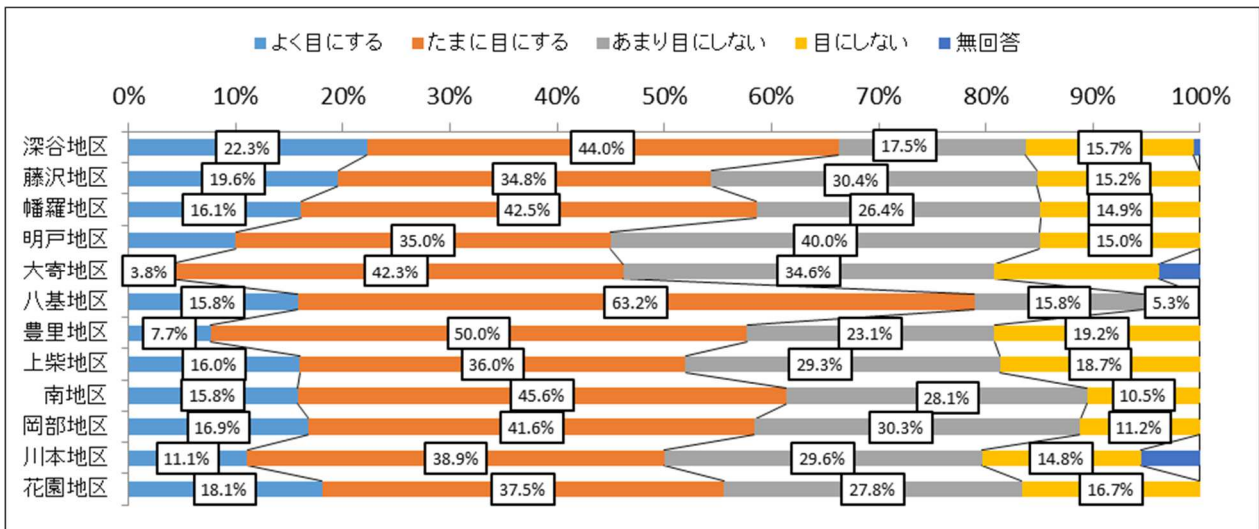
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は男性が53.3%であるのに対して、女性は63.0%となっています。

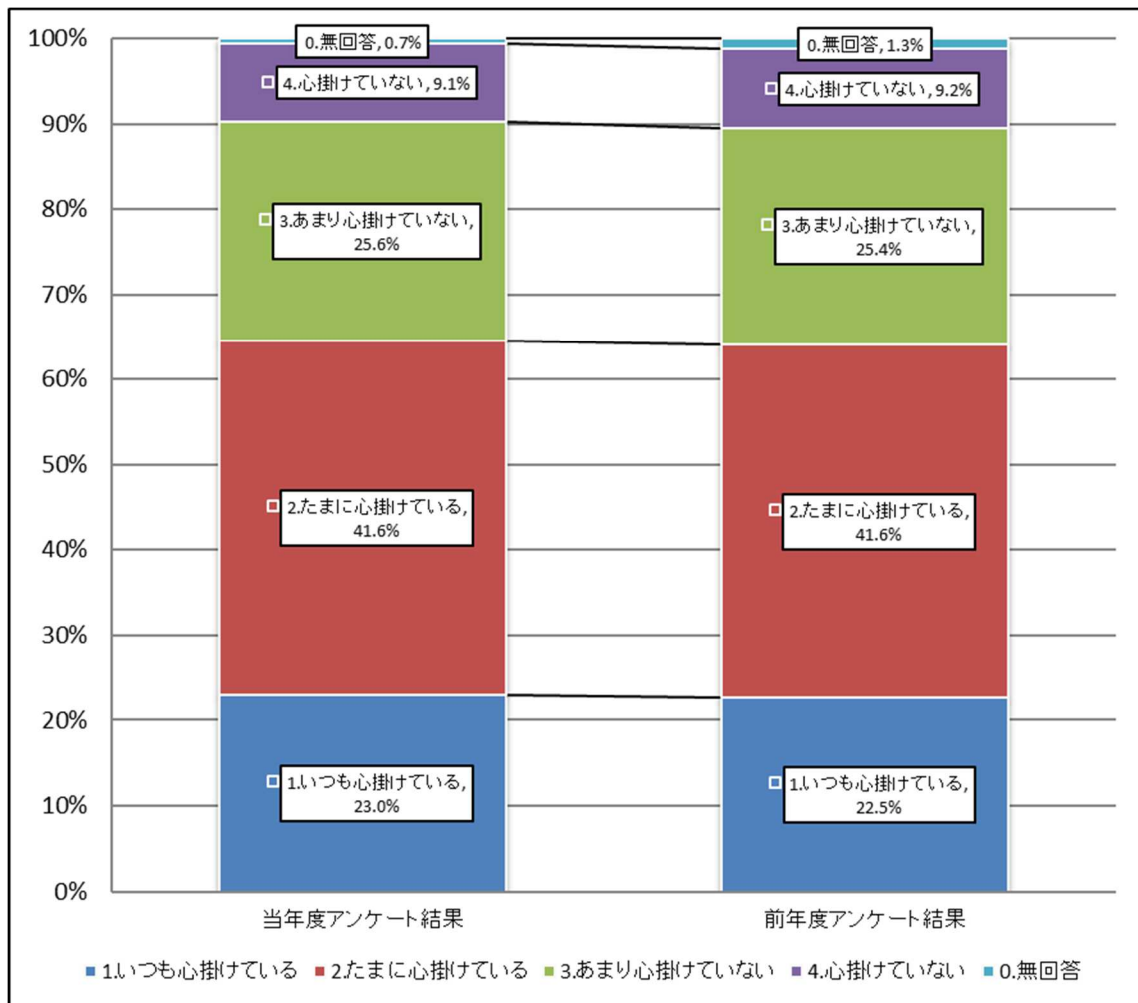
また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに50歳代（男性43.8%、女性54.2%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（72.2%）女性が30歳代（73.1%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（45.0%）であり、次いで大寄地区（46.2%）となっています。最も多いのは八基地区（78.9%）であり、次いで深谷地区（66.3%）となっています。

食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



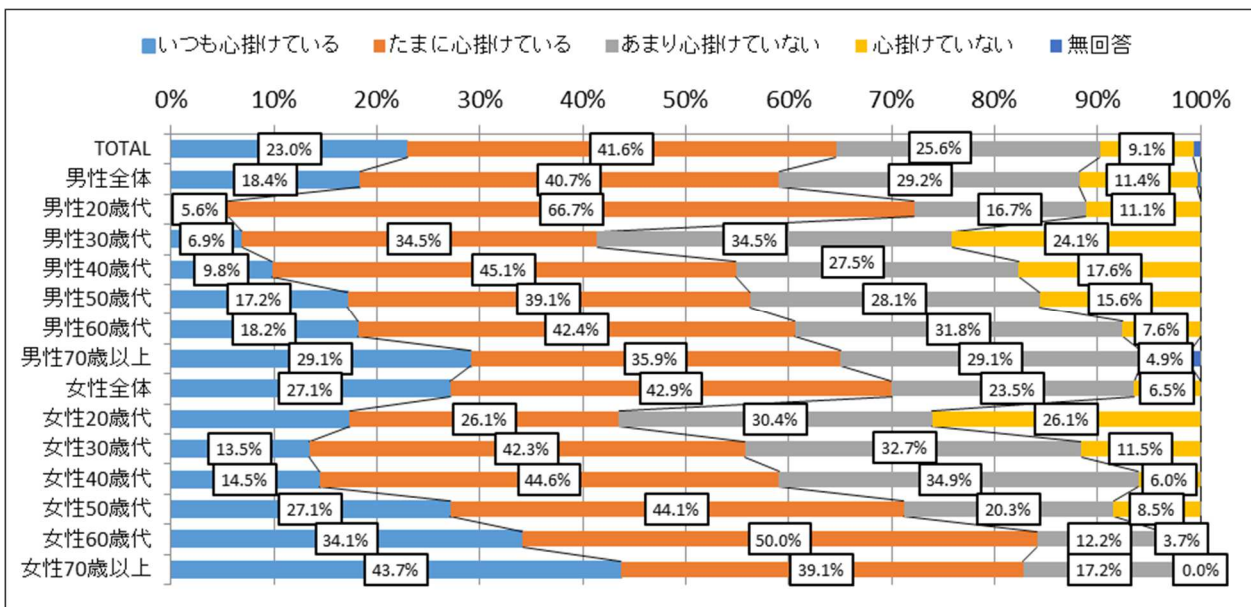
「たまに心掛けている」と回答した人の割合が 41.6%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 25.6%、「いつも心掛けている」と回答した人の割合が 23.0%、「心掛けていない」と回答した人の割合は最も少なく 9.1%となっています。

「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 64.6%であり、6 割以上の市民が食材等の購入時に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 64.1%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けていない	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	757	23.0%	41.6%	25.6%	9.1%	0.7%	100.0%
男性全体	332	18.4%	40.7%	29.2%	11.4%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	66.7%	16.7%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	34.5%	34.5%	24.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	9.8%	45.1%	27.5%	17.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	17.2%	39.1%	28.1%	15.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	18.2%	42.4%	31.8%	7.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	29.1%	35.9%	29.1%	4.9%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	27.1%	42.9%	23.5%	6.5%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	23	17.4%	26.1%	30.4%	26.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	13.5%	42.3%	32.7%	11.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	14.5%	44.6%	34.9%	6.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	27.1%	44.1%	20.3%	8.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	34.1%	50.0%	12.2%	3.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	43.7%	39.1%	17.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	24.1%	46.4%	21.7%	7.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	23.9%	41.3%	28.3%	6.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	21.8%	47.1%	21.8%	9.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	35.0%	30.0%	20.0%	15.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	7.7%	38.5%	42.3%	7.7%	3.8%	100.0%
八基地区	19	15.8%	42.1%	42.1%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	19.2%	46.2%	23.1%	11.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	29.3%	42.7%	17.3%	10.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	17.5%	54.4%	22.8%	3.5%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	22.5%	33.7%	34.8%	9.0%	0.0%	100.0%
川本地区	54	22.2%	35.2%	27.8%	14.8%	0.0%	100.0%
花園地区	72	25.0%	34.7%	29.2%	11.1%	0.0%	100.0%
無回答	20	25.0%	25.0%	20.0%	15.0%	15.0%	100.0%

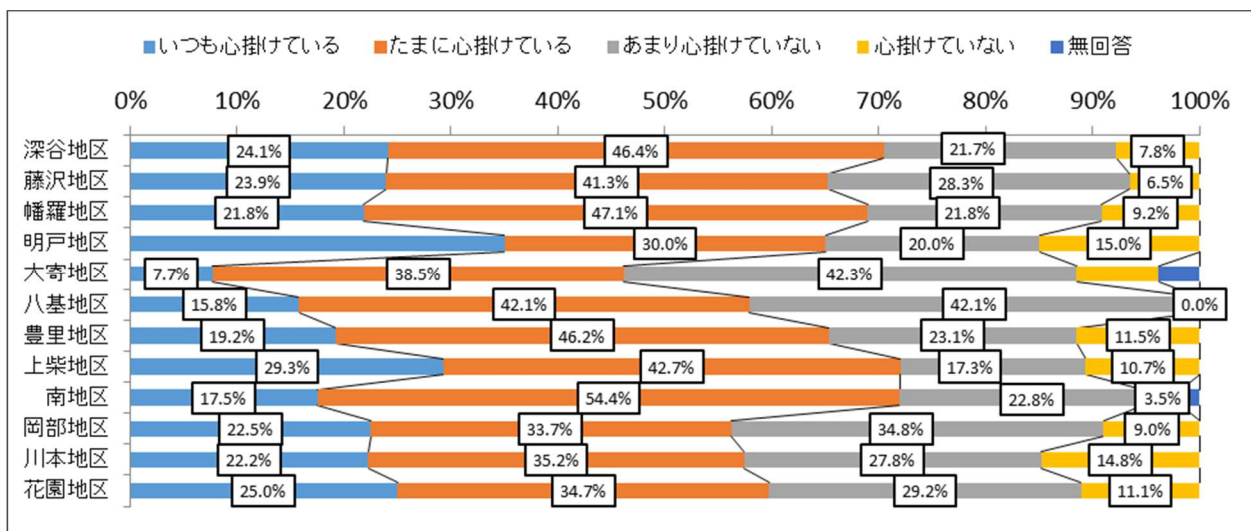
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は男性が 59.0%であるのに対して、女性は 70.0%となっています。このことから、男性よりも女性の方が意識が高いことがうかがえます。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (41.4%)、女性 20 歳代 (43.5%) であり、一方で最も多い世代は、男性が 20 歳代 (72.2%)、女性が 60 歳代 (84.1%) となっています。

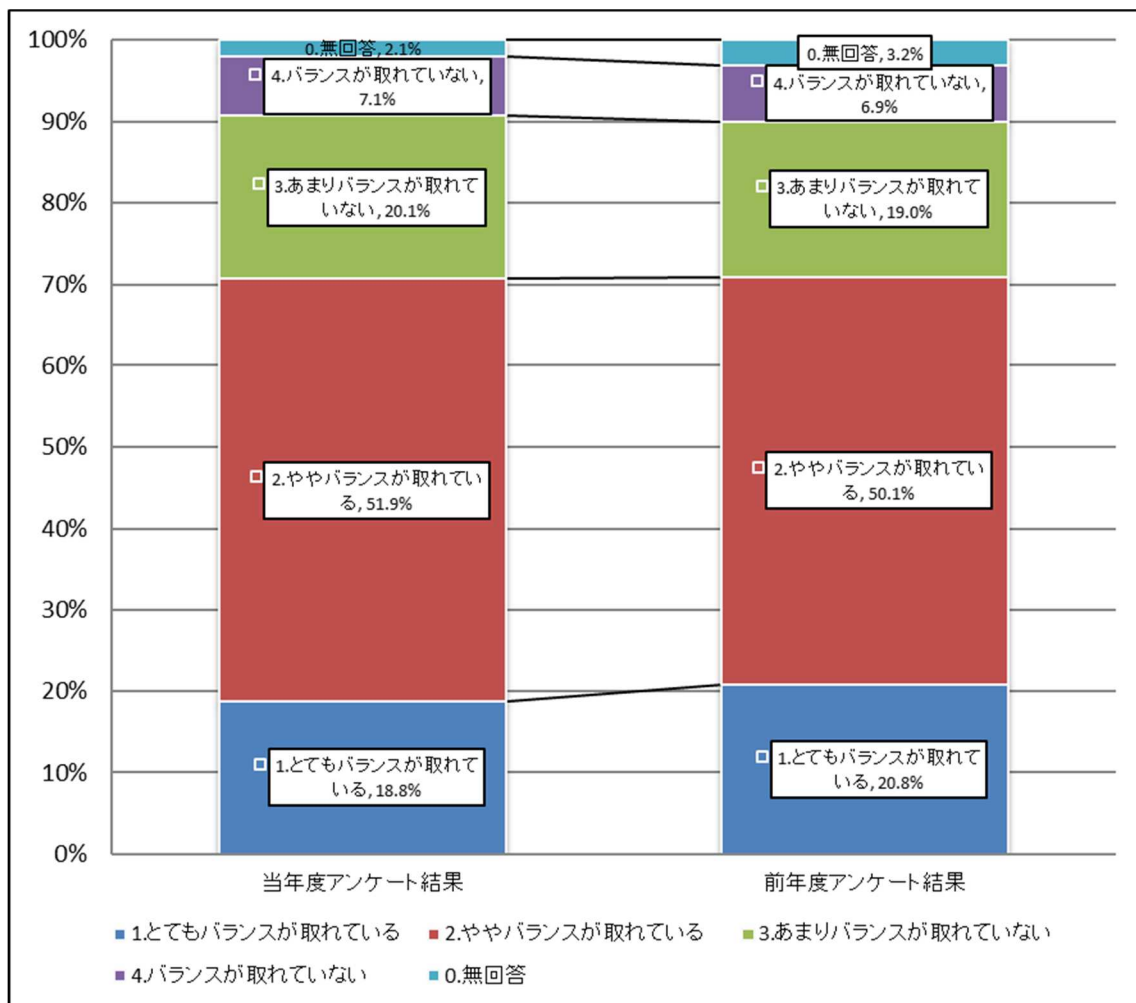
➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (46.2%) であり、次いで岡部地区 (56.2%) となっています。最も多いのは上柴地区 (72.0%) であり、次いで南地区で (71.9%) となっています。

②雇用の創出・安定と勤労者への支援（3. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



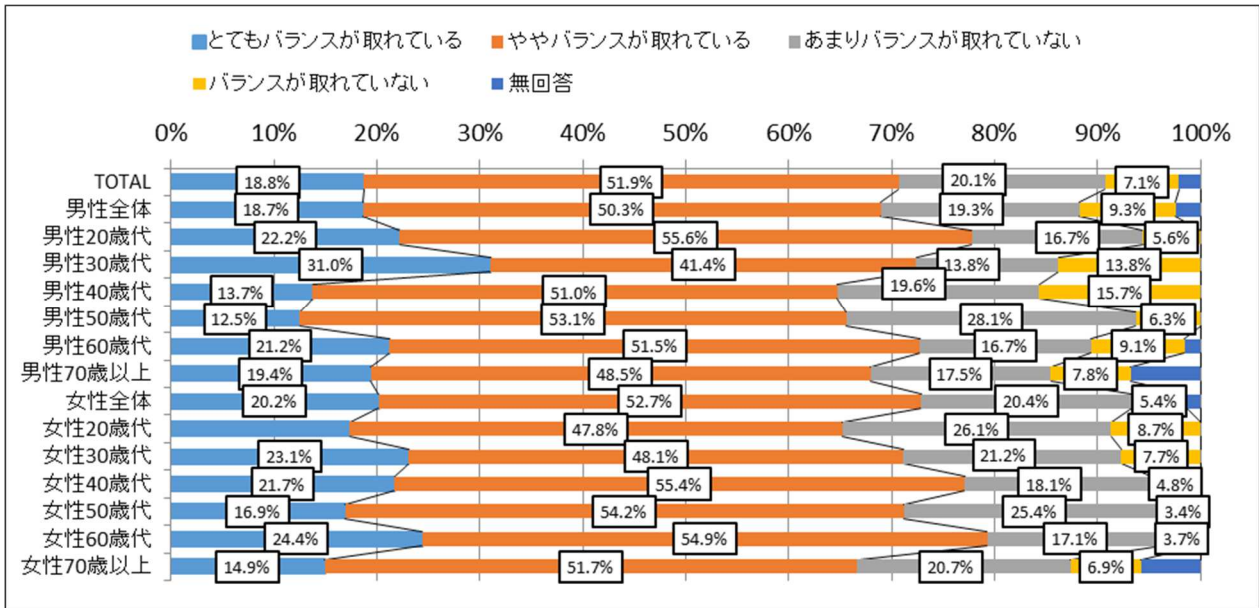
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 51.9%と最も多く、次いで「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 20.1%、「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 18.8%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合は最も少なく 7.1%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 70.7%であり、市民の 7 割以上が、仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 70.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありません。

母集団		とてもバランスが 取れている	ややバランスが取れている	あまりバランスが 取れていない	バランスが取れていない	無回答	合計
TOTAL	757	18.8%	51.9%	20.1%	7.1%	2.1%	100.0%
男性全体	332	18.7%	50.3%	19.3%	9.3%	2.4%	100.0%
男性 20 歳代	18	22.2%	55.6%	16.7%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	31.0%	41.4%	13.8%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	13.7%	51.0%	19.6%	15.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	12.5%	53.1%	28.1%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	21.2%	51.5%	16.7%	9.1%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	19.4%	48.5%	17.5%	7.8%	6.8%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	20.2%	52.7%	20.4%	5.4%	1.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	17.4%	47.8%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	23.1%	48.1%	21.2%	7.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	21.7%	55.4%	18.1%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	16.9%	54.2%	25.4%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	24.4%	54.9%	17.1%	3.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	14.9%	51.7%	20.7%	6.9%	5.7%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	21.1%	54.2%	16.3%	7.8%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	19.6%	52.2%	19.6%	8.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	12.6%	59.8%	17.2%	9.2%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	25.0%	45.0%	25.0%	5.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	19.2%	57.7%	11.5%	3.8%	7.7%	100.0%
八基地区	19	21.1%	36.8%	26.3%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	26.9%	30.8%	23.1%	15.4%	3.8%	100.0%
上柴地区	75	8.0%	53.3%	30.7%	5.3%	2.7%	100.0%
南地区	57	26.3%	42.1%	24.6%	5.3%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	16.9%	50.6%	24.7%	5.6%	2.2%	100.0%
川本地区	54	16.7%	57.4%	16.7%	7.4%	1.9%	100.0%
花園地区	72	26.4%	50.0%	15.3%	5.6%	2.8%	100.0%
無回答	20	10.0%	60.0%	15.0%	0.0%	15.0%	100.0%

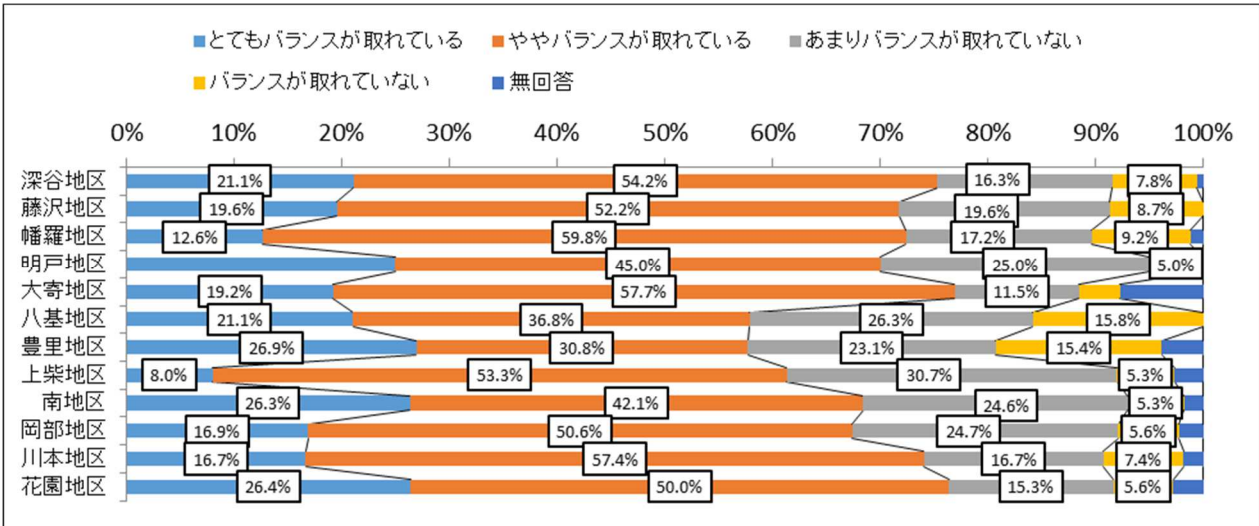
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は男性が 69.0%であるのに対して、女性は 72.9%となっています。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 40 歳以上 (64.7%) であり、女性は 20 歳代 (65.2%) となっています。最も多い世代は、男性が 20 歳代 (77.8%) であり、女性は 60 歳代 (79.3%) となっています。

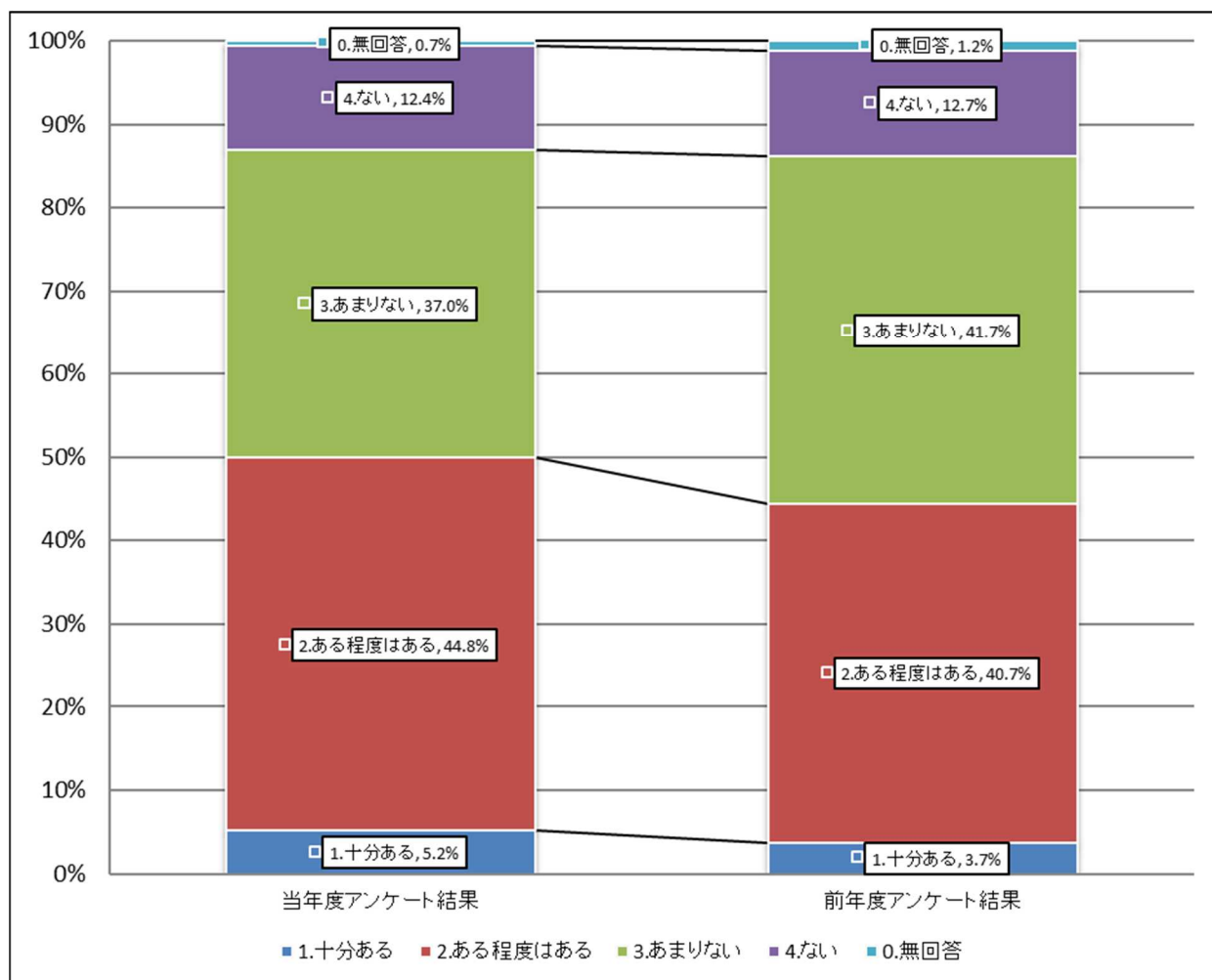
➤ 地区別



地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区 (57.7%) であり、次いで八基地区 (57.9%) となっています。最も多いのは大寄地区 (76.9%) であり、次いで花園地区 (76.4%) となっています。

(5) 暮らし・環境について
 防災対策の推進 (5. 問1～2)

ご自宅に災害に対する備え(備蓄品など)はありますか。



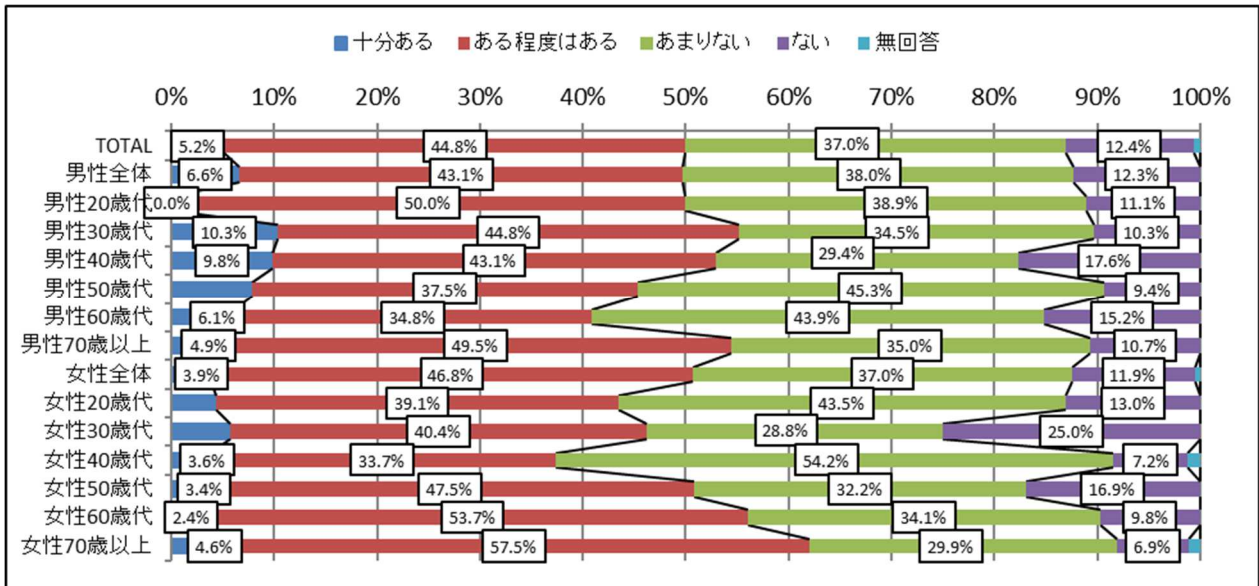
「ある程度はある」と回答した人の割合が 44.8%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 37.0%、「ない」と回答した人の割合が 12.4%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 5.2%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 49.9%であり、市民の過半数は、災害時の備え(備蓄品など)が十分ではないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 44.4%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	757	5.2%	44.8%	37.0%	12.4%	0.7%	100.0%
男性全体	332	6.6%	43.1%	38.0%	12.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	0.0%	50.0%	38.9%	11.1%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	10.3%	44.8%	34.5%	10.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	51	9.8%	43.1%	29.4%	17.6%	0.0%	100.0%
男性50歳代	64	7.8%	37.5%	45.3%	9.4%	0.0%	100.0%
男性60歳代	66	6.1%	34.8%	43.9%	15.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	103	4.9%	49.5%	35.0%	10.7%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	3.9%	46.8%	37.0%	11.9%	0.5%	100.0%
女性20歳代	23	4.3%	39.1%	43.5%	13.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	52	5.8%	40.4%	28.8%	25.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	83	3.6%	33.7%	54.2%	7.2%	1.2%	100.0%
女性50歳代	59	3.4%	47.5%	32.2%	16.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	82	2.4%	53.7%	34.1%	9.8%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	87	4.6%	57.5%	29.9%	6.9%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	6.6%	42.2%	39.2%	12.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	8.7%	52.2%	28.3%	10.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	8.0%	52.9%	28.7%	10.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	35.0%	35.0%	20.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	42.3%	38.5%	15.4%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	42.1%	42.1%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	3.8%	34.6%	42.3%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	5.3%	53.3%	29.3%	12.0%	0.0%	100.0%
南地区	57	3.5%	42.1%	43.9%	10.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	2.2%	46.1%	41.6%	10.1%	0.0%	100.0%
川本地区	54	5.6%	31.5%	53.7%	7.4%	1.9%	100.0%
花園地区	72	2.8%	47.2%	31.9%	16.7%	1.4%	100.0%
無回答	20	0.0%	40.0%	25.0%	20.0%	15.0%	100.0%

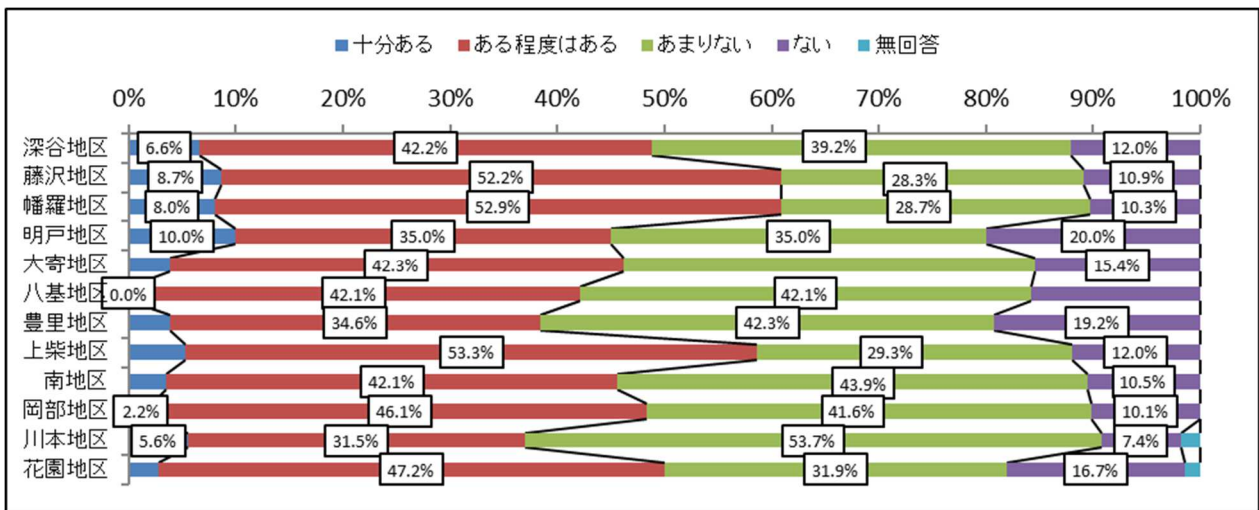
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が49.7%であるのに対して、女性は50.6%となっています。

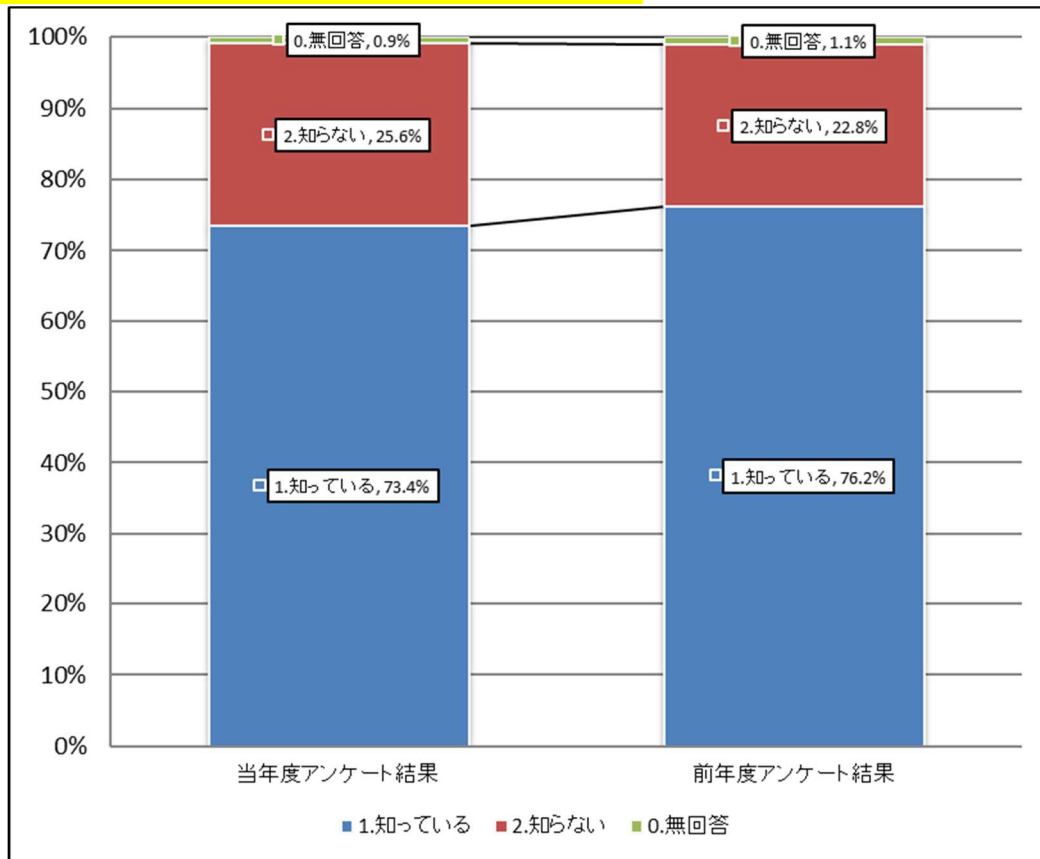
また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（40.9%）、女性が40歳代（37.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性30歳代（55.2%）、女性70歳以上（62.1%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区（37.0%）であり、次いで八基地区（42.1%）となっています。最も多いのは、藤沢地区、幡羅地区（60.9%）となっています。

地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。



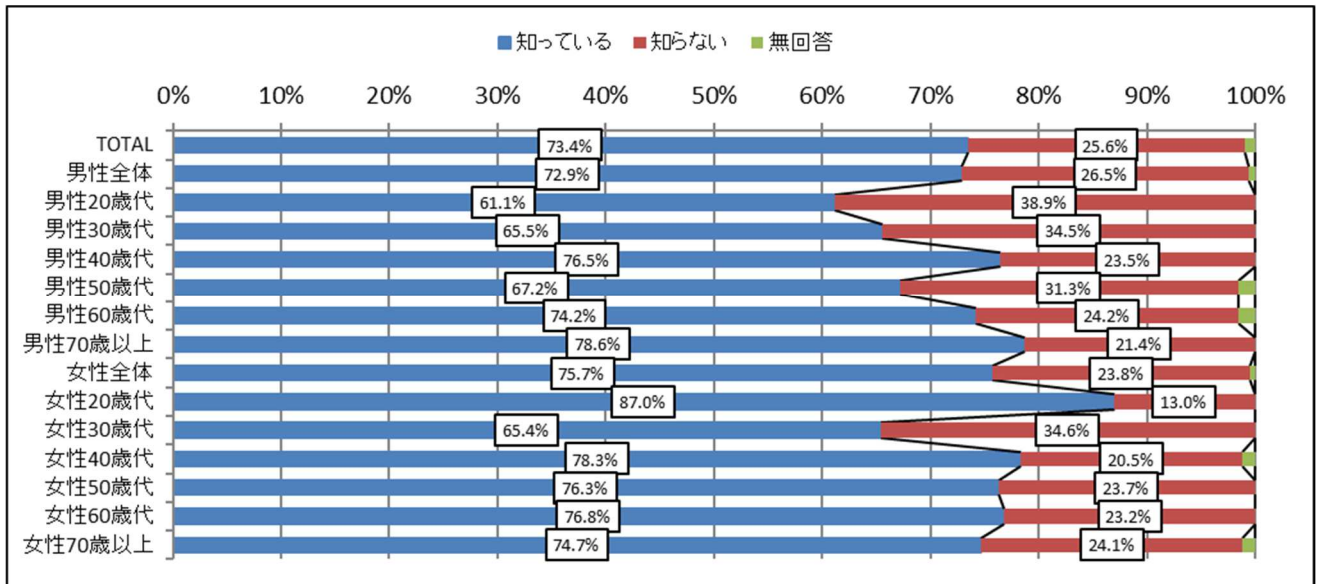
「知っている」と回答した人の割合は73.4%、「知らない」と回答した人の割合は25.6%となっています。

また、地震発生時の避難所・避難場所を知っているという人が大多数を占めているものの、まだ25.6%の人が知らない状況であることから、引き続き避難所・避難場所の周知徹底が求められます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は76.2%であり、前年度アンケートと比較して、減少したことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	757	73.4%	25.6%	0.9%	100.0%
男性全体	332	72.9%	26.5%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	18	61.1%	38.9%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	65.5%	34.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	76.5%	23.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	67.2%	31.3%	1.6%	100.0%
男性 60 歳代	66	74.2%	24.2%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	78.6%	21.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	75.7%	23.8%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	87.0%	13.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	65.4%	34.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	78.3%	20.5%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	76.3%	23.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	76.8%	23.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	74.7%	24.1%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	68.1%	30.7%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	76.1%	23.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	81.6%	18.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	73.1%	26.9%	0.0%	100.0%
八基地区	19	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	65.4%	34.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	58.7%	41.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	82.5%	17.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	76.4%	23.6%	0.0%	100.0%
川本地区	54	72.2%	25.9%	1.9%	100.0%
花園地区	72	80.6%	18.1%	1.4%	100.0%
無回答	20	65.0%	20.0%	15.0%	100.0%

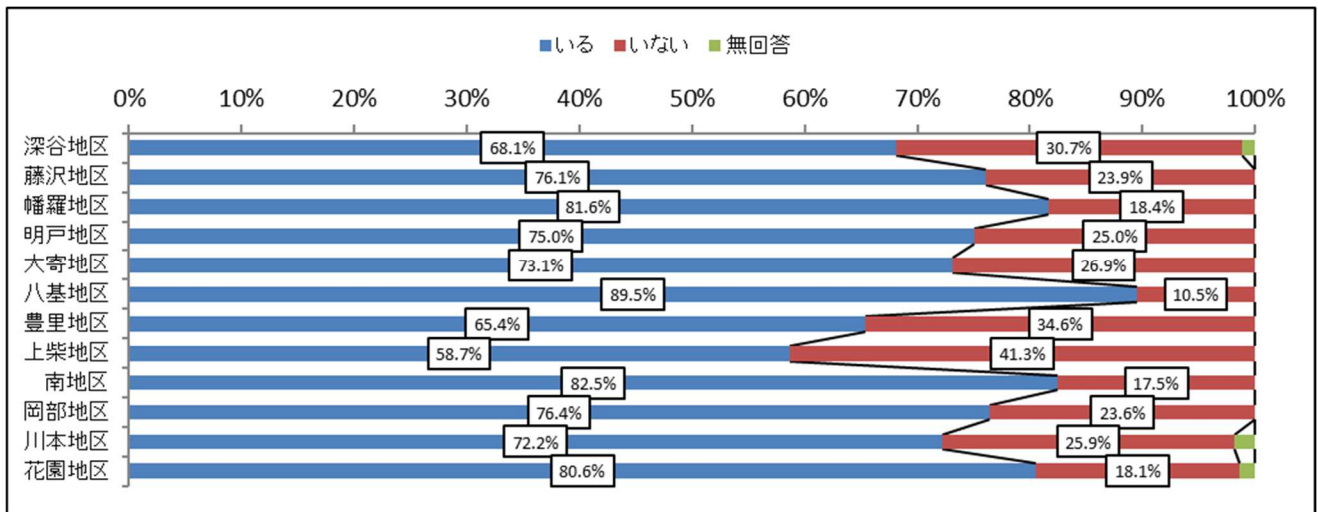
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 72.9%であるのに対して、女性は 75.7%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (61.1%)、女性 30 歳代 (65.4%) であり、一方で最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (78.6%)、女性が 20 歳代 (87.0%) となっています。

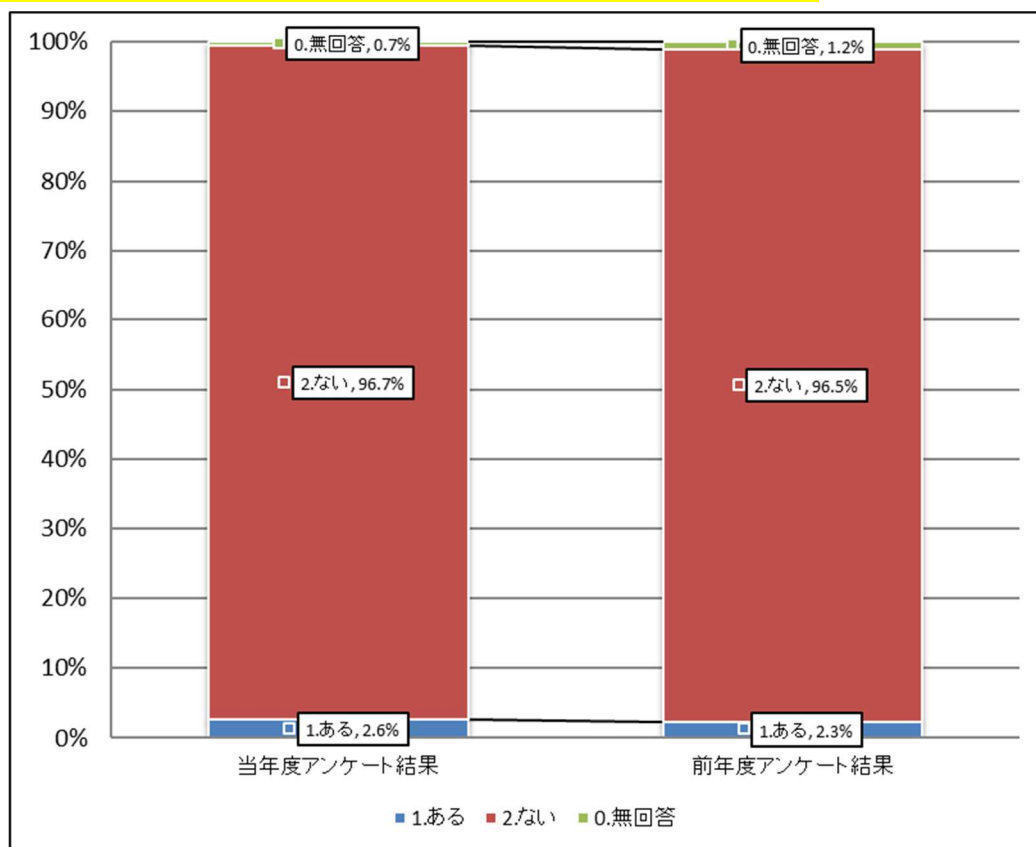
➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、上柴地区 (58.7%) であり、次いで豊里地区 (65.4%) となっています。最も多いのは、八基地区 (89.5%) であり、次いで南地区 (82.5%) となっています。

②くらしの安全対策の推進（5. 問3～4）

この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

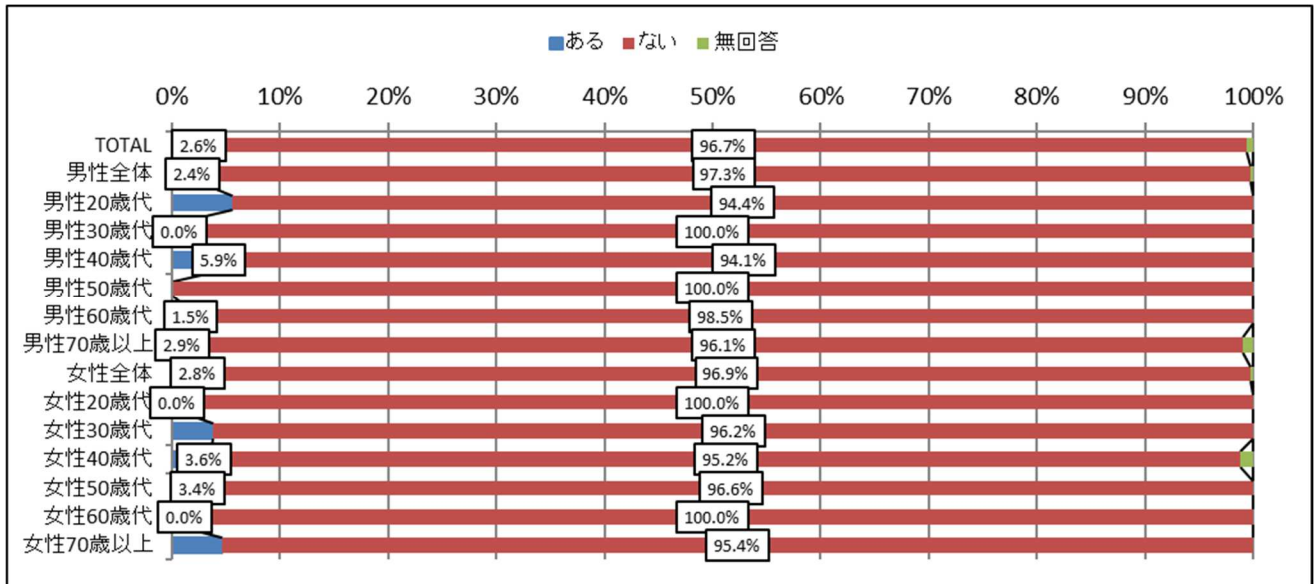


「ある」と回答した人の割合は 2.6%、「ない」と回答した人の割合は 96.7%となっており、この1年間で消費者トラブルに巻き込まれた人はほとんどいないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 2.3%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	757	2.6%	96.7%	0.7%	100.0%
男性全体	332	2.4%	97.3%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	94.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	1.5%	98.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	2.9%	96.1%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	2.8%	96.9%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	3.6%	95.2%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	3.4%	96.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	4.6%	95.4%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	4.2%	95.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	2.2%	97.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	1.1%	98.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	1.3%	98.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	5.3%	94.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	1.1%	98.9%	0.0%	100.0%
川本地区	54	3.7%	92.6%	3.7%	100.0%
花園地区	72	1.4%	98.6%	0.0%	100.0%
無回答	20	5.0%	80.0%	15.0%	100.0%

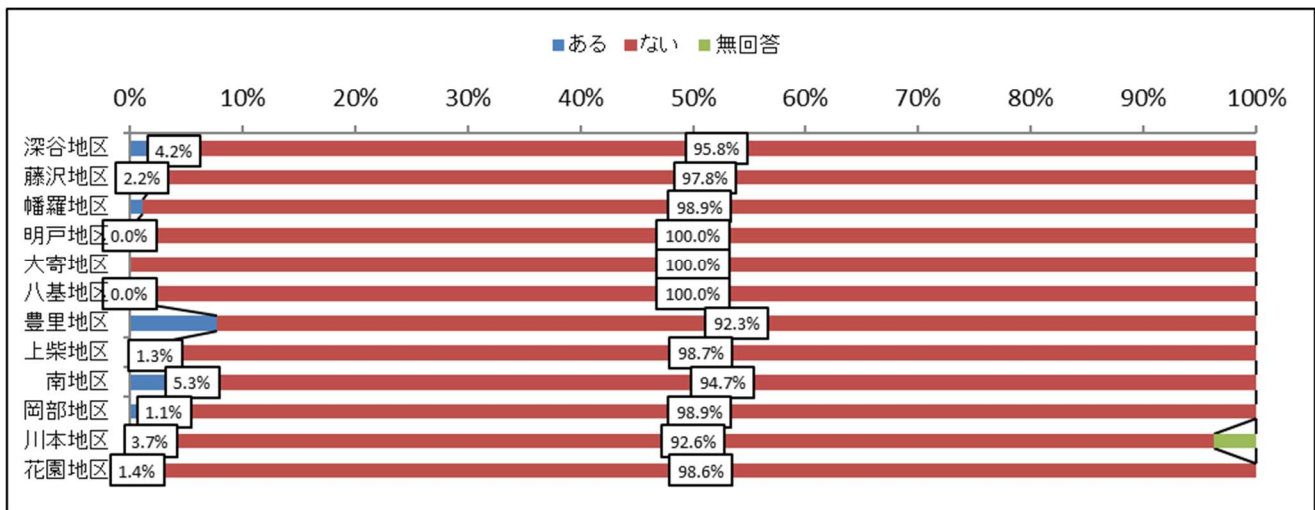
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 2.4%であるのに対して、女性は 2.8%となっています。

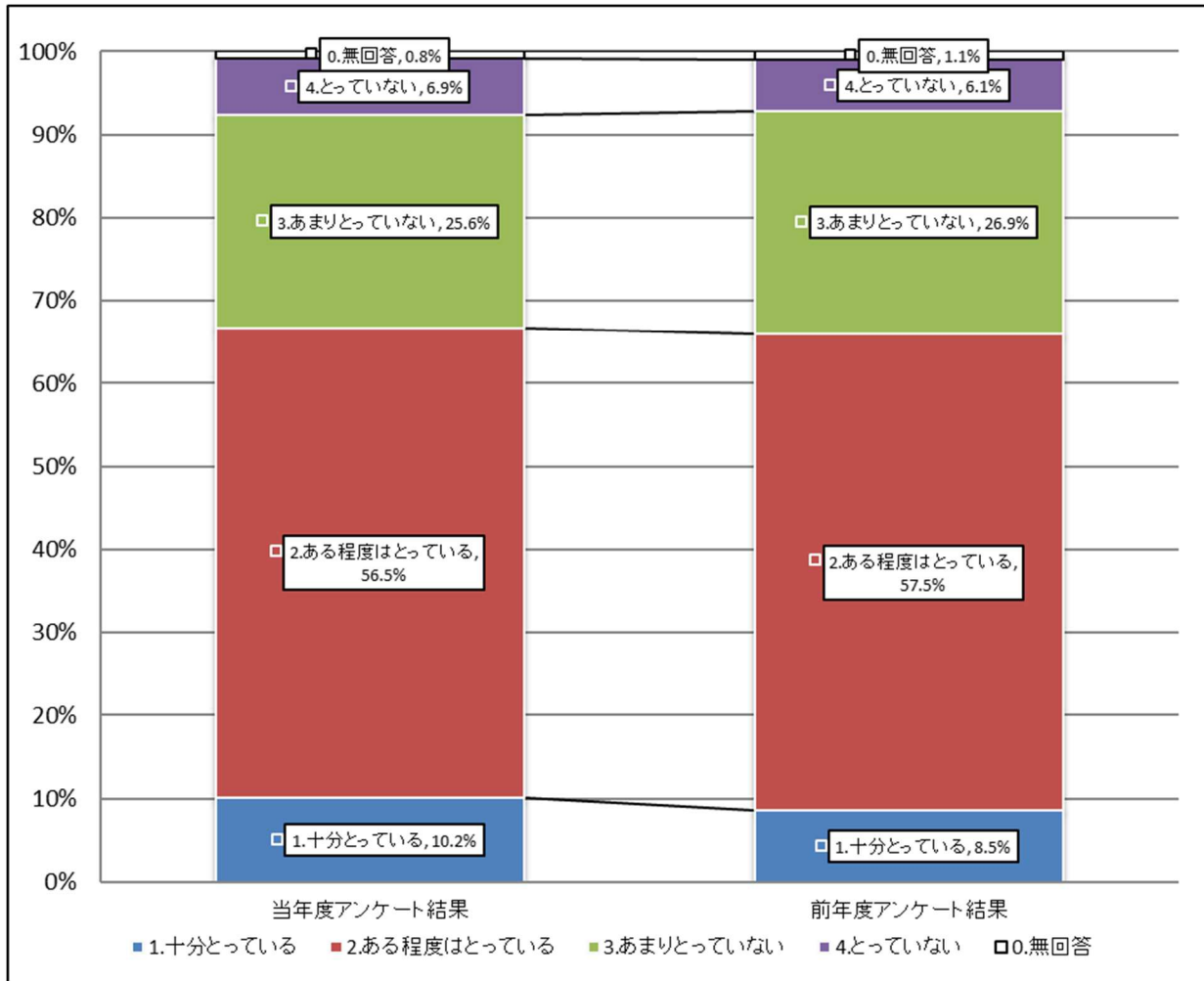
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代、30 歳代 (0.0%)、女性 20 歳代、60 歳代 (0.0%) となっています。一方でこの割合が最も多い世代は、男性が 40 歳代 (5.9%) であり、女性が 70 歳以上 (4.6%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区、大寄地区、八基地区 (0.0%) の 3 地区であり、次いで幡羅地区、岡部地区 (1.1%) となっています。最も多いのは、豊里地区 (7.7%) であり、次いで南地区 (5.3%) となっています。

日ごろ、防犯対策をとっていますか。

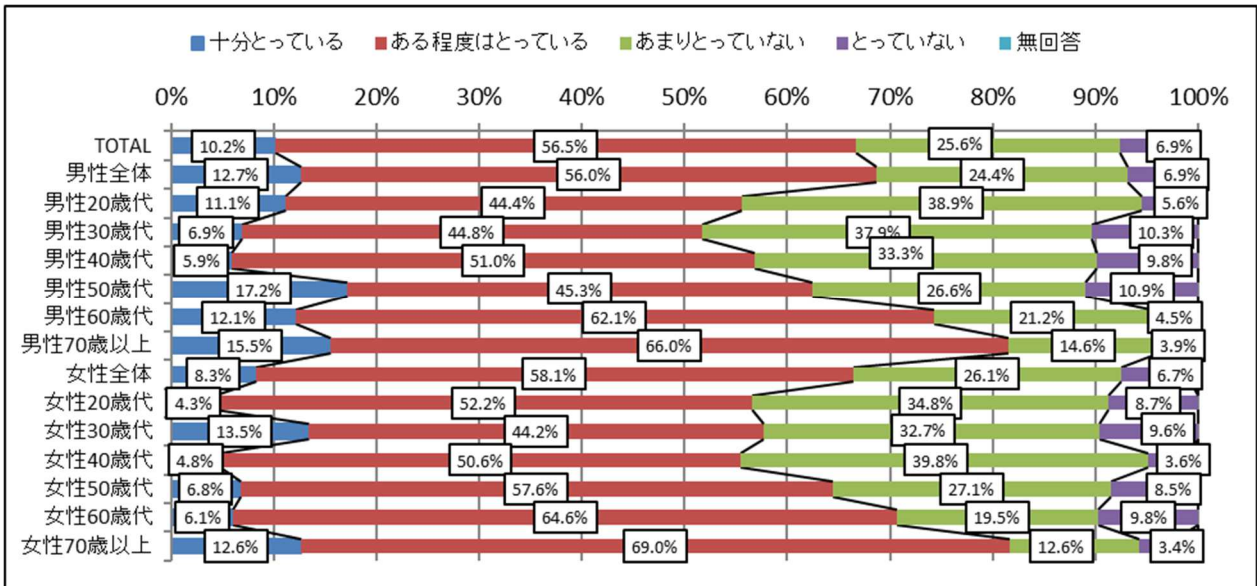


「ある程度はとっている」と回答した人の割合が 56.5%と最も多く、次いで「あまりとっていない」と回答した人の割合が 25.6%、「十分とっている」と回答した人の割合が 10.2%、「とっていない」と回答した人の割合が最も少なく 6.9%となっています。

「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合は 66.7%であり、市民の約 6 割以上は、日ごろから防犯対策をとっていることがうかがえます。

母集団		十分とっている	ある程度はとっている	とっていないあまり	とっていない	無回答	合計
TOTAL	757	10.2%	56.5%	25.6%	6.9%	0.8%	100.0%
男性全体	332	12.7%	56.0%	24.4%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	11.1%	44.4%	38.9%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	44.8%	37.9%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	5.9%	51.0%	33.3%	9.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	17.2%	45.3%	26.6%	10.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	12.1%	62.1%	21.2%	4.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	15.5%	66.0%	14.6%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	8.3%	58.1%	26.1%	6.7%	0.8%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	52.2%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	13.5%	44.2%	32.7%	9.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	4.8%	50.6%	39.8%	3.6%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	6.8%	57.6%	27.1%	8.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	6.1%	64.6%	19.5%	9.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	12.6%	69.0%	12.6%	3.4%	2.3%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	12.7%	51.2%	27.1%	9.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	6.5%	69.6%	17.4%	6.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	11.5%	56.3%	25.3%	6.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	40.0%	40.0%	10.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	11.5%	69.2%	15.4%	3.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	63.2%	21.1%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	61.5%	23.1%	7.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	10.7%	56.0%	24.0%	8.0%	1.3%	100.0%
南地区	57	12.3%	52.6%	28.1%	7.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	11.2%	62.9%	24.7%	1.1%	0.0%	100.0%
川本地区	54	13.0%	48.1%	31.5%	5.6%	1.9%	100.0%
花園地区	72	2.8%	62.5%	25.0%	8.3%	1.4%	100.0%
無回答	20	5.0%	45.0%	30.0%	5.0%	15.0%	100.0%

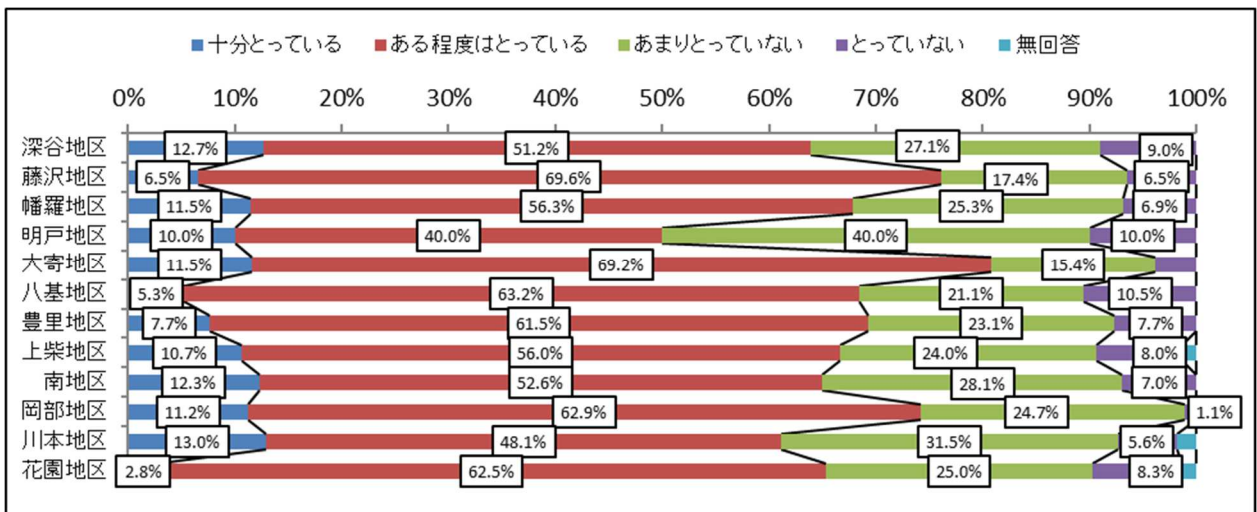
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合は男性が68.7%であるのに対して、女性は66.4%となっています。

また、「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(51.7%)、女性が40歳代(55.4%)であり、一方で最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性81.6%、女性81.6%)となっています。

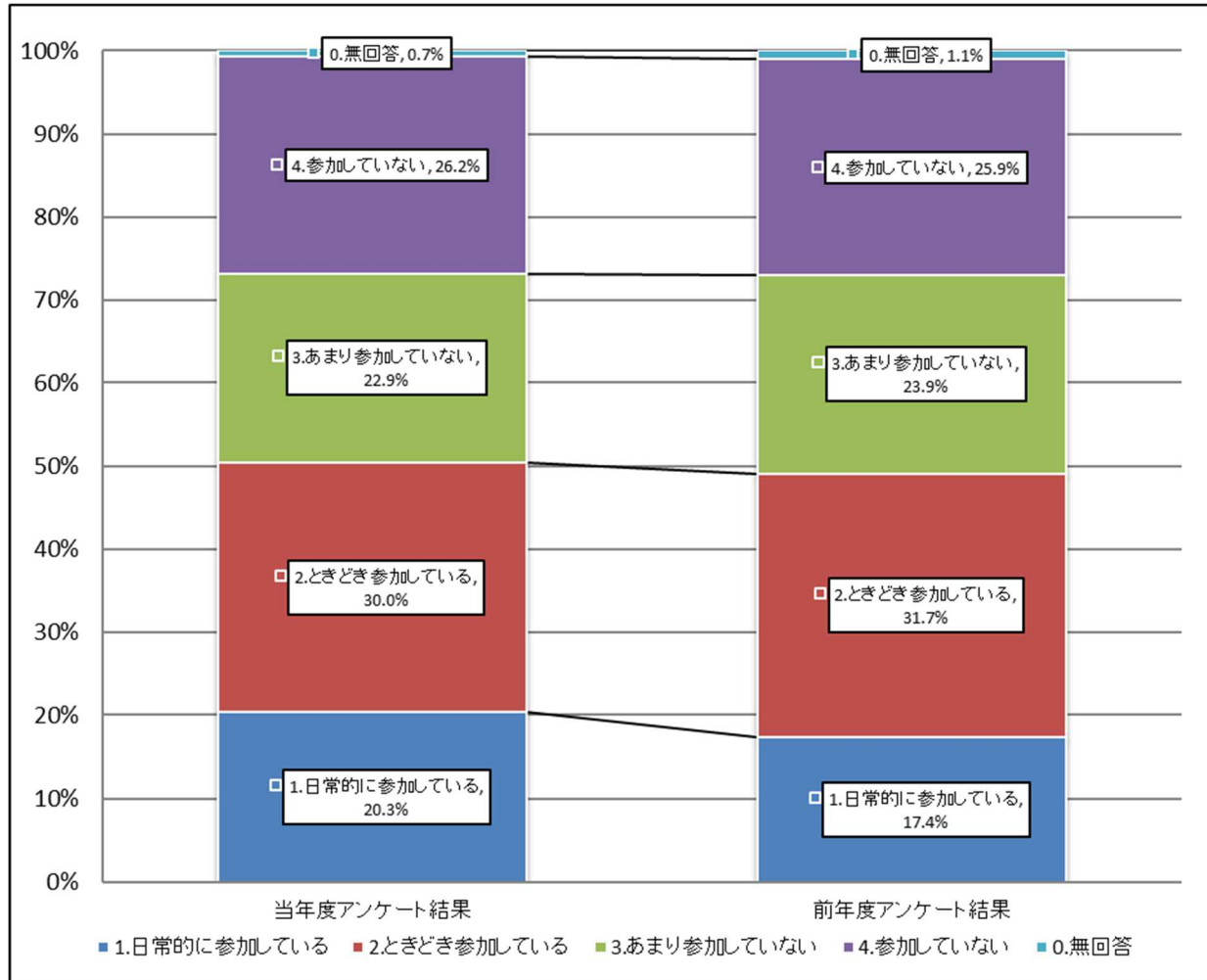
➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(50.0%)であり、次いで川本地区(61.1%)となっています。最も多いのは、大寄地区(80.8%)であり、次いで藤沢地区(76.1%)となっています。

③絆でつながるひとづくり（5. 問5）

地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。



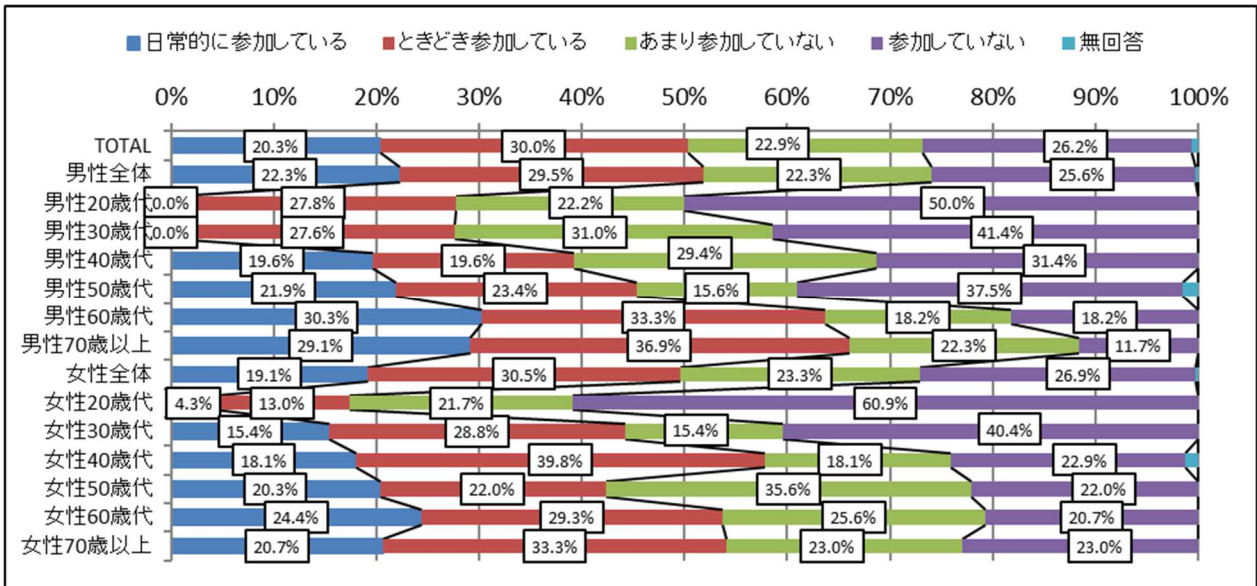
「ときどき参加している」と回答した人の割合が 30.0%と最も多く、次いで「参加していない」と回答した人の割合が 26.2%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 22.9%、「日常的に参加している」と回答した人の割合は最も少なく 20.3%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 50.3%であり、自治会や町内会での活動などの地域活動に参加している市民は半数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 49.1%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	757	20.3%	30.0%	22.9%	26.2%	0.7%	100.0%
男性全体	332	22.3%	29.5%	22.3%	25.6%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	0.0%	27.8%	22.2%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	27.6%	31.0%	41.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	19.6%	19.6%	29.4%	31.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	21.9%	23.4%	15.6%	37.5%	1.6%	100.0%
男性 60 歳代	66	30.3%	33.3%	18.2%	18.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	29.1%	36.9%	22.3%	11.7%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	19.1%	30.5%	23.3%	26.9%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	13.0%	21.7%	60.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	15.4%	28.8%	15.4%	40.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	18.1%	39.8%	18.1%	22.9%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	20.3%	22.0%	35.6%	22.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	24.4%	29.3%	25.6%	20.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	20.7%	33.3%	23.0%	23.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	11.4%	26.5%	22.9%	38.6%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	34.8%	39.1%	13.0%	13.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	20.7%	18.4%	23.0%	37.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	20.0%	50.0%	25.0%	5.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	11.5%	34.6%	34.6%	19.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	36.8%	36.8%	10.5%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	46.2%	26.9%	15.4%	11.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	13.3%	30.7%	29.3%	26.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	15.8%	28.1%	38.6%	17.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	15.7%	33.7%	27.0%	23.6%	0.0%	100.0%
川本地区	54	25.9%	27.8%	18.5%	25.9%	1.9%	100.0%
花園地区	72	34.7%	37.5%	12.5%	15.3%	0.0%	100.0%
無回答	20	15.0%	25.0%	10.0%	35.0%	15.0%	100.0%

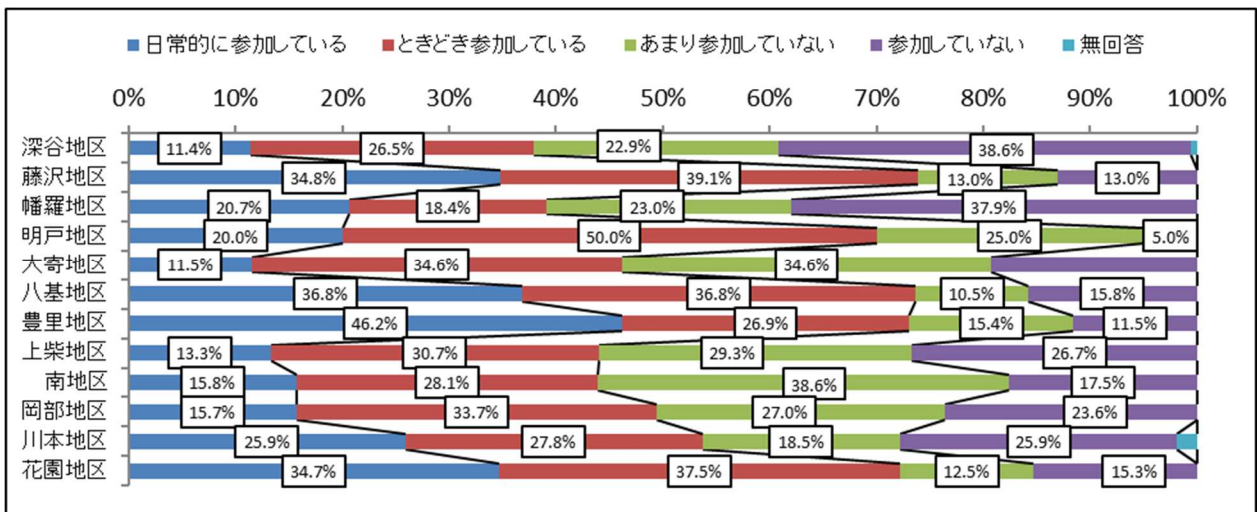
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は男性が51.8%であるのに対して、女性は49.6%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性30歳代(27.6%)、女性20歳代(17.4%)であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上(66.0%)、女性が40歳代(57.8%)となっています。

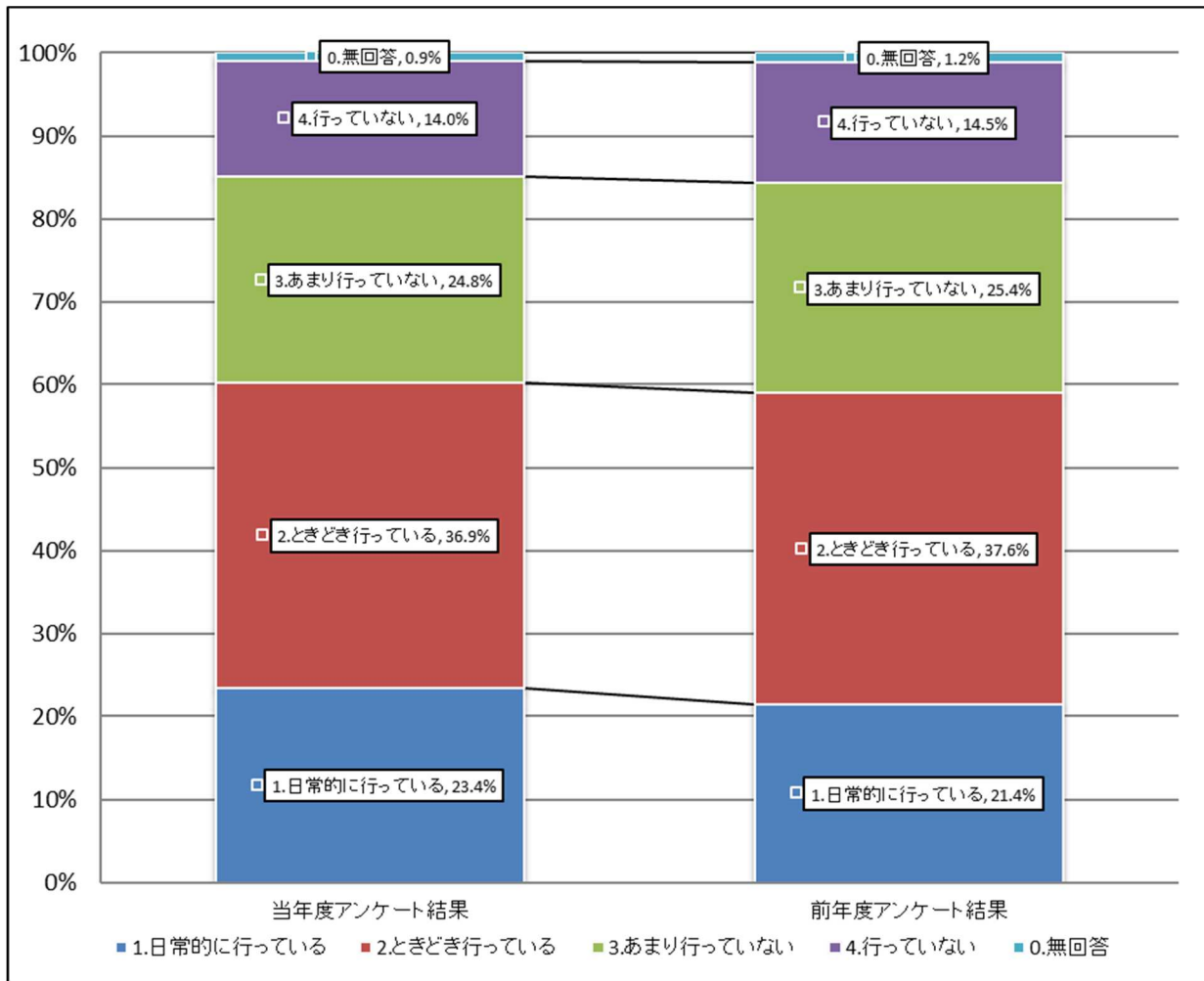
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区(38.0%)であり、次いで幡羅地区(39.1%)となっています。最も多いのは、藤沢地区(73.9%)であり、次いで八基地区(73.7%)となっています。

④生活環境の保全と配慮（5. 問6～8）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



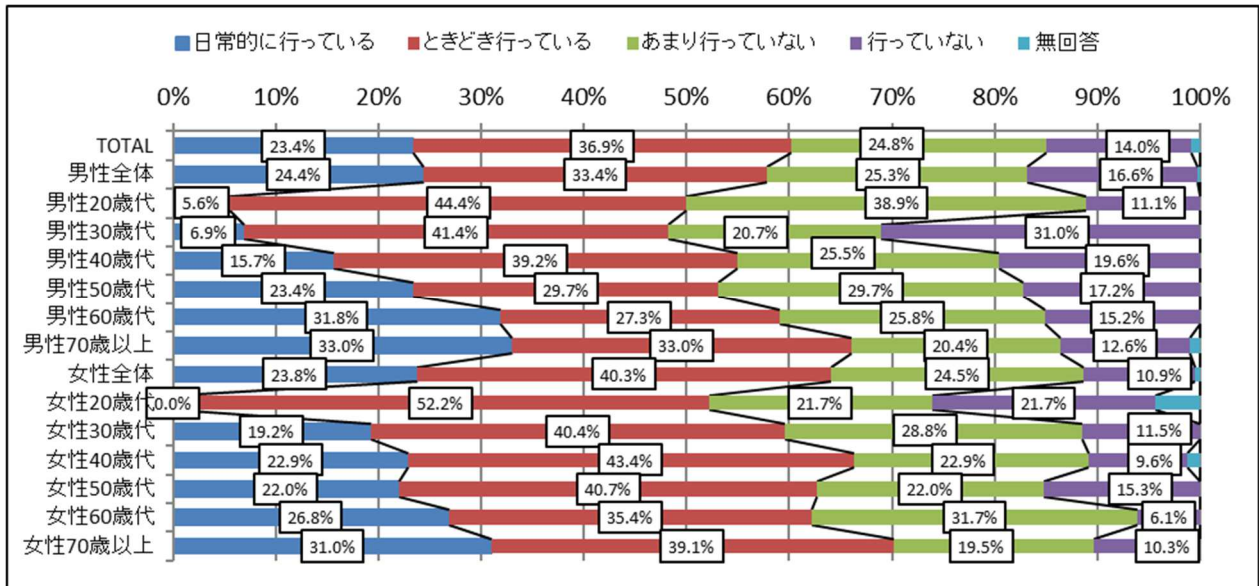
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 36.9%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 24.8%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 23.4%と、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 14.0%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、60.2%であり、6割以上の方が、環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、59.0%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	757	23.4%	36.9%	24.8%	14.0%	0.9%	100.0%
男性全体	332	24.4%	33.4%	25.3%	16.6%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	44.4%	38.9%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	41.4%	20.7%	31.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	15.7%	39.2%	25.5%	19.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	23.4%	29.7%	29.7%	17.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	31.8%	27.3%	25.8%	15.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	33.0%	33.0%	20.4%	12.6%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	23.8%	40.3%	24.5%	10.9%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	0.0%	52.2%	21.7%	21.7%	4.3%	100.0%
女性 30 歳代	52	19.2%	40.4%	28.8%	11.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	22.9%	43.4%	22.9%	9.6%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	22.0%	40.7%	22.0%	15.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	26.8%	35.4%	31.7%	6.1%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	31.0%	39.1%	19.5%	10.3%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	21.7%	36.1%	27.1%	15.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	26.1%	50.0%	8.7%	15.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	24.1%	37.9%	24.1%	13.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	35.0%	40.0%	10.0%	15.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	23.1%	38.5%	34.6%	3.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	31.6%	26.3%	36.8%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	30.8%	23.1%	23.1%	23.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	22.7%	48.0%	16.0%	13.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	21.1%	31.6%	35.1%	12.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	22.5%	33.7%	28.1%	14.6%	1.1%	100.0%
川本地区	54	22.2%	27.8%	35.2%	11.1%	3.7%	100.0%
花園地区	72	23.6%	40.3%	18.1%	16.7%	1.4%	100.0%
無回答	20	15.0%	30.0%	25.0%	15.0%	15.0%	100.0%

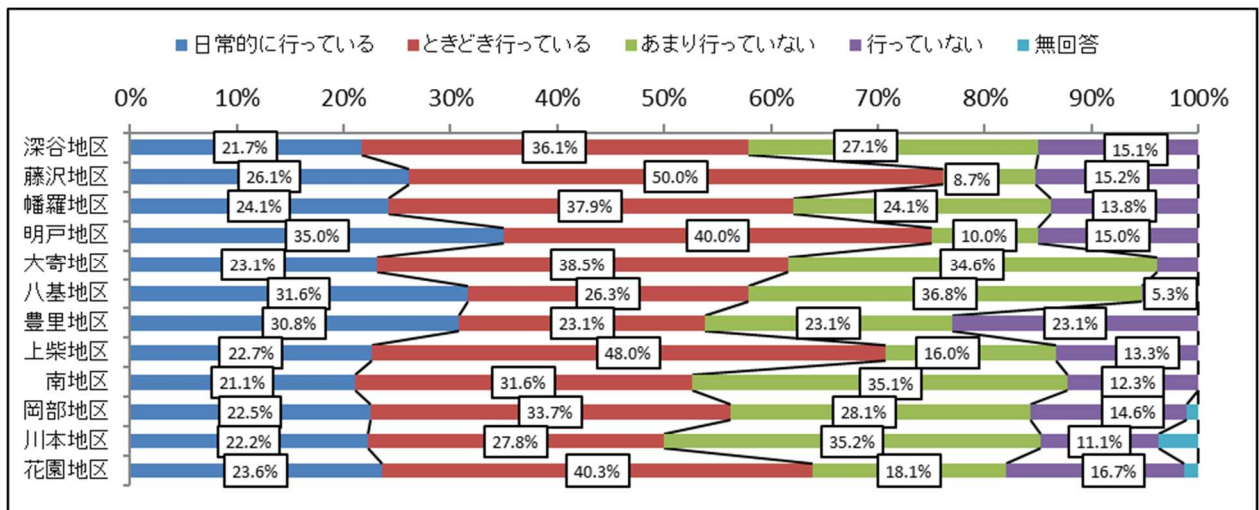
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が57.8%であるのに対して、女性は64.1%となっています。

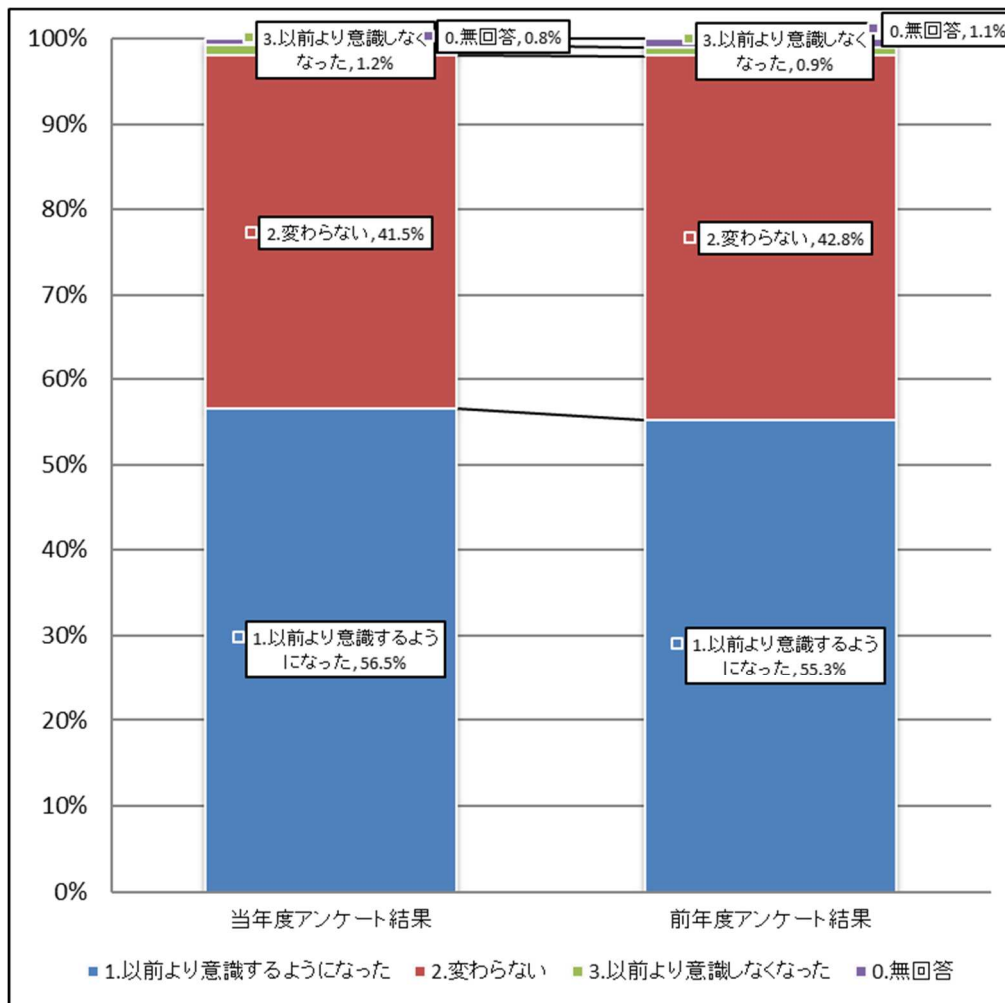
「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性30歳代（48.3%）、女性20歳代（52.2%）となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに70歳以上（男性66.0%、女性70.1%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、川本地区（50.0%）であり、次いで南地区（52.6%）となっています。最も多い地区は、藤沢地区（76.1%）であり、次いで明戸地区（75.0%）となっています。

環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。



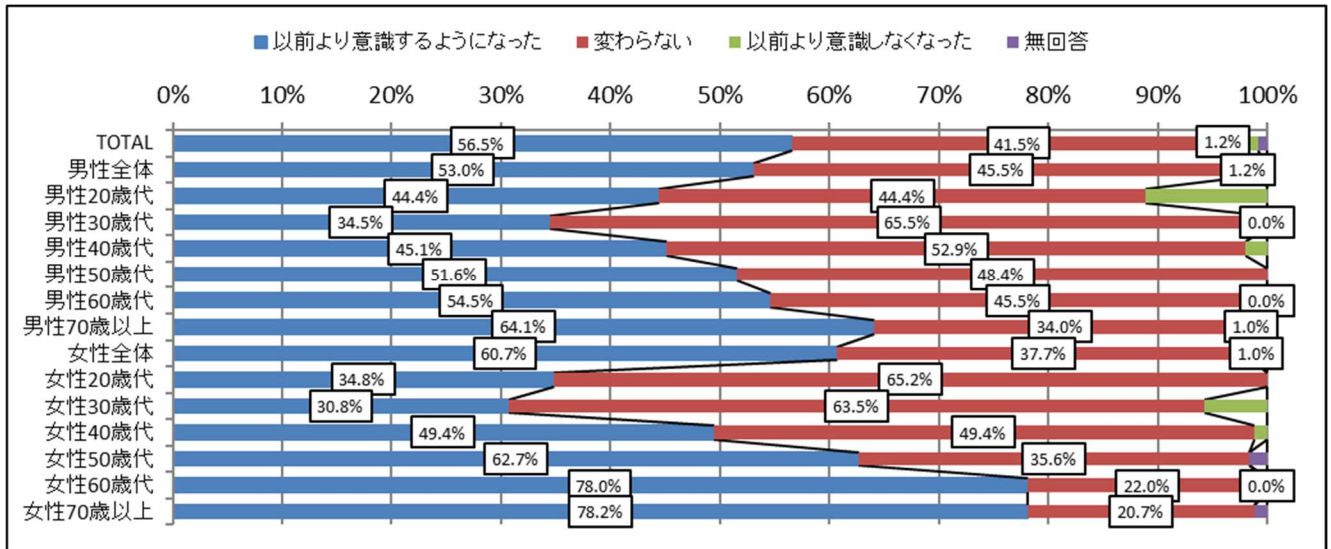
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 56.5%と最も多く、次いで、「変わらない」と回答した人の割合が 41.5%となっています。

「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合は 1.2%とごくわずかであり、多くの市民が環境問題について、関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 51.1%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	757	56.5%	41.5%	1.2%	0.8%	100.0%
男性全体	332	53.0%	45.5%	1.2%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	34.5%	65.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	45.1%	52.9%	2.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	51.6%	48.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	64.1%	34.0%	1.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	60.7%	37.7%	1.0%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	34.8%	65.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	30.8%	63.5%	5.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	49.4%	49.4%	1.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	62.7%	35.6%	0.0%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	78.0%	22.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	78.2%	20.7%	0.0%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	55.4%	42.2%	2.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	55.2%	43.7%	0.0%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	46.2%	50.0%	3.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	61.3%	38.7%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	57	54.4%	45.6%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	56.2%	42.7%	1.1%	0.0%	100.0%
川本地区	54	51.9%	44.4%	1.9%	1.9%	100.0%
花園地区	72	51.4%	45.8%	1.4%	1.4%	100.0%
無回答	20	25.0%	55.0%	5.0%	15.0%	100.0%

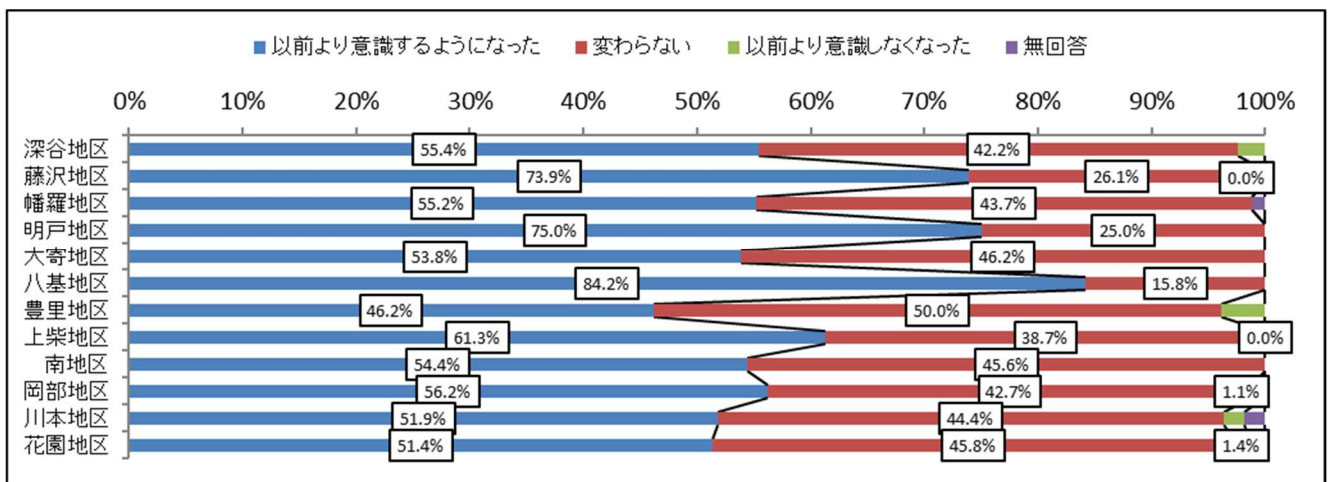
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が53.0%であるのに対して、女性は60.7%となっています。

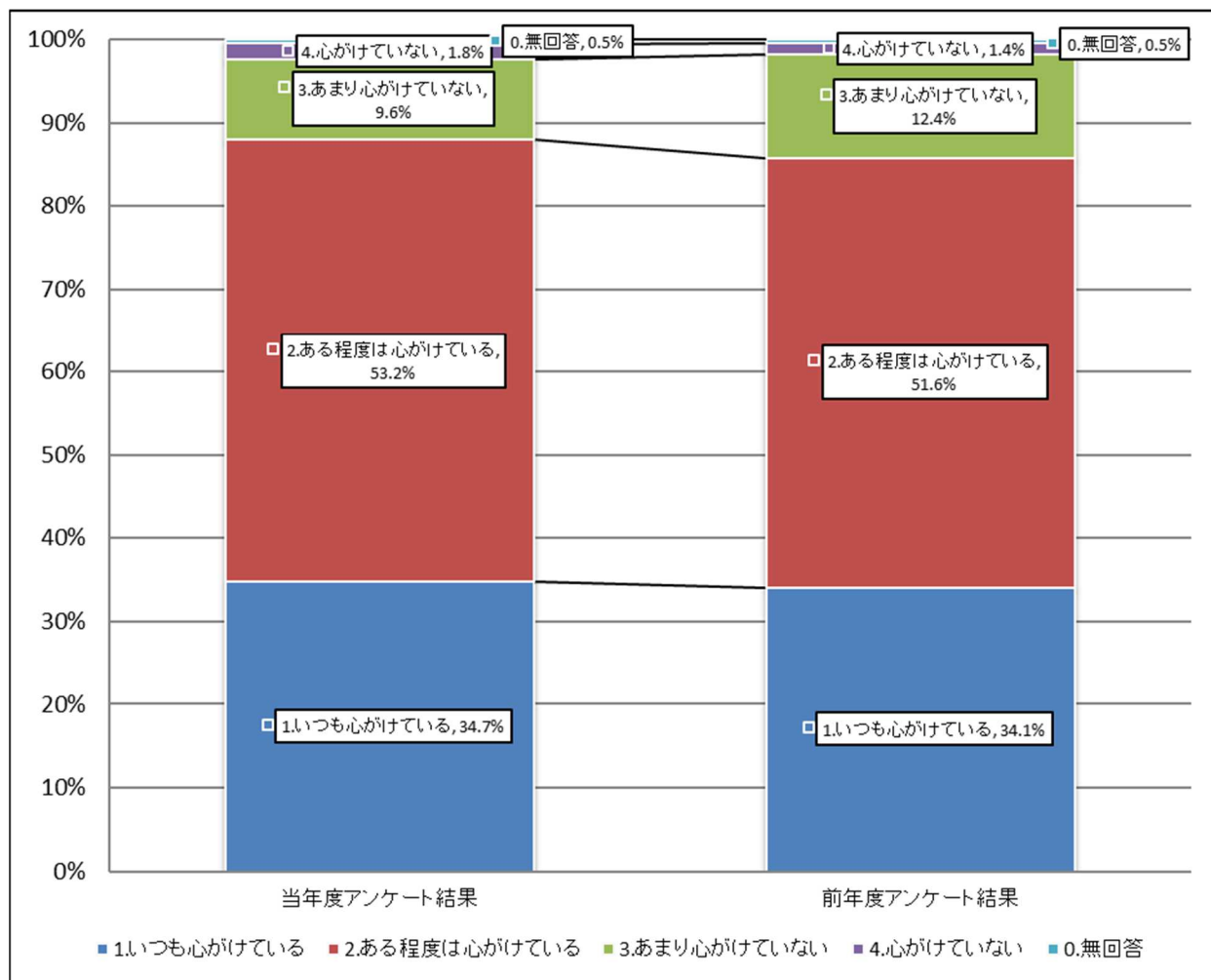
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性34.5%、女性30.8%）となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに70歳代以上（男性64.1%、女性78.2%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、花園地区（51.4%）であり、次いで川本地区（51.9%）となっています。最も多い地区は、八基地区（84.2%）であり、次いで明戸地区（75.0%）となっています。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



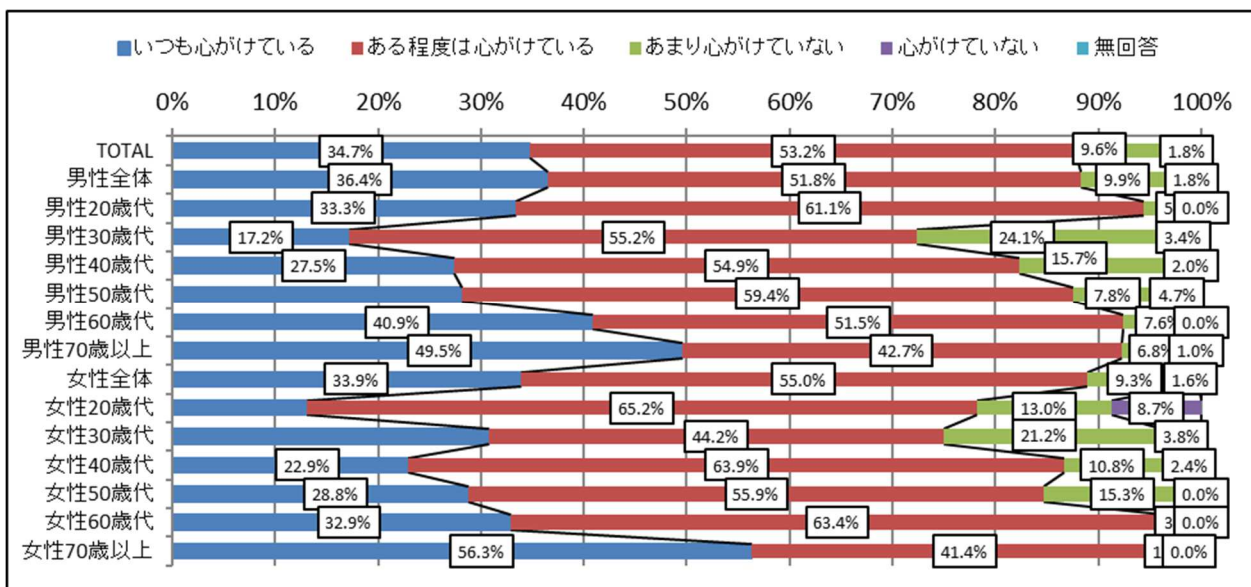
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 53.2%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 34.7%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 9.4%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 1.8%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 88.0%であり、大多数の市民がごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 85.7%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	757	34.7%	53.2%	9.6%	1.8%	0.5%	100.0%
男性全体	332	36.4%	51.8%	9.9%	1.8%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	55.2%	24.1%	3.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	27.5%	54.9%	15.7%	2.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	28.1%	59.4%	7.8%	4.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	40.9%	51.5%	7.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	49.5%	42.7%	6.8%	1.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	33.9%	55.0%	9.3%	1.6%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	13.0%	65.2%	13.0%	8.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	30.8%	44.2%	21.2%	3.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	22.9%	63.9%	10.8%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	28.8%	55.9%	15.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	32.9%	63.4%	3.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	56.3%	41.4%	1.1%	0.0%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	36.1%	53.0%	9.6%	1.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	45.7%	52.2%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	36.8%	50.6%	9.2%	3.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	55.0%	35.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	19.2%	69.2%	11.5%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	36.8%	52.6%	10.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	30.8%	53.8%	3.8%	11.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	33.3%	57.3%	8.0%	1.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	35.1%	52.6%	12.3%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	32.6%	51.7%	14.6%	1.1%	0.0%	100.0%
川本地区	54	29.6%	59.3%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	72	30.6%	56.9%	6.9%	4.2%	1.4%	100.0%
無回答	20	35.0%	30.0%	15.0%	5.0%	15.0%	100.0%

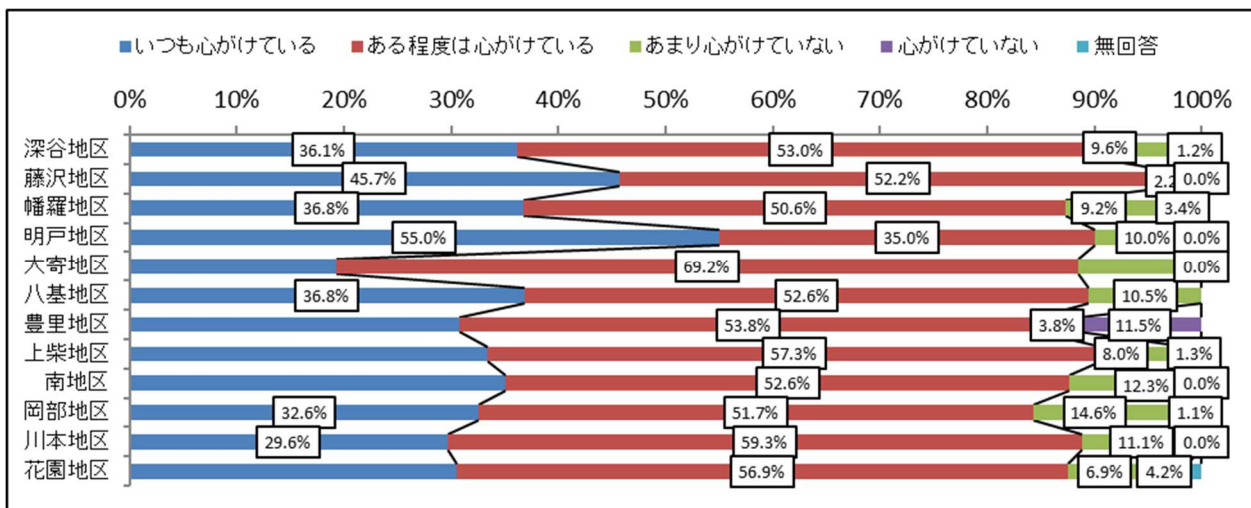
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は男性が88.3%であるのに対して、女性は88.9%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性72.4%、女性75.0%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性は20歳代（94.4%）、女性は70歳以上（97.7%）となっています。

➤ 地区別

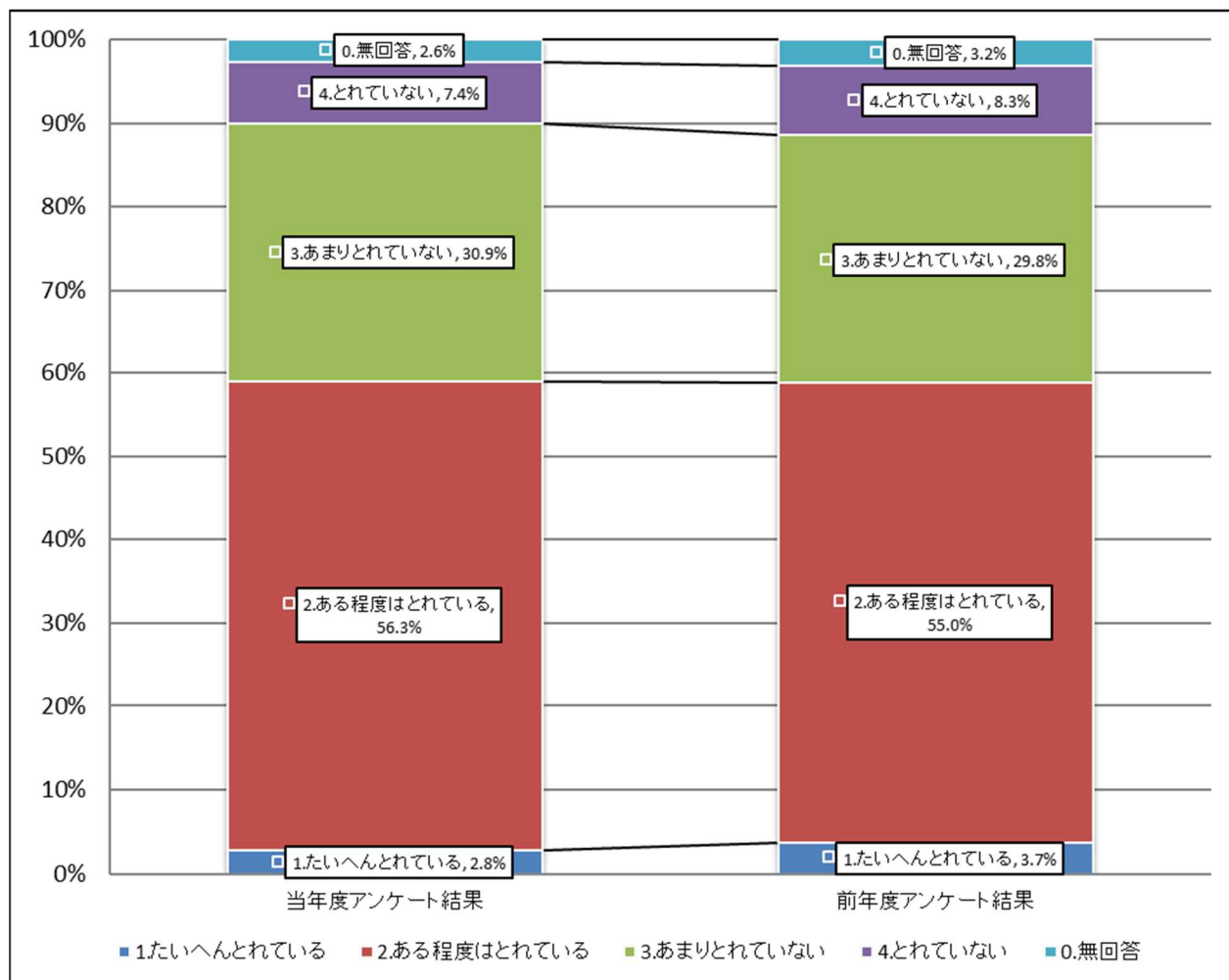


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、岡部地区（84.3%）であり、次いで豊里地区（84.6%）となっています。最も多い地区は、藤沢地区（97.8%）であり、次いで上柴地区（90.7%）となっています。

(6) 都市・生活基盤について

①快適な空間と景観づくり (6. 問1~4)

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



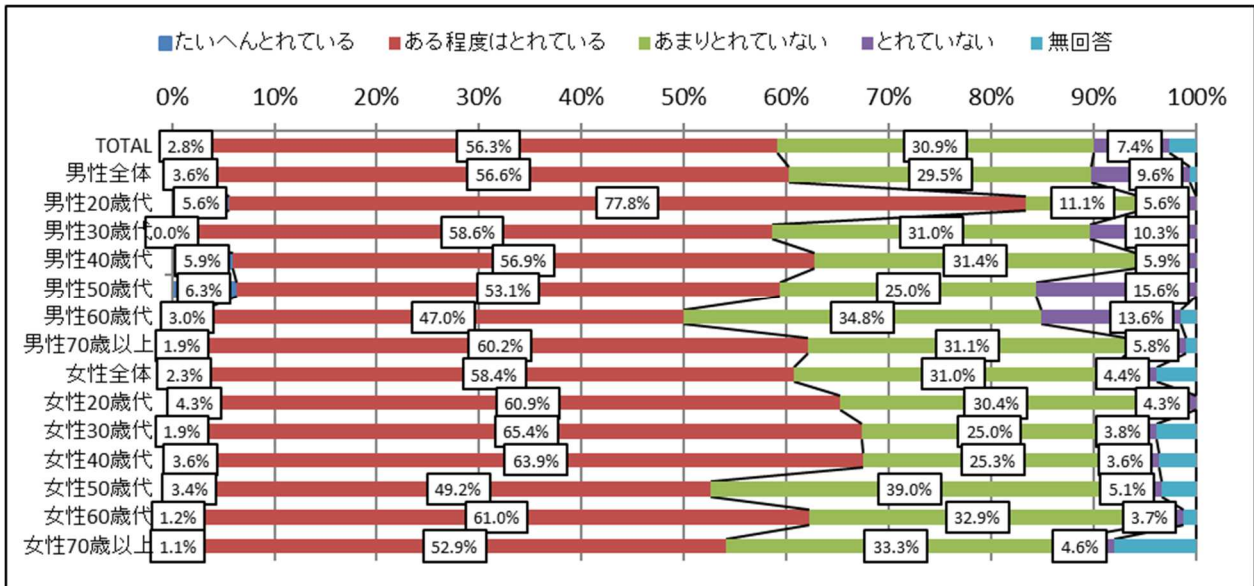
「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 56.3%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 30.9%、「とれていない」と回答した人の割合が 7.4%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 2.8%となっています。

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 59.0%であり、6割近くの人が、土地利用について調和がとれていると考えていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 58.8%であり、前年度アンケートと比較して大きな変化はありませんでした。

母集団		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	757	2.8%	56.3%	30.9%	7.4%	2.6%	100.0%
男性全体	332	3.6%	56.6%	29.5%	9.6%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	77.8%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	58.6%	31.0%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	5.9%	56.9%	31.4%	5.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	6.3%	53.1%	25.0%	15.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	3.0%	47.0%	34.8%	13.6%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	1.9%	60.2%	31.1%	5.8%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	2.3%	58.4%	31.0%	4.4%	3.9%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	60.9%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	1.9%	65.4%	25.0%	3.8%	3.8%	100.0%
女性 40 歳代	83	3.6%	63.9%	25.3%	3.6%	3.6%	100.0%
女性 50 歳代	59	3.4%	49.2%	39.0%	5.1%	3.4%	100.0%
女性 60 歳代	82	1.2%	61.0%	32.9%	3.7%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	1.1%	52.9%	33.3%	4.6%	8.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	2.4%	58.4%	28.9%	7.2%	3.0%	100.0%
藤沢地区	46	2.2%	58.7%	26.1%	13.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	1.1%	60.9%	31.0%	5.7%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	5.0%	40.0%	45.0%	0.0%	10.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	50.0%	34.6%	7.7%	3.8%	100.0%
八基地区	19	5.3%	47.4%	42.1%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	3.8%	46.2%	30.8%	15.4%	3.8%	100.0%
上柴地区	75	5.3%	73.3%	16.0%	5.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	5.3%	61.4%	28.1%	3.5%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	1.1%	49.4%	41.6%	4.5%	3.4%	100.0%
川本地区	54	1.9%	35.2%	42.6%	18.5%	1.9%	100.0%
花園地区	72	2.8%	65.3%	26.4%	2.8%	2.8%	100.0%
無回答	20	0.0%	35.0%	30.0%	20.0%	15.0%	100.0%

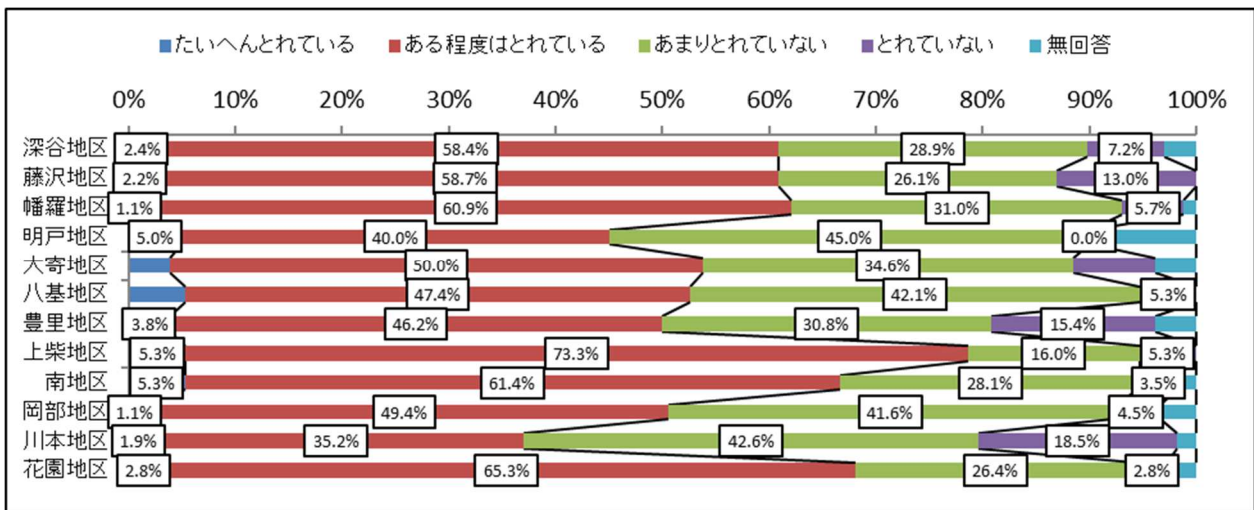
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は男性が60.2%であるのに対して、女性は60.7%となっています。

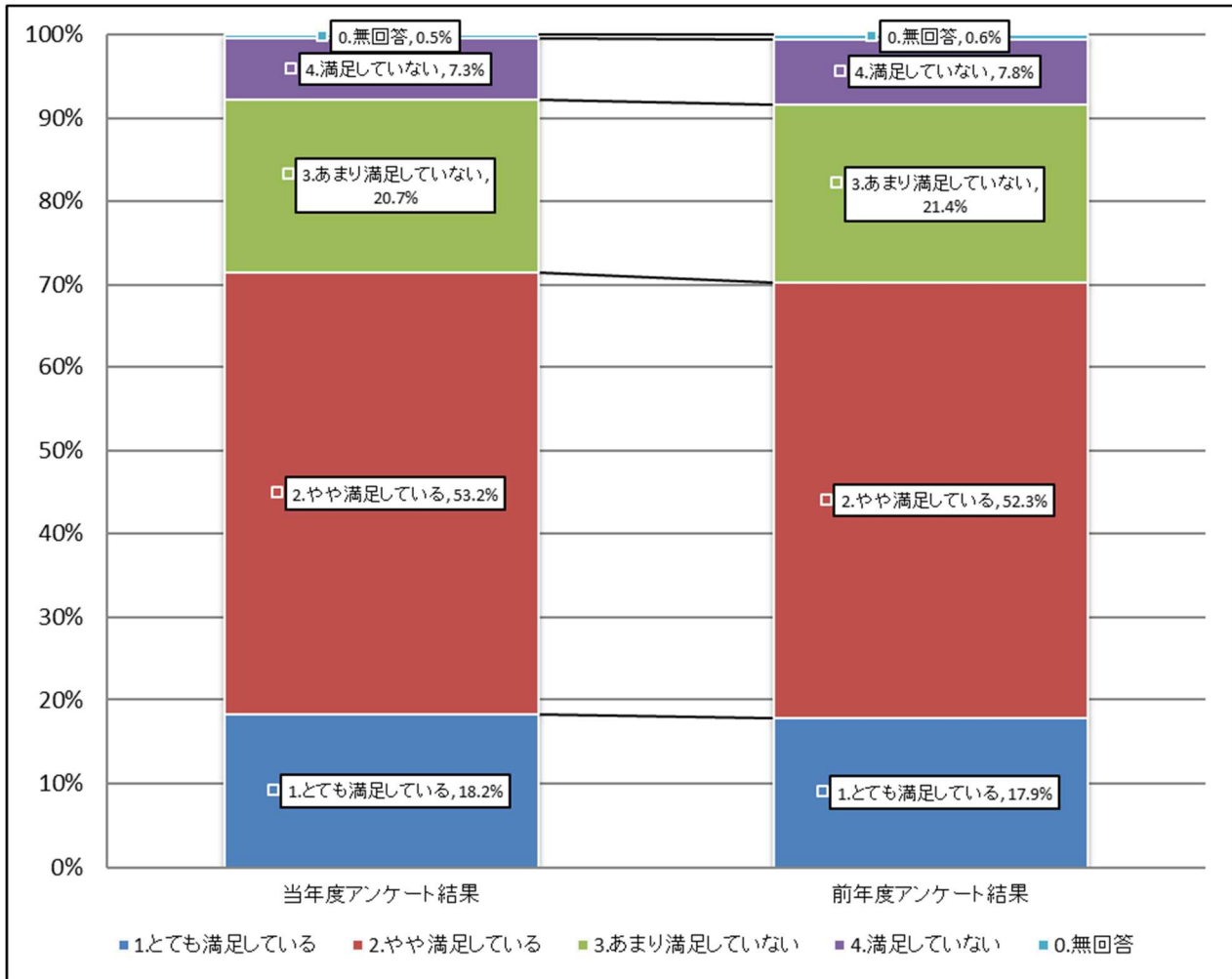
また、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代(58.6%)、女性は50歳代(52.5%)であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代(83.3%)、女性が40歳代(67.5%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区(37.0%)であり、次いで明戸地区(45.0%)となっています。最も多いのは、上柴地区(78.7%)であり、次いで花園地区(68.1%)となっています。

お住まい周辺の住環境に満足していますか。



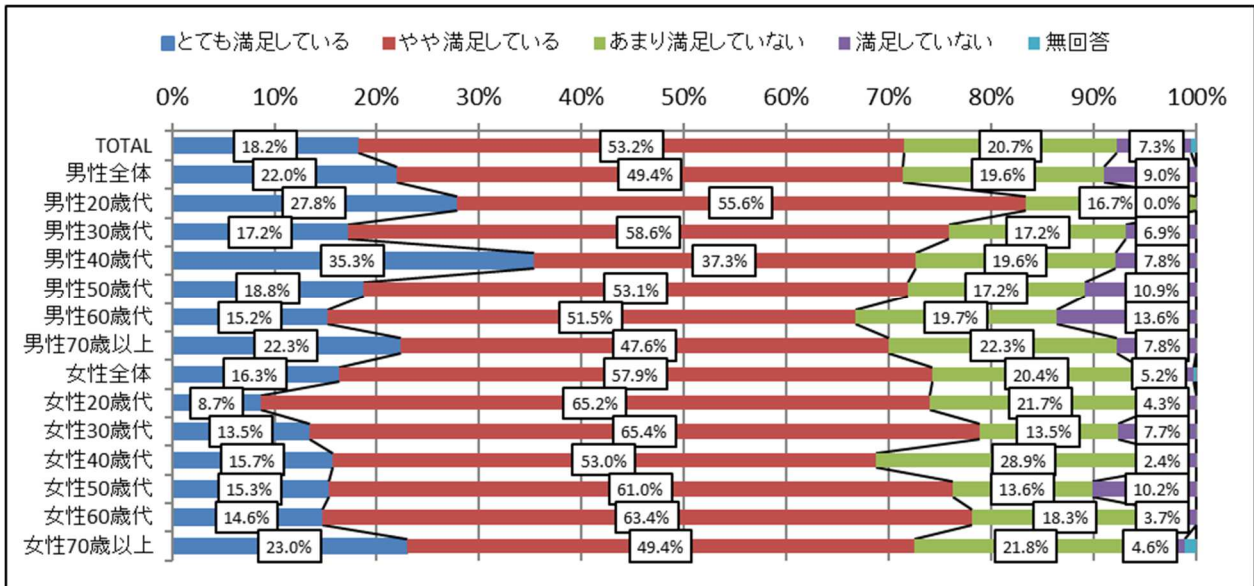
「やや満足している」と回答した人の割合が 53.2%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 20.7%、「とても満足している」と回答した人の割合が 18.2%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.3%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 71.5%であり、約 7 割の市民が、住まい周辺の住環境について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 70.2%であり、前年度アンケートと比較して、微増したことがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	757	18.2%	53.2%	20.7%	7.3%	0.5%	100.0%
男性全体	332	22.0%	49.4%	19.6%	9.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	27.8%	55.6%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	58.6%	17.2%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	35.3%	37.3%	19.6%	7.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	18.8%	53.1%	17.2%	10.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	15.2%	51.5%	19.7%	13.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	22.3%	47.6%	22.3%	7.8%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	16.3%	57.9%	20.4%	5.2%	0.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	8.7%	65.2%	21.7%	4.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	13.5%	65.4%	13.5%	7.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	15.7%	53.0%	28.9%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	15.3%	61.0%	13.6%	10.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	14.6%	63.4%	18.3%	3.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	23.0%	49.4%	21.8%	4.6%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	18.1%	56.6%	19.9%	5.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	23.9%	47.8%	21.7%	6.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	19.5%	66.7%	12.6%	1.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	23.1%	53.8%	15.4%	7.7%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	57.9%	26.3%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	15.4%	42.3%	23.1%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	32.0%	49.3%	16.0%	2.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	31.6%	54.4%	10.5%	3.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	9.0%	46.1%	31.5%	13.5%	0.0%	100.0%
川本地区	54	13.0%	51.9%	20.4%	14.8%	0.0%	100.0%
花園地区	72	11.1%	54.2%	23.6%	9.7%	1.4%	100.0%
無回答	20	5.0%	35.0%	40.0%	5.0%	15.0%	100.0%

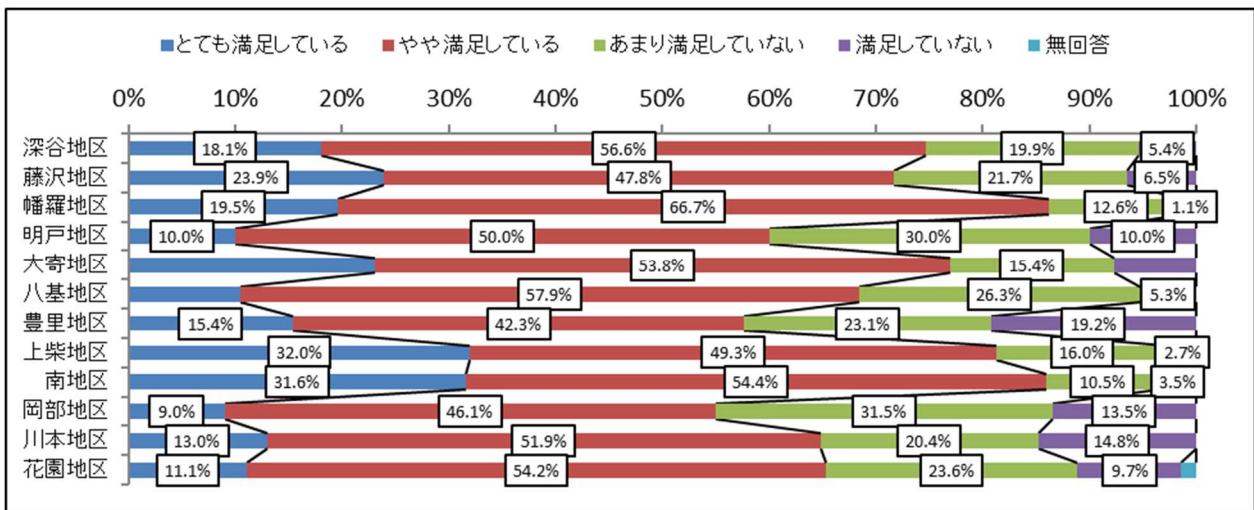
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が71.4%であるのに対して、女性は74.2%となっています。

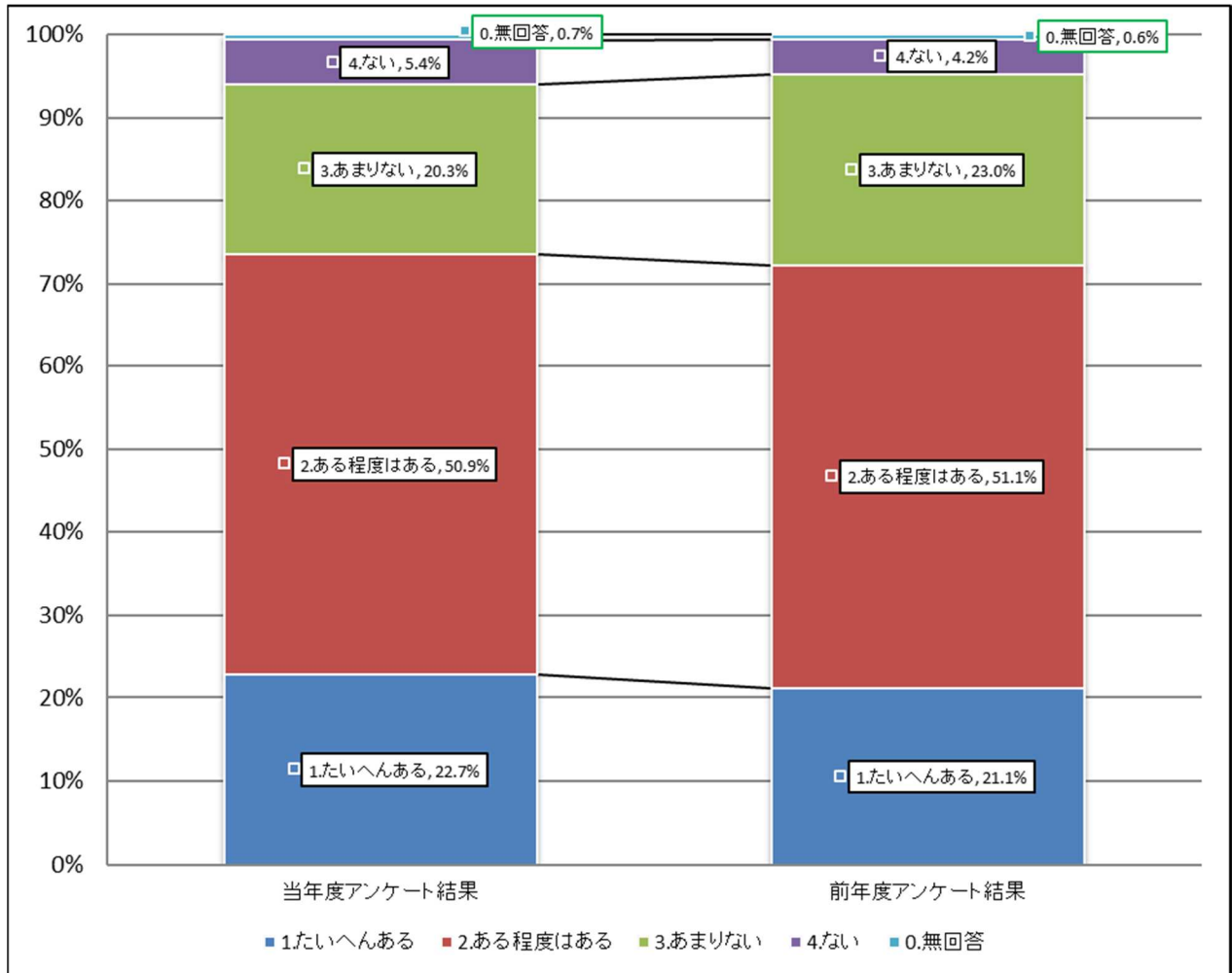
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は60歳代（66.7%）、女性は40歳代（68.7%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（83.3%）、女性が30歳代（78.8%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区（55.1%）であり、次いで豊里地区（57.7%）となっています。最も多いのは、幡羅地区（86.2%）であり、次いで南地区（86.0%）となっています。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



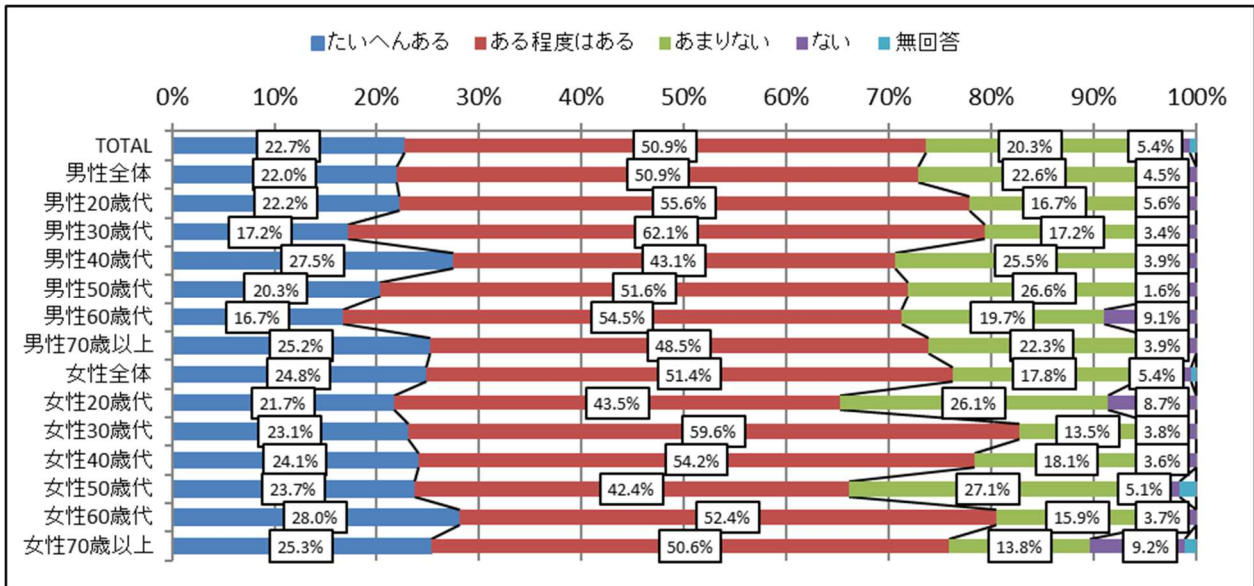
「ある程度はある」と回答した人の割合が 50.9%と最も多く、次いで「たいへんある」と回答した人の割合が 22.7%、「あまりない」と回答した人の割合が 20.3%、「ない」と回答した人の割合が最も少なく 5.4%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 73.6%であり、7 割以上の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 72.2%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	757	22.7%	50.9%	20.3%	5.4%	0.7%	100.0%
男性全体	332	22.0%	50.9%	22.6%	4.5%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	22.2%	55.6%	16.7%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	62.1%	17.2%	3.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	27.5%	43.1%	25.5%	3.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	20.3%	51.6%	26.6%	1.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	16.7%	54.5%	19.7%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	25.2%	48.5%	22.3%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	24.8%	51.4%	17.8%	5.4%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	21.7%	43.5%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	23.1%	59.6%	13.5%	3.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	24.1%	54.2%	18.1%	3.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	23.7%	42.4%	27.1%	5.1%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	28.0%	52.4%	15.9%	3.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	25.3%	50.6%	13.8%	9.2%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	15.1%	50.0%	26.5%	8.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	32.6%	56.5%	4.3%	6.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	14.9%	58.6%	25.3%	0.0%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	35.0%	45.0%	10.0%	10.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	50.0%	34.6%	11.5%	3.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	31.6%	63.2%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	30.8%	46.2%	15.4%	7.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	16.0%	53.3%	28.0%	2.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	26.3%	47.4%	21.1%	5.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	24.7%	55.1%	16.9%	3.4%	0.0%	100.0%
川本地区	54	35.2%	42.6%	16.7%	5.6%	0.0%	100.0%
花園地区	72	23.6%	48.6%	18.1%	8.3%	1.4%	100.0%
無回答	20	0.0%	45.0%	30.0%	10.0%	15.0%	100.0%

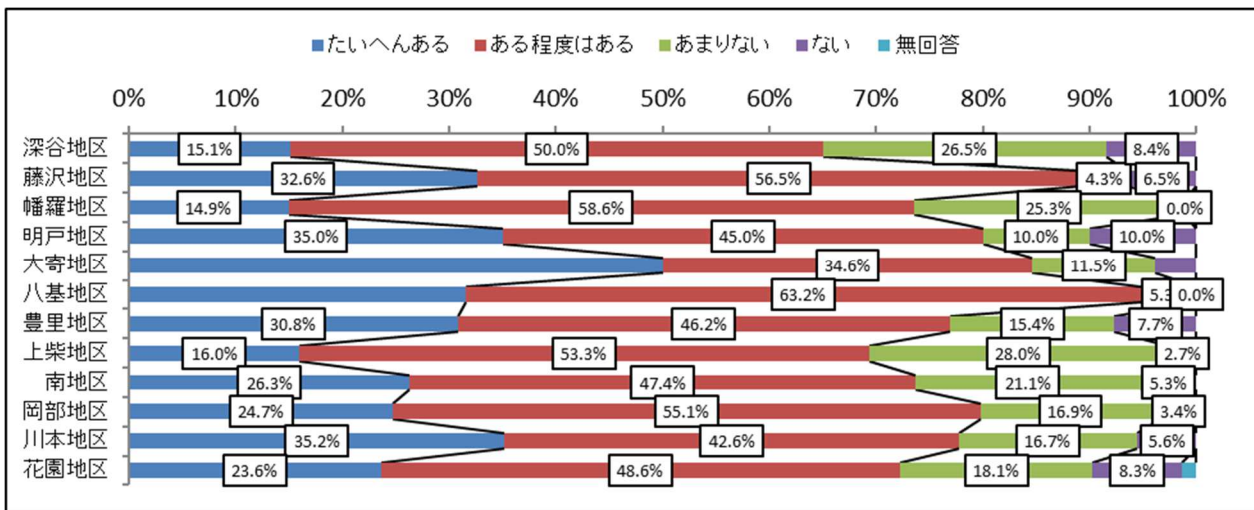
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が72.9%であるのに対して、女性は76.2%となっています。

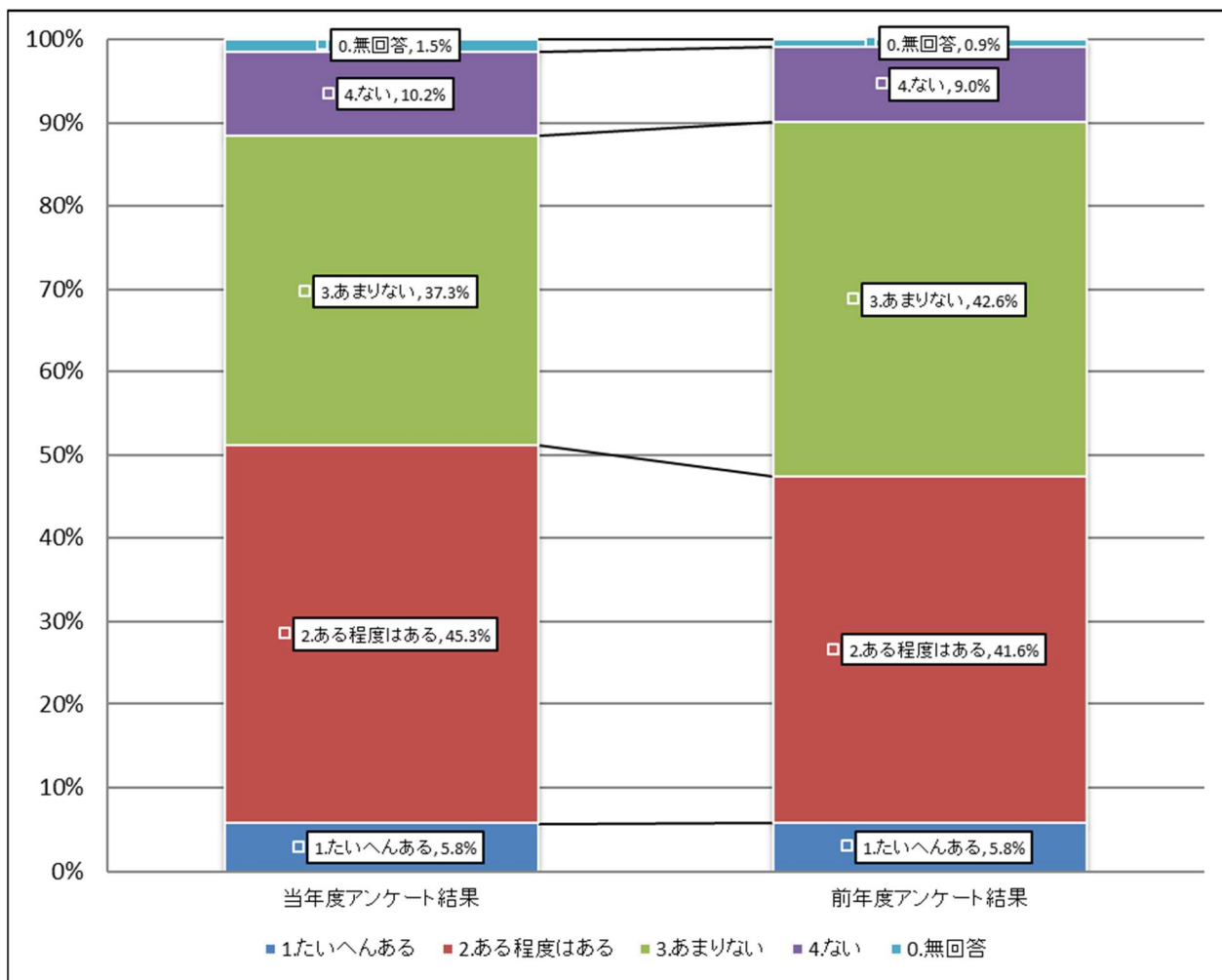
また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は40歳代（70.6%）女性は20歳代（65.2%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに30歳代（男性79.3%、女性82.7%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区（65.1%）であり、次いで上柴地区（69.3%）となっています。最も多いのは、八基地区（94.7%）であり、次いで藤沢地区（89.1%）となっています。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



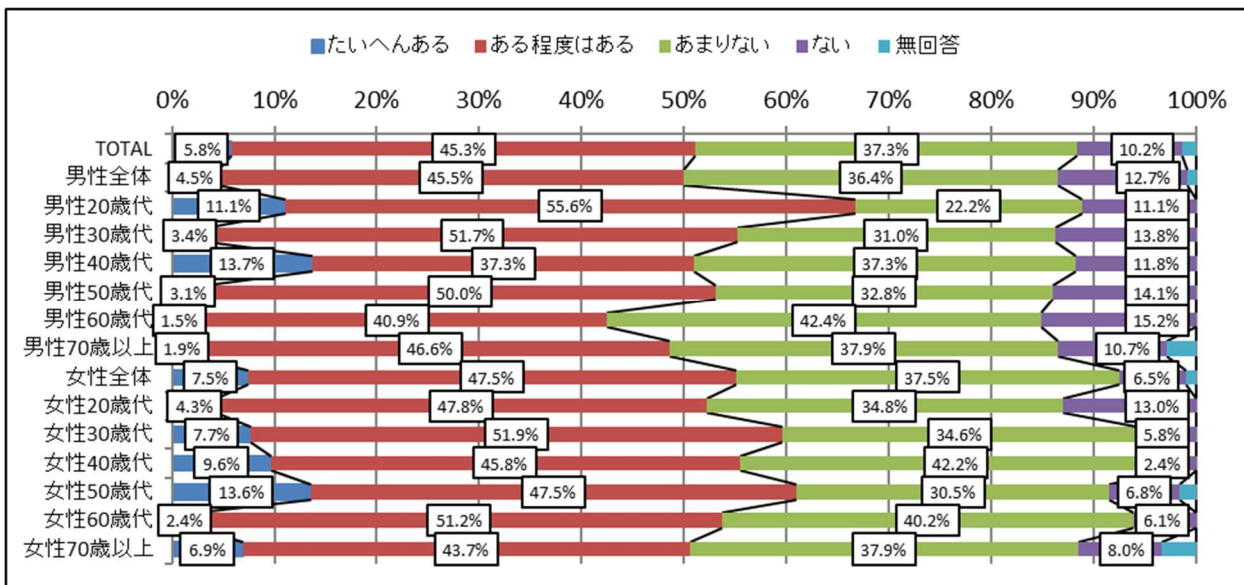
「ある程度はある」と回答した人の割合が 45.3%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 37.3%、「ない」と回答した人の割合が 10.2%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 5.8%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 51.1%であり、市内に魅力的なまち並みや景観があると答えた市民は、半数にも満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 47.4%であり、前年度アンケートと比較して、大きく増加した結果となっています。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	757	5.8%	45.3%	37.3%	10.2%	1.5%	100.0%
男性全体	332	4.5%	45.5%	36.4%	12.7%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	18	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	51.7%	31.0%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	13.7%	37.3%	37.3%	11.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	3.1%	50.0%	32.8%	14.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	1.5%	40.9%	42.4%	15.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	1.9%	46.6%	37.9%	10.7%	2.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	7.5%	47.5%	37.5%	6.5%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	47.8%	34.8%	13.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	7.7%	51.9%	34.6%	5.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	9.6%	45.8%	42.2%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	13.6%	47.5%	30.5%	6.8%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	2.4%	51.2%	40.2%	6.1%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	6.9%	43.7%	37.9%	8.0%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	7.2%	47.0%	38.6%	7.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	6.5%	52.2%	30.4%	8.7%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	4.6%	55.2%	27.6%	11.5%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	5.0%	50.0%	25.0%	20.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	34.6%	53.8%	3.8%	3.8%	100.0%
八基地区	19	5.3%	36.8%	47.4%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	38.5%	46.2%	7.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	2.7%	61.3%	30.7%	5.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	7.0%	45.6%	36.8%	8.8%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	4.5%	34.8%	44.9%	15.7%	0.0%	100.0%
川本地区	54	7.4%	37.0%	37.0%	14.8%	3.7%	100.0%
花園地区	72	8.3%	40.3%	40.3%	9.7%	1.4%	100.0%
無回答	20	0.0%	25.0%	35.0%	20.0%	20.0%	100.0%

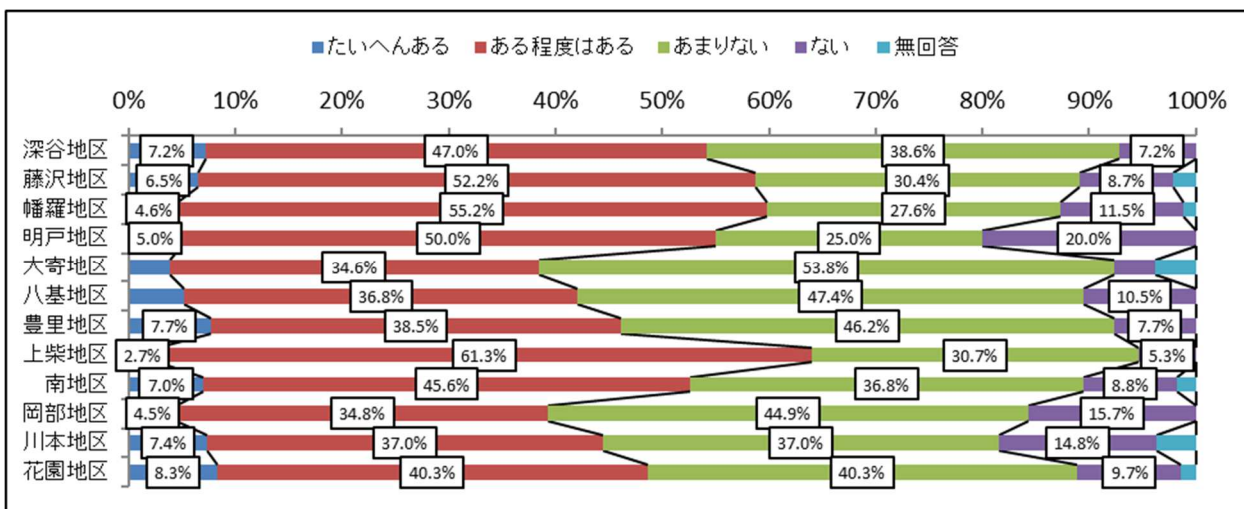
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が50.0%であるのに対して、女性は55.0%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（42.4%）、女性が70歳以上（50.6%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（66.7%）、女性が50歳代（61.0%）となっています。

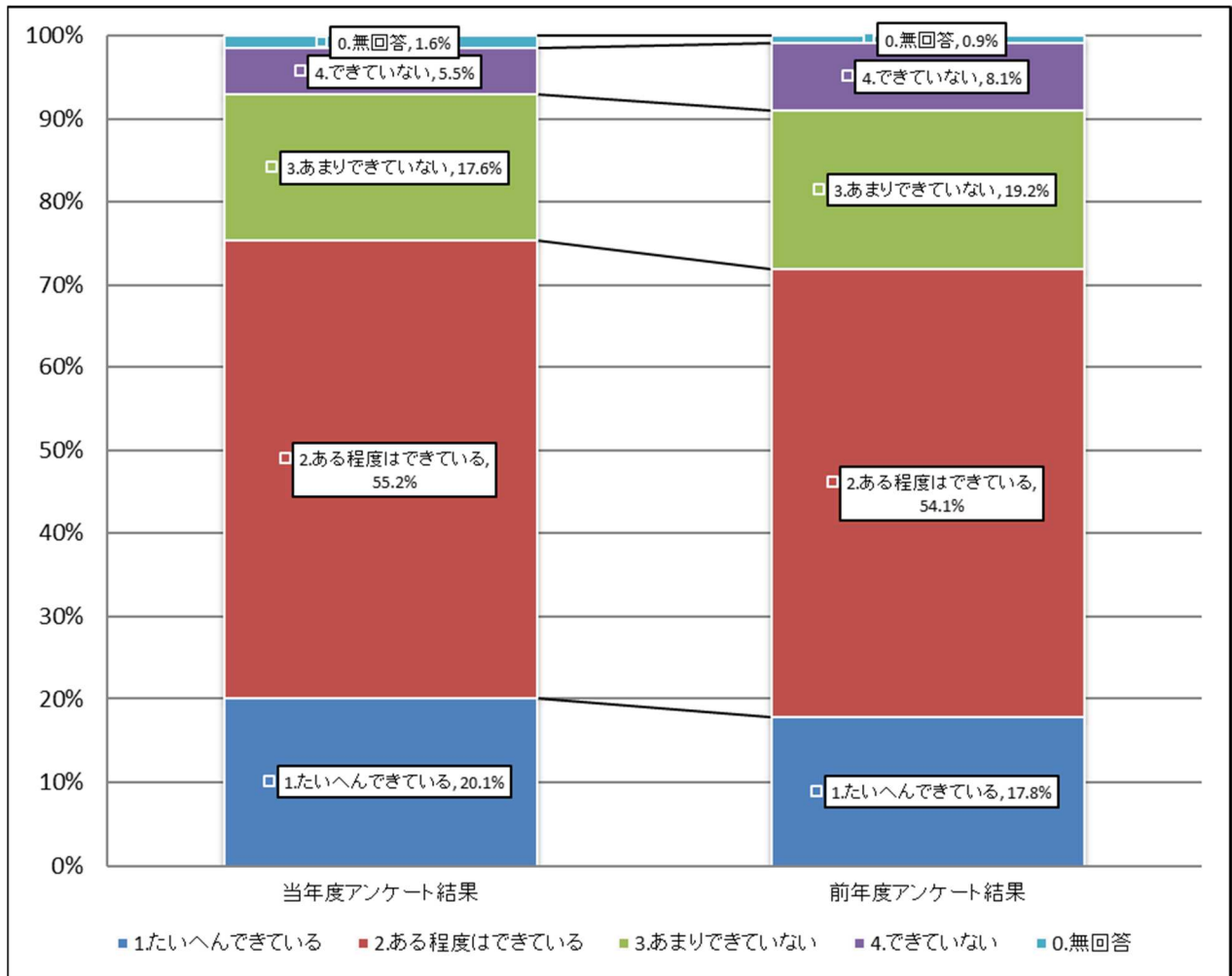
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（38.5%）であり、次いで岡部地区（39.3%）となっています。最も多いのは、上柴地区（64.0%）であり、次いで幡羅地区（59.8%）となっています。

②良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



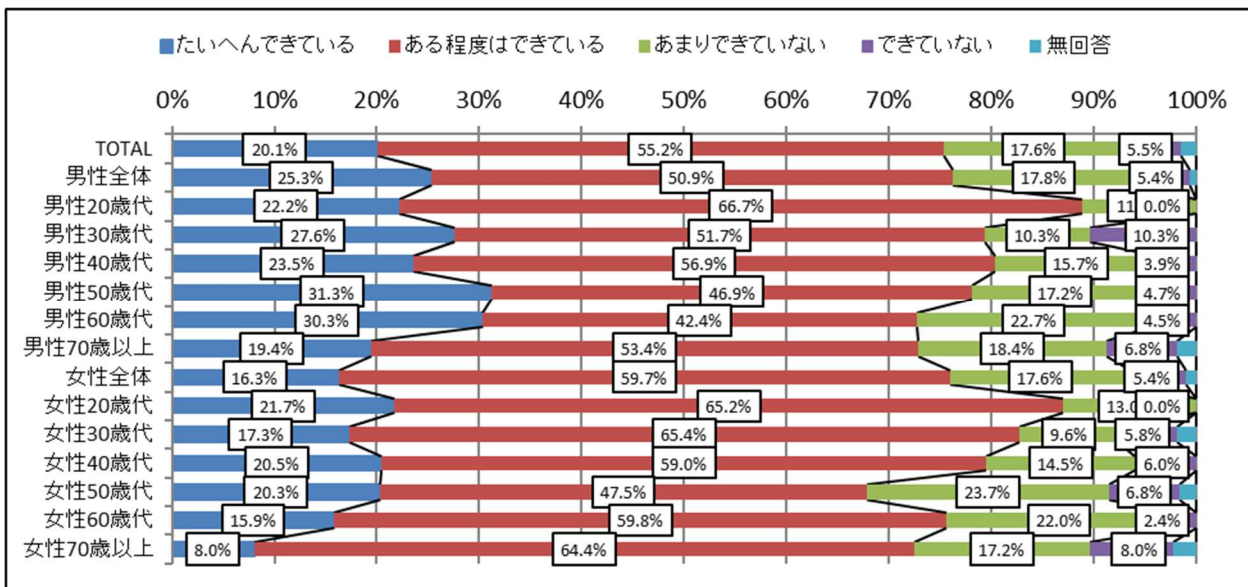
「ある程度はできている」と回答した人の割合が 55.2%と最も多く、次いで「たいへんできている」と回答した人の割合が 20.1%、「あまりできていない」と回答した人の割合が 17.6%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 5.5%となっています。

「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は 75.3%であり、7 割以上の市民が、水害に対して安心した生活ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は 71.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きく増加していることがうかがえます。

母集団		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	757	20.1%	55.2%	17.6%	5.5%	1.6%	100.0%
男性全体	332	25.3%	50.9%	17.8%	5.4%	0.6%	100.0%
男性20歳代	18	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	27.6%	51.7%	10.3%	10.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	51	23.5%	56.9%	15.7%	3.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	64	31.3%	46.9%	17.2%	4.7%	0.0%	100.0%
男性60歳代	66	30.3%	42.4%	22.7%	4.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	103	19.4%	53.4%	18.4%	6.8%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	16.3%	59.7%	17.6%	5.4%	1.0%	100.0%
女性20歳代	23	21.7%	65.2%	13.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	52	17.3%	65.4%	9.6%	5.8%	1.9%	100.0%
女性40歳代	83	20.5%	59.0%	14.5%	6.0%	0.0%	100.0%
女性50歳代	59	20.3%	47.5%	23.7%	6.8%	1.7%	100.0%
女性60歳代	82	15.9%	59.8%	22.0%	2.4%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	87	8.0%	64.4%	17.2%	8.0%	2.3%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	18.7%	54.2%	21.1%	4.8%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	39.1%	45.7%	13.0%	0.0%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	25.3%	60.9%	10.3%	2.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	15.0%	60.0%	15.0%	10.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	0.0%	46.2%	38.5%	15.4%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	21.1%	47.4%	26.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	42.3%	30.8%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	28.0%	60.0%	10.7%	1.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	28.1%	52.6%	12.3%	3.5%	3.5%	100.0%
岡部地区	89	13.5%	64.0%	18.0%	4.5%	0.0%	100.0%
川本地区	54	9.3%	57.4%	20.4%	9.3%	3.7%	100.0%
花園地区	72	26.4%	56.9%	9.7%	5.6%	1.4%	100.0%
無回答	20	10.0%	55.0%	20.0%	0.0%	15.0%	100.0%

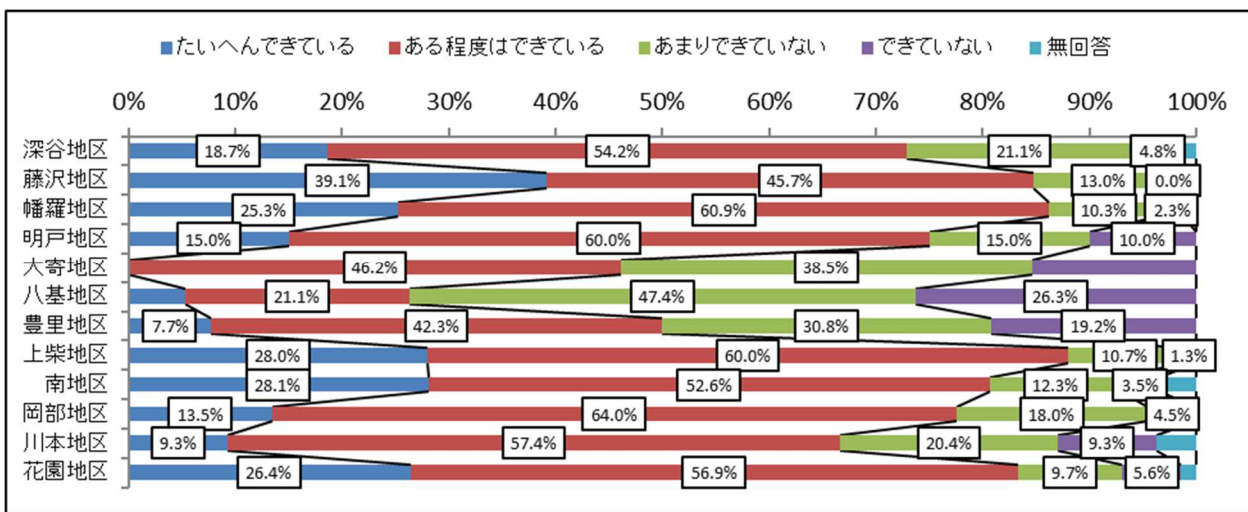
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は男性が76.2%であるのに対して、女性は76.0%となっています。

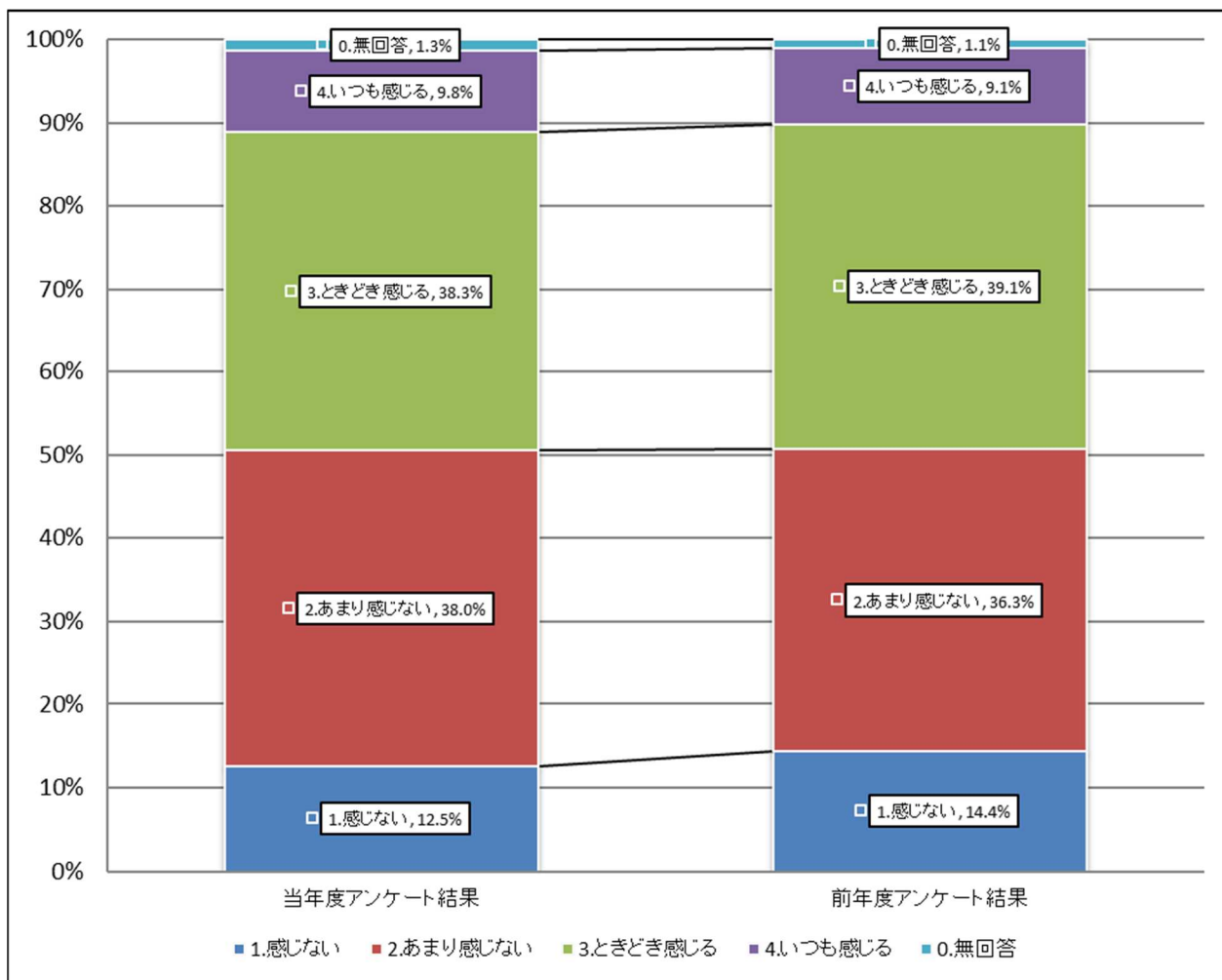
また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代(72.7%)、女性が50歳代(67.8%)であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代(男性88.9%、女性87.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(26.3%)であり、次いで大寄地区(46.2%)となっています。最も多いのは、上柴地区(88.0%)であり、次いで幡羅地区(86.2%)となっています。

市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

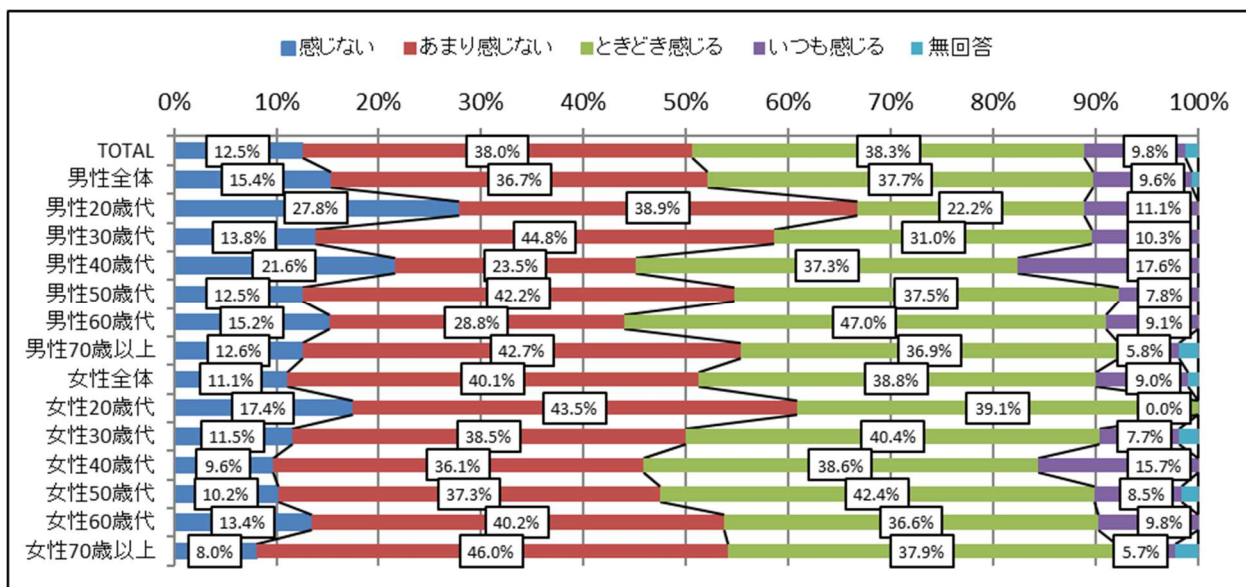


「ときどき感じる」と回答した人の割合が 38.3%と最も多く、次いで「あまり感じない」と回答した人の割合が 38.0%、「感じない」と回答した人の割合が 12.5%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 9.8%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 50.6%にとどまり、半数以上の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じていることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 50.7%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化は出ていない結果となっています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	757	12.5%	38.0%	38.3%	9.8%	1.3%	100.0%
男性全体	332	15.4%	36.7%	37.7%	9.6%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	18	27.8%	38.9%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	13.8%	44.8%	31.0%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	21.6%	23.5%	37.3%	17.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	12.5%	42.2%	37.5%	7.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	15.2%	28.8%	47.0%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	12.6%	42.7%	36.9%	5.8%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	11.1%	40.1%	38.8%	9.0%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	23	17.4%	43.5%	39.1%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	11.5%	38.5%	40.4%	7.7%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	9.6%	36.1%	38.6%	15.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	10.2%	37.3%	42.4%	8.5%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	13.4%	40.2%	36.6%	9.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	8.0%	46.0%	37.9%	5.7%	2.3%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	12.7%	32.5%	42.8%	11.4%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	19.6%	37.0%	34.8%	6.5%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	12.6%	44.8%	34.5%	6.9%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	15.0%	30.0%	50.0%	5.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	15.4%	38.5%	26.9%	19.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	15.4%	34.6%	38.5%	11.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	17.3%	42.7%	34.7%	5.3%	0.0%	100.0%
南地区	57	8.8%	36.8%	47.4%	5.3%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	11.2%	41.6%	36.0%	11.2%	0.0%	100.0%
川本地区	54	9.3%	35.2%	35.2%	16.7%	3.7%	100.0%
花園地区	72	12.5%	44.4%	33.3%	8.3%	1.4%	100.0%
無回答	20	5.0%	35.0%	35.0%	10.0%	15.0%	100.0%

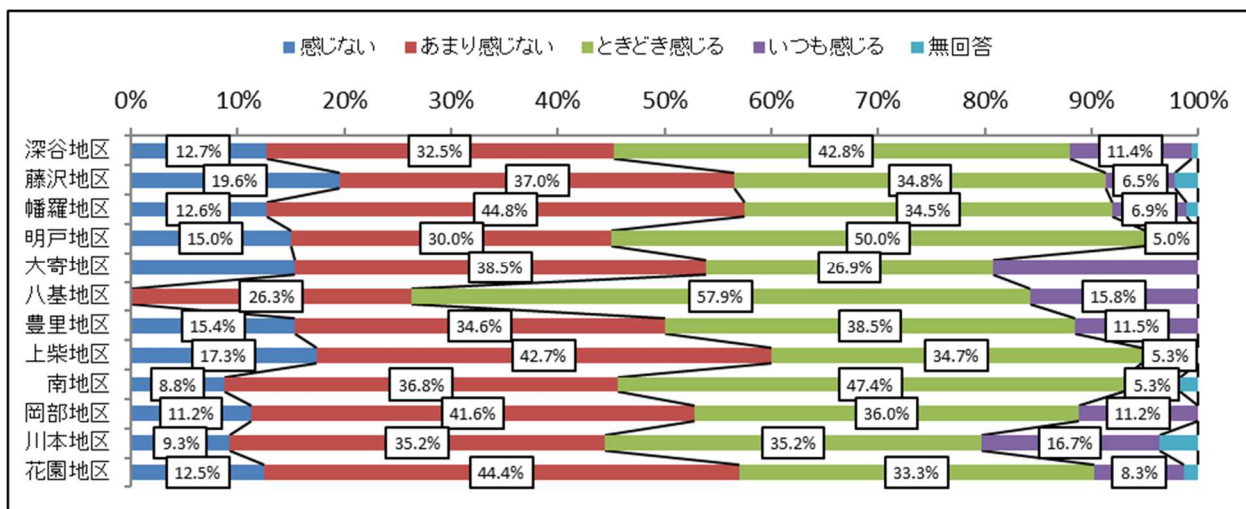
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が52.1%であるのに対して、女性は51.2%となっています。

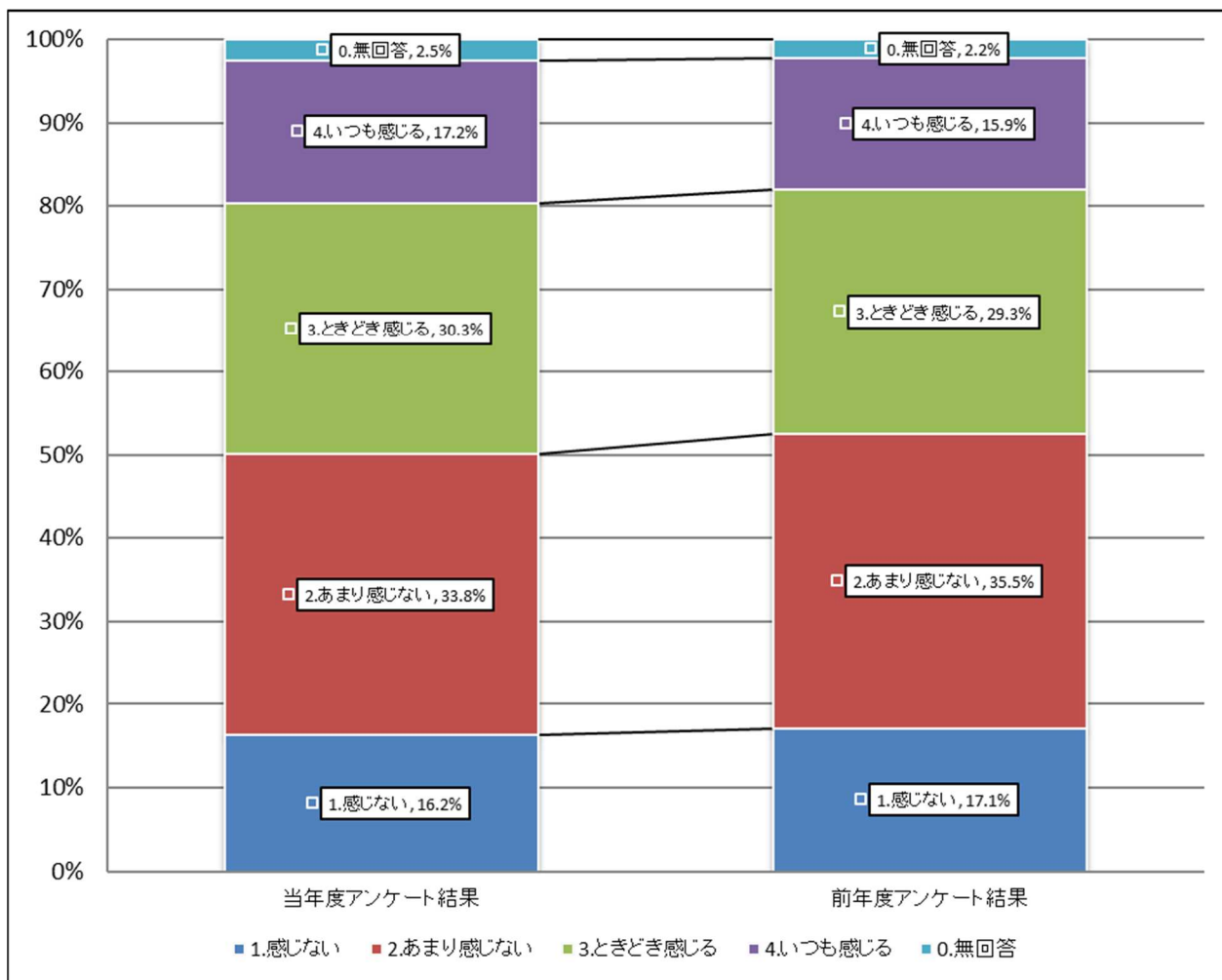
また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（43.9%）、女性が40歳代（45.8%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代（男性66.7%、女性60.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（26.3%）であり、次いで川本地区（44.4%）となっています。最も多いのは、上柴地区（60.0%）であり、次いで幡羅地区（57.5%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

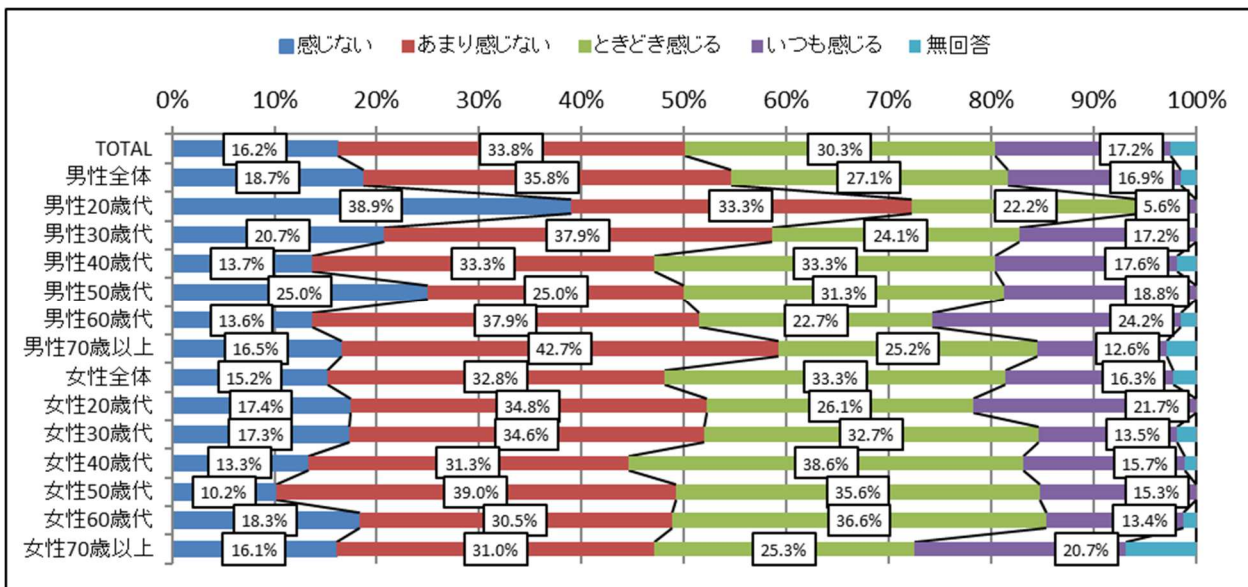


「あまり感じない」と回答した人の割合が 33.8%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 30.3%、「いつも感じる」と回答した人の割合が 17.2%、「感じない」と回答した人の割合が最も少なく 16.2%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 50.1%となっており、半数以上の市民が、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 52.6%であり、前年度アンケートと比較して、微減した結果となっています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	757	16.2%	33.8%	30.3%	17.2%	2.5%	100.0%
男性全体	332	18.7%	35.8%	27.1%	16.9%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	18	38.9%	33.3%	22.2%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	20.7%	37.9%	24.1%	17.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	13.7%	33.3%	33.3%	17.6%	2.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	25.0%	25.0%	31.3%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	13.6%	37.9%	22.7%	24.2%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	16.5%	42.7%	25.2%	12.6%	2.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	15.2%	32.8%	33.3%	16.3%	2.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	17.4%	34.8%	26.1%	21.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	17.3%	34.6%	32.7%	13.5%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	13.3%	31.3%	38.6%	15.7%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	10.2%	39.0%	35.6%	15.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	82	18.3%	30.5%	36.6%	13.4%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	16.1%	31.0%	25.3%	20.7%	6.9%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	21.7%	36.7%	24.1%	16.3%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	28.3%	30.4%	23.9%	15.2%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	13.8%	36.8%	34.5%	13.8%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	15.0%	30.0%	35.0%	20.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	26.9%	30.8%	15.4%	23.1%	3.8%	100.0%
八基地区	19	15.8%	31.6%	26.3%	21.1%	5.3%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	19.2%	26.9%	42.3%	3.8%	100.0%
上柴地区	75	17.3%	37.3%	34.7%	10.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	14.0%	35.1%	36.8%	8.8%	5.3%	100.0%
岡部地区	89	11.2%	40.4%	33.7%	13.5%	1.1%	100.0%
川本地区	54	14.8%	24.1%	33.3%	22.2%	5.6%	100.0%
花園地区	72	11.1%	33.3%	29.2%	23.6%	2.8%	100.0%
無回答	20	0.0%	15.0%	45.0%	25.0%	15.0%	100.0%

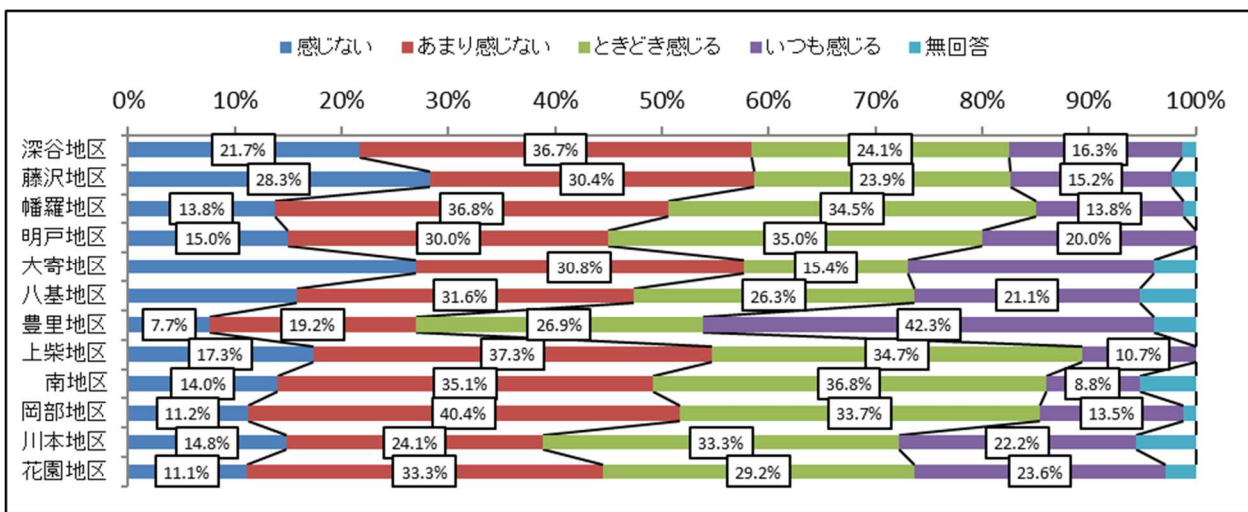
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が54.5%であるのに対して、女性は48.1%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに40歳代（男性47.1%、女性44.6%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代（男性72.2%、女性52.2%）となっています。

➤ 地区別

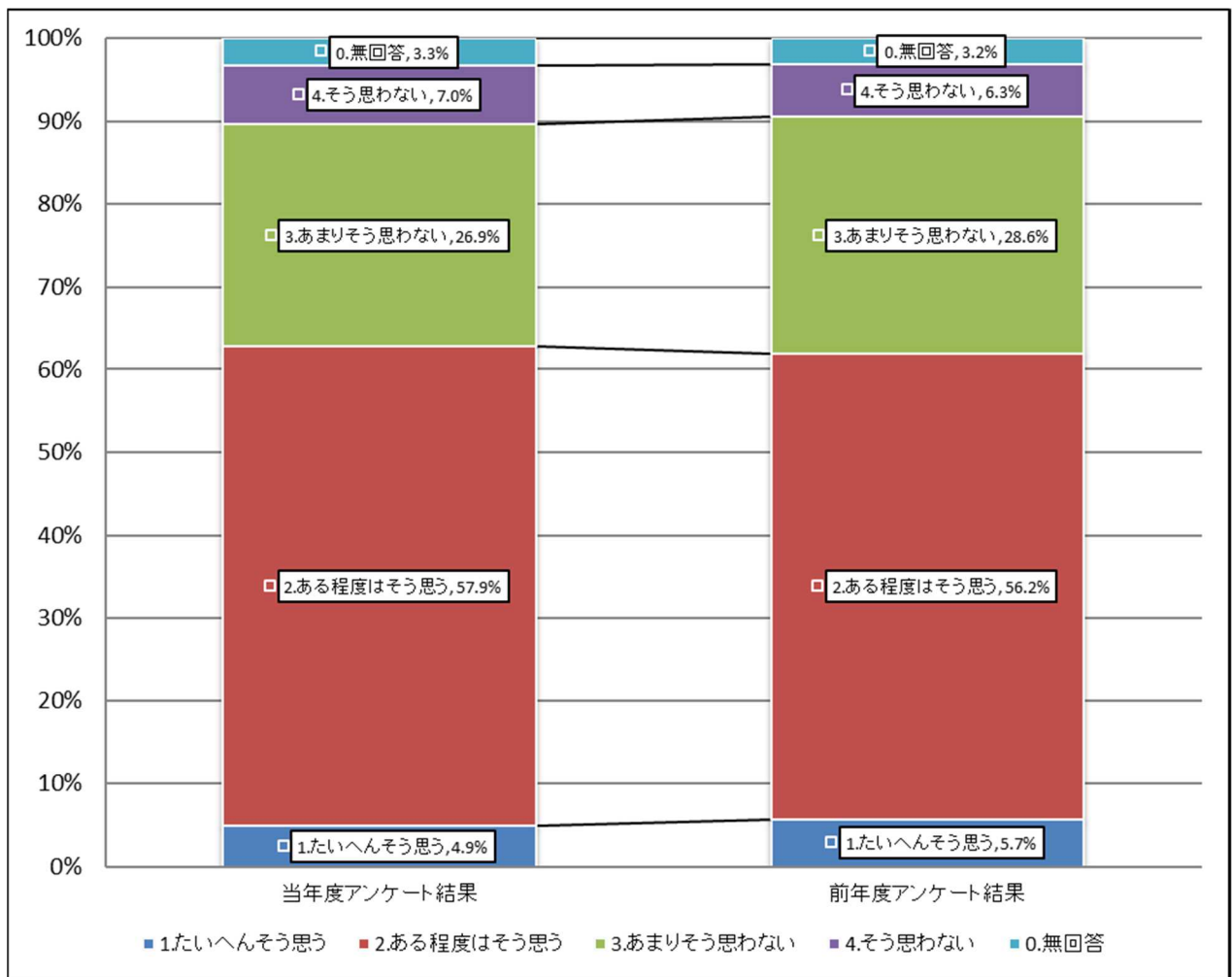


地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（26.9%）であり、次いで川本地区（38.9%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（58.7%）であり、次いで深谷地区（58.4%）となっています。

(7) 協働・行政経営について

①人権を尊重する社会づくり（7. 問1～4）

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



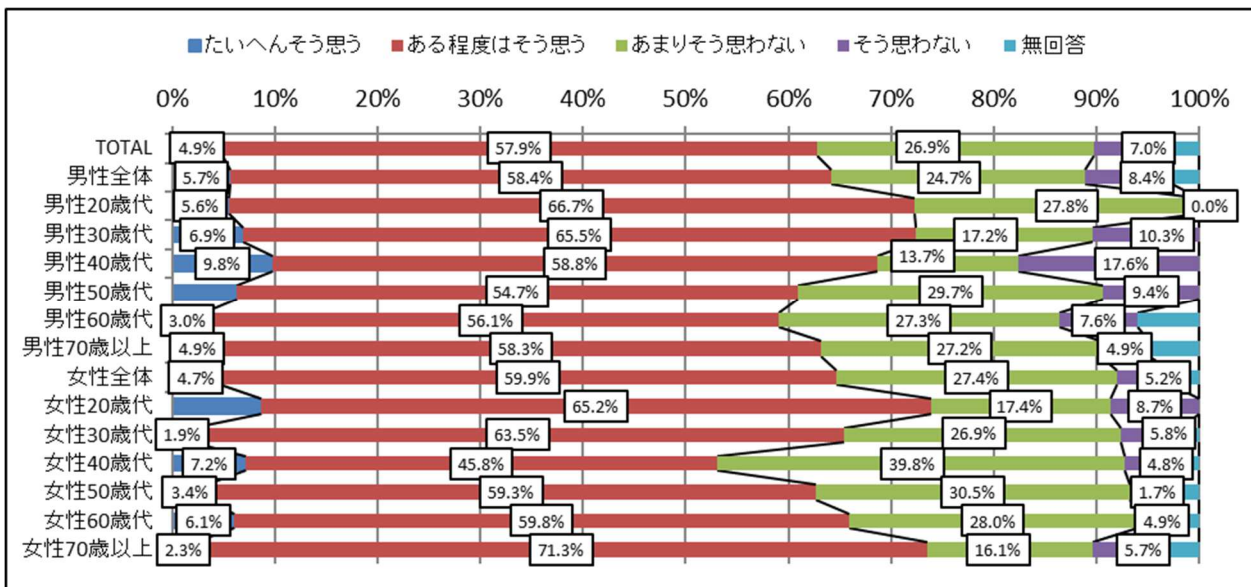
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 57.9%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 26.9%、「そう思わない」と回答した人の割合が 7.0%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 4.9%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 62.7%であり、約 6 割の市民が、深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 61.9%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	757	4.9%	57.9%	26.9%	7.0%	3.3%	100.0%
男性全体	332	5.7%	58.4%	24.7%	8.4%	2.7%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	66.7%	27.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	65.5%	17.2%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	9.8%	58.8%	13.7%	17.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	6.3%	54.7%	29.7%	9.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	3.0%	56.1%	27.3%	7.6%	6.1%	100.0%
男性 70 歳以上	103	4.9%	58.3%	27.2%	4.9%	4.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	4.7%	59.9%	27.4%	5.2%	2.8%	100.0%
女性 20 歳代	23	8.7%	65.2%	17.4%	8.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	1.9%	63.5%	26.9%	5.8%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	7.2%	45.8%	39.8%	4.8%	2.4%	100.0%
女性 50 歳代	59	3.4%	59.3%	30.5%	1.7%	5.1%	100.0%
女性 60 歳代	82	6.1%	59.8%	28.0%	4.9%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	2.3%	71.3%	16.1%	5.7%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	4.2%	61.4%	27.7%	5.4%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	4.3%	50.0%	32.6%	10.9%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	5.7%	65.5%	23.0%	5.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	50.0%	20.0%	10.0%	10.0%	100.0%
大寄地区	26	7.7%	38.5%	50.0%	0.0%	3.8%	100.0%
八基地区	19	5.3%	63.2%	26.3%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	57.7%	15.4%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	4.0%	66.7%	18.7%	6.7%	4.0%	100.0%
南地区	57	3.5%	63.2%	24.6%	1.8%	7.0%	100.0%
岡部地区	89	4.5%	58.4%	25.8%	7.9%	3.4%	100.0%
川本地区	54	5.6%	51.9%	24.1%	13.0%	5.6%	100.0%
花園地区	72	5.6%	52.8%	34.7%	4.2%	2.8%	100.0%
無回答	20	0.0%	25.0%	40.0%	15.0%	20.0%	100.0%

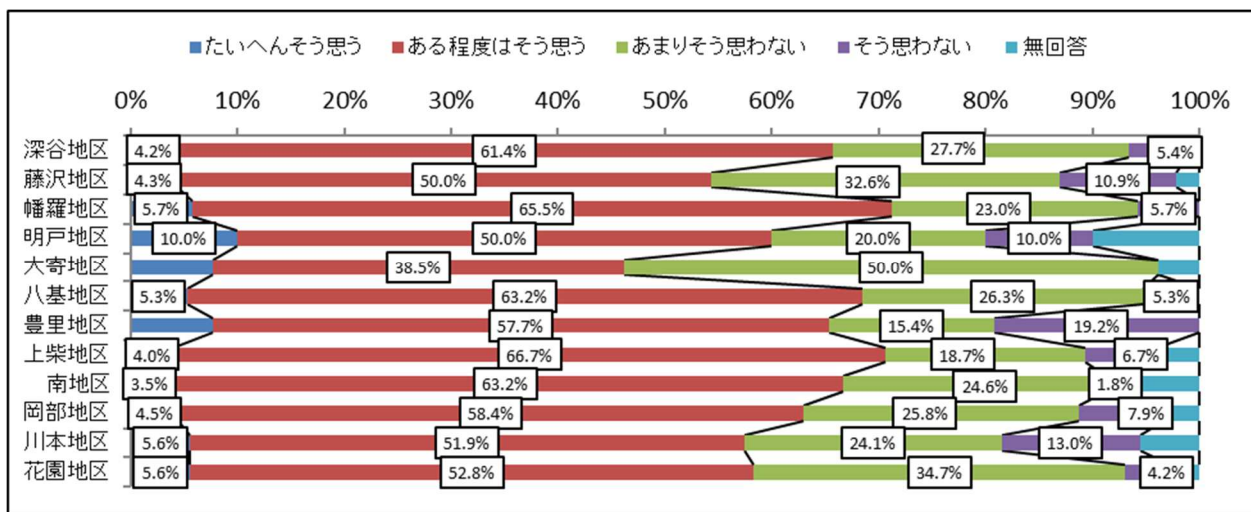
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が64.2%であるのに対して、女性は64.6%となっています。

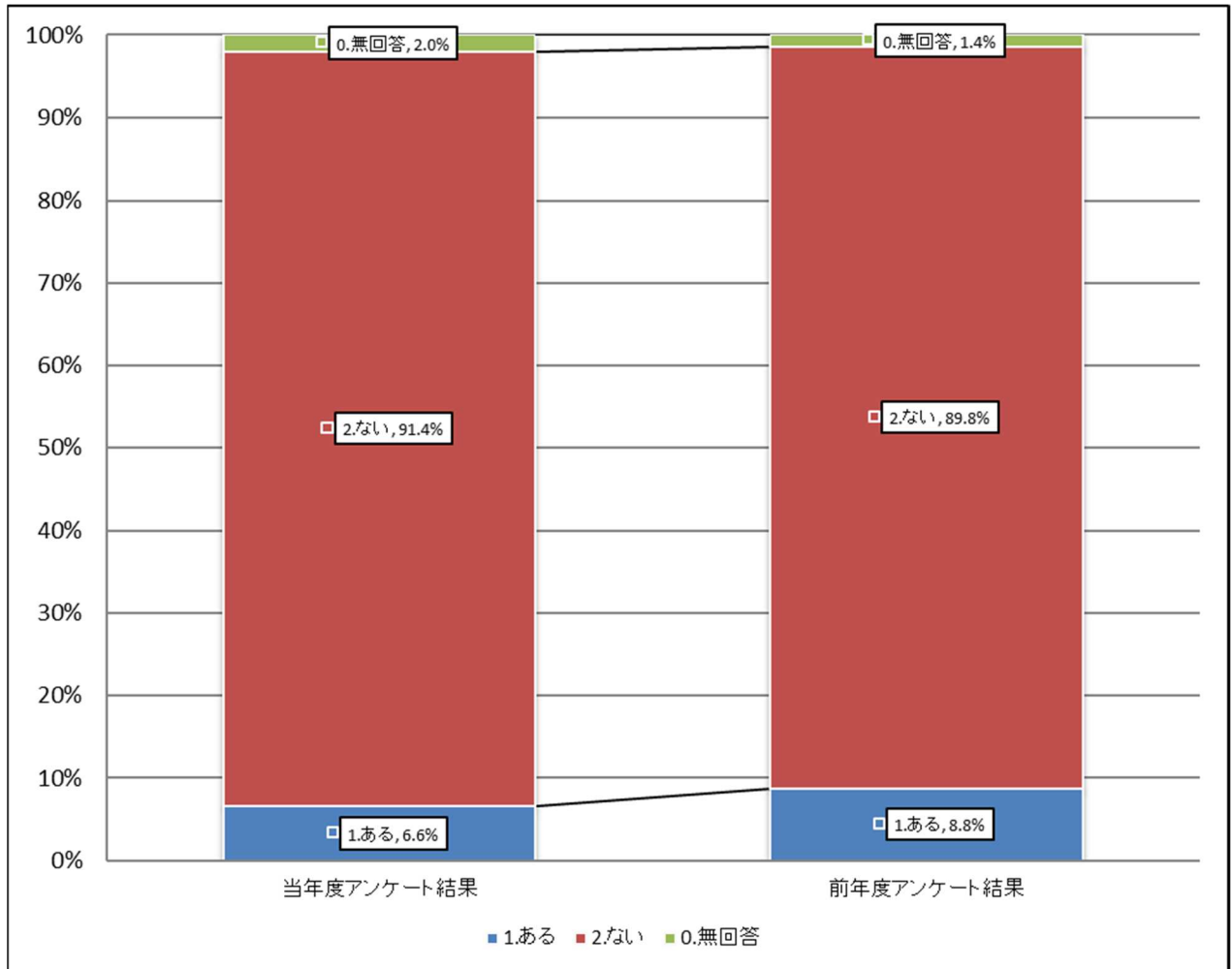
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（59.1%）、女性が40歳代（53.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が30歳代（男性72.4%）、女性が20歳代（73.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（46.2%）であり、次いで川本地区（57.4%）となっています。最も多いのは幡羅地区（71.3%）であり、次いで上柴地区（70.7%）となっています。

この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



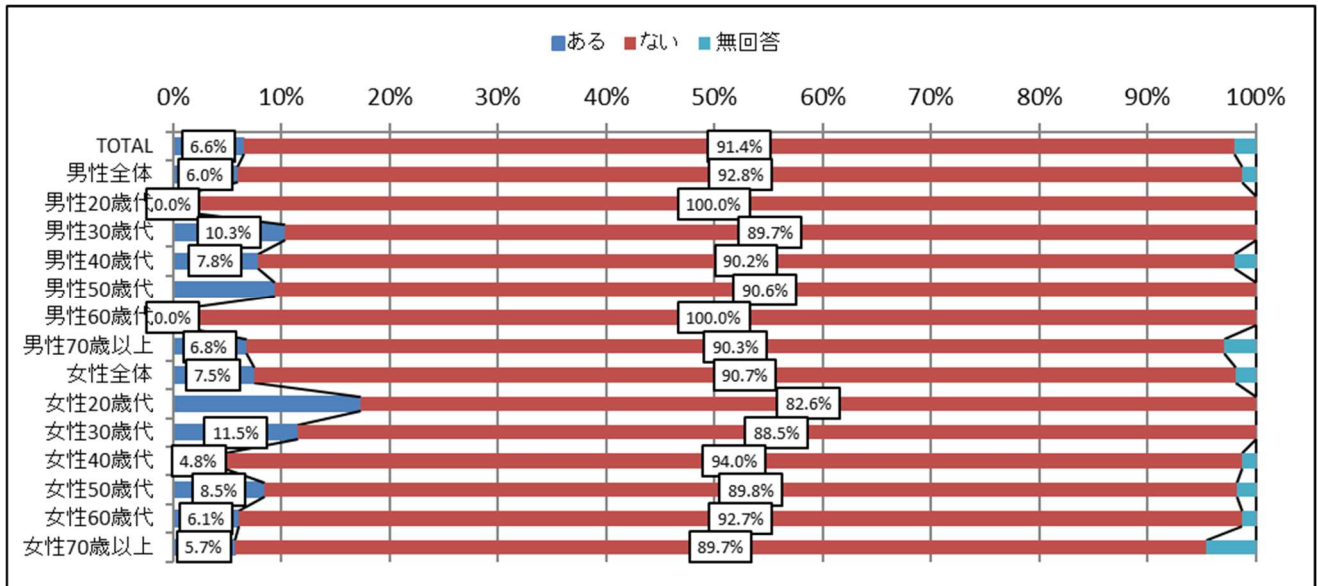
「ある」と回答した人の割合が 6.6%、「ない」と回答した人の割合が 91.4%となっています。

ほとんどの市民が、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったと回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ない」と回答した人の割合は 89.8%であり、前年度アンケートと比較して、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったとの回答が微増したことがうかがえます。

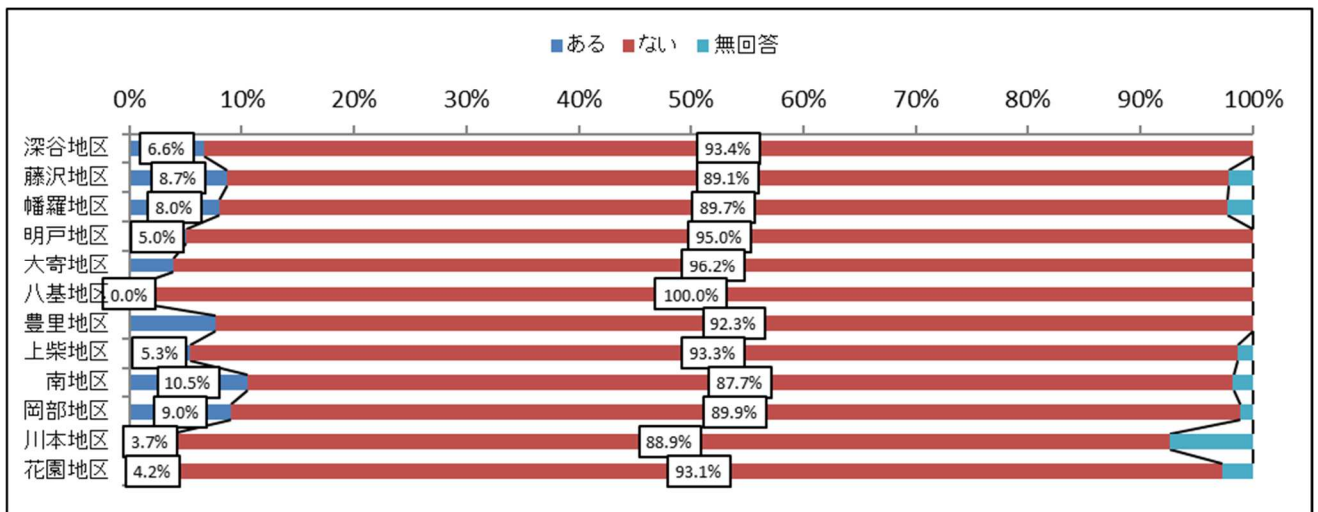
母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	757	6.6%	91.4%	2.0%	100.0%
男性全体	332	6.0%	92.8%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	18	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	10.3%	89.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	7.8%	90.2%	2.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	9.4%	90.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	6.8%	90.3%	2.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	7.5%	90.7%	1.8%	100.0%
女性 20 歳代	23	17.4%	82.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	11.5%	88.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	4.8%	94.0%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	8.5%	89.8%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	6.1%	92.7%	1.2%	100.0%
女性 70 歳以上	87	5.7%	89.7%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	6.6%	93.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	8.7%	89.1%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	8.0%	89.7%	2.3%	100.0%
明戸地区	20	5.0%	95.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	5.3%	93.3%	1.3%	100.0%
南地区	57	10.5%	87.7%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	9.0%	89.9%	1.1%	100.0%
川本地区	54	3.7%	88.9%	7.4%	100.0%
花園地区	72	4.2%	93.1%	2.8%	100.0%
無回答	20	5.0%	80.0%	15.0%	100.0%

➤ 性別・世代別



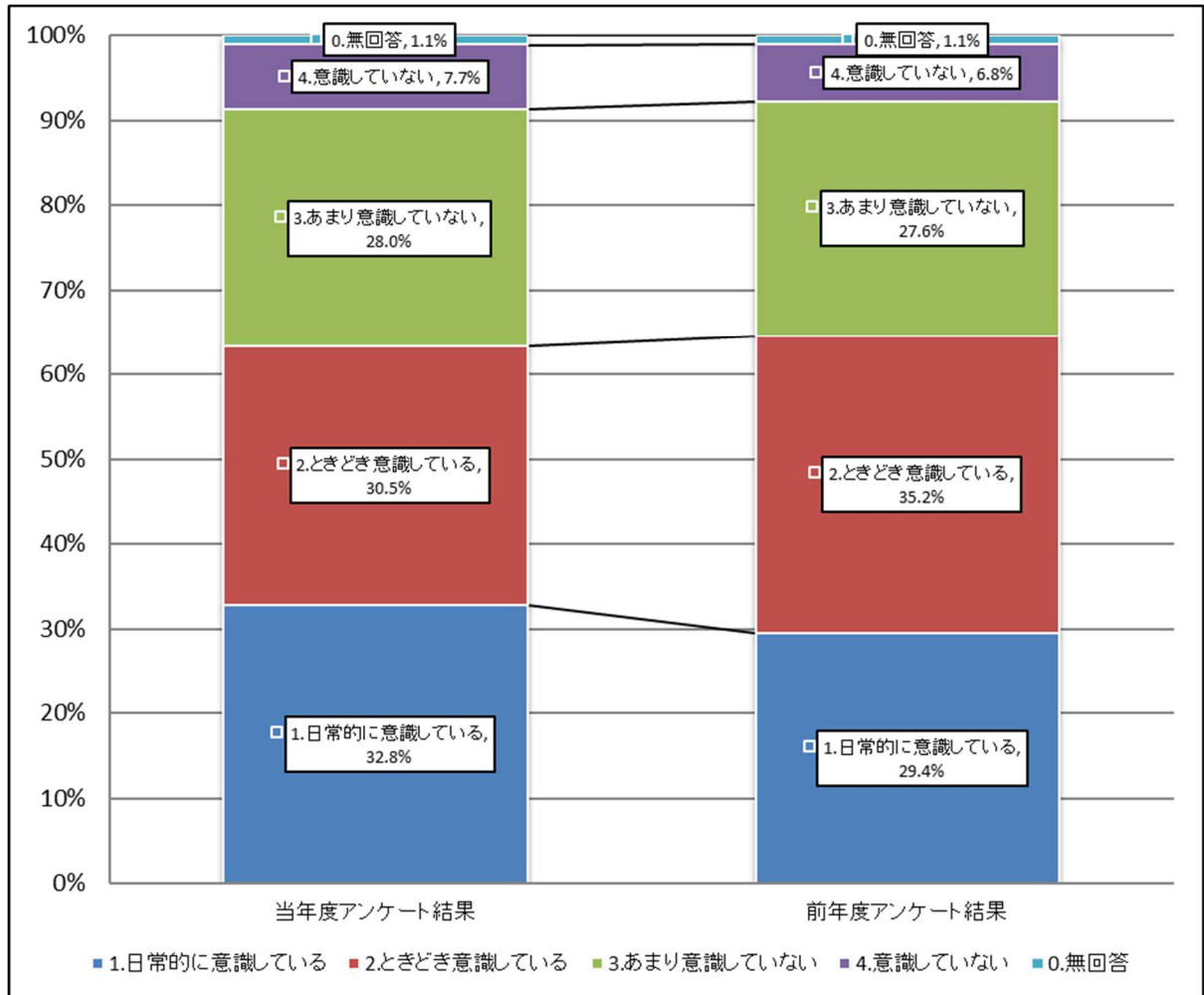
性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 6.0%であるのに対して、女性は 7.5%となっています。このことから、男女差はほとんどないことがうかがえます。また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 20 歳代、60 歳代 (0.0%)、女性は 40 歳代 (4.8%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 30 歳代 (10.3%) であり、女性は 20 歳代 (17.4%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (0.0%) であり、次いで川本地区 (3.7%) となっています。最も多いのは南地区 (10.5%) であり、次いで岡部地区 (9.0%) となっています。地域によってポイントに差があることがうかがえます。

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



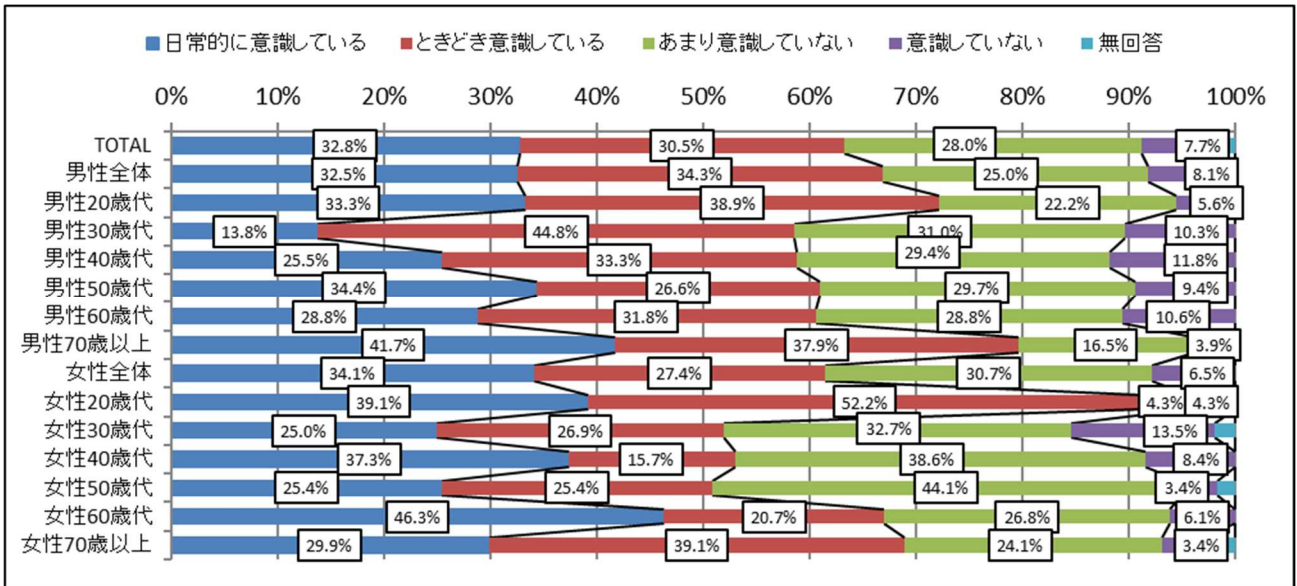
「日常的に意識している」と回答した人の割合が 32.8%と最も多く、次いで「ときどき意識している」と回答した人の割合が 30.5%、「あまり意識していない」と回答した人の割合が 28.0%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.7%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 63.3%であり、市民の 6 割以上が日頃からお互いの人権について尊重しながら生活していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 64.6%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	757	32.8%	30.5%	28.0%	7.7%	1.1%	100.0%
男性全体	332	32.5%	34.3%	25.0%	8.1%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	33.3%	38.9%	22.2%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	13.8%	44.8%	31.0%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	25.5%	33.3%	29.4%	11.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	34.4%	26.6%	29.7%	9.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	28.8%	31.8%	28.8%	10.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	41.7%	37.9%	16.5%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	34.1%	27.4%	30.7%	6.5%	1.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	39.1%	52.2%	4.3%	4.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	25.0%	26.9%	32.7%	13.5%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	37.3%	15.7%	38.6%	8.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	25.4%	25.4%	44.1%	3.4%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	46.3%	20.7%	26.8%	6.1%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	29.9%	39.1%	24.1%	3.4%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	31.9%	28.9%	32.5%	6.0%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	41.3%	30.4%	17.4%	10.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	35.6%	32.2%	23.0%	8.0%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	25.0%	40.0%	25.0%	10.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	38.5%	30.8%	15.4%	15.4%	0.0%	100.0%
八基地区	19	47.4%	36.8%	15.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	38.5%	19.2%	30.8%	11.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	38.7%	20.0%	34.7%	6.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	35.1%	33.3%	24.6%	7.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	31.5%	33.7%	27.0%	6.7%	1.1%	100.0%
川本地区	54	29.6%	29.6%	35.2%	5.6%	0.0%	100.0%
花園地区	72	20.8%	38.9%	29.2%	9.7%	1.4%	100.0%
無回答	20	15.0%	25.0%	30.0%	10.0%	20.0%	100.0%

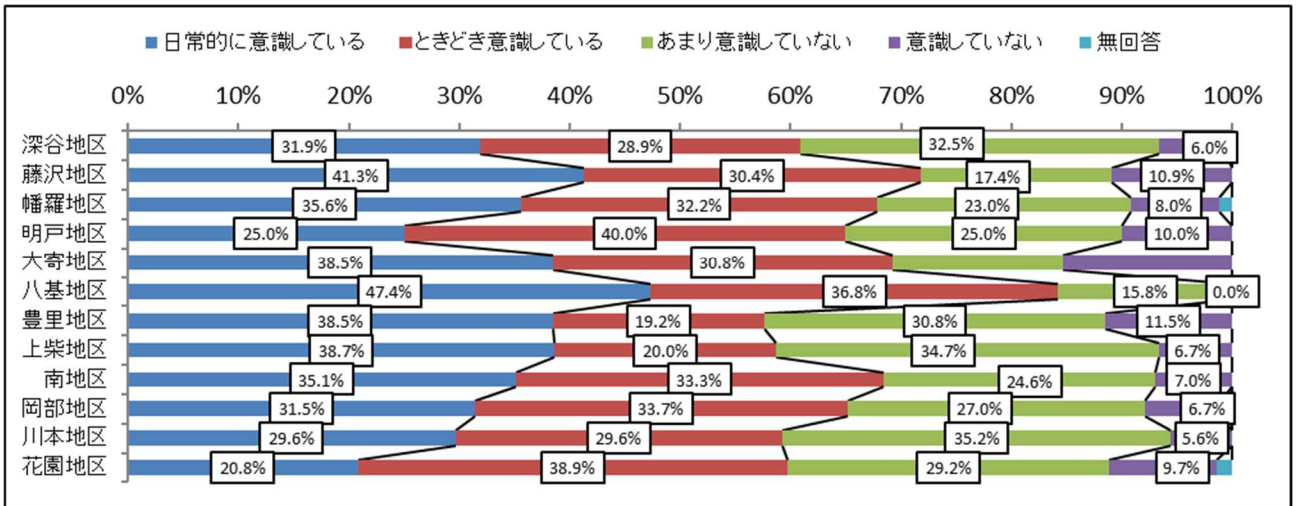
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は男性が66.9%であるのに対して、女性は61.5%となっています。

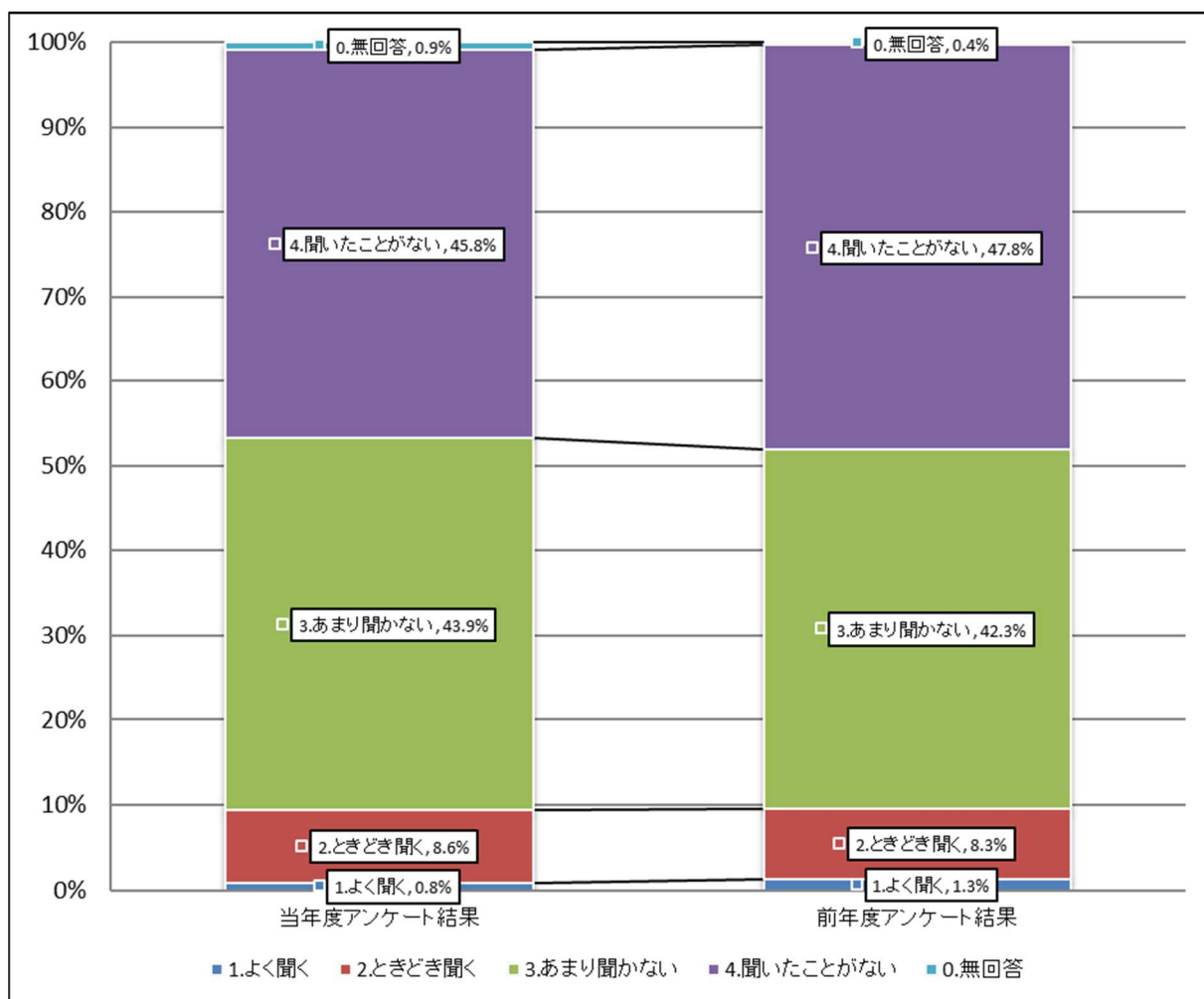
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(58.6%)、女性が50歳代(50.8%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上(79.6%)、女性が20歳代(91.3%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(57.7%)であり、次いで上柴地区(58.7%)となっています。最も多いのは八基地区(84.2%)であり、次に藤沢地区(71.7%)となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



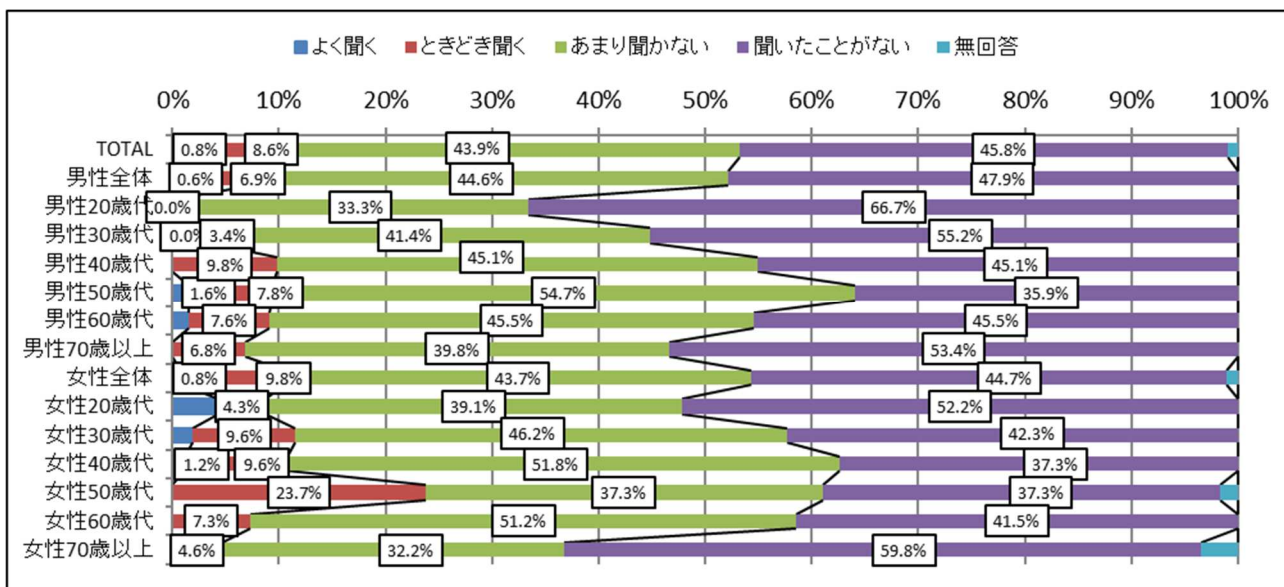
「聞いたことがない」と回答した人の割合が 45.8%と最も多く、次いで「あまり聞かない」と回答した人の割合が 43.9%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 8.6%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 0.8%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 9.4%であり、深谷市内における外国人とのトラブルはごくわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 9.6%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	757	0.8%	8.6%	43.9%	45.8%	0.9%	100.0%
男性全体	332	0.6%	6.9%	44.6%	47.9%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	3.4%	41.4%	55.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	0.0%	9.8%	45.1%	45.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	1.6%	7.8%	54.7%	35.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	1.5%	7.6%	45.5%	45.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	0.0%	6.8%	39.8%	53.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	0.8%	9.8%	43.7%	44.7%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	4.3%	39.1%	52.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	1.9%	9.6%	46.2%	42.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	1.2%	9.6%	51.8%	37.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	0.0%	23.7%	37.3%	37.3%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	0.0%	7.3%	51.2%	41.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	0.0%	4.6%	32.2%	59.8%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	1.2%	12.7%	42.2%	42.8%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	0.0%	8.7%	52.2%	39.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	0.0%	6.9%	43.7%	48.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	5.0%	0.0%	45.0%	50.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	0.0%	11.5%	38.5%	50.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	0.0%	63.2%	36.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	0.0%	7.7%	23.1%	69.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	1.3%	12.0%	44.0%	42.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	0.0%	12.3%	50.9%	36.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	0.0%	10.1%	51.7%	38.2%	0.0%	100.0%
川本地区	54	1.9%	1.9%	40.7%	55.6%	0.0%	100.0%
花園地区	72	0.0%	4.2%	33.3%	61.1%	1.4%	100.0%
無回答	20	5.0%	0.0%	45.0%	35.0%	15.0%	100.0%

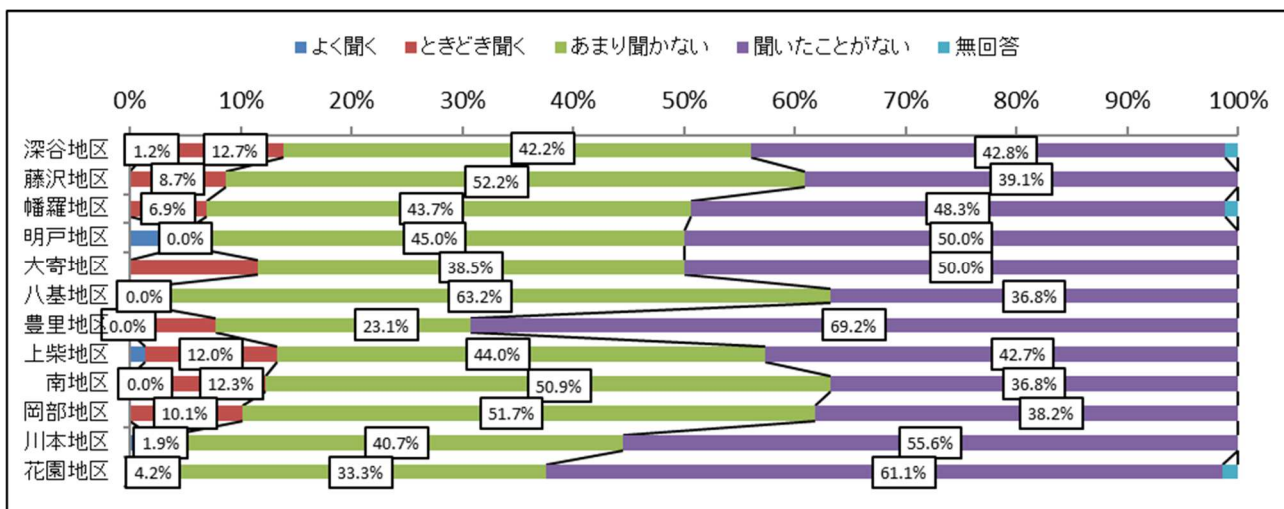
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は男性が7.5%であるのに対して、女性は10.6%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代(0.0%)であり、女性は70歳以上(4.6%)であり、一方で、最も多い世代は、男性は40歳代(9.8%)であり、女性は50歳代(23.7%)となっています。

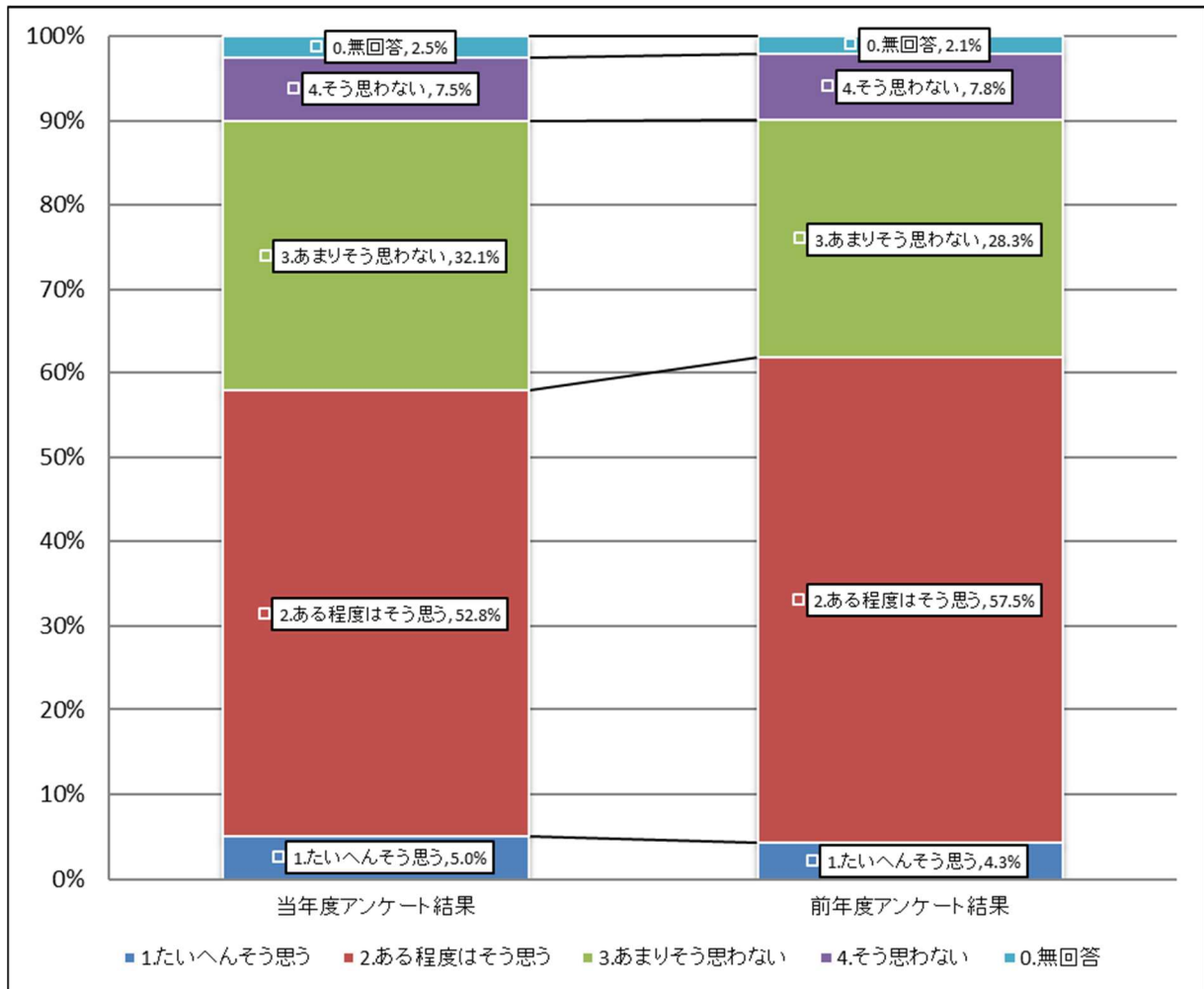
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(0.0%)であり、次いで川本地区(3.7%)となっています。最も多いのは深谷地区(13.9%)であり、次いで上柴地区(13.3%)となっています。

②男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～6）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

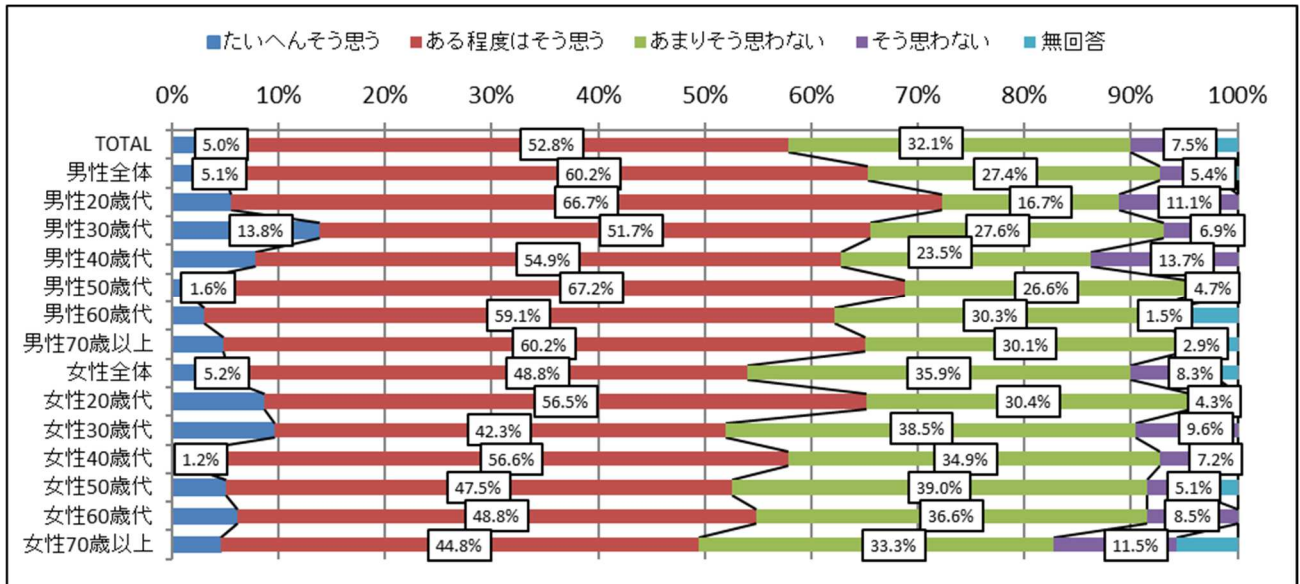


「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 52.8%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 32.1%、「そう思わない」と回答した人の割合が 7.5%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 5.0%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 57.9%であり、性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じている市民が6割近くを占めることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 61.8%であり、前年度アンケートと比較して、性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていないと感じているとの回答増加がうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	757	5.0%	52.8%	32.1%	7.5%	2.5%	100.0%
男性全体	332	5.1%	60.2%	27.4%	5.4%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	66.7%	16.7%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	13.8%	51.7%	27.6%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	7.8%	54.9%	23.5%	13.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	1.6%	67.2%	26.6%	4.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	3.0%	59.1%	30.3%	1.5%	6.1%	100.0%
男性 70 歳以上	103	4.9%	60.2%	30.1%	2.9%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	5.2%	48.8%	35.9%	8.3%	1.8%	100.0%
女性 20 歳代	23	8.7%	56.5%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	9.6%	42.3%	38.5%	9.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	1.2%	56.6%	34.9%	7.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	5.1%	47.5%	39.0%	5.1%	3.4%	100.0%
女性 60 歳代	82	6.1%	48.8%	36.6%	8.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	4.6%	44.8%	33.3%	11.5%	5.7%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	5.4%	54.2%	31.3%	7.8%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	4.3%	63.0%	30.4%	2.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	3.4%	56.3%	32.2%	5.7%	2.3%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	40.0%	25.0%	30.0%	5.0%	100.0%
大寄地区	26	7.7%	50.0%	34.6%	3.8%	3.8%	100.0%
八基地区	19	0.0%	47.4%	42.1%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	0.0%	57.7%	26.9%	15.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	6.7%	54.7%	29.3%	6.7%	2.7%	100.0%
南地区	57	7.0%	47.4%	38.6%	5.3%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	4.5%	51.7%	36.0%	4.5%	3.4%	100.0%
川本地区	54	7.4%	57.4%	25.9%	7.4%	1.9%	100.0%
花園地区	72	5.6%	52.8%	30.6%	8.3%	2.8%	100.0%
無回答	20	5.0%	20.0%	40.0%	15.0%	20.0%	100.0%

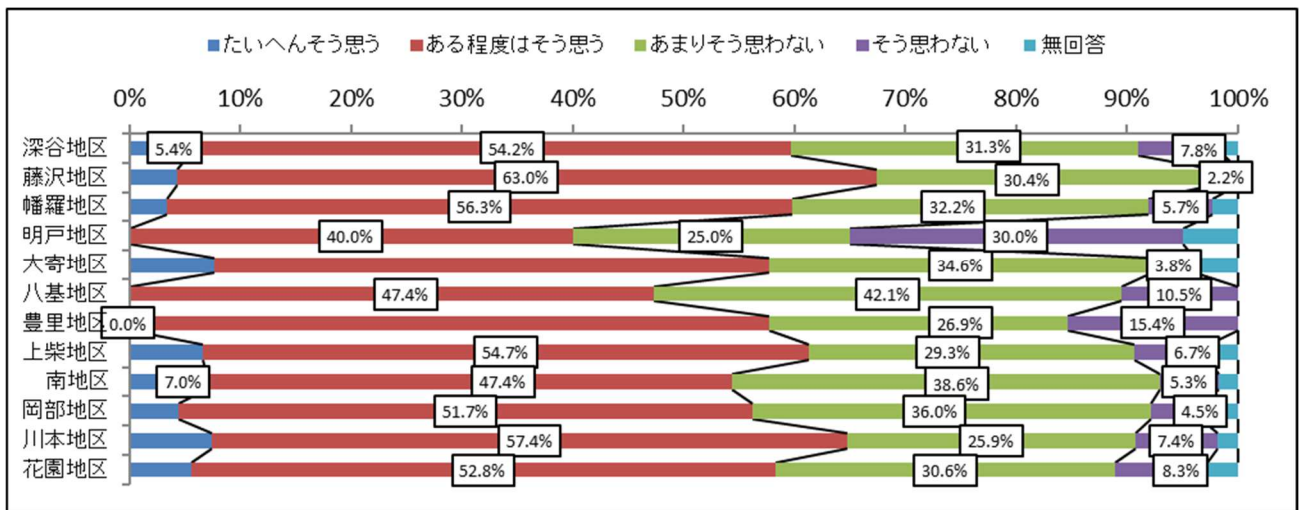
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が65.4%であるのに対して、女性は54.0%となっています。

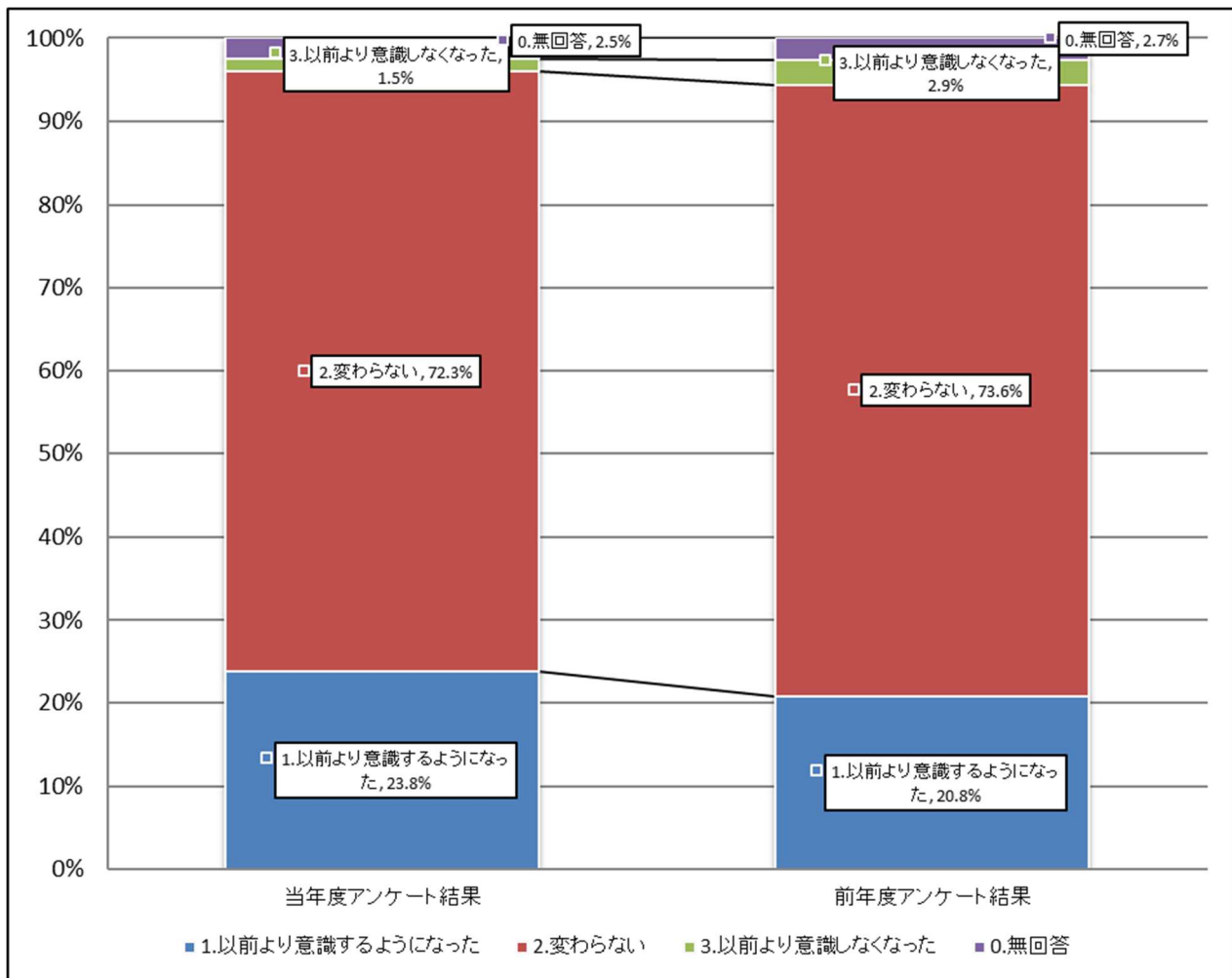
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代(62.1%)、女性は70歳以上(49.4%)であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに20歳代(男性72.2%、女性65.2%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(40.0%)であり、次いで南地区(54.4%)となっています。最も多いのは藤沢地区(67.4%)であり、次いで南地区、川本地区(64.8%)となっています。

男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

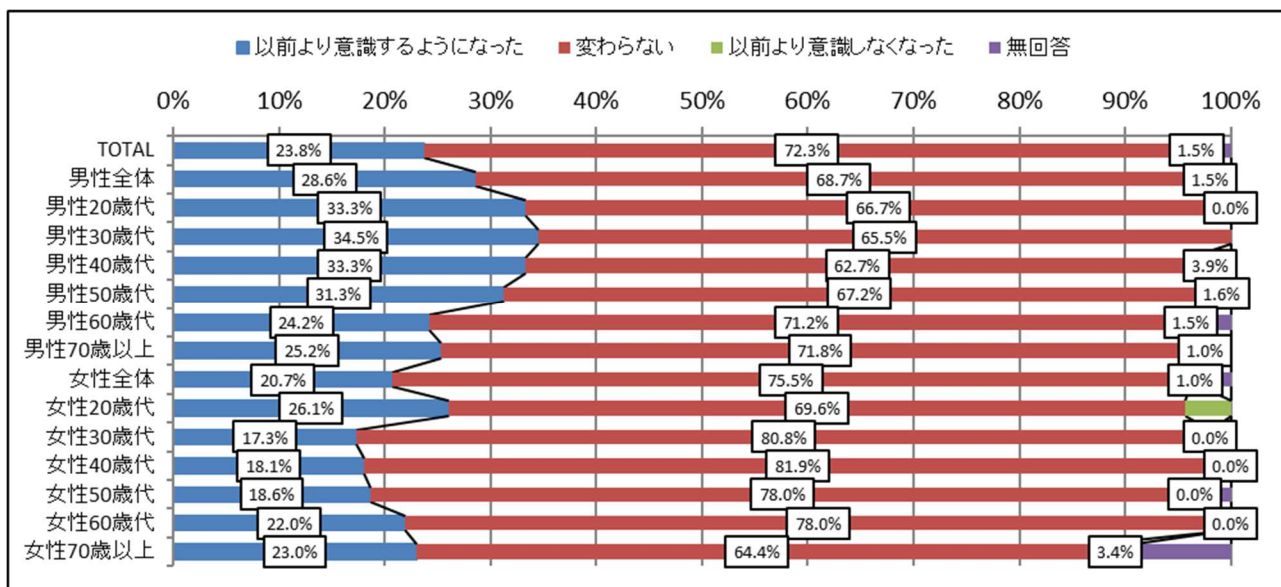


「変わらない」と回答した人の割合が 72.3%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 23.8%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が 1.5%となっており、男女共同参画に対する意識は、以前から変わっていないと感じる市民が大多数を占めていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 20.8%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	757	23.8%	72.3%	1.5%	2.5%	100.0%
男性全体	332	28.6%	68.7%	1.5%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	18	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	34.5%	65.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	33.3%	62.7%	3.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	31.3%	67.2%	1.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	24.2%	71.2%	1.5%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	25.2%	71.8%	1.0%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	20.7%	75.5%	1.0%	2.8%	100.0%
女性 20 歳代	23	26.1%	69.6%	4.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	17.3%	80.8%	0.0%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	18.1%	81.9%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	18.6%	78.0%	0.0%	3.4%	100.0%
女性 60 歳代	82	22.0%	78.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	23.0%	64.4%	3.4%	9.2%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	21.7%	72.9%	3.0%	2.4%	100.0%
藤沢地区	46	34.8%	65.2%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	19.5%	75.9%	2.3%	2.3%	100.0%
明戸地区	20	35.0%	65.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	34.6%	61.5%	0.0%	3.8%	100.0%
八基地区	19	26.3%	68.4%	0.0%	5.3%	100.0%
豊里地区	26	15.4%	76.9%	7.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	28.0%	69.3%	1.3%	1.3%	100.0%
南地区	57	33.3%	64.9%	0.0%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	21.3%	77.5%	0.0%	1.1%	100.0%
川本地区	54	20.4%	77.8%	0.0%	1.9%	100.0%
花園地区	72	13.9%	80.6%	1.4%	4.2%	100.0%
無回答	20	30.0%	50.0%	0.0%	20.0%	100.0%

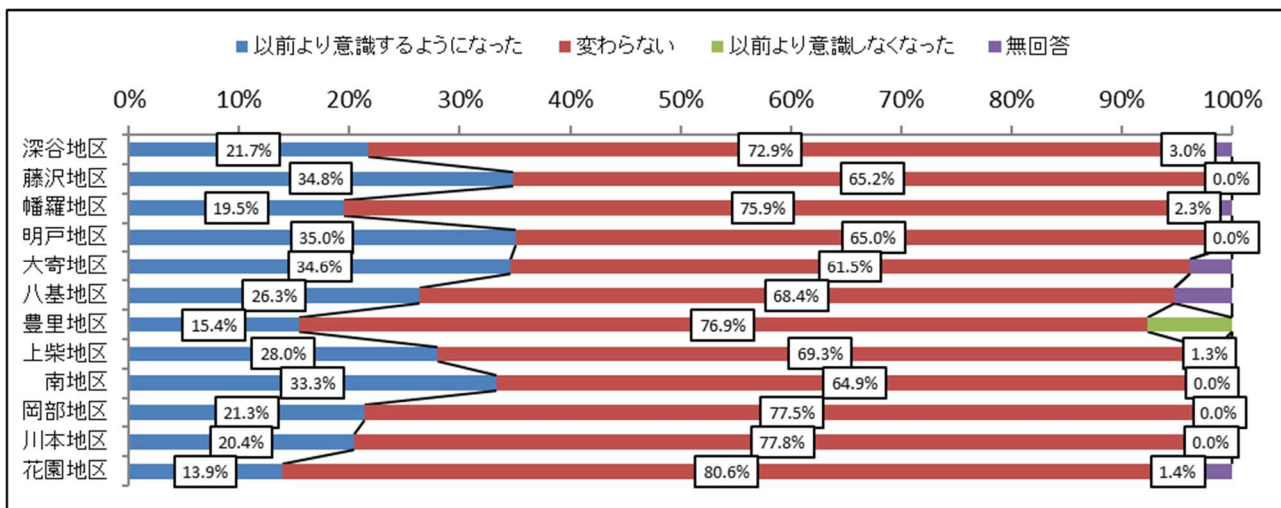
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が 28.6%であるのに対して、女性は 20.7%となっています。このことから、男女によって差があることがうかがえます。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 60 歳代 (24.2%)、女性が 30 歳代 (17.3%) となっています。一方で、最も多い世代は、男性が 30 歳代 (34.5%)、女性が 20 歳代 (26.1%) となっています。

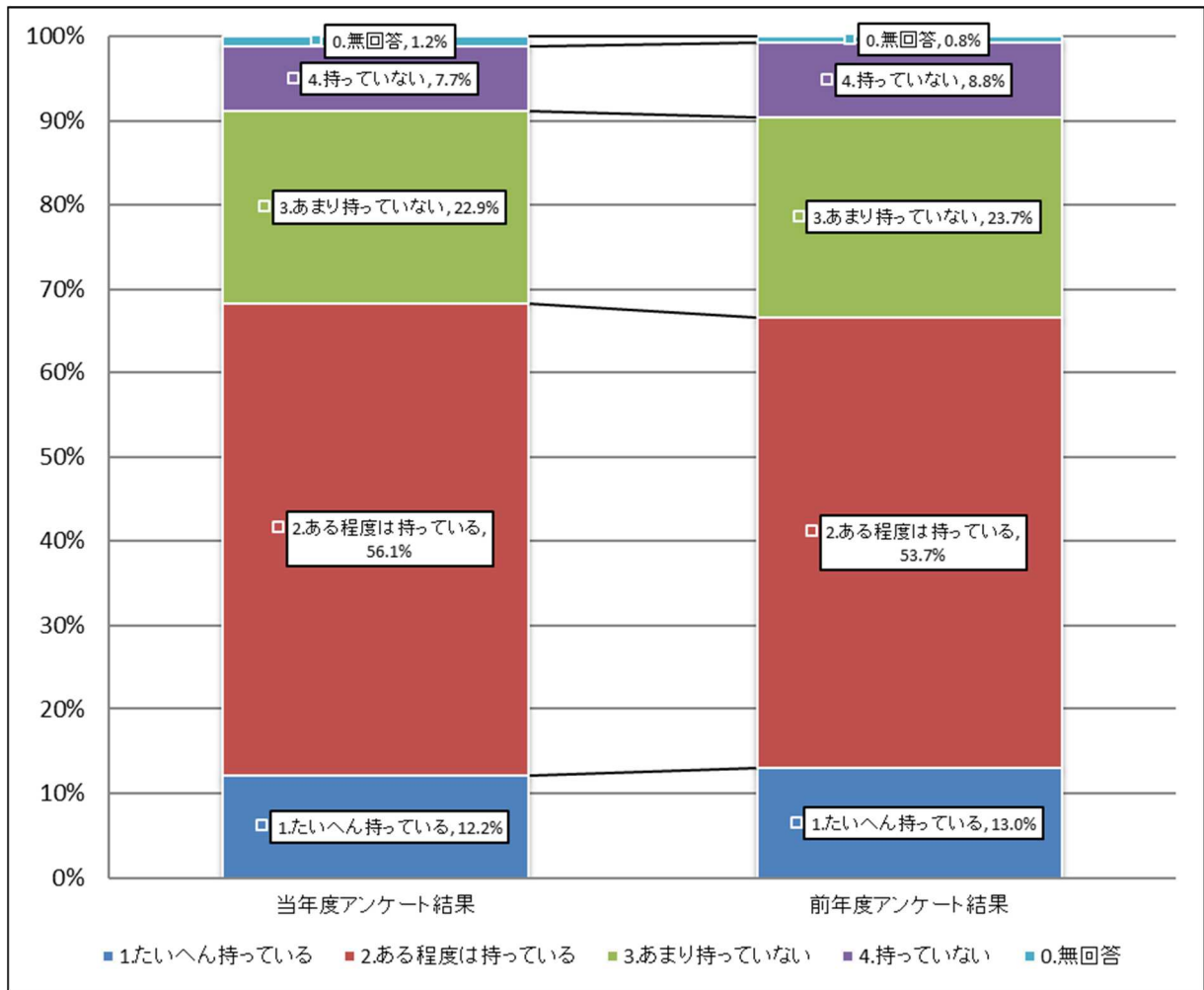
➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、花園地区 (13.9%) であり、次いで豊里地区 (15.4%) となっています。最も多いのは明戸地区 (35.0%) であり、次いで藤沢地区 (34.8%) となっています。

④ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問7～9）

市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。



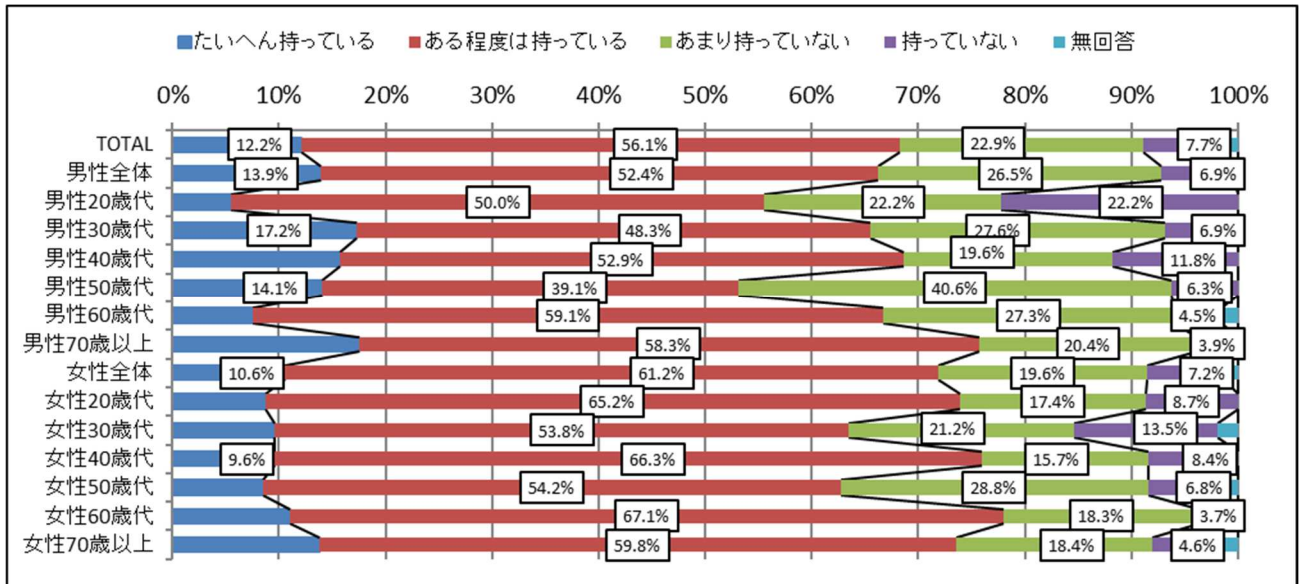
「ある程度は持っている」と回答した人の割合が 56.1%と最も多く、次いで「あまり持っていない」と回答した人の割合が 22.9%、「たいへん持っている」と回答した人の割合が 12.2%、「持っていない」と回答した人の割合が最も少なく 7.7%となっています。

「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 68.3%であり、7 割近くの市民は、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 66.7%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		たいへん持っている	ある程度は持っている	あまり持っていない	持っていない	無回答	合計
TOTAL	757	12.2%	56.1%	22.9%	7.7%	1.2%	100.0%
男性全体	332	13.9%	52.4%	26.5%	6.9%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	5.6%	50.0%	22.2%	22.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	48.3%	27.6%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	15.7%	52.9%	19.6%	11.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	14.1%	39.1%	40.6%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	7.6%	59.1%	27.3%	4.5%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	17.5%	58.3%	20.4%	3.9%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	10.6%	61.2%	19.6%	7.2%	1.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	8.7%	65.2%	17.4%	8.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	9.6%	53.8%	21.2%	13.5%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	9.6%	66.3%	15.7%	8.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	8.5%	54.2%	28.8%	6.8%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	11.0%	67.1%	18.3%	3.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	13.8%	59.8%	18.4%	4.6%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	14.5%	53.6%	22.9%	7.8%	1.2%	100.0%
藤沢地区	46	15.2%	67.4%	13.0%	4.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	13.8%	56.3%	23.0%	5.7%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	10.0%	60.0%	20.0%	10.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	11.5%	46.2%	23.1%	15.4%	3.8%	100.0%
八基地地区	19	0.0%	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	26.9%	50.0%	3.8%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	10.7%	61.3%	25.3%	1.3%	1.3%	100.0%
南地区	57	17.5%	64.9%	14.0%	3.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	10.1%	49.4%	32.6%	7.9%	0.0%	100.0%
川本地区	54	11.1%	42.6%	33.3%	13.0%	0.0%	100.0%
花園地区	72	5.6%	65.3%	20.8%	6.9%	1.4%	100.0%
無回答	20	0.0%	45.0%	15.0%	25.0%	15.0%	100.0%

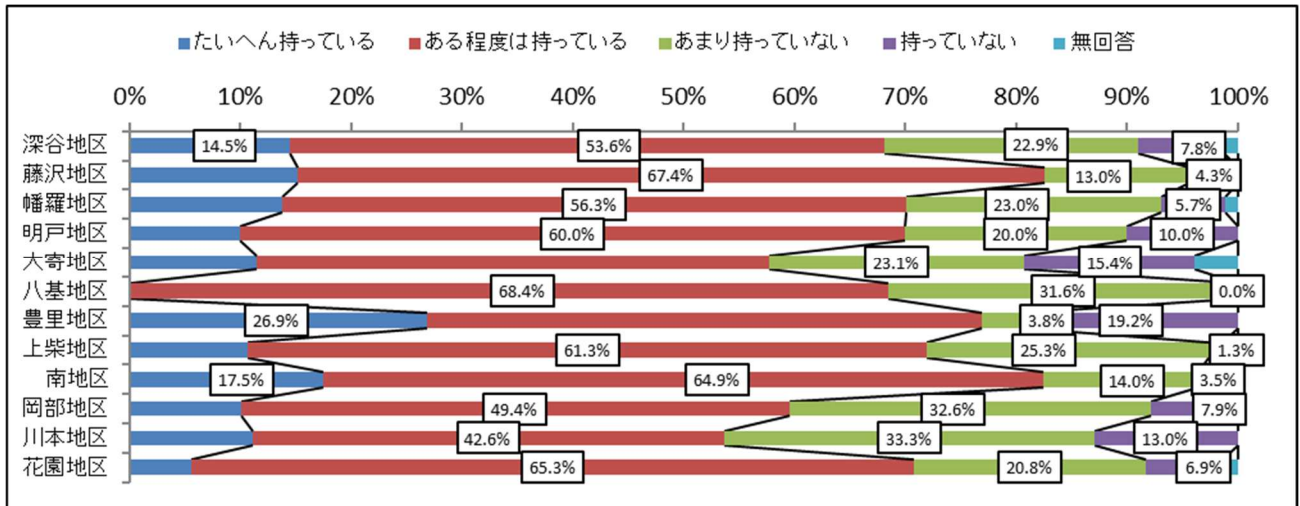
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は男性が66.3%であるのに対して、女性は71.8%となっています。

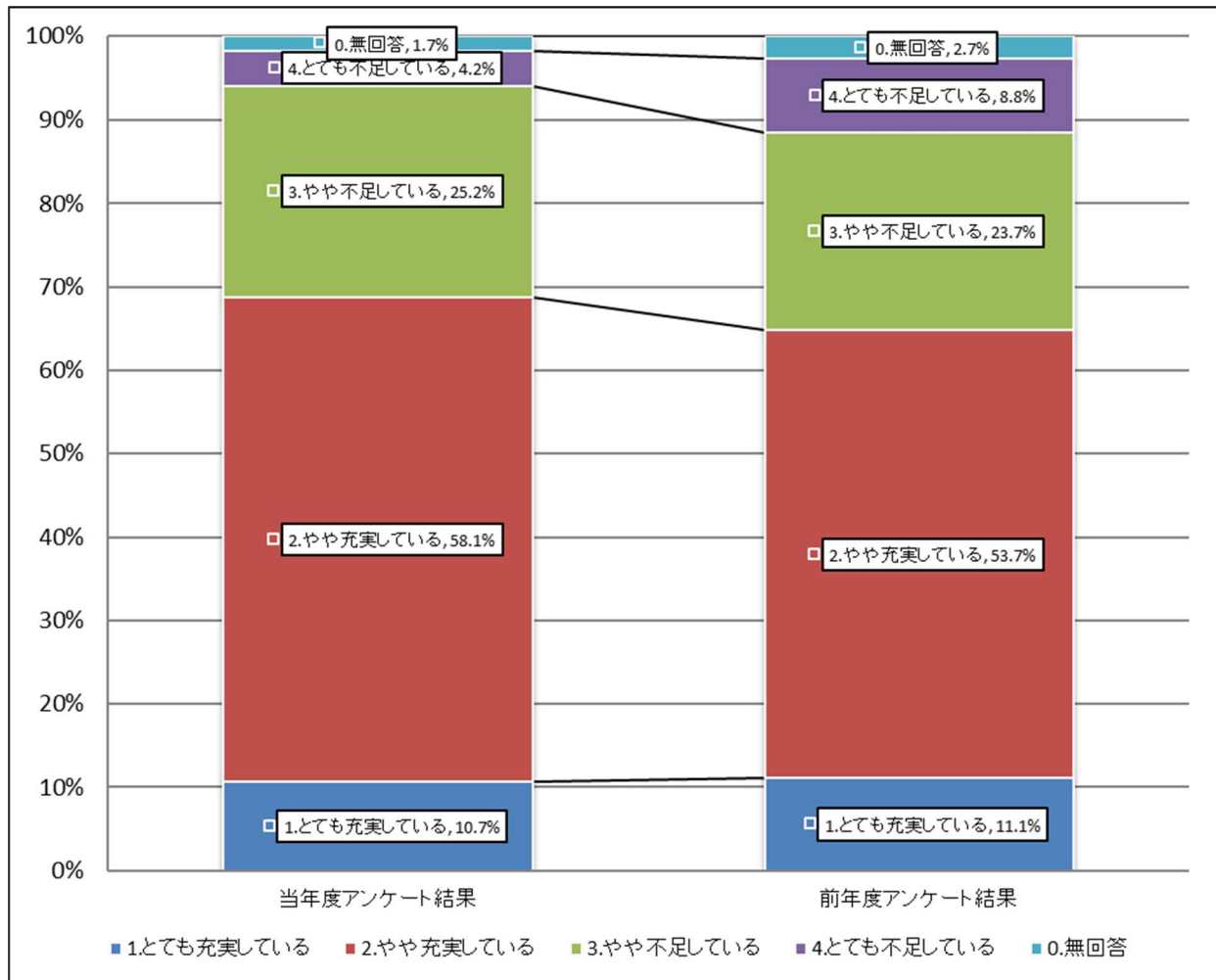
また、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに50歳代（男性53.1%、女性62.7%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上（75.7%）であり、女性は60歳代（78.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区（53.7%）であり、次いで大寄地区（57.7%）となっています。最も多いのは藤沢地区（82.6%）であり、次いで南地区（82.5%）となっています。

市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。



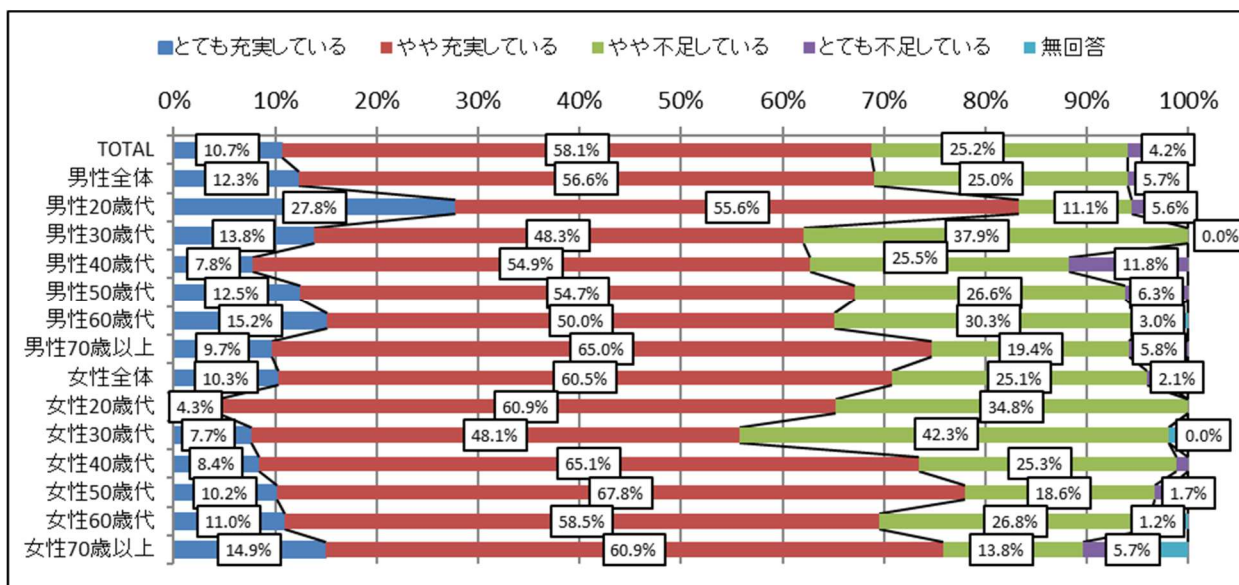
「やや充実している」と回答した人の割合が 58.1%と最も多く、次いで「やや不足している」と回答した人の割合が 25.2%、「とても充実している」と回答した人の割合が 10.7%、「とても不足している」と回答した人の割合が最も少なく 4.2%となっています。

「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 68.8%であり、市から得られる情報および公表手段は充実していると感じている市民が約 7 割近くを占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 64.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きく増加したことがうかがえます。

母集団		とても充実している	やや充実している	やや不足している	とても不足している	無回答	合計
TOTAL	757	10.7%	58.1%	25.2%	4.2%	1.7%	100.0%
男性全体	332	12.3%	56.6%	25.0%	5.7%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	13.8%	48.3%	37.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	7.8%	54.9%	25.5%	11.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	12.5%	54.7%	26.6%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	15.2%	50.0%	30.3%	3.0%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	9.7%	65.0%	19.4%	5.8%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	10.3%	60.5%	25.1%	2.1%	2.1%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	60.9%	34.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	7.7%	48.1%	42.3%	0.0%	1.9%	100.0%
女性 40 歳代	83	8.4%	65.1%	25.3%	1.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	10.2%	67.8%	18.6%	1.7%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	11.0%	58.5%	26.8%	1.2%	2.4%	100.0%
女性 70 歳以上	87	14.9%	60.9%	13.8%	5.7%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	13.9%	60.2%	22.9%	2.4%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	13.0%	56.5%	21.7%	8.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	9.2%	56.3%	28.7%	3.4%	2.3%	100.0%
明戸地区	20	5.0%	70.0%	10.0%	10.0%	5.0%	100.0%
大寄地区	26	11.5%	42.3%	38.5%	7.7%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	47.4%	36.8%	0.0%	5.3%	100.0%
豊里地区	26	30.8%	38.5%	26.9%	3.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	8.0%	61.3%	25.3%	4.0%	1.3%	100.0%
南地区	57	12.3%	66.7%	19.3%	0.0%	1.8%	100.0%
岡部地区	89	9.0%	62.9%	21.3%	4.5%	2.2%	100.0%
川本地区	54	5.6%	51.9%	31.5%	11.1%	0.0%	100.0%
花園地区	72	8.3%	63.9%	23.6%	2.8%	1.4%	100.0%
無回答	20	0.0%	35.0%	45.0%	5.0%	15.0%	100.0%

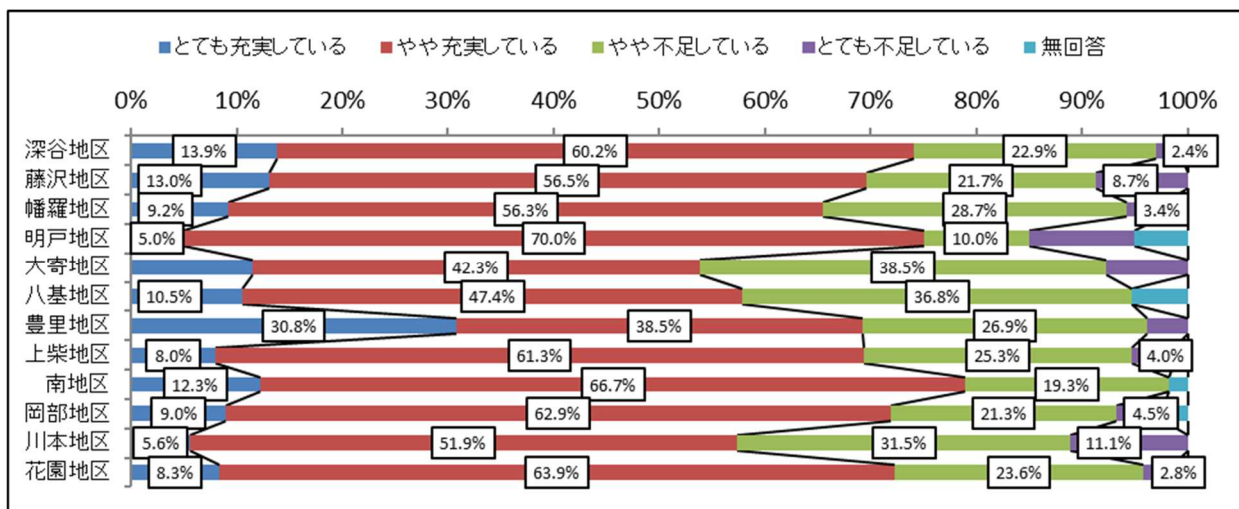
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は男性が69.0%であるのに対して、女性は70.8%となっています。

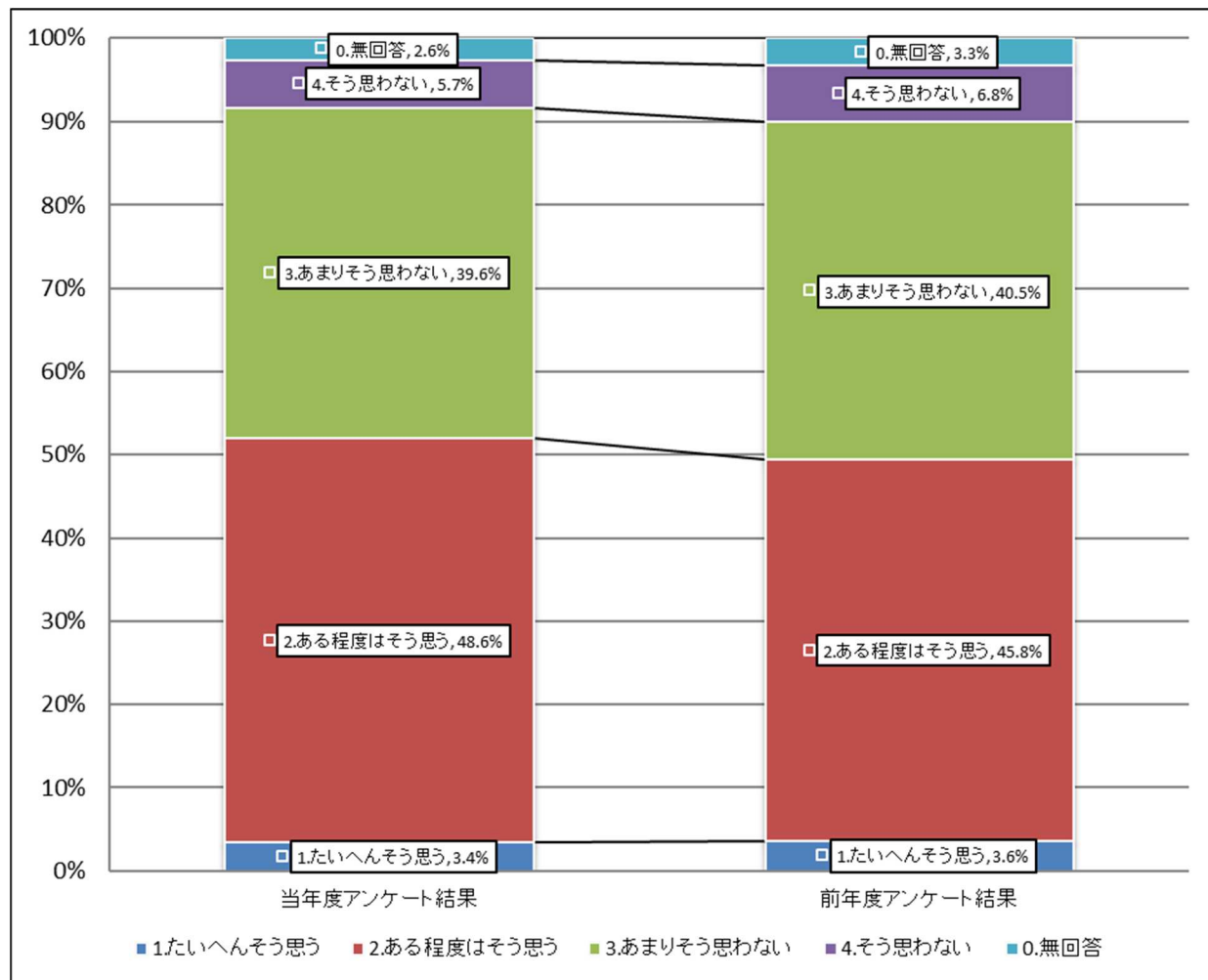
また、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(62.1%)、女性は30歳代(55.8%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が20歳代(83.3%)であり、女性は50歳代(78.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区(53.8%)であり、次いで川本地区(57.4%)となっています。最も多いのは南地区(78.9%)であり、次いで明戸地区(75.0%)となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



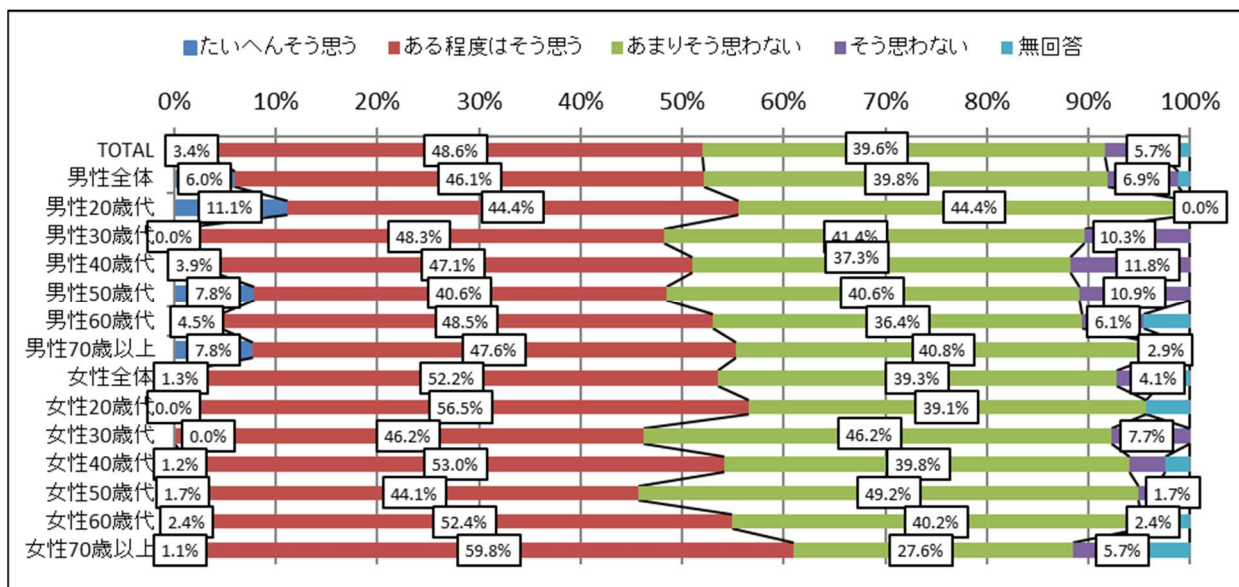
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 48.6%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 39.6%、「そう思わない」と回答した人の割合が 5.7%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 3.4%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 52.0%であり、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じている市民が約半数を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 49.4%であり、前年度アンケートと比較して、増加したことがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	757	3.4%	48.6%	39.6%	5.7%	2.6%	100.0%
男性全体	332	6.0%	46.1%	39.8%	6.9%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	18	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	48.3%	41.4%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	3.9%	47.1%	37.3%	11.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	7.8%	40.6%	40.6%	10.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	4.5%	48.5%	36.4%	6.1%	4.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	7.8%	47.6%	40.8%	2.9%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	1.3%	52.2%	39.3%	4.1%	3.1%	100.0%
女性 20 歳代	23	0.0%	56.5%	39.1%	0.0%	4.3%	100.0%
女性 30 歳代	52	0.0%	46.2%	46.2%	7.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	1.2%	53.0%	39.8%	3.6%	2.4%	100.0%
女性 50 歳代	59	1.7%	44.1%	49.2%	1.7%	3.4%	100.0%
女性 60 歳代	82	2.4%	52.4%	40.2%	2.4%	2.4%	100.0%
女性 70 歳以上	87	1.1%	59.8%	27.6%	5.7%	5.7%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	4.8%	48.2%	42.2%	2.4%	2.4%	100.0%
藤沢地区	46	0.0%	63.0%	30.4%	6.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	2.3%	54.0%	40.2%	2.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	45.0%	30.0%	20.0%	5.0%	100.0%
大寄地区	26	3.8%	38.5%	46.2%	7.7%	3.8%	100.0%
八基地区	19	0.0%	57.9%	36.8%	0.0%	5.3%	100.0%
豊里地区	26	11.5%	42.3%	26.9%	19.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	2.7%	45.3%	45.3%	4.0%	2.7%	100.0%
南地区	57	5.3%	43.9%	43.9%	1.8%	5.3%	100.0%
岡部地区	89	3.4%	51.7%	39.3%	5.6%	0.0%	100.0%
川本地区	54	1.9%	46.3%	40.7%	11.1%	0.0%	100.0%
花園地区	72	4.2%	51.4%	34.7%	6.9%	2.8%	100.0%
無回答	20	0.0%	20.0%	40.0%	15.0%	25.0%	100.0%

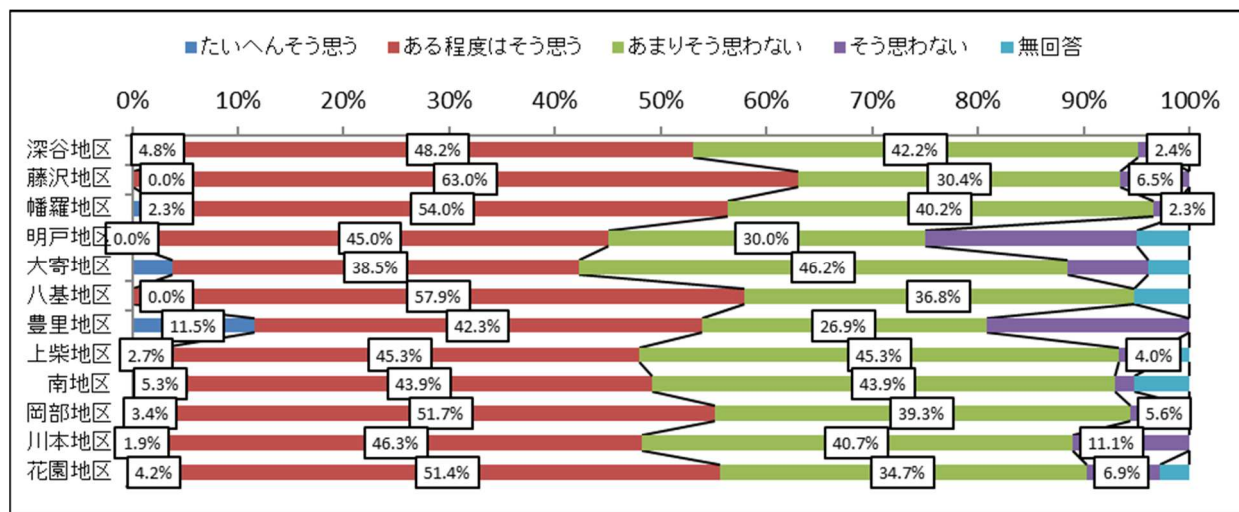
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が52.1%であるのに対して、女性は53.5%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代（48.3%）、女性は50歳代（45.8%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が20歳代（55.6%）、女性が70歳以上（60.9%）となっています。

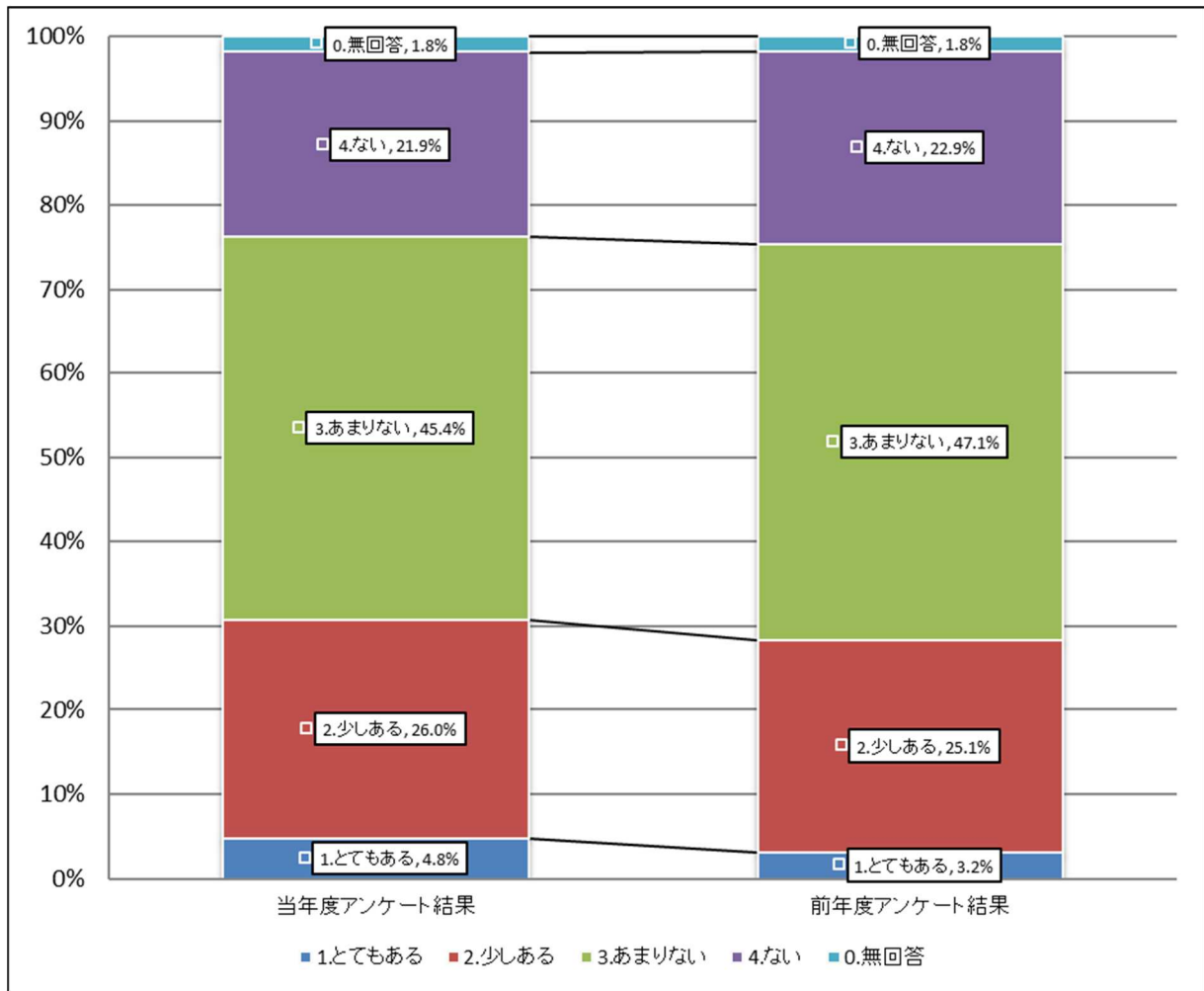
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（42.3%）であり、次いで明戸地区（45.0%）となっています。最も多いのは藤沢地区（63.0%）であり、次いで八基地区（57.9%）となっています。

④絆でつながるひとづくり（7. 問10～13）

市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。



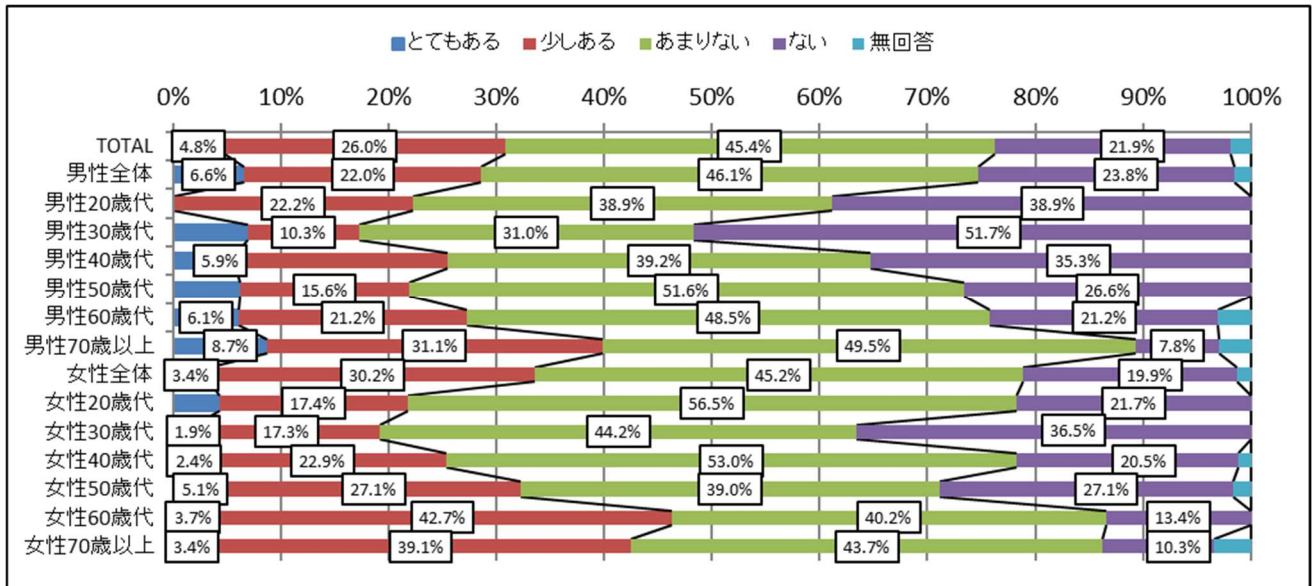
「あまりない」と回答した人の割合が 45.4%と最も多く、次いで「少しある」と回答した人の割合が 26.0%、「ない」と回答した人の割合が 21.9%、「とてもある」と回答した人の割合は最も少なく 4.8%となっています。

「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 30.8%であり、市民の多くは NPO 団体での活動やボランティア活動に対して興味をもっていないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 28.3%であり、前年度アンケートと比較して、増加したことがうかがえます。

母集団		とてもある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	757	4.8%	26.0%	45.4%	21.9%	1.8%	100.0%
男性全体	332	6.6%	22.0%	46.1%	23.8%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	18	0.0%	22.2%	38.9%	38.9%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	10.3%	31.0%	51.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	5.9%	19.6%	39.2%	35.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	6.3%	15.6%	51.6%	26.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	6.1%	21.2%	48.5%	21.2%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	8.7%	31.1%	49.5%	7.8%	2.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	3.4%	30.2%	45.2%	19.9%	1.3%	100.0%
女性 20 歳代	23	4.3%	17.4%	56.5%	21.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	1.9%	17.3%	44.2%	36.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	2.4%	22.9%	53.0%	20.5%	1.2%	100.0%
女性 50 歳代	59	5.1%	27.1%	39.0%	27.1%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	3.7%	42.7%	40.2%	13.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	3.4%	39.1%	43.7%	10.3%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	4.8%	23.5%	44.6%	26.5%	0.6%	100.0%
藤沢地区	46	0.0%	34.8%	47.8%	17.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	6.9%	32.2%	35.6%	24.1%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	0.0%	35.0%	45.0%	20.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	11.5%	23.1%	38.5%	23.1%	3.8%	100.0%
八基地区	19	0.0%	36.8%	52.6%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	19.2%	19.2%	30.8%	30.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	2.7%	38.7%	34.7%	22.7%	1.3%	100.0%
南地区	57	7.0%	31.6%	43.9%	12.3%	5.3%	100.0%
岡部地区	89	4.5%	14.6%	57.3%	22.5%	1.1%	100.0%
川本地区	54	1.9%	24.1%	57.4%	16.7%	0.0%	100.0%
花園地区	72	4.2%	16.7%	54.2%	22.2%	2.8%	100.0%
無回答	20	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	100.0%

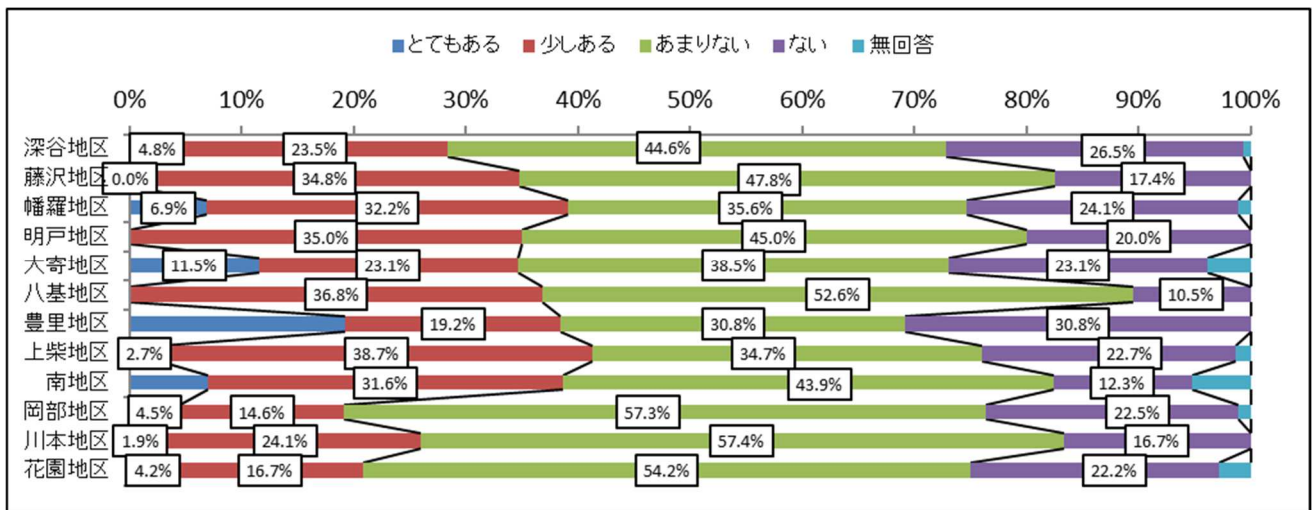
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が28.6%であるのに対して、女性は33.6%となっています。

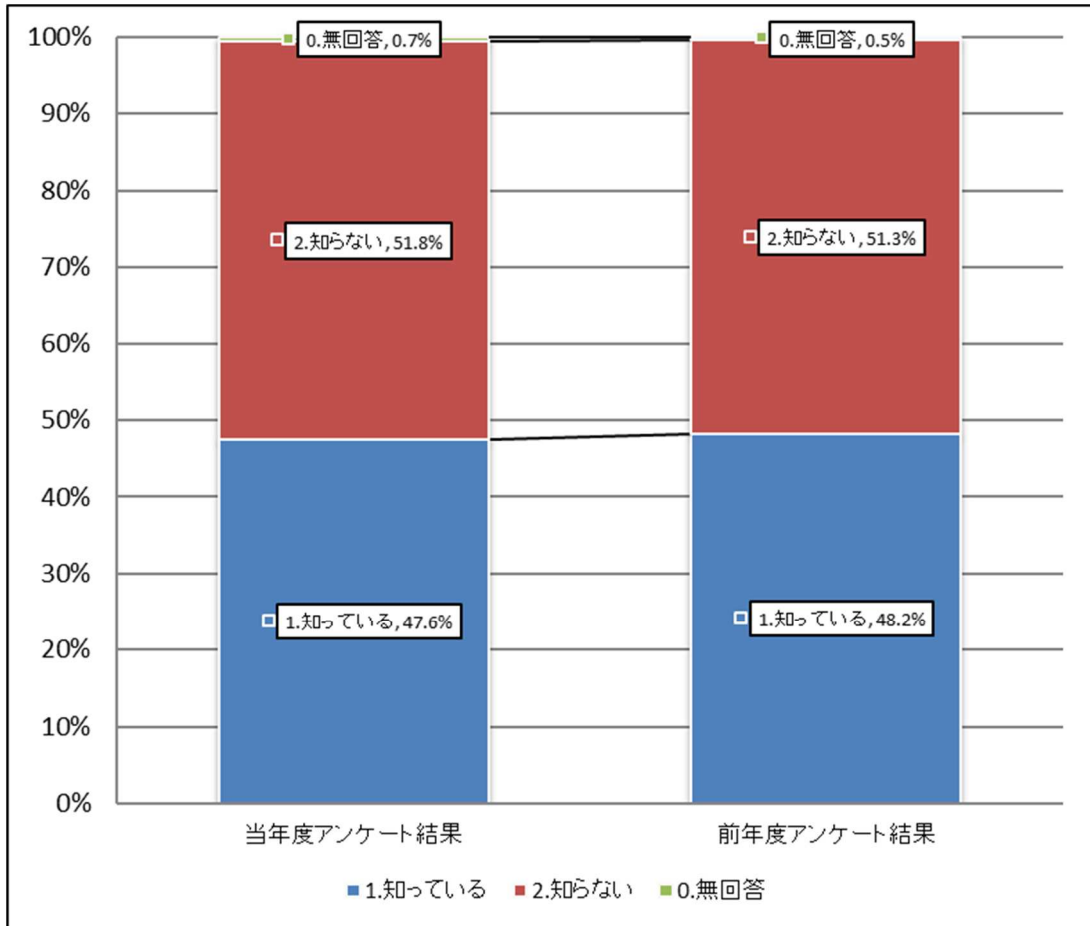
「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代（17.2%）、女性が30歳代（19.2%）となっています。最も多い世代は、男性が70歳以上（男性39.8%）、女性が60歳代（46.3%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区（19.1%）であり、次いで花園地区（20.8%）となっています。最も多いのは上柴地区（41.3%）であり、次いで幡羅地区（39.1%）となっています。

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

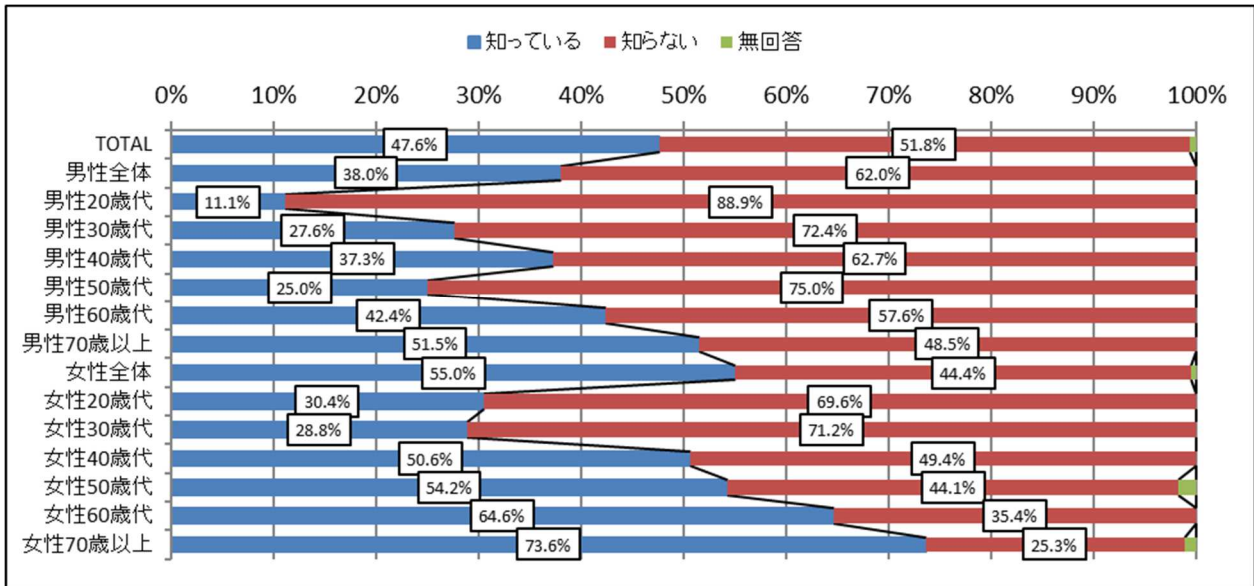


「知らない」と回答した人の割合は51.8%、「知っている」と回答した人の割合は47.6%であり、過半数の人が市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は48.2%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	757	47.6%	51.8%	0.7%	100.0%
男性全体	332	38.0%	62.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	18	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	27.6%	72.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	37.3%	62.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	42.4%	57.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	103	51.5%	48.5%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	55.0%	44.4%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	23	30.4%	69.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	28.8%	71.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	50.6%	49.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	59	54.2%	44.1%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	64.6%	35.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	73.6%	25.3%	1.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	47.0%	53.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	47.8%	52.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	47.1%	51.7%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	35.0%	65.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	42.3%	57.7%	0.0%	100.0%
八基地区	19	47.4%	52.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	46.2%	53.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	61.3%	38.7%	0.0%	100.0%
南地区	57	64.9%	35.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	37.1%	62.9%	0.0%	100.0%
川本地区	54	38.9%	61.1%	0.0%	100.0%
花園地区	72	47.2%	51.4%	1.4%	100.0%
無回答	20	45.0%	40.0%	15.0%	100.0%

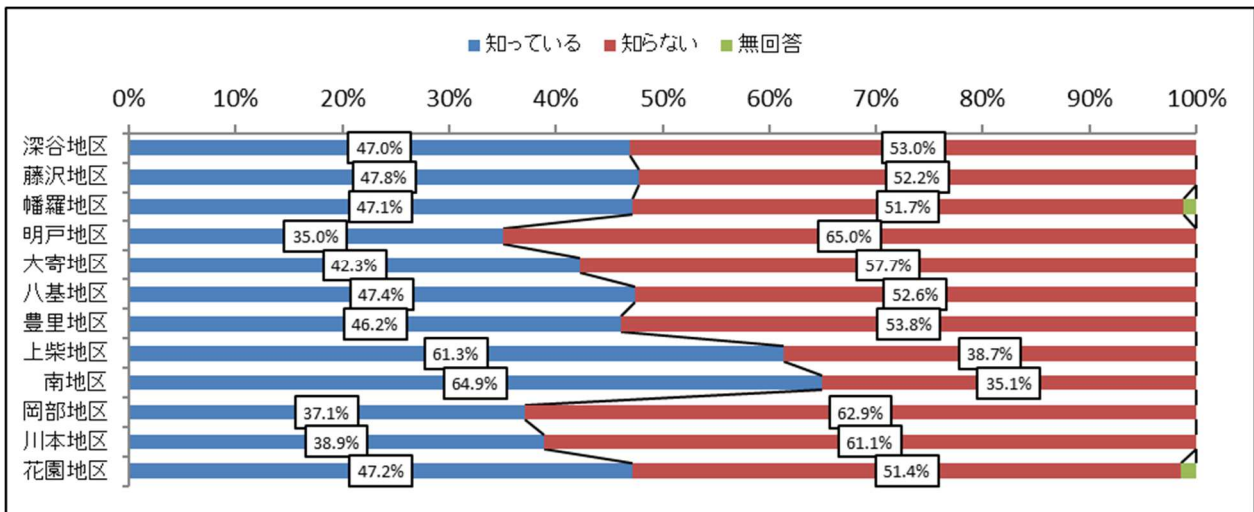
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が 38.0%であるのに対して、女性は 55.0%となっています。男女によって、差があることがうかがえます。

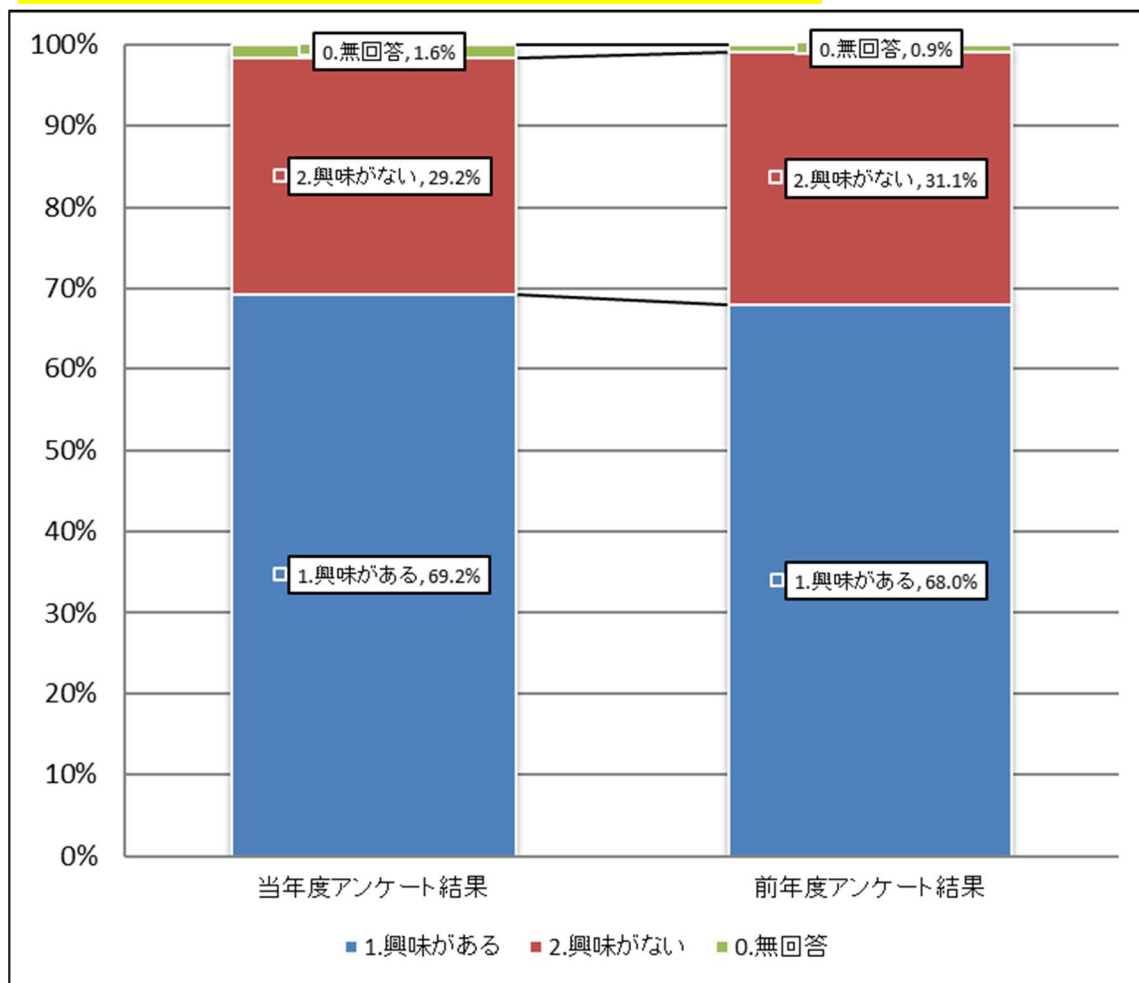
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 20 歳代 (11.1%)、女性が 30 歳代 (28.8%) であり、一方で最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上 (男性 51.5%、女性 73.6%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区 (35.0%) であり、次いで岡部地区 (37.1%) となっています。最も多いのは南地区 (64.9%) であり、次いで上柴地区 (61.3%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

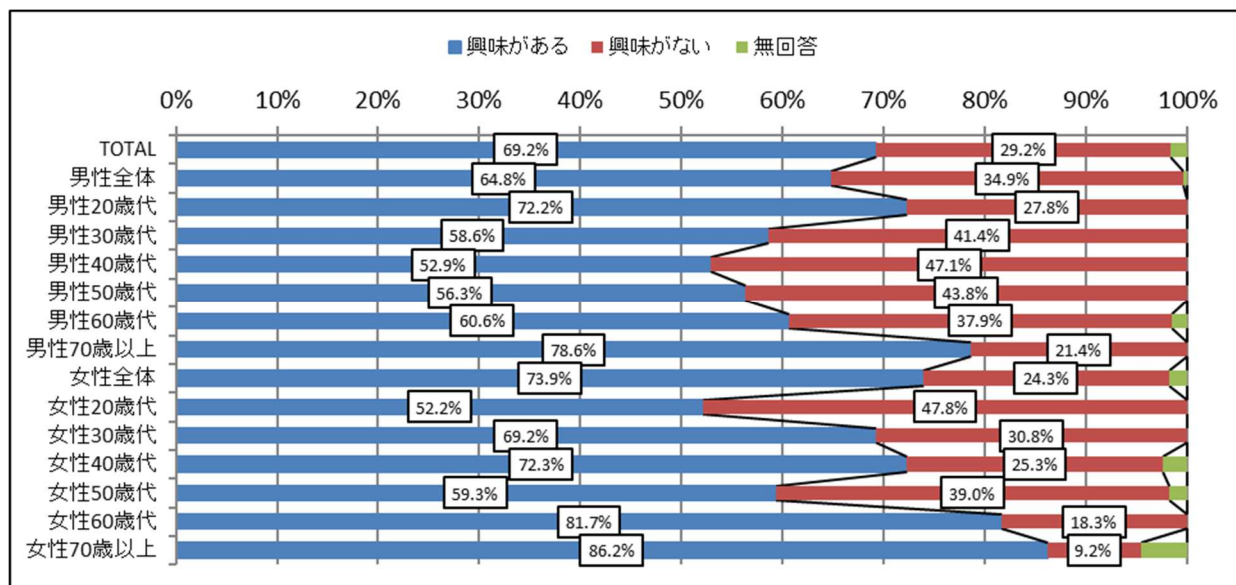


「興味がある」と回答した人の割合は 69.2%、「興味がない」と回答した人の割合は 29.2%であり、市民の 7 割近くが花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は 68.0%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	757	69.2%	29.2%	1.6%	100.0%
男性全体	332	64.8%	34.9%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	18	72.2%	27.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	58.6%	41.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	52.9%	47.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	56.3%	43.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	60.6%	37.9%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	78.6%	21.4%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	73.9%	24.3%	1.8%	100.0%
女性 20 歳代	23	52.2%	47.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	52	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	72.3%	25.3%	2.4%	100.0%
女性 50 歳代	59	59.3%	39.0%	1.7%	100.0%
女性 60 歳代	82	81.7%	18.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	87	86.2%	9.2%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	70.5%	29.5%	0.0%	100.0%
藤沢地区	46	73.9%	23.9%	2.2%	100.0%
幡羅地区	87	73.6%	25.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	20	65.0%	35.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
八基地区	19	73.7%	26.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	65.4%	34.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	70.7%	28.0%	1.3%	100.0%
南地区	57	80.7%	15.8%	3.5%	100.0%
岡部地区	89	64.0%	34.8%	1.1%	100.0%
川本地区	54	61.1%	37.0%	1.9%	100.0%
花園地区	72	70.8%	27.8%	1.4%	100.0%
無回答	20	50.0%	30.0%	20.0%	100.0%

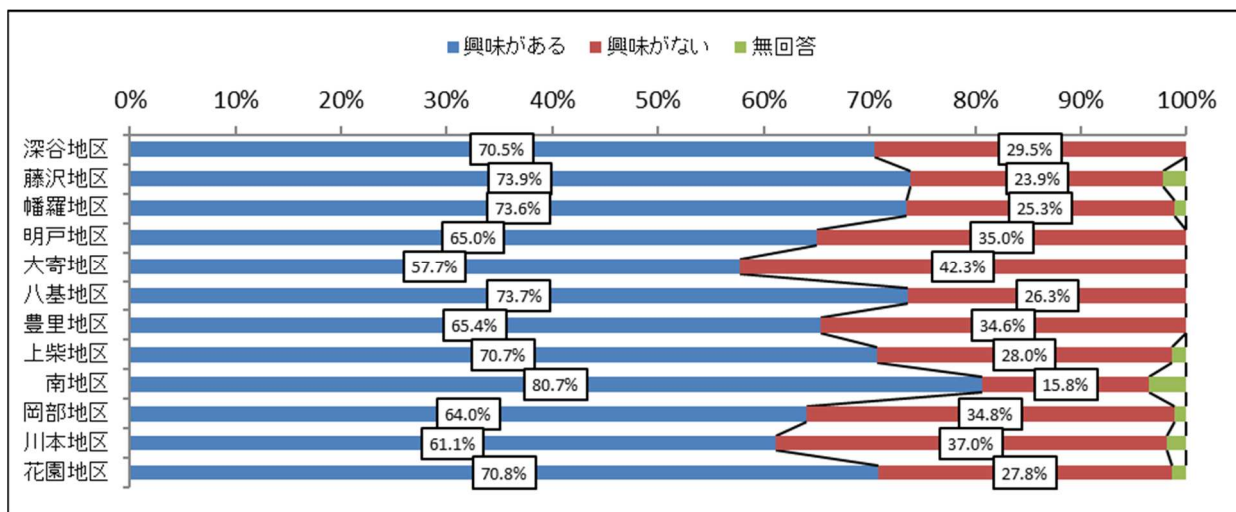
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は男性が 64.8%であるのに対して、女性は 73.9%となっています。

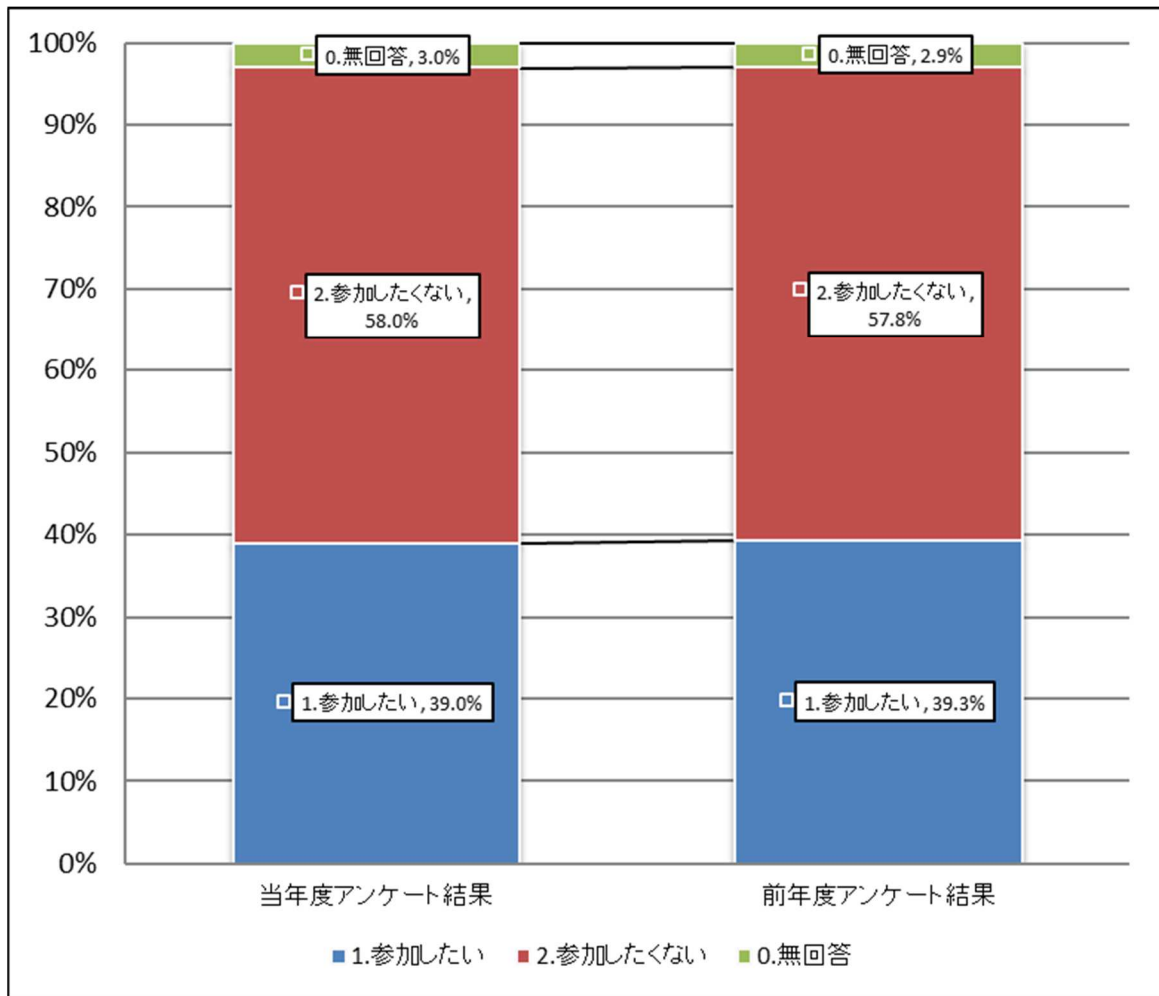
また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 40 歳代 (52.9%)、女性が 20 歳代 (52.2%) となっています。最も多い世代は、男女ともに 70 歳以上 (男性 78.6%、女性 86.2%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (57.7%) であり、次いで川本地区 (61.1%) となっています。最も多いのは南地区 (80.7%) であり、次いで藤沢地区 (73.9%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



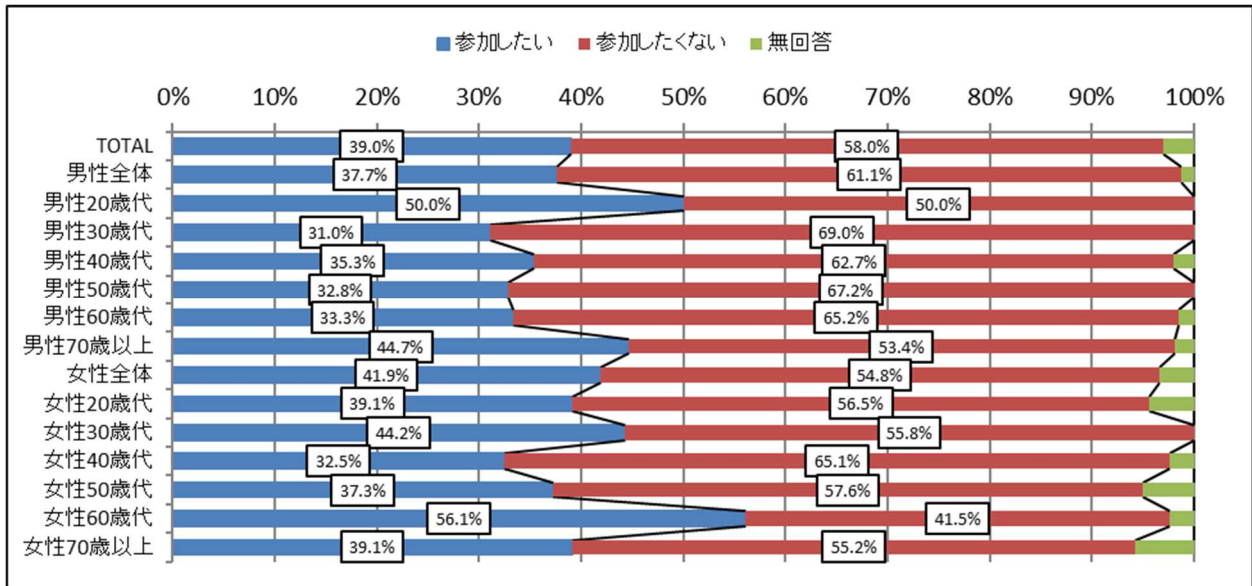
「参加したくない」と回答した人の割合は 58.0%であり、「参加したい」と回答した人の割合は 39.0%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の 69.2%を占めるものの、実際に活動に参加したいと思うまでには至っていない市民が多数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は 39.3%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変化ないことがうかがえます。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	757	39.0%	58.0%	3.0%	100.0%
男性全体	332	37.7%	61.1%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	18	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	31.0%	69.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	51	35.3%	62.7%	2.0%	100.0%
男性 50 歳代	64	32.8%	67.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	66	33.3%	65.2%	1.5%	100.0%
男性 70 歳以上	103	44.7%	53.4%	1.9%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	387	41.9%	54.8%	3.4%	100.0%
女性 20 歳代	23	39.1%	56.5%	4.3%	100.0%
女性 30 歳代	52	44.2%	55.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	83	32.5%	65.1%	2.4%	100.0%
女性 50 歳代	59	37.3%	57.6%	5.1%	100.0%
女性 60 歳代	82	56.1%	41.5%	2.4%	100.0%
女性 70 歳以上	87	39.1%	55.2%	5.7%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	166	38.0%	59.6%	2.4%	100.0%
藤沢地区	46	43.5%	56.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	87	46.0%	50.6%	3.4%	100.0%
明戸地区	20	30.0%	70.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	26	38.5%	57.7%	3.8%	100.0%
八基地区	19	52.6%	47.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	26	26.9%	73.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	75	44.0%	53.3%	2.7%	100.0%
南地区	57	52.6%	40.4%	7.0%	100.0%
岡部地区	89	33.7%	64.0%	2.2%	100.0%
川本地区	54	38.9%	59.3%	1.9%	100.0%
花園地区	72	31.9%	65.3%	2.8%	100.0%
無回答	20	10.0%	70.0%	20.0%	100.0%

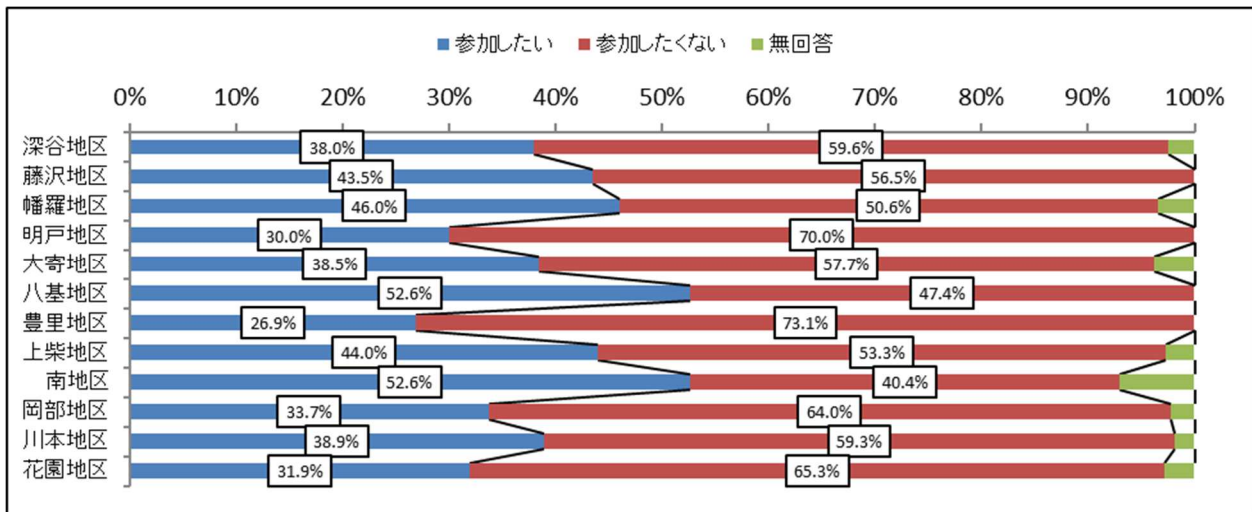
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は男性が 37.7%であるのに対して、女性は 41.9%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (31.0%) であり、女性は 40 歳代 (32.5%) となっています。最も多い世代は、男性が 20 歳代 (50.0%)、女性が 60 歳代 (56.1%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区 (30.0%) であり、次いで花園地区 (31.9%) となっています。最も多いのは八基地区、南地区 (52.6%) であり、次いで幡羅地区 (46.0%) となっています。

3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

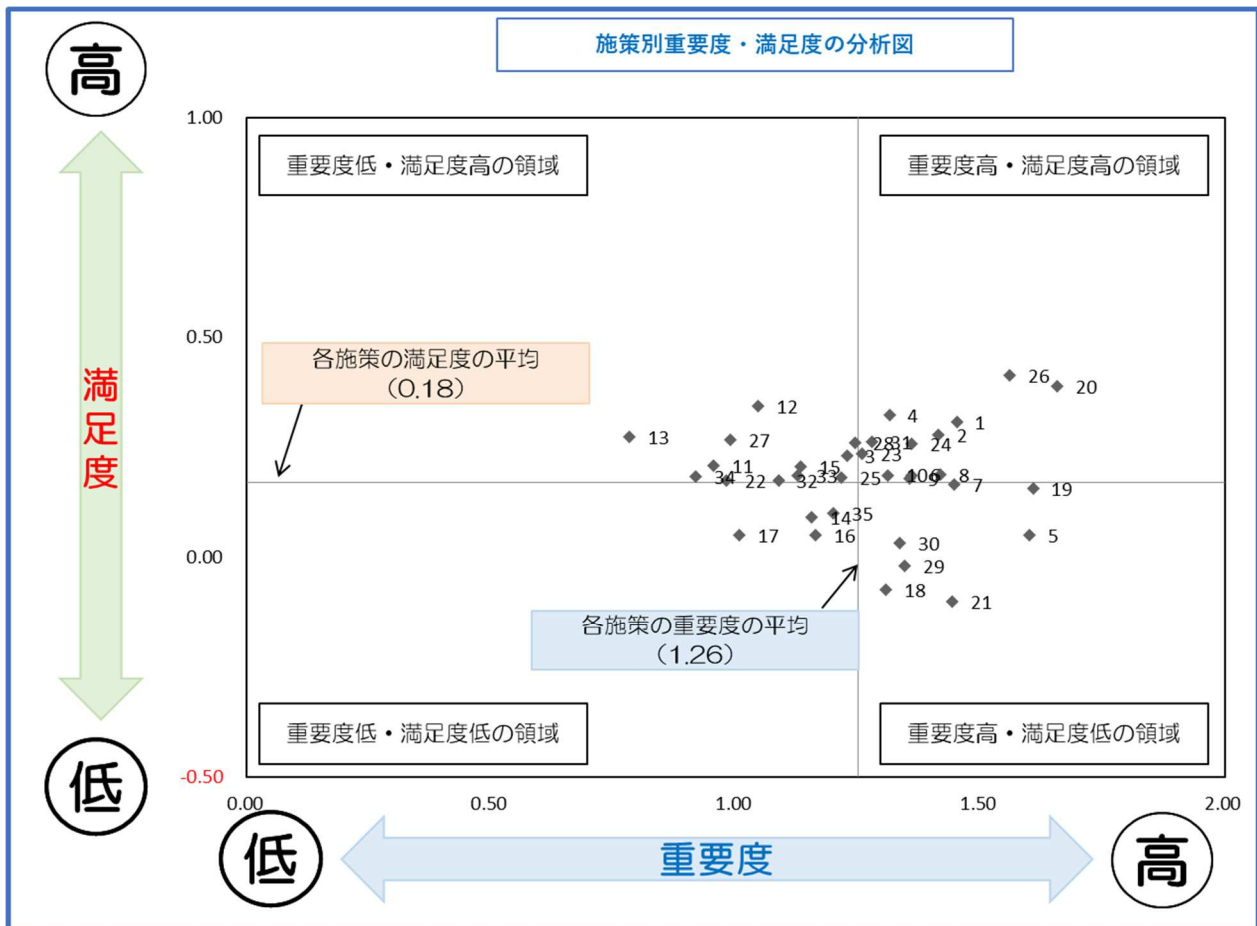
(1) 深谷市全体

① 施策別重要度・満足度一覧

施策			重要度	満足度
1. 子育て・保健・福祉	1	子育て支援の充実	1.45	0.31
	2	保育サービスの充実	1.41	0.28
	3	青少年の健全育成の推進	1.23	0.23
	4	健康づくりの推進	1.31	0.32
	5	地域医療体制の充実	1.60	0.05
	6	地域福祉の推進	1.36	0.19
	7	高齢者福祉の推進	1.45	0.17
	8	障害者福祉の推進	1.42	0.19
2. 教育・文化	9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1.36	0.18
	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1.31	0.19
	11	生涯学習の推進	0.96	0.21
	12	郷土の歴史・文化の継承と活用	1.05	0.34
	13	スポーツ・レクリエーションの推進	0.78	0.27
3. 産業振興	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.16	0.09
	15	農畜産物の販売流通体制の充実	1.13	0.21
	16	商工業の振興	1.16	0.05
	17	観光資源の整備と活用	1.01	0.05
	18	就労環境の整備	1.31	(0.07)
4. 暮らし・環境	19	災害に強い防災体制の推進	1.61	0.16
	20	消防・救急体制の充実	1.66	0.39
	21	防犯・空き家対策の推進	1.44	(0.10)
	22	地域コミュニティの推進	0.98	0.17
	23	自然・生活環境の保全	1.26	0.23
	24	環境衛生の推進	1.36	0.26
5. 都市・生活基礎	25	良好な市街地・住環境形成の推進	1.22	0.18
	26	水の安定供給と下水処理の適正化	1.56	0.41
	27	自然・文化を生かした景観形成	0.99	0.27
	28	治水対策の推進	1.24	0.26
	29	道路・交通環境整備の推進	1.35	(0.02)
	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.34	0.03
6. 協働・行政経営	31	人権・個性が尊重される社会の実現	1.28	0.26
	32	男女共同参画の実現	1.09	0.17
	33	情報発信・共有の推進	1.13	0.18
	34	市民との協働・交流の推進	0.92	0.18
	35	行財政運営の推進	1.20	0.10
平均値			1.26	0.18

重要度の平均値は 1.26 となっており、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.18 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	8	障害者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
27	自然・文化を生かした景観形成	20	消防・救急体制の充実
28	治水対策の推進	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
34	市民との協働・交流の推進	31	人権・個性が尊重される社会の実現
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	18	就労環境の整備
22	地域コミュニティの推進	19	災害に強い防災体制の推進
32	男女共同参画の実現	21	防犯・空き家対策の推進
35	行財政運営の推進	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「健康づくりの推進」、「地域福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「生きる力」を育む学校教育の推進、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「消防・救急体制の充実」、「環境衛生の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」、「人権・個性が尊重される社会の実現」の11施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「高齢者福祉の推進」、「就労環境の整備」、「災害に強い防災体制の推進」、「防犯・空き家対策の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」の7施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「青少年の健全育成の推進」、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「自然・生活環境の保全」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「自然・文化を生かした景観形成」、「治水対策の推進」、「情報発信・共有の推進」、「市民との協働・交流の推進」の11施策が該当します。

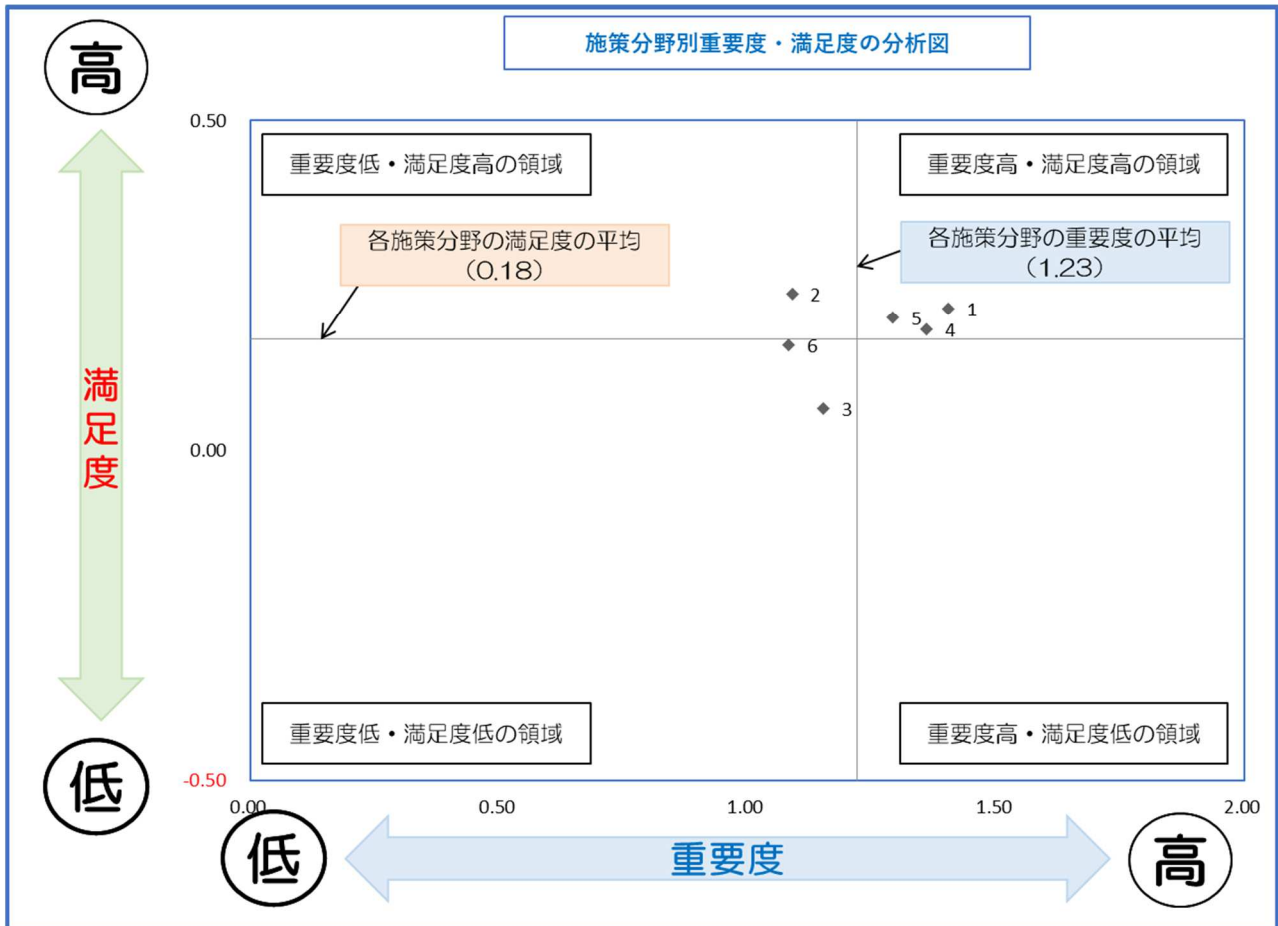
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「地域コミュニティの推進」、「男女共同参画の実現」、「行財政運営の推進」の6施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	産業振興		
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

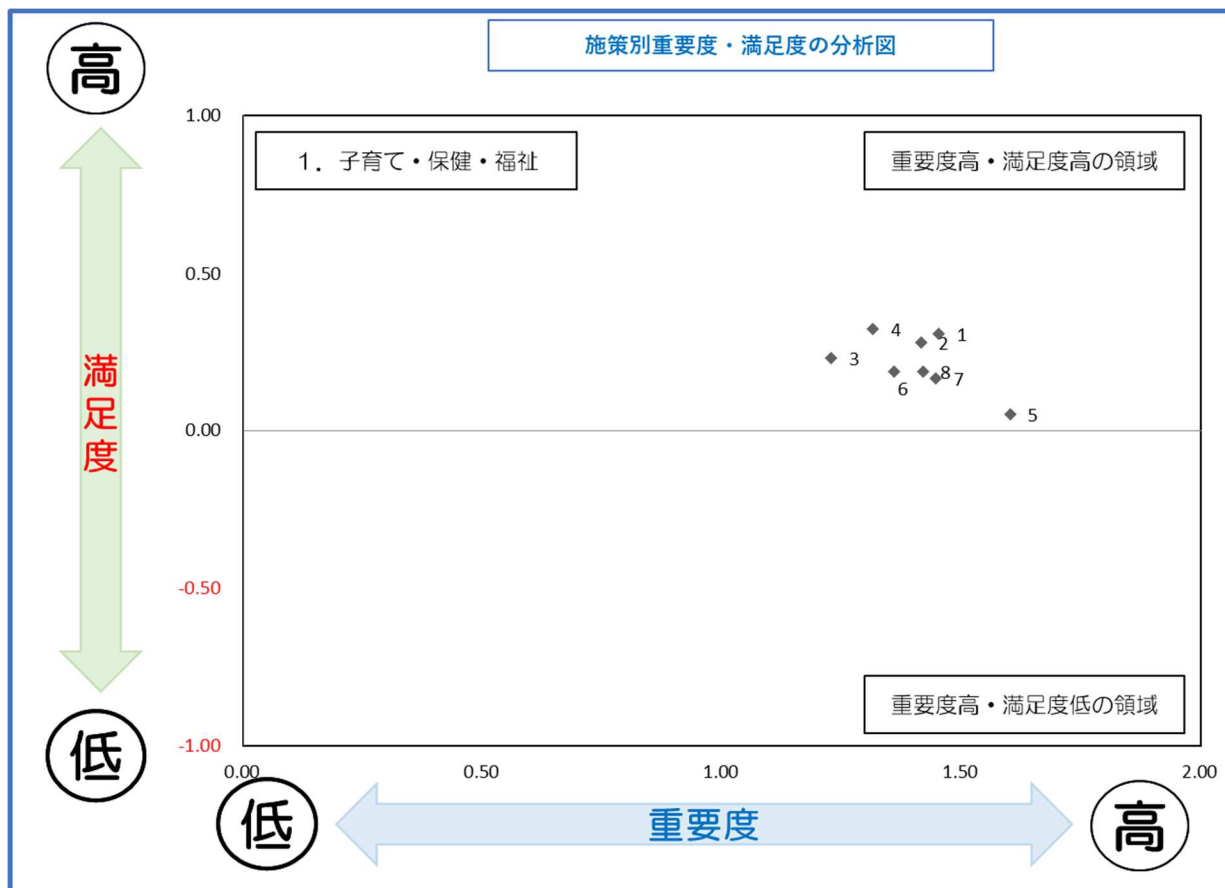
<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「子育て・保健・福祉」、「暮らし・環境」、「都市・生活基礎」の3分野が該当します。

<重要度高・満足度低>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、本調査での該当はありませんでした。

<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「教育・文化」の1分野が該当します。

<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「産業振興」、「協働・行政経営」の2分野が該当します。

< 1. 子育て・保健・福祉 >

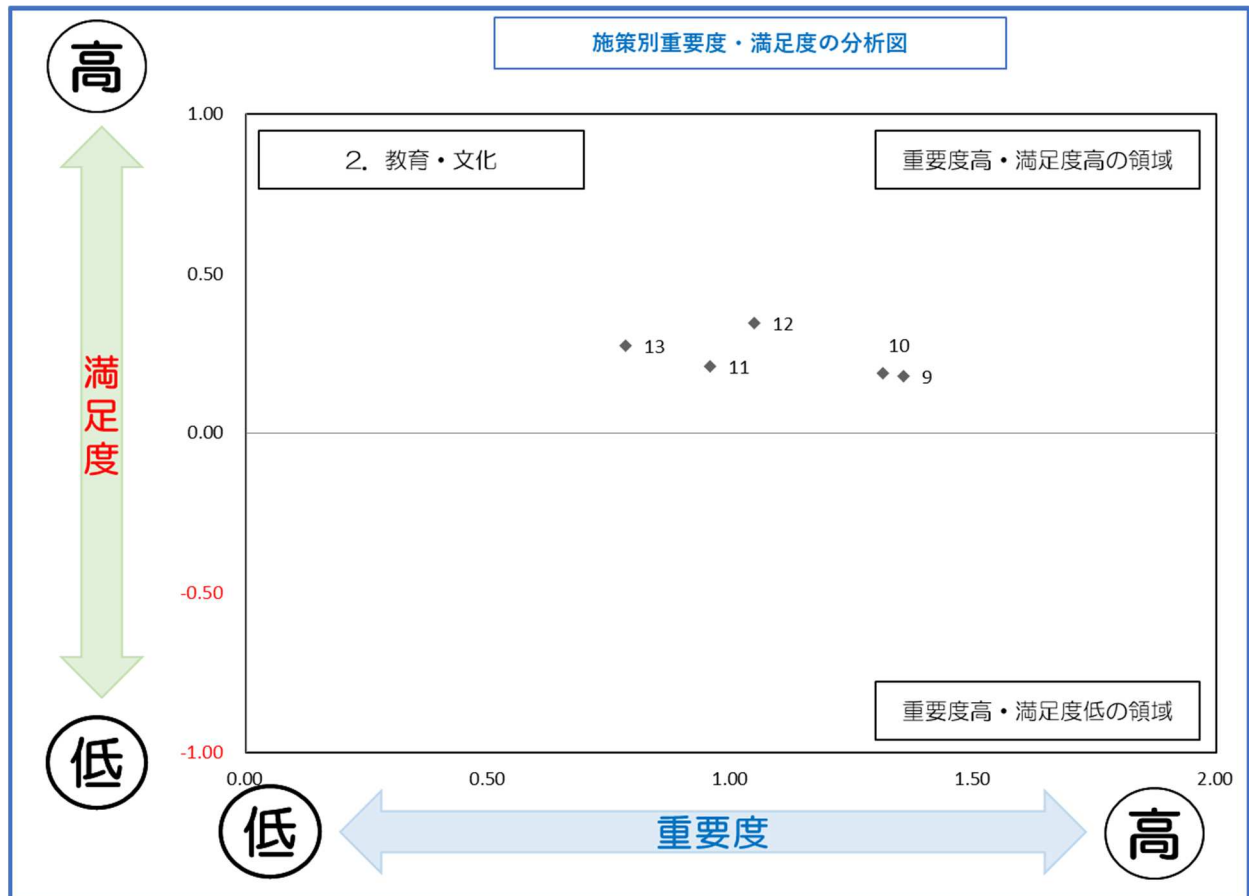


子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、8つの施策すべてが重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「3. 青少年の健全育成の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「5. 地域医療体制の充実」となりました。

「5. 地域医療体制の充実」は重要度が高い施策であるものの、満足度が低いことがうかがえます。

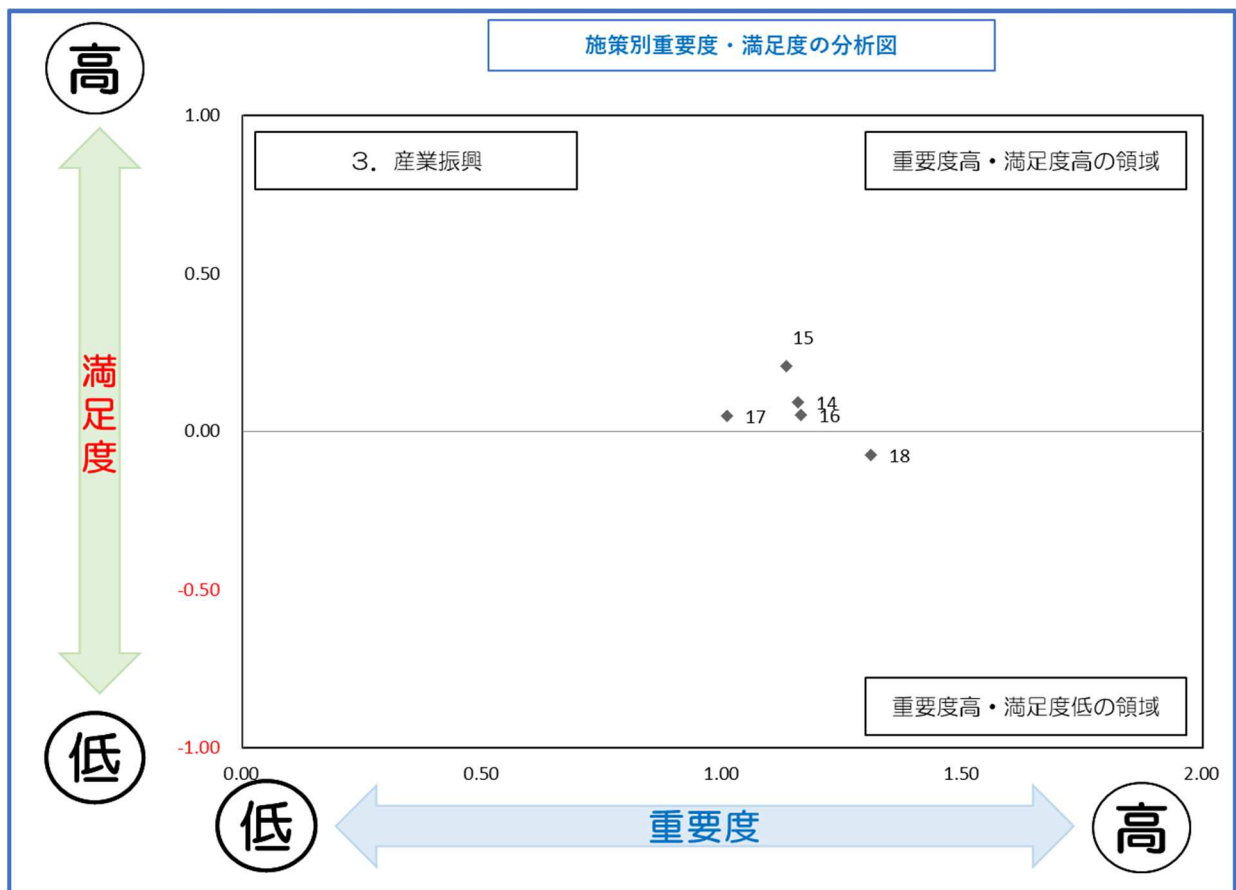
< 2. 教育・文化 >



教育・文化分野に係る施策は5施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、最も低かった施策は「13. スポーツ・レクリエーションの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「12. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、最も低かった施策は「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」と「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」となりました。

< 3. 産業振興 >

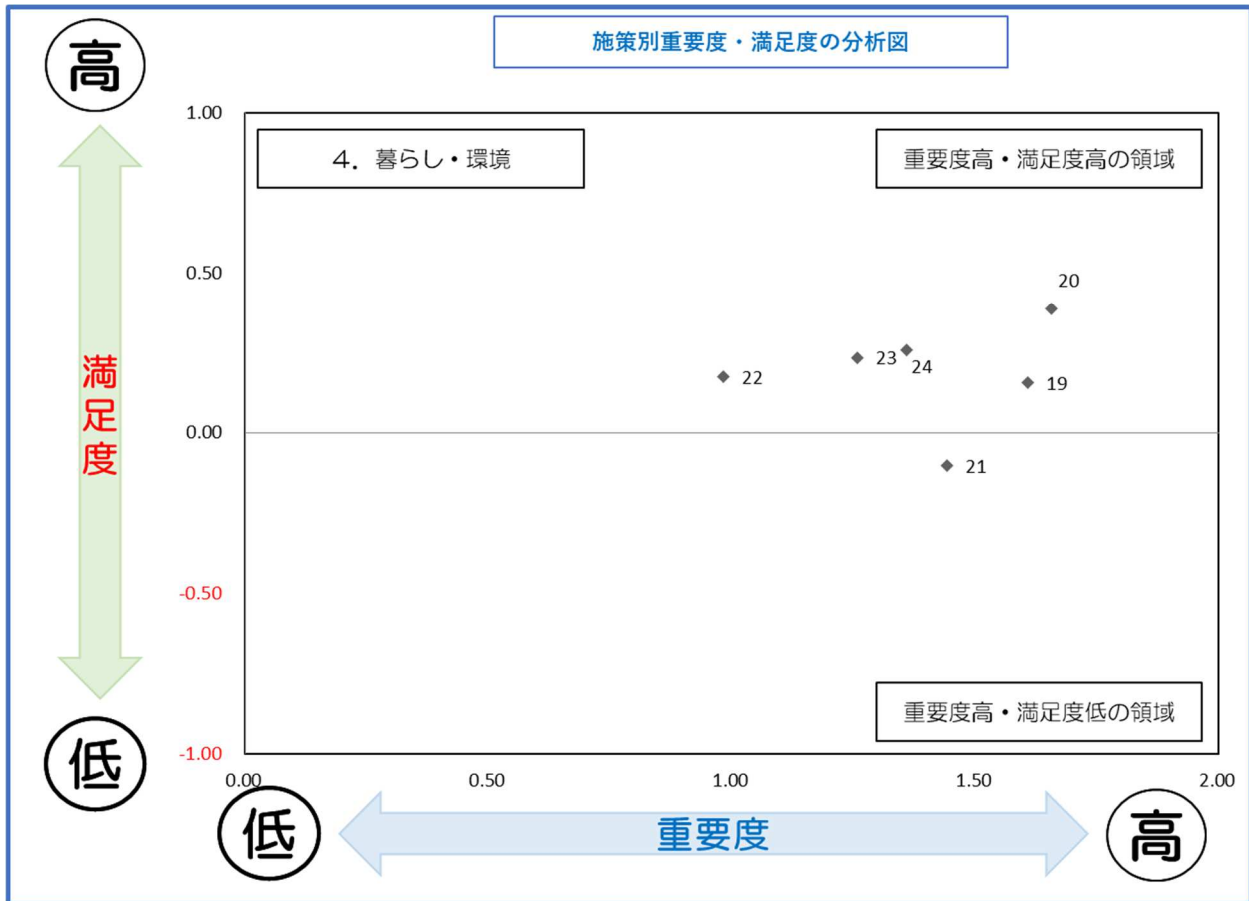


産業振興分野に係る施策は5施策あり、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支」と「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」の4施策において重要度高・満足度高に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「18. 就労環境の整備」、最も低かった施策は「17. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「18. 就労環境の整備」となりました。

「18. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低くなっていることがうかがえます。

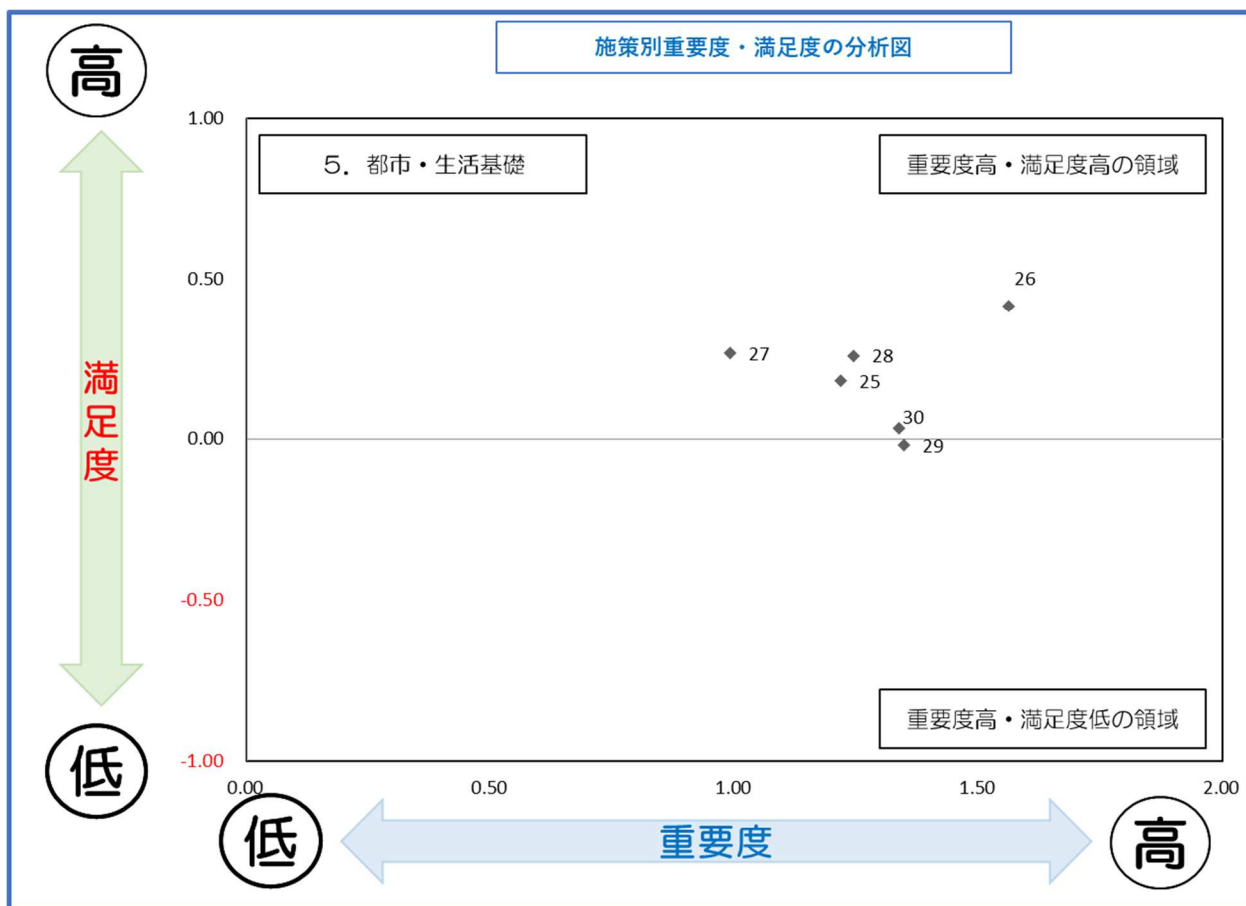
< 4. 暮らし・環境 >



暮らし・環境分野に係る施策は6施策あり、「19. 災害に強い防災体制の推進」「20. 消防・救急体制の充実」「22. 地域コミュニティの推進」「23. 自然・生活環境の保全」「24. 環境衛生の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「22. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「21. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

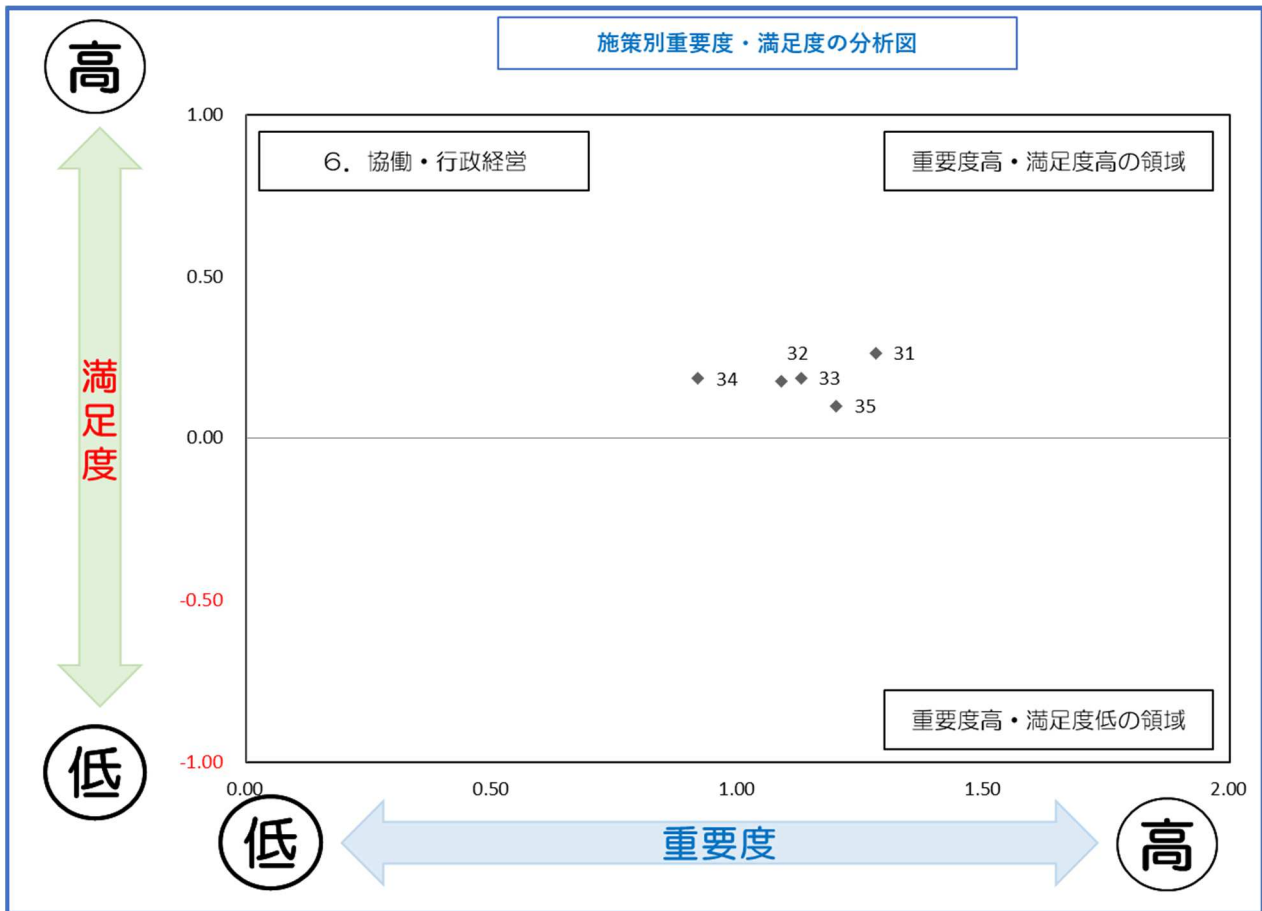
< 5. 都市・生活基礎 >



都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「25. 良好な市街地・住環境形成の促進」「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」「27. 自然・文化を生かした景観形成」「28. 治水対策の推進」「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「27. 自然・文化を生かした景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「29. 道路・交通環境整備の推進」となりました。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は5施策あり、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、最も低かった施策は「34. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、最も低かった施策は「35. 行財政運営の推進」となりました。

(2) 地区別

➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	20	消防・救急体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	23	自然・生活環境の保全
27	自然・文化を生かした景観形成	24	環境衛生の推進
28	治水対策の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
34	市民との協働・交流の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	8	障害者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	情報発信・共有の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、「20. 消防・救急体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「1. 子育て支援の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」、「22. 地域コミュニティの推進」、「35. 行財政運営の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	4	健康づくりの推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
28	治水対策の推進	8	障害者福祉の推進
33	情報発信・共有の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
34	市民との協働・交流の推進	19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		27	自然・文化を生かした景観形成
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農畜産物の販売流通体制の充実	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
16	商工業の振興	18	就労環境の整備
22	地域コミュニティの推進	21	防犯・空き家対策の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	23	自然・生活環境の保全
32	男女共同参画の実現	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		35	行財政運営の推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「16. 商工業の振興」、「22. 地域コミュニティの推進」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	1	子育て支援の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育サービスの充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	3	青少年の健全育成の推進
22	地域コミュニティの推進	4	健康づくりの推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	6	地域福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
17	観光資源の整備と活用	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
23	自然・生活環境の保全	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
29	道路・交通環境整備の推進	18	就労環境の整備
32	男女共同参画の実現	21	防犯・空き家対策の推進
33	情報発信・共有の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		

幡羅地区では、重要度が高い施策として、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「1. 子育て支援の充実」などの施策が挙げられます。比較的重要度が高い施策の中で、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「5. 地域医療体制の充実」に関しては、重要度に比べ満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備」、「32. 男女共同参画の実現」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	4	健康づくりの推進
16	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
23	自然・生活環境の保全	6	地域福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	7	高齢者福祉の推進
28	治水対策の推進	8	障害者福祉の推進
34	市民との協働・交流の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
35	行財政運営の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	観光資源の整備と活用	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
18	就労環境の整備	21	防犯・空き家対策の推進
22	地域コミュニティの推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
32	男女共同参画の実現	29	道路・交通環境整備の推進
33	情報発信・共有の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現

明戸地区では、重要度が高い施策として、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の重質」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「20. 消防・救急体制の充実」、などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の重質」や「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「33. 情報発信・共有の推進」、「22. 地域コミュニティの推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
27	自然・文化を生かした景観形成	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
28	治水対策の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	20	消防・救急体制の充実
31	人権・個性が尊重される社会の実現	23	自然・生活環境の保全
33	情報発信・共有の推進	24	環境衛生の推進
34	市民との協働・交流の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		29	道路・交通環境整備の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
18	就労環境の整備	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
32	男女共同参画の実現	15	農畜産物の販売流通体制の充実
35	行財政運営の推進	19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進

大寄地区では、重要度が高い施策として、「20. 消防・救急体制の充実」、「24. 環境衛生の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「18. 就労環境の整備」、「16. 商工業の振興」、「22. 地域コミュニティの推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	4	健康づくりの推進
27	自然・文化を生かした景観形成	5	地域医療体制の充実
28	治水対策の推進	6	地域福祉の推進
34	市民との協働・交流の推進	7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		20	消防・救急体制の充実
		23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
		35	行財政運営の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農畜産物の販売流通体制の充実	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
16	商工業の振興	19	災害に強い防災体制の推進
17	観光資源の整備と活用	21	防犯・空き家対策の推進
18	就労環境の整備	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
22	地域コミュニティの推進		
29	道路・交通環境整備の推進		
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		

八基地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 自然・生活環境の保全」「20. 消防・救急体制の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「22. 地域コミュニティの推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	5	地域医療体制の充実
2	保育サービスの充実	8	障害者福祉の推進
3	青少年の健全育成の推進	20	消防・救急体制の充実
4	健康づくりの推進	22	地域コミュニティの推進
6	地域福祉の推進	24	環境衛生の推進
7	高齢者福祉の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上		
11	生涯学習の推進		
12	郷土の歴史・文化の継承と活用		
13	スポーツ・レクリエーションの推進		
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援		
17	観光資源の整備と活用		
23	自然・生活環境の保全		
27	自然・文化を生かした景観形成		
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
32	男女共同参画の実現		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
16	商工業の振興	15	農畜産物の販売流通体制の充実
18	就労環境の整備	19	災害に強い防災体制の推進
33	情報発信・共有の推進	21	防犯・空き家対策の推進
34	市民との協働・交流の推進	28	治水対策の推進
35	行財政運営の推進	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

豊里地区では、重要度が高い施策として、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「29. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災体制の推進」や「29. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「34. 市民との協働・交流の推進」、「18. 就労環境の整備」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	1	子育て支援の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育サービスの充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	19	災害に強い防災体制の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	20	消防・救急体制の充実
32	男女共同参画の実現	23	自然・生活環境の保全
33	情報発信・共有の推進	24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	4	健康づくりの推進
17	観光資源の整備と活用	5	地域医療体制の充実
22	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
34	市民との協働・交流の推進	7	高齢者福祉の推進
35	行財政運営の推進	8	障害者福祉の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		16	商工業の振興
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
23	自然・生活環境の保全	19	災害に強い防災体制の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	20	消防・救急体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
34	市民との協働・交流の推進	18	就労環境の整備
35	行財政運営の推進	21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
		32	男女共同参画の実現

南地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育サービスの充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「7. 高齢者福祉の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「16. 商工業の振興」、「34. 市民との協働・交流の推進」、「17. 観光資源の整備と活用」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	7	高齢者福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
32	男女共同参画の実現	19	災害に強い防災体制の推進
33	情報発信・共有の推進	20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	18	就労環境の整備
25	良好な市街地・住環境形成の推進	21	防犯・空き家対策の推進
34	市民との協働・交流の推進	29	道路・交通環境整備の推進
35	行財政運営の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

岡部地区では、重要度が高い施策として、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「1. 子育て支援の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	20	消防・救急体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	24	環境衛生の推進
22	地域コミュニティの推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
23	自然・生活環境の保全	31	人権・個性が尊重される社会の実現
27	自然・文化を生かした景観形成	32	男女共同参画の実現
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	8	障害者福祉の推進
28	治水対策の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、「20. 消防・救急体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「16. 商工業の振興」、「25. 良好な市街地・住環境形成の推進」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	7	高齢者福祉の推進
16	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
32	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
34	市民との協働・交流の推進	19	災害に強い防災体制の推進
35	行財政運営の推進	20	消防・救急体制の充実
		23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
17	観光資源の整備と活用	18	就労環境の整備
25	良好な市街地・住環境形成の推進	21	防犯・空き家対策の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	26	水の安定供給と下水処理の適正化
33	情報発信・共有の推進	29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」や「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「27. 自然・文化を生かした景観形成」、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

（1）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・ 首長の自己満足だけのイベントに金を使わず、道路整備等に大事な税金を使って下さいよ！・ 保育園の先生方がパートの所があり、時間の制約の中働いてくれている。正規職員と同じ仕事をしていても基本給等も違って来る。これからの子供を育て教育してくれる職員は大切です。パートといわず正規で働いて子供達に関わってほしい。教育にお金をけちらず使ってほしい！・ 雨の日や台風の時等、児童の遊び場が少なく児童館等も無い。もっと子育てしやすい環境整備を望む。他県との比較等もしてしてほしい！・ 医療費削減のために 60 才以上の高齢者の体力作り等のため、パティオの入場券を安くして利用を促す等の検討もしてほしい！
- ・ 子育て支援について支援してほしいのは中学、高校、専門、大学時代だと思う。新しい市役所、庁舎について全ての空間にムダはありませんか？本当に必要な部屋であればいいですが利用もしないのに税金を取られてバカみたいです。ムダな事に税金は払いたくないです。公務員だけがなぜいい思いをするのか納得がいかない。ヒマそうにしている人いっぱいみかけます。だから腹立つ感じです。
- ・ 幼稚園と保育園が家の近くにないので、家から通いやすい場所にあれば、育児がしやすく子供と過ごす時間が増えると思う。公園も車で行かないとない距離なので、どの地域でも小さい子供が行きやすい近い距離に公園があってほしい！
- ・ 子供を遊ばせる公園がない道路がせまい
- ・ 将来のことを考えると、子供家庭への福祉、特典の拡充を他市町村より充実させる。評判になれば人口は増える。・すでに計画されているのを含め道路・施設の拡大、新設はやめる。統合、修理、改良に主体をおくべき・バス網の拡充、クルリンバスに固執することなく、タクシーの暇な時間帯を利用した市内移動（近くの駅も含め）例えば半額補助や、一般バス会社の市への乗り入れに補助金を出すなど。・外国人も住みやすい、定住しやすい深谷、外国人は手続きが苦手。市役所に一括相談窓口（外国人専用）をつくり、そこが受けつけて、手続きなどを案内してくれるようなものがほしい。市役所の人的人员は最小にして、ボランティアを募集して、手使ってもらえばいい。外国語はある程度喋れる人は一杯いる。など
- ・ 地域の医療体制の充実を図って欲しい。救急搬送時に受け入れてくれないという声を良く聞きます。安心して生活をする為に欠かせないと思います。
- ・ どの世代でも、安心して暮らせる住みよい町づくりをお願いしたい。・ 駅周辺の商業施設の充実や利便性を高めて活性化してほしい。・ 深谷のどこに住んでいてもバスなどの公共の交通機関を利用して買い物ができる様にしてほしい。・ 近くに日赤病院があるのに「いざ」という時に利用ができない遠い病院を何とかしてほしい。

(2) <教育・文化>に関する意見

- ・コロナが収まった後、各種イベントが活性化されることを期待します（七夕、まつり、マラソン、スポーツイベント、芸術イベントなど）
- ・緑の王国は、とても良い場所だと思います。何かを作ったり、発信したりという事が、行政ではいつも念頭にある様ですが、景観や自然それこそが、“豊かな街”である事に気づいてほしいと思います。深谷は都市部に比べ密度が低いので、街と自然環境を一体的にしていくにも良い場所だと思うのですが…。散歩道を作る、サイクリング道路を一般道に加えていくことで、スポーツや健康も改善されます。渋沢栄一も結構ですが、緑の王国のような場所が、緑の王国のような場所がたくさんあったら、市民はそちらの方が、誇りに感じると思います。

(3) <産業振興>に関する意見

- ・市の財政安定と地域の活性化、雇用の確保等々の為に、もっと積極的に企業誘致を心掛け、工業団地の空洞化、市民人口の流出を防がなければいけない。その為には市長他がもっと積極的に企業（会社）訪問するなり、調査等をもっともってやって戴きたい。又、駅前地区の再開発をもっと迅速にそして大胆に行って戴きたい。深谷以外の街へ行って観光案内地図やパンフレット、飲食店や土産物を見ると比べ物にならない位に深谷が劣る。渋沢栄一ブームを利用して良いから、もっと深谷をアピール出来る活動をしてもらいたい。その為には町全体（特に駅前）を活力有るものにする必要が有る。駅を降り立った人全員が駅前を見てがっかりしている筈。それを感じなければ市の人間は鈍感過ぎると思います。
- ・商工業の誘致に力を入れて若い人の職場と遊ぶ所を確保する事で街の活性化につながると思う。・観光施設を近くにまとめる事で外から来る観光客は楽しみやすくなると思う。・ゴミ処理についてはとてもサービスが良くいつも感謝しています。そういう所を（住み良さを）PRして人口を増やす事で税金の収入も増えるのでは、、、。※子供達の代も深谷に住みたくなる様に頑張ってください。
- ・深沢栄一によりだいぶ深谷をテレビで見る事が多くなりました。その分、自分はあまり栄一さんに詳しくないなあと思います。大河ドラマを見る機会が少ないので小冊子などでみなさんに共有する、、、等あるといいなと思いました！駅前の交通整備も進んでおりこれからの深谷にとってもわくわくしています！頑張ってください！
- ・もっと深谷市民全体で、深谷市を盛り上げていきたい。自分が住んでいる地域は古くから長く住まれている方が多く、他の地域から移住して来る事が不可能な為、新しい意見が通りづらくなかなか活性化していかない。近所の方は二世帯、三世帯に渡り住まわれていて、お爺様やお父様世代が健在のため若い息子世代の方々が中々自治会の活動に参加されないのが現状です。深谷市には他の地域にないゆるキャラや農産物、名所など沢山あるのにもっと若い人が市のアピールに参加できていないのがとても残念ですし、参加したい！これからアウトレットも完成予定で他の地域からの人の流れ

があるので、もっと深谷市の良い所や、住んでいる人、これから移住してくる人が深谷市の事を好きになってもらえる活動をどんどん行ってもらいたいです。コロナ禍でみんな大変ですが、コロナに打ち勝った時の事を考え深谷市が発展して行く事を切に願っております。

- ・観光地としての魅力ある町づくり 救急医療の充実 賃金upによる若者の定住 魅力ある会社づくり テーマパークや大型商業施設による集客 道の駅等地域産業の活性化

(4) <暮らし・環境>に関する意見

- ・高齢化が進み、空き家が身近でもどんどん増えている印象があります。防犯を含めた空き家対策を進めてほしいです。
- ・①私の住んでいる地域だけでは無いと思いますが、産廃が何年も野積みされていたり、畑に産廃を埋めているのを目にしています。後世に負の遺産を残さない為、この様な土地に対して地主に強く改善行政指導を促すと共に、宅地並み課税をして改善をして欲しいと思います。②毎年春先になると土ほこりに悩まされています。未利用農地を活用したり緑化を進めて、改善を望みます。
- ・深谷市は（埼玉県）外から見た目以上に、災害は少ないし気候も良いし、暮らしやすい所だと思います。この町に生まれ小学校から高校まで深谷で過ごし、社会人になってからも深谷の企業に勤め、一生をほとんどこの町で過ごしているが、本当に良い町です。
- ・バスやくるりんが少ない。同じ市民税を納めているのに、深谷駅にすら出られない。・どこにでも住宅が建てられるようにしてほしい。市街化調整区域・農業振興地域の緩和。・土地を活用していない方（放置、荒地）の所有者には税金を多めに徴収してもらいたい（ゴミ放置や治安の悪化）・他の市町村から生活保護を受ける為に移住してくるのはおかしい。
- ・空家対策お願いします。外観、治安も悪いです。（害獣の住家になっている様で夜間畑の作物を荒して困ります。）
- ・防災について 川の近くに住んでいるので水害が心配。一昨年の大雨の時には避難すべきかどうか悩んだ。防災無線はほとんど何を言ってるかわからない。ハザードマップ、自治会ごとの拡大版が欲しい。田舎は自治会が大きなシステムとして働いているので、連絡や情報の共有にもっと生かしてほしい。 情報システムについて 公民館等公共の場でのFree Wi-fiをもっと充実させてほしい。深谷はFree Wi-fiの普及が遅い。防災にもなることなので、充実させてほしい。現在公民館の多目的室などにはすごいステレオの機械などが入っているが、旧式で使いにくいことこの上ない。Wi-fi と小さな Bluetooth のスピーカーの貸出があればあんなものは必要ない。考えていただきたい。 文化活動について 深谷は文化活動に対しての公的補助が少ない。例えば文化会館を非営利の市民団体が使用する場合も、一切補助がない。このため会

場使用料は営利的な興業等と同じ。使用の優先権もなく、一律に扱われる。他の市町村では使用料を取らない所もあると聞く。文化の貧しい所によい町はないと思う。

- ・熊谷基地（熊谷市ではあるが）が近くにあるので、防災協力体制の確保や荒川水害に対する訓練をしてみても？加須市はやってましたよ…。確か市民祭りを利用して利根川に自衛隊のボートを使い川の行来をイベントとして（埼玉大橋が崩壊した想定で）
- ・街歩きしたくなるような街に ◎景観 ×きたない町 ゴミ、花 あき家対策 町の美化 ショッピングセンター
- ・避難場の増設（ペット可）の所を増やしてほしい。障がい者可も！！
- ・犬のフンの放置、ゴミのポイ捨て、野焼きの煙。毎日の様にまたかと思う。個人の尊重、多様性と言われるが、その前に人に迷惑をかけないで欲しい。もっと市民に『モラルの向上』を呼びかけて欲しい。「田舎だから・・・」そんな言葉で片付けないで欲しい。静かに心穏やかに、これからも深谷で暮らして行きたい。

（５）＜都市・生活基盤＞に関する意見

- ・NPO 例で子供食堂・映画館の回り⇒地域全体で参加させ協力を得るとか？ 民生委員の手助けが不足すぎ。自治会の仕事？鹿島神社、岡部神社⇒もう少し手入れをして末代まで維持される環境が？ コスモスの時期、左折の時右から車が見えなくてここ何年も感じてます。とても危険です→自治会の仕事。 今回のコロナの予約何？接種年代別に地域別に日付、時間の割振りで良いのに、福祉施設や消防署などどうして早く出来ないのか？市の職員も先行で良い。公表でやれば文句などないはず。
- ・公共交通について 自家用車以外を考えた時にバスを利用できればと思いますが、停車場等わかりやすい方法があればと思います。
- ・車を運転していて使われているのか謎の信号機を目にします。撤去しないのか、元は道路があり信号機が動いていたのかもしれませんが、今は家が建っており絶対に意味がないだろう・・・という所に信号機があります。私が知っているのでも2つあります。まちづくりとは別の事かもしれませんが、気になりましたので。自身の地区は記載しませんが、あるという事だけお伝えしてします。
- ・いつもお世話になっています。交通事故の目撃者の協力の看板がよくたてられているのをみます。カメラのとりつけなどは難しいのでしょうか。安全な社会と町を望みます。これからも宜しくお願い致します。
- ・藤沢地区にサイクリングロードを整備してほしい。
- ・水道代低減してください←雑誌のランキングに深谷市が上位にあり今後が不安です。ふるさと納税の活用などして今後も安定した維持をお願いします。・財政母体が大き

く異なるとは思いますが、高崎市が子育て世帯とお年寄りに優しい取組を沢山していて有難いと聞きました。今の深谷市も大好きですが、是非参考にさせていただければと思います。

- ・ 2m以下の生活道路を撤廃。・ 全ての生活道路を車の往来が出来るようにすること。・ ゴミ集積場の設置、市でゴミ集積箱を設置すること。
- ・ 県道、市道、真っ暗なので街灯をつけて下さい。物騒で暗いです。
- ・ 深谷市役所の周りの整備だけでなく、不便な思いをしている周りの地域（岡部、川本、花園）地区の整備をもっと充実させてほしい。
- ・ 熊谷市とくらべて外灯の数が少ないです。子供達の通学路の安全について、安全に通学が出来る様にして下さい。

(6) <協働・行政経営>に関する意見

- ・ 協働参画の方法をもっと考えるべき。今までの協働は行政側の自己満足である。公園の管理等にある程度の予算を当てて住民にまかせたらと思う。コンパクトシティーも大事で有るが、中心地から外れた住民の事も考えるべきと思う。
- ・ 男女差別なく、均等なまちづくりを希望。市民の20、30代が交流できるイベント作りを希望。もっとスポーツ（ラグビー、バレー）の街にしていきたい。高崎線、深谷終点に変更の希望。
- ・ 「人権・個性が尊重される社会の実現」についての質問がアンケート中にありますが、下記の「ア. 性別」に「男性」「女性」しか存在していないことが、深谷市の実状を表しているのではないのでしょうか。大河ドラマで市街地が盛りあがるのは大変良いことだと思います。しかし、（後からとは言え、「深谷市」となった）川本地区にも偉人が居たことが隅に追いやられている気がしてなりません。（だからどうせよ、と言いたいのではなく、市街地とそうでない地区の温度差も知っておいていただきたいです。） 深谷市外で働く身としては、市内の取り組みや、ボランティア、議会の内容等があまり気にならない、恩恵を受けていないと思ってしまう。（子育てしていればまた別でしょうが） 市内在住者のみではなく、市内に会社（本社、工場、支社等）があるのですから、そこで働く人にアンケートを取るのも良いのでは、と思います。私の不勉強でしたら申し訳ありませんが、本アンケート結果を活用して「新たに始めたこと」「変更したこと」があるのであれば、分かりやすい形で提示、お知らせをしてほしいです。コロナ禍における対応、お疲れさまです。職員様方におかれましては、健康にお気をつけてお過ごしください。
- ・ 犬の散歩で、手ぶらの人が多くマナーを知らない人が多くて残念です。増々美しい深谷市（渋沢栄一翁で、どんどん有名になっていくので）が続いていくよう、広報に毎掲載してほしいです。

- ・新しくできたFM局を使って色々発信してほしい
- ・NHKで渋沢栄一が始まり、深谷市が注目されてる今、市をアピールする場を市外・県外に設備するなど企画してほしいです。

Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい | 69.9% |
| 2. 当分の間は住みたい | 25.1% |
| 3. できれば転居したい | 3.0% |
| 4. すぐにもでも転居したい | 0.7% |
| 無回答 | 1.3% |

2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 参加している | 14.8% |
| 2. ときどき参加している | 9.0% |
| 3. あまり参加していない | 11.4% |
| 4. 参加していない | 62.2% |
| 無回答 | 2.6% |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う | 30.3% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 49.3% |
| 3. あまり両立できていないと思う | 10.6% |
| 4. 両立できていないと思う | 9.9% |
| 無回答 | 0.0% |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 9.6% |
| 2. ある程度はそう思う | 69.2% |
| 3. あまりそう思わない | 17.9% |
| 4. そう思わない | 3.2% |
| 無回答 | 0.0% |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 31.8% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 32.2% |
| 3. あまり取り組んでいない | 23.8% |

- | | |
|-------------|-------|
| 4. 取り組んでいない | 11.4% |
| 無回答 | 0.8% |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 受けている | 76.6% |
| 2. 受けていない | 22.9% |
| 無回答 | 0.5% |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 72.9% |
| 2. いない | 26.0% |
| 無回答 | 1.1% |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 45.0% |
| 2. ときどき気をつけている | 37.3% |
| 3. あまり気をつけていない | 15.7% |
| 4. 気をつけていない | 1.5% |
| 無回答 | 0.5% |

問8. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 50.2% |
| 2. いない | 48.2% |
| 無回答 | 1.6% |

3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 13.7% |
| 2. ときどき実践している | 24.0% |
| 3. あまり実践していない | 27.6% |
| 4. 実践していない | 32.8% |
| 無回答 | 1.8% |

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった | 2.4% |
| 2. ある程度はあった | 10.8% |
| 3. あまりなかった | 32.1% |
| 4. なかった | 53.4% |
| 無回答 | 1.3% |

問3. スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 13.2% |
| 2. ときどき行っている | 23.1% |
| 3. あまり行っていない | 27.6% |
| 4. 行っていない | 35.3% |
| 無回答 | 0.8% |

4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする | 16.9% |
| 2. たまに目にする | 40.8% |
| 3. あまり目にしない | 26.2% |
| 4. 目にしない | 15.1% |
| 無回答 | 1.1% |

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けている | 23.0% |
| 2. たまに心掛けている | 41.6% |
| 3. あまり心掛けていない | 25.6% |
| 4. 心掛けていない | 9.1% |
| 無回答 | 0.7% |

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている | 18.8% |
| 2. ややバランスが取れている | 51.9% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 20.1% |
| 4. バランスが取れていない | 7.1% |
| 無回答 | 2.1% |

5. 暮らし・環境について

問1. ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 十分ある | 5.2% |
| 2. ある程度はある | 44.8% |
| 3. あまりない | 37.0% |
| 4. ない | 12.4% |
| 無回答 | 0.7% |

問2. 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 73.4% |
| 2. 知らない | 25.6% |
| 無回答 | 0.9% |

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2.6% |
| 2. ない | 96.7% |
| 無回答 | 0.7% |

問4. 日ごろ、防犯対策をとっていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 十分とっている | 10.2% |
| 2. ある程度はとっている | 56.5% |
| 3. あまりとっていない | 25.6% |
| 4. とっていない | 6.9% |
| 無回答 | 0.8% |

問5. 地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 20.3% |
| 2. ときどき参加している | 30.0% |
| 3. あまり参加していない | 22.9% |
| 4. 参加していない | 26.2% |
| 無回答 | 0.7% |

問6. 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 23.4% |
| 2. ときどき行っている | 36.9% |
| 3. あまり行っていない | 24.8% |
| 4. 行っていない | 14.0% |
| 無回答 | 0.9% |

問7. 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 56.5% |
| 2. 変わらない | 41.5% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 1.2% |
| 無回答 | 0.8% |

問8. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている | 34.7% |
| 2. ある程度は心がけている | 53.2% |
| 3. あまり心がけていない | 9.6% |
| 4. 心がけていない | 1.8% |
| 無回答 | 0.5% |

6. 都市・生活基盤について

問1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- | | |
|--------------|------|
| 1. たいへんとれている | 2.8% |
|--------------|------|

- | | |
|---------------|-------|
| 2. ある程度はとれている | 56.3% |
| 3. あまりとれていない | 30.9% |
| 4. とれていない | 7.4% |
| 無回答 | 2.6% |

問2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している | 18.2% |
| 2. やや満足している | 53.2% |
| 3. あまり満足していない | 20.7% |
| 4. 満足していない | 7.3% |
| 無回答 | 0.5% |

問3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 22.7% |
| 2. ある程度はある | 50.9% |
| 3. あまりない | 20.3% |
| 4. ない | 5.4% |
| 無回答 | 0.7% |

問4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 5.8% |
| 2. ある程度はある | 45.3% |
| 3. あまりない | 37.3% |
| 4. ない | 10.2% |
| 無回答 | 1.5% |

問5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている | 20.1% |
| 2. ある程度はできている | 55.2% |
| 3. あまりできていない | 17.6% |
| 4. できていない | 5.5% |
| 無回答 | 1.6% |

問6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 12.5% |
| 2. あまり感じない | 38.0% |
| 3. ときどき感じる | 38.3% |
| 4. いつも感じる | 9.8% |
| 無回答 | 1.3% |

問7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 16.2% |
| 2. あまり感じない | 33.8% |
| 3. ときどき感じる | 30.3% |
| 4. いつも感じる | 17.2% |
| 無回答 | 2.5% |

7. 協働・行政経営について

問1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 4.9% |
| 2. ある程度はそう思う | 57.9% |
| 3. あまりそう思わない | 26.9% |
| 4. そう思わない | 7.0% |
| 無回答 | 3.3% |

問2. この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 6.6% |
| 2. ない | 91.4% |
| 無回答 | 2.0% |

問3. お互いの人権について意識をして生活していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 32.8% |
| 2. ときどき意識している | 30.5% |
| 3. あまり意識していない | 28.0% |
| 4. 意識していない | 7.7% |
| 無回答 | 1.1% |

問4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く | 0.8% |
| 2. ときどき聞く | 8.6% |
| 3. あまり聞かない | 43.9% |
| 4. 聞いたことがない | 45.8% |
| 無回答 | 0.9% |

問5. 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 5.0% |
| 2. ある程度はそう思う | 52.8% |
| 3. あまりそう思わない | 32.1% |
| 4. そう思わない | 7.5% |
| 無回答 | 2.5% |

問6. 男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 23.8% |
| 2. 変わらない | 72.3% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 1.5% |
| 無回答 | 2.5% |

問7. 市の財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへん持っている | 12.2% |
| 2. ある程度は持っている | 56.1% |
| 3. あまり持っていない | 22.9% |
| 4. 持っていない | 7.7% |
| 無回答 | 1.2% |

問8. 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. とても充実している | 10.7% |
| 2. やや充実している | 58.1% |
| 3. やや不足している | 25.2% |
| 4. とても不足している | 4.2% |
| 無回答 | 1.7% |

問9. 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 3.4% |
| 2. ある程度はそう思う | 48.6% |
| 3. あまりそう思わない | 39.6% |
| 4. そう思わない | 5.7% |
| 無回答 | 2.6% |

問10. 市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. とてもある | 4.8% |
| 2. 少しある | 26.0% |
| 3. あまりない | 45.4% |
| 4. ない | 21.9% |
| 無回答 | 1.8% |

問11. 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 47.6% |
| 2. 知らない | 51.8% |
| 無回答 | 0.7% |

問12. 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 興味がある | 69.2% |
| 2. 興味がない | 29.2% |
| 無回答 | 1.6% |

問13. 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 参加したい | 39.0% |
| 2. 参加したくない | 58.0% |
| 無回答 | 3.0% |

2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

●重要度に関する回答

	重要度 (%)					無回答 (%)	重要度(点数)
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	65.5	16.9	2.0	0.4	10.3	4.9	1.45
保育サービスの充実	62.5	19.0	2.2	0.1	10.8	5.3	1.41
青少年の健全育成の推進	48.6	30.9	4.6	0.4	9.9	5.5	1.23
健康づくりの推進	53.5	31.3	5.5	0.7	4.5	4.5	1.31
地域医療体制の充実	73.7	15.6	2.4	0.3	3.8	4.2	1.60
地域福祉の推進	54.8	31.2	3.8	0.5	5.2	4.5	1.36
高齢者福祉の推進	61.4	26.8	3.2	0.9	3.6	4.1	1.45
障害者福祉の推進	60.0	26.7	3.2	0.8	4.5	4.9	1.42

◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	57.6	25.1	4.0	0.4	7.8	5.2	1.36
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	51.5	3.2	3.4	0.5	7.1	4.8	1.31
生涯学習の推進	33.6	41.6	10.3	1.5	7.9	5.2	0.96
郷土の歴史・文化の継承と活用	36.1	43.9	9.2	1.1	5.2	4.6	1.05
スポーツ・レクリエーションの推進	26.9	43.7	15.7	1.8	7.1	4.6	0.78

◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	45.3	31.8	4.8	1.1	11.6	5.4	1.16
農畜産物の販売流通体制の充実	41.7	35.7	4.4	0.8	11.9	5.5	1.13
商工業の振興	43.1	35.1	4.0	0.5	11.4	5.9	1.16
観光資源の整備と活用	36.7	38.3	8.9	1.1	9.4	5.7	1.01
就労環境の整備	51.8	30.4	2.6	0.3	9.2	5.7	1.31

重要度 (%)					無回答 (%)	重要度(点数)
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	72.3	17.8	1.6	0.1	3.6	4.5	1.61
消防・救急体制の充実	75.3	15.9	0.8	3.3	0.0	4.8	1.66
防犯・空き家対策の推進	58.3	30.6	2.4	0.3	3.6	4.9	1.44
地域コミュニティの推進	34.1	42.5	11.0	0.8	6.5	5.2	0.98
自然・生活環境の保全	47.4	36.9	4.9	0.5	4.8	5.5	1.26
環境衛生の推進	53.0	33.8	2.8	0.5	4.9	5.0	1.36

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	46.5	35.7	5.9	0.5	5.5	5.8	1.22
水の安定供給と下水処理の適正化	68.2	21.7	1.7	0.1	3.4	4.9	1.56
自然・文化を生かした景観形成	34.7	42.5	11.2	0.9	4.8	5.8	0.99
治水対策の推進	47.7	33.7	3.4	0.7	8.6	5.9	1.24
道路・交通環境整備の推進	53.0	33.9	4.2	0.5	3.3	5.0	1.35
公共交通の維持確保と交通安全の推進	53.0	33.2	4.8	0.4	3.4	5.3	1.34

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	50.6	32.8	4.8	0.7	6.1	5.2	1.28
男女共同参画の実現	41.0	36.7	7.3	1.3	8.2	5.5	1.09
情報発信・共有の推進	40.3	39.9	6.7	0.5	6.9	5.7	1.13
市民との協働・交流の推進	31.8	41.7	11.0	1.3	8.6	5.5	0.92
行財政運営の推進	44.4	36.1	3.3	0.8	9.9	5.5	1.20

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度 (点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	5.5	40.0	11.5	4.5	32.0	6.5	0.31
保育サービスの充実	5.5	36.9	12.8	3.7	34.1	7.0	0.28
青少年の健全育成の推進	3.2	35.0	12.8	2.8	38.0	8.2	0.23
健康づくりの推進	5.9	43.7	15.7	3.8	24.0	6.7	0.32
地域医療体制の充実	4.8	38.2	24.2	9.2	17.3	6.3	0.05
地域福祉の推進	3.7	38.7	16.4	5.5	29.2	6.5	0.19
高齢者福祉の推進	5.0	37.3	17.3	6.7	27.6	6.1	0.17
障害者福祉の推進	4.1	33.8	12.7	5.3	37.3	6.9	0.19

◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	2.8	33.6	14.1	3.6	38.2	7.8	0.18
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	3.0	34.2	14.8	3.4	36.3	8.2	0.19
生涯学習の推進	2.8	34.7	14.0	2.8	37.8	7.9	0.21
郷土の歴史・文化の継承と活用	6.5	40.6	12.5	3.3	29.9	7.3	0.34
スポーツ・レクリエーションの推進	3.4	39.5	13.7	2.6	33.7	7.0	0.27

◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3.0	26.7	14.1	4.8	42.7	8.7	0.09
農畜産物の販売流通体制の充実	2.9	32.6	12.3	2.8	40.0	9.0	0.21
商工業の振興	1.6	29.2	15.7	5.8	38.8	8.9	0.05
観光資源の整備と活用	2.6	31.3	19.8	5.9	32.2	8.1	0.05
就労環境の整備	1.5	23.9	19.2	7.5	39.2	8.7	-0.07

満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	2.2	39.6	17.2	5.7	26.8	8.5	0.16
消防・救急体制の充実	7.1	46.0	13.1	4.2	21.5	8.1	0.39
防犯・空き家対策の推進	2.0	28.1	22.2	10.0	29.3	8.3	-0.10
地域コミュニティの推進	1.8	38.3	15.9	4.4	31.2	8.5	0.17
自然・生活環境の保全	2.6	41.1	14.3	4.4	29.2	8.5	0.23
環境衛生の推進	3.8	40.8	13.7	4.5	29.1	8.1	0.26

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	4.1	39.0	16.6	6.2	25.0	9.1	0.18
水の安定供給と下水処理の適正化	12.7	41.7	13.3	6.2	18.4	7.7	0.41
自然・文化を生かした景観形成	5.3	41.1	14.7	5.2	25.5	8.3	0.27
治水対策の推進	3.8	39.5	12.3	4.5	31.6	8.3	0.26
道路・交通環境整備の推進	4.6	35.0	24.0	11.1	17.7	7.5	-0.02
公共交通の維持確保と交通安全の推進	3.3	37.0	20.6	9.9	21.1	8.1	0.03

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	3.4	39.4	13.2	3.4	32.8	7.8	0.26
男女共同参画の実現	2.8	35.0	16.1	3.6	34.7	7.8	0.17
情報発信・共有の推進	2.6	37.8	16.1	4.2	31.3	7.9	0.18
市民との協働・交流の推進	2.5	34.3	15.2	2.9	37.5	7.5	0.18
行財政運営の推進	1.5	31.7	15.2	4.8	39.5	7.4	0.10

3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

353 件

4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別 (無回答 5.0%)	1	男性 (43.9%)	2	女性 (51.1%)	
イ. 年齢 (無回答 1.7%)	1	20 歳代 (5.4%)	2	30 歳代 (11.0%)	3 40 歳代 (18.1%)
	4	50 歳代 (16.5%)	5	60 歳代 (20.5%)	6 70 歳以上 (26.8%)
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 2.6%)	1	深谷地区 (21.9%)	2	藤沢地区 (6.1%)	3 幡羅地区 (11.5%)
	4	明戸地区 (2.6%)	5	大寄地区 (3.4%)	6 八基地区 (2.5%)
	7	豊里地区 (3.4%)	8	上柴地区 (9.9%)	9 南地区 (7.5%)
	10	岡部地区 (11.8%)	11	川本地区 (7.1%)	12 花園地区 (9.5%)